

白井遺跡群 - 中世編 -

(白井二位屋遺跡・白井南中道遺跡)

一般国道17号(鯉沢バイパス)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第1集

1993

建 設 省
群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

資料	群馬県埋蔵文化財	01-351
	調査事業団保	119
No.93-701	平成5年7月7日	(5)

白井遺跡群 - 中世編 -

(白井二位屋遺跡・白井南中道遺跡)

一般国道17号(鯉沢バイパス)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第1集

1993

建 設 省
群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

鯉沢バイパスは、渋川市内と子持村内の交通混雑の改善を図るために計画された5.5kmのバイパスです。

昭和62年度に起点の渋川バイパスから一般国道353号バイパスとの交差までの区間2.3kmが事業化し用地取得が進んだ子持村白井地区から平成2年度より埋蔵文化財の発掘調査を始めました。

ご承知のように、子持村白井地区は西暦6世紀に大爆発した軽石に埋もれた遺跡として、全国的に著名となった黒井峯遺跡に近接しています。白井地区も黒井峯遺跡同様に軽石があることから、貴重な遺構・遺物等が発見されることが予測されましたが、予想どおり白井北中道遺跡をはじめとする各遺跡からは、西暦6世紀の我国初めての馬の放牧場と畠跡が発見調査され、我が国の農業史を解明する上で、注目すべき調査結果が出ました。

今回、調査した遺跡の白井二位屋遺跡・白井南中道遺跡の2遺跡の中世関係の遺構・遺物を中心として、報告書刊行のための整理作業を平成3年度より行い、それが完了したので、ここに「白井遺跡群－中世編－」の調査報告書を刊行することにしました。

発掘調査から報告書作成に至るまで、建設省関東地方建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会、子持村教育委員会、地元関係者の方々から種々、ご指導、ご協力を賜りました。今回、報告書を上梓するに際し、これら関係者の皆様より衷心より感謝の意を表し、併せて本報告書が群馬県の歴史を解明する上で、広く活用されることを願い序とします。

平成5年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小寺弘之

例 言

1. 本書は一般国道17号(鯉沢バイパス)改築工事に先行して行われた白井二位屋遺跡、白井南中道遺跡の発掘調査の記録である。これらの遺跡は事業名称をそれぞれ「仁位屋遺跡」「下宿遺跡」として呼称していたが、その後遺跡名の適正化が図られ、遺跡所在地の大字・小字名を併記する方法をとることになった。その結果、本遺跡については、「白井二位屋遺跡」「白井南中道遺跡」という名称に変更している。また、白井地区の鯉沢バイパス関係の各遺跡は、互いに関連する遺構が多いため、全ての遺跡をとりまとめて「白井遺跡群」の名称を、使用することとする。本報告書では中世以降の時代の報告を行う。
2. 白井二位屋遺跡、白井南中道遺跡は、群馬県北群馬郡持村大字白井に存在する。
3. 鯉沢バイパス改築工事は建設省関東地方建設局が事業主体であり、これに伴う発掘調査及び整理作業を(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 調査、整理体制及び期間は次のとおりである。

《発掘調査》

〔白井二位屋遺跡〕

平成2年4月1日～平成3年3月31日

調査担当 飯島義雄、神谷佳明、黒田 晃、石北直樹、麻生敏隆、南雲芳昭
事務局 遠見長雄、松本浩一、田口紀雄、神保信史、能登 健、岩丸大作、国定 均
小林昌嗣、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏
野島のふ江、並木綾子、今井もと子、松井美智代、角田みづほ

平成3年11月1日～平成4年1月31日

調査担当 大木紳一郎、南雲芳昭、黒田 晃
事務局 遠見長雄、松本浩一、佐藤 勉、神保信史、能登 健、岩丸大作、国定 均
須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、船津 茂、松下 登
野島のふ江、並木綾子、今井もと子、松井美智代、角田みづほ、塩浦ひろみ

〔白井南中道遺跡〕

平成2年4月1日～平成3年3月31日

調査担当 石北直樹、南雲芳昭、麻生敏隆
事務局 遠見長雄、松本浩一、田口紀雄、神保信史、能登 健、岩丸大作、国定 均
小林昌嗣、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏
野島のふ江、並木綾子、今井もと子、松井美智代、角田みづほ

平成3年4月1日～平成4年3月31日

調査担当 大木紳一郎、南雲芳昭、志塚雅美、外山政子
事務局 遠見長雄、松本浩一、佐藤 勉、神保信史、能登 健、岩丸大作、国定 均
須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、船津 茂、松下 登

野島のお江、並木綾子、今井もと子、松井美智代、角田みづほ、塩浦ひろみ

《整理作業》

[白井二位屋遺跡・白井南中道遺跡]

平成3年4月1日～平成3年9月30日

平成4年4月1日～平成4年9月30日

整理担当 黒田 晃

図版作成 伊藤淳子、岩岡節子、大友美代子、金子吉江、岸トキ子、柴田敏子、田中富子
藤井輝子、木原幸子

事務局 遠見長雄、松本浩一、近藤 功、佐藤 勉、神保侑史、能登 健、岩丸大作
斉藤俊一

国定 均、須田朋子、吉田有光、笠原秀樹、柳岡良宏、船津 茂、高橋定義
松下 登

野島のお江、並木綾子、今井もと子、松井美智代、角田みづほ、塩浦ひろみ

5. 発掘作業に当たっては、地元の方々を初めとして、遠方からも多数の作業員の方にお世話になった。夏の炎天下、冬の寒さにも負けず毎日作業を続けていただいた作業員の方々にここで感謝の意を述べたい。
6. 遺構写真撮影は各調査担当者、遺物写真撮影は当事業団技師佐藤元彦が行った。
7. 出土遺物の保存処理は、当事業団技師関 邦一と、小村浩一が行った。
8. 出土遺物の分析については、以下の方々、団体に依頼した。

石 材 同 定 飯島静男氏

獣骨・人骨鑑定 宮崎重雄氏

テフラ分析 株式会社古環境研究所

尚、化学分析については、特別の場合を除き、依頼した報告者の原文をそのまま掲載している。分析データと写真資料は(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団で保管している。

9. この報告書を作成するに当たっては、数多くの方々に指導、助言を受けている。また、発掘調査に際しては子持村教育委員会、及び地元関係者の多大なるご支援をいただいた。改めて感謝の意を表したい。
10. 遺構の名称は、原則として発掘調査時のものを踏襲するが、重番や欠番による混乱を避けるため、また白井二位屋遺跡と白井南中道遺跡の遺構の名称を統一するために、一部において修正がなされている。
11. 報告書の編集は、黒田 晃が担当した。執筆は黒田 晃が主体となり、各項目の執筆者については、目次に記した。
12. 本遺跡の記録保存資料、及び出土遺物は、現在群馬県埋蔵文化財調査センター及び、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

目 次

序

例	言
目	次
挿 図	目 次
写真	図 版 目 次
凡	例

第1章 調査の経過

第1節 遺跡調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法	1
第3節 調査日誌抄	1
第4節 整理作業の経過	1

第2章 遺跡をとりまく環境

第1節 地理的環境・歴史的環境	4
-----------------	---

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 白井二位屋遺跡1区遺構群	9
第2節 白井二位屋遺跡2区遺構群	39
第3節 白井二位屋遺跡3区遺構群	83
第4節 白井南中道遺跡1区遺構群	119
第5節 白井南中道遺跡2区遺構群	134
第6節 白井南中道遺跡3区遺構群	158
第7節 白井南中道遺跡4区遺構群	167
第8節 白井南中道遺跡5区遺構群	198

第4章 考 察

第1節 二位屋城郭について（黒田晃）	231
第2節 白井二位屋遺跡の削平跡について（神谷佳明）	232
第3節 探掘坑出土の銭貨（渡来銭）（神谷佳明）	235
第4節 ローム探掘坑について（麻生敏隆）	240
第5節 白井遺跡群出土の人骨（大岡々高校教諭 宮崎重雄）	242

抄 録	252
-----	-----

挿 図 目 次

第1図	発掘区及び基本順序	2	第58図	1号池出土遺物 (1/4)	(17)	77
第2図	遺跡の位置と発掘範囲	3	第59図	1号池出土遺物 (1/4)	(18)	78
第3図	遺跡の位置	5	第60図	1号池出土遺物 (1/4)	(19)	79
第4図	遺跡周辺における段丘面の分布	6	第61図	1号池出土遺物 (1/4)	(20)	80
第5図	遺跡周辺の中世城址跡	8	第62図	3区全体図		81
白井二区層跡			第63図	67・69・74号土坑		85
第6図	1区全体図	10	第64図	75・78・80・86号土坑		86
第7図	1～4号土坑、4号土坑出土遺物	11	第65図	87・96号土坑		87
第8図	5～7号土坑、5号土坑出土遺物	12	第66図	97・115・136・138・141・153号土坑		89
第9図	8・13号土坑	13	第67図	155・186・187・221・223号土坑、186号土坑出土遺物		90
第10図	8・13号土坑、8号土坑出土遺物	14	第68図	224・228・231号土坑、228号土坑出土遺物		92
第11図	9・10・12・14・15号土坑、9・10・15号土坑出土遺物	15	第69図	232・235・237・239・273号土坑		93
第12図	16～18・53号土坑、53号土坑出土遺物	16	第70図	240・244・246・247・281・283号土坑、247号土坑出土遺物		94
第13図	19・20号土坑	17	第71図	248・258・260・261号土坑、248・256号土坑出土遺物		96
第14図	21～23・25号土坑	19	第72図	259・262・267・269・274・285号土坑		97
第15図	24・26・29号土坑、27号土坑出土遺物	20	第73図	270・272・275・276・278・280・284・287号土坑		98
第16図	30・33号土坑、33号土坑出土遺物	21		278号土坑出土遺物		99
第17図	34・39号土坑	23	第74図	288・292号土坑、288号土坑出土遺物		100
第18図	40・42号土坑、42号土坑出土遺物	24	第75図	293・300号土坑		102
第19図	43・47・50・62号土坑	25	第76図	301・308号土坑		103
第20図	54・59号土坑	26	第77図	309・327・328・347・348号土坑		105
第21図	60・62・64・68・157・158号土坑	27		347・348号土坑出土遺物		106
第22図	159・160・177・219号土坑	29	第78図	349・360号土坑		106
第23図	220・321・326・329・334号土坑、220号土坑出土遺物	30	第79図	6号溝、5号溝出土遺物		107
第24図	335・337・346号土坑、335号土坑出土遺物	31	第80図	7号溝		108
第25図	1・2号溝、1・2号溝出土遺物	33	第81図	33・35号溝		109
第26図	3・4号溝、4号溝出土遺物	34	第82図	2号集石		110
第27図	5・8号溝	35	第83図	1号組 (1)		111
第28図	1号溝列	36	第84図	1号組出土遺物 1～9 (1/3)、10 (1/1) (2)		113
第29図	2区全体図	37	第85図	3区一括遺物 (1/4)、4・5・10・12～15 (1/3) (1)		114
第30図	162・169・173・177号土坑	40		3区一括遺物 (1/3) (2)		115
第31図	178・180・181・183・188・189号土坑、181・188号土坑出土遺物	41	第87図	3区一括遺物 (1/3) (3)		116
第32図	193・197号土坑、197号土坑出土遺物	43				
第33図	196・203号土坑、203号土坑出土遺物	44				
第34図	204・206・210号土坑、210号土坑出土遺物	45				
第35図	211・214・216・310・311号土坑	47				
第36図	312・318号土坑	48				
第37図	319・320・322・324号土坑、323号土坑出土遺物	50				
第38図	325号土坑、325号土坑出土遺物、19・23号溝、23号溝出土遺物	51				
第39図	1号集石、1号集石出土遺物	52				
第40図	1号石積	53				
第41図	1号石積出土遺物、1～18 (1/3)、19 (1/2)	54				
第42図	1号池、1号池出土遺物 (1/3) (1)	55				
第43図	1号池 (2)	59				
第44図	1号池出土遺物 (1/3) (3)	61				
第45図	1号池出土遺物 (1/5) (4)	62				
第46図	1号池出土遺物 (1/4) (5)	63				
第47図	1号池出土遺物 (1/4) (6)	64				
第48図	1号池出土遺物 (1/4) (7)	65				
第49図	1号池出土遺物 (1/4) (8)	66				
第50図	1号池出土遺物 (1/4) (9)	67				
第51図	1号池出土遺物 (1/4) (10)	68				
第52図	1号池出土遺物 (1/4) (11)	69				
第53図	1号池出土遺物 (1/4) (12)	71				
第54図	1号池出土遺物 (1/4) (13)	70				
第55図	1号池出土遺物 (1/4) (14)	73				
第56図	1号池出土遺物 (1/4) (15)	74				
第57図	1号池出土遺物 (1/4) (16)	75				
第88図	1区全体図	117				
第89図	1～5号土坑	120				
第90図	6～11号土坑	121				
第91図	12～15号土坑、13号土坑出土遺物	122				
第92図	16・17・18A・18B号土坑	123				
第93図	20～22号土坑	124				
第94図	23・24号土坑、24号土坑出土遺物	125				
第95図	27～29号土坑	126				
第96図	25・26・30～33号土坑	127				
第97図	34～38号土坑	128				
第98図	39・40・44～46号土坑、44号土坑出土遺物	129				
第99図	47・55号土坑、55号土坑出土遺物	130				
第100図	130・131号土坑、130・131号土坑出土遺物	131				
第101図	132・133号土坑・2号溝	132				
第102図	4号溝	133				
第103図	2区全体図	135				
第104図	62～66号土坑、62号土坑出土遺物	137				
第105図	67～70号土坑、68号土坑出土遺物	138				
第106図	71～74号土坑、71号土坑出土遺物	139				
第107図	75～79号土坑	140				
第108図	80～82号土坑	141				
第109図	83～86号土坑、83号土坑出土遺物	142				
第110図	87～89・93・97・105・106号土坑、97号土坑出土遺物	144				
第111図	90～92・94～96号土坑	145				

白井南中區層跡

第1120区	98~102・107号土坑	146
第1130区	103・104・106~111・113号土坑	148
第1140区	112・115~119号土坑	149
第1150区	114・125・126号土坑	150
第1160区	120~124号土坑	151
第1170区	128・129・134・135・137号土坑	153
第1180区	127・138号土坑	154
第1190区	136・141・143・145号土坑	155
第1200区	139・140・142号土坑	157
第1210区	3区全体図	159
第1220区	148~150号土坑	161
第1230区	151~154号土坑	162
第1240区	155・156・159・160・162号土坑	163
	155・160号土坑出土遺物	163
第1250区	241~243号土坑	164
第1260区	4区全体図	165
第1270区	146・157・158・161・163~165号土坑	168
	158号土坑出土遺物	168
第1280区	166~168・215~217・219~221・171・223~226号土坑	169
	171号土坑出土遺物	169
第1290区	169・170・172・173・222号土坑	172
第1300区	174~178号土坑	173
第1310区	179~184号土坑	174
第1320区	185・186・188~190号土坑	176
第1330区	187・191~194・197号土坑	177
第1340区	195・196・201・207~209・227~231号土坑	179
	208・230・231号土坑出土遺物	179
第1350区	200・202~206・213・218・240号土坑	182
第1360区	198・199・210~212・214・232~239号土坑	183
	232・235・237号土坑出土遺物	183
第1370区	ローム探掘坑出土遺物 (1)	186
第1380区	ローム探掘坑出土遺物 (2)	187
第1390区	ローム探掘坑出土遺物 (3)	188
第1400区	ローム探掘坑出土遺物 (4)	189
第1410区	ローム探掘坑出土遺物 (5)	190
第1420区	ローム探掘坑出土遺物 (6)	191

第1430区	ローム探掘坑出土遺物 (7)	192
第1440区	ローム探掘坑出土遺物 (8)	193
第1450区	ローム探掘坑出土遺物 (9)	194
第1460区	5区全体図	199
第1470区	251~257・304~306号土坑	201
第1480区	255~257・306号土坑	202
第1490区	258~280号土坑	203
第1500区	261~264号土坑	204
第1510区	265~271号土坑	205
第1520区	272~278号土坑	206
第1530区	279~281・285号土坑	207
第1540区	282~284号土坑	208
第1550区	286~291号土坑	209
第1560区	292・294~296・298・300・301・308号土坑	211
第1570区	297・299・303・307・309号土坑	213
第1580区	314~316号土坑	214
第1590区	317~320号土坑	215
第1600区	321号土坑	215
	1~5 (A/E) 6~10 (I/L3)	217
第1610区	322・333・335・336号土坑	218
第1620区	338・339・343・346・350号土坑	219
第1630区	347~349・352号土坑	220
第1640区	5・6号溝	221
第1650区	1号竪穴	222
第1660区	1号竪穴・2号竪穴	223
第1670区	3号竪穴	224
第1680区	4号竪穴	225
第1690区	5号竪穴	226
第1700区	6号竪穴・5区一括遺物	227
第1710区	二位屋城壁	229
第1720区	敷地跡範囲図	233
第1730区	1区南端セクション図	233
第1740区	敷地跡位置図	234
第1750区	2号住居跡・3号住居跡近辺平面定図	234
第1760区	ローム探掘坑の区分と掘削工程	241
付図1	ローム探掘坑	241

写真図版目次

Pl. 1	白井遺跡群遺景(東から)・白井二位屋遺跡全景
Pl. 2	白井二位屋遺跡1~3区
Pl. 3	白井の集落と白井城
Pl. 4	1~9・13号土坑
Pl. 5	10・12・15~20号土坑
Pl. 6	21~28号土坑
Pl. 7	29~38号土坑
Pl. 8	40~47号土坑
Pl. 9	48~60号土坑
Pl. 10	62~64・67~74号土坑
Pl. 11	75~89・105・115・118・119号土坑
Pl. 12	90~92・94・97・136・138・139号土坑
Pl. 13	140・141・155・157~160・174・175号土坑
Pl. 14	176・177・180~183・185・186号土坑
Pl. 15	187・191・193・194・203・206・207・211号土坑
Pl. 16	221~223・225・226・231・233・234・237号土坑
Pl. 17	239~244・246~252・281~283号土坑
Pl. 18	253~262号土坑
Pl. 19	263~267・269~271号土坑
Pl. 20	272~276・278~280・284号土坑
Pl. 21	285・287・288・290・292~295号土坑
Pl. 22	296~299・301~305号土坑

Pl. 23	306~308・327~334号土坑
Pl. 24	335・337~344号土坑
Pl. 25	345~354号土坑
Pl. 26	355~359号土坑
Pl. 27	1号池
Pl. 28	1号石積
Pl. 29	1号石積
Pl. 30	1号石積
Pl. 31	1号石積
Pl. 32	1号池出土遺物
Pl. 33	1号池出土遺物
Pl. 34	1号池出土遺物
Pl. 35	1号池出土遺物
Pl. 36	1号池出土遺物
Pl. 37	1号池出土遺物
Pl. 38	1号池出土遺物
Pl. 39	1号池出土遺物
Pl. 40	1号池出土遺物
Pl. 41	1号池出土遺物
Pl. 42	1号池出土遺物
Pl. 43	1号池出土遺物

PL. 44	1号出土遺物	PL. 65	127~132・134号土坑
PL. 45	186・228・247・248・256・278・347号土坑出土遺物	PL. 66	133・135~140・146号土坑
PL. 46	347号土坑、6号溝、1号堀出土遺物	PL. 67	148・150~156号土坑
PL. 47	1号堀、3区一括出土遺物	PL. 68	157~161号土坑
PL. 48	3区一括出土遺物	PL. 69	162~171号土坑
PL. 49	3区一括出土遺物	PL. 70	172~183号土坑
PL. 50	3区一括出土遺物	PL. 71	184~188・203~205号土坑
PL. 51	3区一括出土遺物	PL. 72	206~211・213・214・222・224~231号土坑
PL. 52	3区一括出土遺物	PL. 73	241~243・251~264号土坑
PL. 53	白井二位屋遺跡・白井南中道遺跡	PL. 74	265~269・271~279・285号土坑
PL. 54	ローム探掘坑	PL. 75	280~284・286・287・289~293・296・308号土坑
PL. 55	1~9号土坑	PL. 76	297~301・304~306・309~316号土坑
PL. 56	10・11・13・20・21・23~26・31~33・60号土坑	PL. 77	321号土坑、1~6号竅穴
PL. 57	28~30・34~40号土坑	PL. 78	24・62・68・130・131号土坑出土遺物
PL. 58	41・42・44~46・52・64~68号土坑	PL. 79	71・83・97・111・125・126・135号土坑出土遺物
PL. 59	69~73・76~78号土坑	PL. 80	136・154・160・171号土坑出土遺物
PL. 60	79・80・82~87号土坑	PL. 81	192・197・208・230~232・235号土坑出土遺物
PL. 61	88~97号土坑	PL. 82	237・257・259・262号土坑出土遺物
PL. 62	98・100~105・107号土坑	PL. 83	283・285・286・303・319号土坑出土遺物
PL. 63	108~117号土坑	PL. 84	319・321・335号土坑、ローム探掘坑、5区一括出土遺物
PL. 64	118~126号土坑		

凡 例

- 本書は白井二位屋遺跡1区から3区の遺構、白井南中道遺跡1区から5区の遺構、考察の順で構成されている。
- 遺構の検出位置については、全体図において位置を示し、本文においてグリッドを示した。
- 遺構の規模は、本文において、長軸、短軸、深さで示した。
- 検出中の方位記号は全て国家標準上の北を基準としている。
- 出土遺物のうち、実測不可能なものについては、本文中に破片数を示した。
- 本書では、テフラの呼称として、浅間A軽石→As-A、浅間B軽石→As-B、浅間C軽石→As-C、標名山二ツ岳噴出火山灰→F A (Itr-S)・F P (Itr-I)を用いる。
- 検出の縮尺は、遺構1/40、遺物1/3を基準として掲げたが、大型品と小型品については、それぞれに応じた縮尺を採用した。
- 土器の製作技法とその用語については、次のように規定する。
土器製作にあたり、粘土塊から土器のおおよその形を成すまでを成形と呼ぶ。成形にはテツクネ、マキアゲ、ワプミ、ロクロによるミズビキ等の技法があげられるが、その後の整形、あるいは調整を觀察することが困難なものが多い。
成形の後、細部を作りだす行為を整形と呼ぶ。整形には、ロクロによる細部のきだし、器体の打圧、各部の接合等があげられる。尚、ロクロ整形の用語は、ロクロ使用の整形を意味し、粘土塊からのミズビキを想定している訳ではない。
整形の後、更に細部を仕上げる行為を調整と呼ぶ。調整には、回転ヘラケズリ、手持ちヘラケズリ、ヨコナデ、ナデ、ユビナデ、ハケ、カキメ、ミガキ等があげられる。ナデの技法のうち、ヨコナデはロクロ等の回転台を利用して、布や紙皮を用いて器面を円滑にする技法であり、ナデは回転台を利用せず、ユビナデは布や紙皮を用いない。
- 遺物の色調は、農林省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票愛修の『新版 標準土色帖』に拠った。
- 本遺跡出土遺物の注記は、白井二位屋遺跡は「R17K2」を、白井南中道遺跡は「R17K3」を冠し、遺構名を記入した。R17は国道17号線、Kは横沢バイパス、2、3は、それぞれ横沢バイパスの遺跡のうち、南から2番目、3番目の遺跡であることを示す。
- 発掘区は白井二位屋遺跡、白井南中道遺跡共に南より1区、2区の順で番号を付けた。

第1章 調査の経過

第1節 遺跡調査に至る経緯

狸沢バイパスは、一般国道17号線の、子持村蟹沢交差点付近の慢性的な渋滞を緩和するために計画された。バイパスは、まず済川市東町付近で吾妻川を渡って、子持村白井に入り、字上宿付近で吾妻方面からの国道353号線と合流する。これが第1期工事区間となる。工事に伴う埋蔵文化財の分布調査は、

昭和62年の建設省の照会に答える形で実施され、第1期工事区間で、東町遺跡、二位屋遺跡、南中道遺跡、丸岩遺跡、北中道遺跡の5遺跡が、また第2期工事区間でも5遺跡が確認された。

発掘調査は平成2年度から開始され、二位屋遺跡、南中道遺跡、北中道遺跡の一部が調査された。

第2節 調査の方法

計画路線内に設置されたセンター杭により、No.30～45を白井二位屋遺跡、No.45～71を白井南中道遺跡とする。

調査区については、国家座標と一致させた1辺4メートルのグリッドを設定し、南北方向に、A～Yまでのアルファベット25文字を2つ組み合わせたものをあてはめ、東西方向には2桁の数字をふつた。また国家座標と調査区の起点(AA-00)の関係は、

(AA)がX=55,650、(00)がY=72,800とした。

調査は調査区を発掘区に分けて行った。発掘区は白井二位屋遺跡が南から1～3区、白井南中道遺跡が南から1～5区に分けられている。

遺構の平面実測は、グリッド杭を基準とし、平板測量を行った。測量は1/20の縮尺を基本とし、一部の遺構には1/40の縮尺を用いた。

第3節 調査日誌抄

白井二位屋遺跡

平成2年4月19日 バックホーによる表土剥ぎ開始。
平成2年4月20日 作業員投入、1区より発掘開始。
平成2年7月21日 2区調査開始。
平成2年8月23日 3区風倒木群調査開始。
平成2年10月13日 現地説明会。
平成2年11月22日 2区ローム下の試掘調査開始。
平成2年12月6日 1区・2区埋め戻し開始。
平成3年3月4日 3区埋め戻し開始。
平成3年11月1日 1区及び3区の未発掘部分の調査。

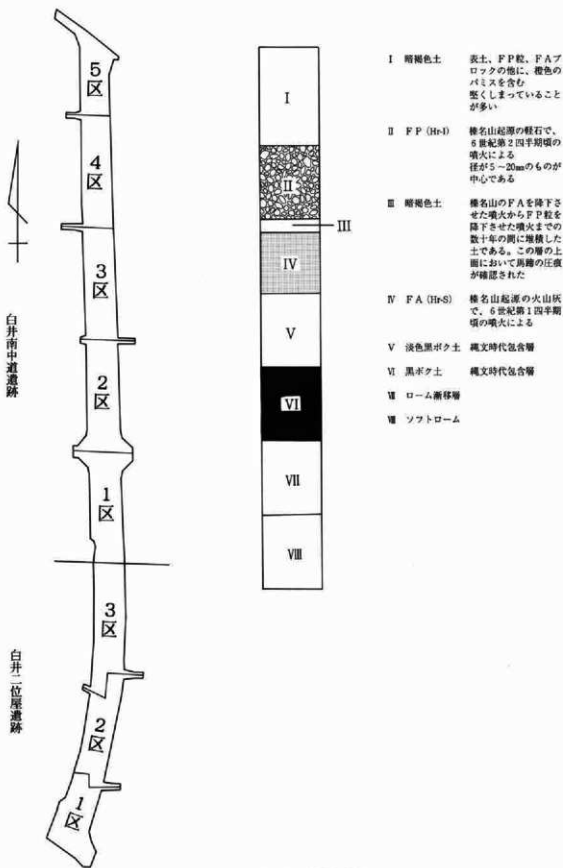
白井南中道遺跡

平成2年4月16日 バックホーによる表土剥ぎ開始。
平成2年4月20日 作業員投入。
平成2年5月7日 1区調査開始。
平成2年6月11日 2区調査開始。
平成2年9月11日 3区調査開始。
平成2年10月5日 4区調査開始。
平成2年10月13日 現地説明会。
平成3年3月18日 1区、2区埋め戻し。
平成3年4月1日 4区残り部分、5区調査。

第4節 整理事業の経過

平成3年4月より、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団において、担当1名、整理補助員7名のスタッフで整理事業に着手した。整理は、白井地区の遺跡群のうち、白井二位屋遺跡と白井南中道遺跡の古代の

住居跡が連続した一つの集落を形成しており、中世の堀についても、連続していることから、両遺跡をひとまとめにして整理することとし、まず中世の堀、溝、墓塚及び時期不明の土坑群について、中世



第1図 発掘区及び基本層序

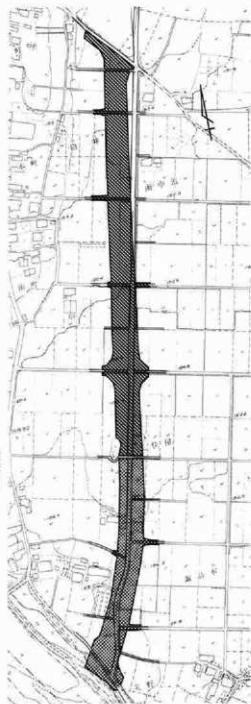


昭和61年国土地理院発行
1/25,000地形図「舞沢」より作成

第2図 遺跡の位置と発掘範囲

編として発刊し、その後住居及び古代以前の土坑群について、集落編として発刊することとした。整理は、平成3年4月から同年9月まで行い、10月より白井大宮遺跡の整理を半年行った後、平成4年4月から再開した。

遺物の実測は、等倍を原則として行い、原図を



(1/5,000)

白井南中道遺跡
白井二位屋遺跡

2/3(一部1/2)に縮小したものをトレースして2倍の図版に組んだ。土器類は人手により実測を行ったが、石塔類など一部の大型の遺物に関しては、スリースペースを利用して実測した。遺構の整理は、整理スタッフにより第2原図を作成後、外部委託によりトレースを行った。

第2章 遺跡をとりまく環境

第1節 地理的環境・歴史的環境

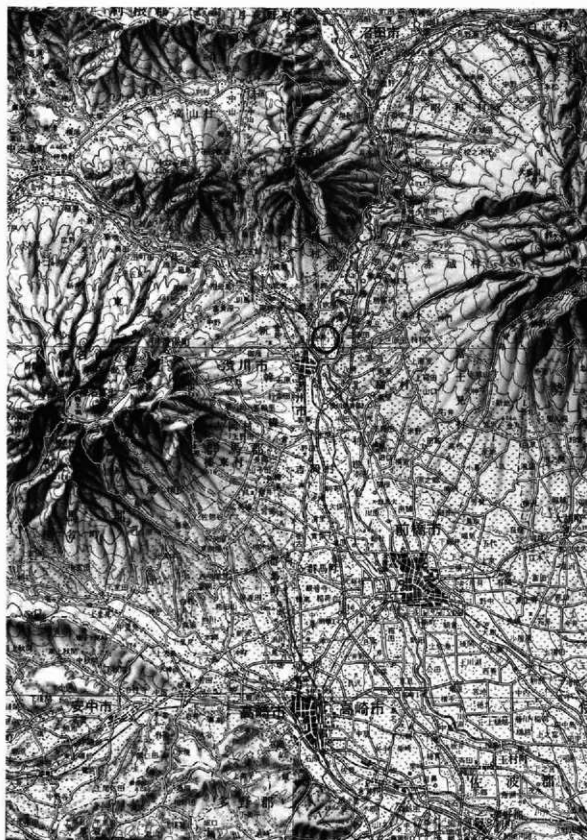
白井遺跡群は、群馬県北群馬郡子持村大字白井に存在する。子持村は群馬県のはほぼ中央部、県都前橋市の北方約15kmに位置する。遺跡は北に子持山、小野子山、東に赤城山、西に榛名山と、3方を山に囲まれ、南東に広がる関東平野の北端にあたり、利根川と吾妻川が形成する河岸段丘のうち、比較的新しい面（白井面）の南端部に位置している。

白井の地は、東は利根川の河岸段丘が、南北方向に段丘地形を形成し、西は吾妻川によって垂直に近い崖が形成されている。利根川によって形成された河岸段丘のうち、最も古いのは黒井峰遺跡、西組遺跡、雙林寺が乗る雙林寺面で、次に古いのは子籠第一付近から長坂、吹屋へと続く長坂面である。この南端部、吾妻川が形成した崖線上の、自然の要害の上に白井城が築かれていた。遺跡が乗る白井面はこの長坂面の次に形成された段丘である。現在白井面では段丘礫層上に再堆積ロームが乗り、更に黒ボク土、F A (Hr-S)、間層である褐色土を挟んでF P (Hr-I)が堆積し、その上に表土が乗っている。

この面は、水に乏しく、僅かに長坂面との境に湧水が見られるのみである。また表土直下に50～70cmの厚みでF P (Hr-I)が堆積しているため、水田経営には不向きな土地であり、現在もこんにゃく栽培を軸とする畑作が農業の中心となっている。

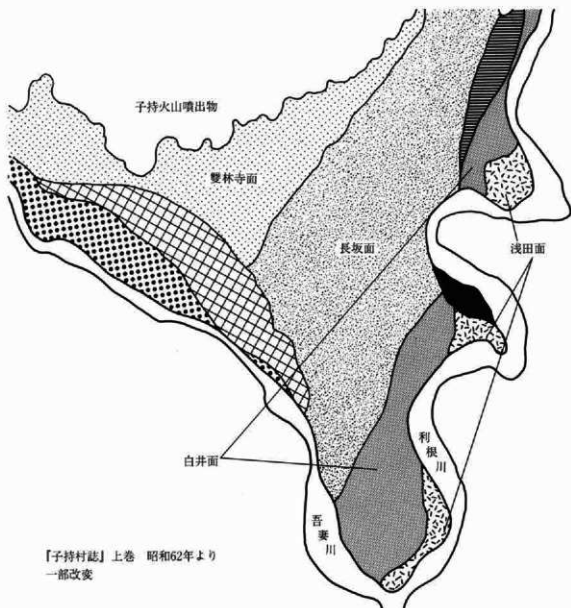
白井の名が歴史の上に最初に登場するのは『倭名類聚鈔』の國郡部第十二である。ここでは、上野国14郡のうち群馬郡の郷として、「長野、井出、小野、八木、上郊、畔切、鳥名、群馬、桃井、有馬、利刈、駅家、白衣」の13郷が掲げられており、この「白衣」が現在の「白井」であると推定される。ここで言う白井とは、現在の大字白井の地よりもかなり広い範囲が想定され、ほぼ子持村全域を指すと考えられる。続いて『吾妻鏡』建久元（1190）四月十九日の条「内宮役夫工作（米？）料未済成敗所々事」に、「上

野国、常陸国、下野国三ヶ国、相副別使者於使、入遣畢、抑上野国白井河内分、去年冬使請取之畢、早可被尋請使也」とある。役夫工米は伊勢神宮の式年遷宮造営費として、公領、荘園の区分無く課せられ、朝廷から派遣された役夫工米大使が、国衙の役人又は守護の使者と共に各地を巡回して、役夫工米と称する段米の徴収を行うことであり、この役夫工米の未済について、頼朝が命令を下し得るのは、その知行国と所領、及び御家人が地頭に任ぜられている箇所に限られる。従って、当時の白井は頼朝の知行国でも所領でもないことから、御家人領であり、白井を名乗る地頭が領していたのではないかと推定される。1430年代、関東管領上杉憲実と鎌倉公方足利持氏、成氏親子の対立が激化し、ついに永享八（1436）年、持氏が挙兵するが、幕府軍に敗れ、永享十一（1439）年鎌倉永安寺で自害するという事象にまで発展した（永享の乱）。その後鎌倉公方は持氏の子成氏が継いだが、成氏が、父持氏を殺した上杉憲実の子憲忠を殺したことから幕府の追討を受け、康正元（1455）年鎌倉を去り、下総古河に拠って勢力を保った。これより後、成氏とその子孫を古河公方と言う。この頃、後にこの地の主役となる長尾氏は、景仲の時代に当たる。ちょうどこの時期の資料として、『正木文書』の中には、享徳四（康正元、1455）年岩松持氏が、古河公方足利成氏から「上野国白井保之内、白井三河入道跡阿摩子等知行分社寺共」を与えられたという記載が見られる。「白井保」の「保」は郷あるいは荘園内の小村を指す。またこの文書から白井には白井三河入道と名乗る人物がいたことが分かるが、長尾氏がこの頃白井の地を領していたという確実な資料は無い。しかし、恐らくこれより以前から白井の地が長尾氏に領されていたことは確実であろう。古河公方に対抗するため、扇谷持朝は太田道灌に命じて江戸・川越・岩付の各城を構築、長尾景



昭和60年国土地理院発行 1/20万地勢図
「長野」「宇都宮」より作成

第3図 遺跡の位置



第4図 遺跡周辺における段丘面の分布

仲は深谷市の五十子に築城した。また、景仲は白井城の北に宝徳二（1450）年に雙林寺を建立、文正元（1466）年に没する。景仲の嫡子景信も文明五（1473）年に没した。関東管領上杉房顕は、景信の嫡子景春ではなく、景信の弟忠景を守護代とした。その処置を不満とする景春は鉢形城に入り、文明八（1476）年五十子を急襲し、古河公方成氏と結んだ（長尾景春の乱）。永正二（1505）年景春は白井城に帰り、房顕の子顕定は平井城に退陣した。その後伊勢新九郎（北条早雲）と結んだ景春は、西相模に出陣し、顕定の軍と戦ったが、永正十一（1510）年に死去した。景

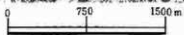
春を継いだ景英は、再び山上内杉家に帰属したが、景春の乱の間に白井長尾氏を盟主とする在地勢力が生まれていた。景英の子憲景の時代の永祿八（1565）年、甲斐武田氏が白井城を占領。憲景は八崎城に退却した。一時は憲景によって奪還されたが、元龜二（1571）年、真田昌幸によって白井城は落城している。真田軍に追われた憲景は、赤城村不動山城に籠城し、天正元（1573）年長尾景虎（上杉謙信）の援軍と共に、再度白井城を奪還する。その後の白井と長尾氏は、武田、上杉、北条の3大勢力に翻弄されるように衰えていく。

周辺・近世遺跡一覽

地区No	名 称(別称)	所 在 地	立 地	現 状	遺存状態	存在期間	築・在城者	文 献	関連地名	遺構・遺物等	備 考
A	白井二位屋遺跡	北郡馬郷子持村白井	段丘	品	良						全国報告遺跡
B	白井南中道遺跡	北郡馬郷子持村白井	段丘	品	良						全国報告遺跡
1	伊藤の砦	北郡馬郷子持村伊藤	段丘	品、杜地	不良	16世紀	荒木氏	林文善、森本文善 荒木城主楠草功操	寄居	土居、堀	
2	六郎兵衛屋敷	勢多郡赤城村津久田	平地	宅地、品	不良				宇都宮	堀	
3	戸隠山烽火台(戸隠城跡の南)	北郡馬郷子持村横瀬	山頂	山林	不良	16世紀	白井長尾氏		宇都宮	土居、櫓郭	類似遺跡あり
4	白井上城	北郡馬郷子持村上白井	山頂	品、宅地	不良	16世紀	白井長尾氏		宇都宮、内手、番場	土居、櫓郭	
5	須の巻居	勢多郡赤城村巻島	段丘	宅地、品	消滅				宇都宮、宇都宮	五輪塔	
6	須城(須山城)	勢多郡赤城村巻島	山	山林	良	16世紀	牧和泉守	加沢記、水井実平書状	宇都山	櫓郭、戸口	
7	白井遺堀	北郡馬郷子持村中郷	窪地	品、田	やや良	16世紀	白井長尾氏		堀、アツ子堀 字中道		
8	宮田の寄居	勢多郡赤城村宮田	段丘	品	良		角田氏 津久井氏		字中道、寄居	堀	
9	藤原沼城	勢多郡赤城村藤原沼	段丘	山林、品 宅地、寺院	中等	16世紀	斎藤加賀守	加沢記	宇内内	堀、土居、戸口	
10	鳥山屋敷	勢多郡赤城村見立	平地	品	不良	16世紀	鳥山十兵衛		字大窪	堀切	新田鳥山氏小
11	滝沢堀	勢多郡赤城村滝沢	段丘	山林、品 宅地	やや良		小堀氏小		宇御所谷戸		
12	見立堀(二城、不動山城)	勢多郡赤城村見立	段丘	山林、品	良	16世紀	長尾氏	加沢記 水井実平書状	宇二城	堀、土居、戸口 櫓郭、塹壕、堀切	
13	三原山城	勢多郡赤城村三原田	丘	宅地、品	やや良 16世紀	15- 16世紀	三原田義高 水井氏	依藤弘高、水井実平 書状、圓面武士遺状	宇都台、八幡林	堀、土居、櫓郭 櫓台、堀切	昭和57年一部発掘調査
14	白井城	北郡馬郷子持村白井	段丘	品、田 宅地等	良	15- 16世紀	白井長尾氏 上杉定昌 本多氏	赤城文書、奥智文書 御殿之記他多数	宇都台、櫓台 宇都丸、二の丸 三の丸、北郭等	堀、土居、櫓台 石瓦、土塙 折形戸口	城下町を含む近世城郭遺構
15	二位原城(仁留谷城)	北郡馬郷子持村白井	平地	品、田	中等		白井常忠	菅家説	宇二位原	堀、土塙	
16	赤川の寄居	赤川市赤井	段丘	寺、宅地	良	16世紀	赤川山藏	水井実平書状	宇都川、宇都台	堀切、戸口	長瀬寺がある
17	金井の寄居	赤川市金井	丘	品	不良		大島系圓		宇都川、宇都台	堀切、戸口	近くに製鐵所
18	桑山堀	赤川市人沢	丘の脚	段丘	消滅				桑山	戸口	
19	引籠山の砦	赤川市人沢	残丘	品	消滅				引籠山		
20	八崎の寄居	勢多郡北郷村八崎	段丘	宅地	不良				宇都宮	堀	
21	八崎城(不動山城)	勢多郡北郷村分郷八崎	段丘	宅地、品 田	やや良	16世紀	長尾氏	歴代古書、秋田藩文書 河田文書、森本文善 荒木城主楠草功操等	宇城	堀、堀屋、本丸	昭和59年一部発掘調査



第5図 遺跡周辺の中世城館址



第3章 検出された遺構と遺物

第1節 白井二位屋遺跡1区遺構群

1区は白井二位屋遺跡の南端に位置し、南は吾妻川によって形成された段丘崖によって寸断されている。地形的には西から東にかけて緩やかに傾斜しており、土坑、溝、土壌が点在する。土坑は時期、性格共に不明の遺構が大部分であるが、骨片、カワラケの出土から、土壌の可能性のある遺構もある。人骨あるいは骨片が出土している遺構としては、8号土坑、42号土坑、335号土坑が上げられる。溝は近世あるいは近代の耕作に関係するものと考えられ、特に1号溝と2号溝は、発掘区を縦断して南西から北東に伸びる長大な遺構である。2号溝は発掘区南端で8号溝につながって行く可能性がある。

1号土坑

BC-90グリッドに存在する隅丸方形の土坑であり、2号土坑に切られる。長軸は227cm、短軸は70cm、深さは検出面より30cmである。土師器の小片が数点出土している。

2号土坑

BC-90グリッドに存在する土坑であり、1号土坑を切る。長軸は230cm、短軸は90cm、深さは検出面より26cmである。遺物の出土は見られない。

3号土坑

BA・BB-90グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は200cm、短軸は128cm、深さは検出面より30cmである。陶磁器片が数点出土している。近世の遺構と考えられる。

4号土坑

BB-88・89グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は235cm、短軸は195cm、深さは検出面より35cmである。鉄軸を施した耳壺が出土している。耳壺は、口縁部径12cm、肩部に最大径を持ち内傾気味の頸部から、口唇部が強く外反する。マキアゲ成形で、内外面とも丁寧なナデで仕上げている。耳の部分は剥離している。胎土は灰白色で、外面全面に鉄

軸を施している。瀬戸・美濃の産であると考えられる。底面に靨が数個見られ、墓塚の可能性もある。中世から近世の遺構と考えられるが、正確な時期は不明である。

5号土坑

BA-89グリッドに存在する楕円形の土坑であり、6号土坑に切られる。長軸は270cm、短軸は155cm、深さは検出面より47cmである。土師器片が数点と板碑と考えられる礫小片が一片出土している。底面に径約20cmの礫数個と礫小片が多数見られ、墓塚の可能性もある。中世の遺構と考えられる。

6号土坑

AY-89・90グリッドに存在する楕円形の土坑であり、5号土坑・7号土坑を切る。長軸は148cm、短軸は60cm、深さは検出面より44cmである。土師器・須恵器の小片と中世のものと考えられる土師器の破片が数点出土している。中世の遺構と考えられるが、正確な時期、性格は不明である。

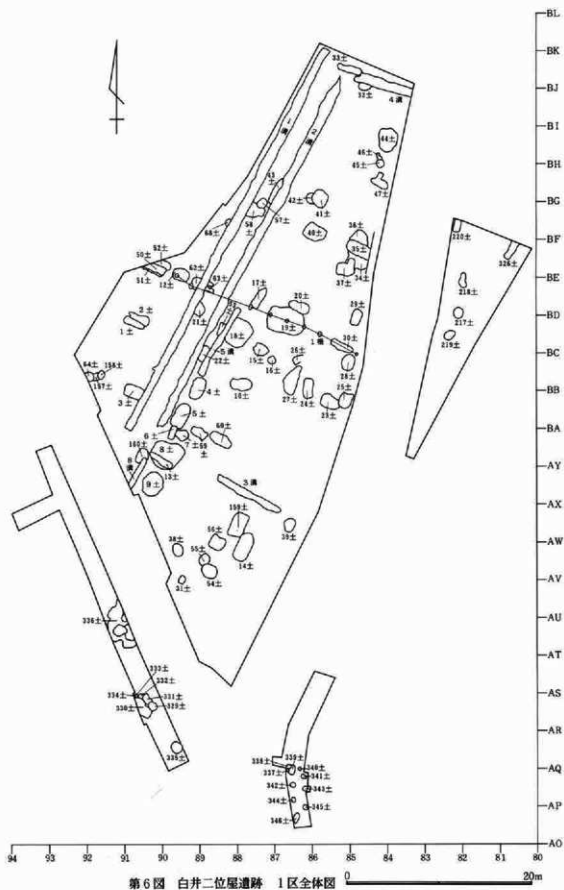
7号土坑

AY-89グリッドに存在する土坑であり、6号土坑に切られる。長軸は140cm、短軸は120cm、深さは検出面より37cmである。遺構中央に径約40cmのピットが検出され、埋土上層に靨が見られる。土師器の破片が十数点、カワラケが出土している。カワラケは復元口径11.2cm、底径7.0cm、器高2.2cm。ロクロ整形を行い、底部回転糸切り。体部内外面にはヨコナデを施し、体部内面と底部との境界部分に強いユビナデを環状に施した後、底部内面にユビナデを並列して施している。胎土は細砂粒。鈍い橙色を呈する。

8号土坑

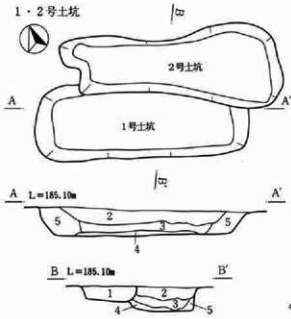
AY-89・90グリッドに存在する土坑であり、13号土坑に切られる。長軸は330cm、短軸は195cm、深さは検出面より32cmである。埋土上層に小礫が多数見られ、中央やや南よりに径約90cm、深さ40cm

第3章 検出された遺構と遺物

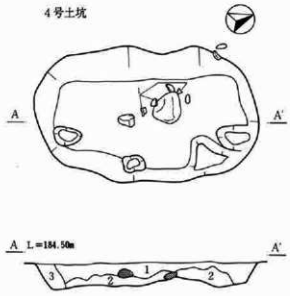


第6図 白井二位屋遺跡 1区全体図

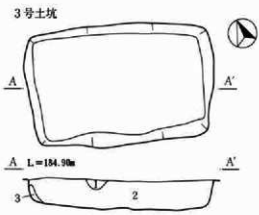
第1節 白井二位屋遺跡1区遺構群



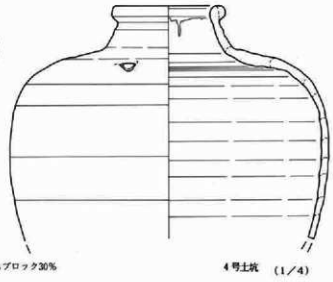
- 1・2号土坑
- 1 褐色土 5mmのFPP粒5%、ローム粒10%
 - 2 褐色土 2~5mmのFPP粒5%、ローム粒1~2%
 - 3 褐色土 2~5mmのFPP粒2%、ローム粒10%
 - 4 暗褐色土 2~5mmのFPP粒2%、ロームブロック、ローム粒10%
 - 5 暗褐色土 ローム小ブロック10%



- 4号土坑
- 1 暗褐色土 1~7mmのFPP粒5%、ローム粒、ローム小ブロック10%
 - 2 暗褐色土 1~3mmのFPP粒5%、ローム粒5%、砂質
 - 3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック30~50%、砂質



- 3号土坑
- 1 暗褐色土 5mmのFPP粒3~5%
 - 2 黄褐色土 1~5mmのFPP粒1%、ローム粒、ロームブロック30%
 - 3 黄色土 ロームの粘着土



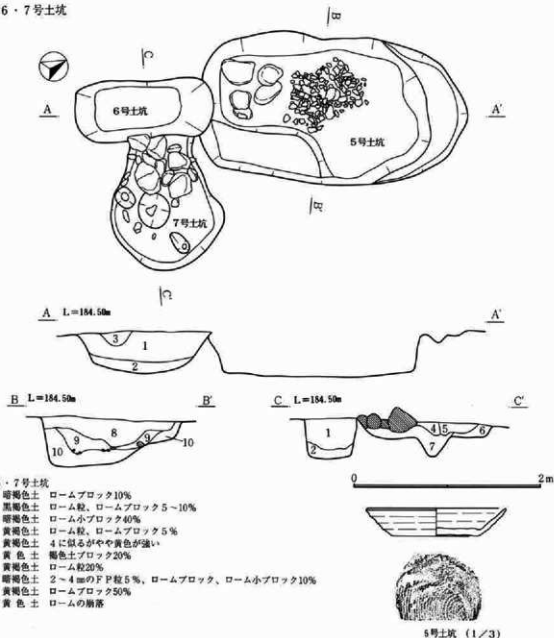
第7図 白井二位屋遺跡 1~4号土坑、4号土坑出土遺物

の円形の掘り込みが見られる。円形の掘り込みからカワラケが6個体と骨片が出土した。その他、土師器、須恵器片、カワラケ片が出土している。中世の墓塚であると考えられる。

1は復元口径11.2cm、底径7.0cm、器高2.2cmである。ロクロによる整形をおこない、底部回転糸切り、体部内外面ヨコナデを施す。内湾気味に立ち上がり、

口縁部に至る。体部内面と底部との境に強いユビナデを施した後、底部内面にユビナデを並列して施している。胎土は細砂粒、赤色の粒子を含む。色調は灰白色を呈する。2は口径11.5cm、底径8.0cm、器高2.7cmである。ロクロ整形をおこない、底部回転糸切り、体部内外面にヨコナデを施す。緩やかに内湾しながら立ち上がり口縁部に至る。器形に歪みが見

5・6・7号土坑

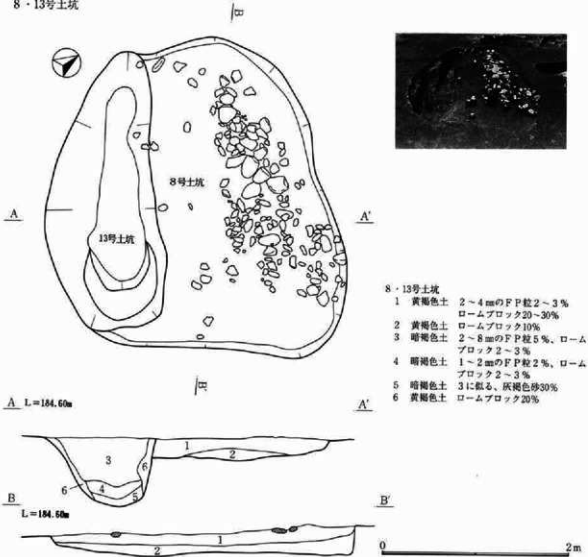


第8図 白井二位屋遺跡 5~7号土坑、5号土坑出土遺物

られる。底部内面にナダを並列して施しているようであるが、遺存状態が悪く、確認できない。3は口径11.5cm、底径7.8cm、器高2.5cmである。ロクロ整形をおこない、底部回転糸切り、体部内外面にヨコナダを施す。内湾しながら立ち上がり、口縁部に至る。体部内面と底部との境に強いユビナダを施した後、底部内面に細かいユビナダを並列して施している。胎土は細砂粒。色調は浅黄褐色を呈する。4は口径12.0cm、底径8.1cm、器高2.3cmである。ロクロ

整形をおこない、底部回転糸切り、体部内外面にヨコナダを施す。内湾しながら立ち上がり、やや外反気味の口唇部に至る。体部内面と底部との境に強いユビナダを施した後、底部内面にユビナダを並列して施している。胎土は細砂粒。色調は浅黄褐色を呈する。5は復元口径11.0cm、底径7.2cm、器高2.5cmである。ロクロ整形をおこない、底部回転糸切り、体部内外面にヨコナダを施す。やや外反気味に立ち上がり、口縁部に至る。体部内面と底部との境に強

8・13号土坑



第9図 白井二位屋遺跡 8・13号土坑

いユビナダを施した後、底部内面にユビナダを並列して施している。胎土は細砂粒、雲母、赤色粒子を含む。色調は灰白色を呈する。6は口径11.5cm、底径7.5cm、器高3.0cmである。ロクロ整形をおこない、底部回転余切り、体部内外面にヨコナダを施す。強く外反する体部から、口縁部に至る。底部内面の並列するユビナダは見られない。8号土坑出土のカワラケにおいて、6のみが形態的にも技法的にも他の物と異なる。

9号土坑

AX-90グリッドに存在するやや南北に長い円形の土坑である。長軸は259cm、短軸は212cm、深さは椀

出面より35cmである。小刀の柄あるいは鞘の頭と考えられる鋼製品の他、土師器、須恵器の小片が出土している。

10号土坑

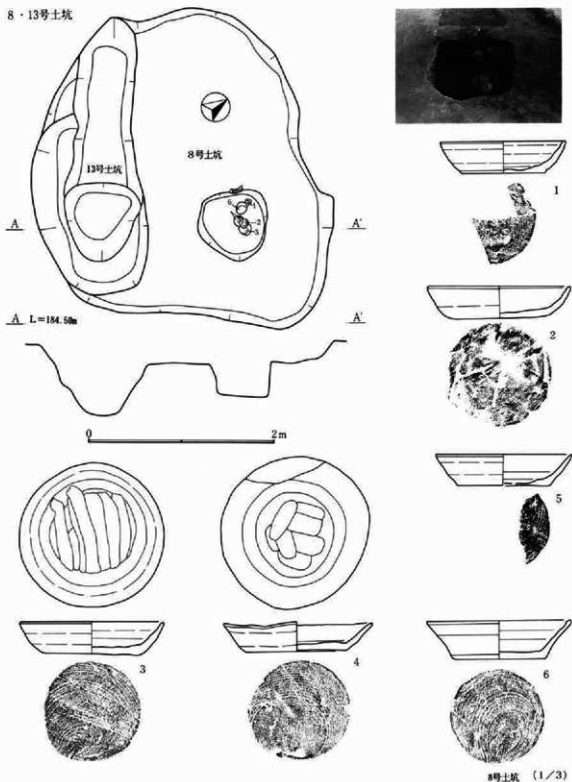
BB-87・88グリッドに存在する楕円形の土坑である。東はテラス状を呈し、西は円形に落ち込んでいる。長軸は225cm、短軸は136cm、深さは椀出面よりテラス部分で8cm、落ち込み部分で19cmである。土師器、須恵器の小片とカワラケが出土している。

12号土坑

BE-89グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は175cm、短軸は130cm、深さは19cmである。1

第3章 検出された遺構と遺物

8・13号土坑



第10図 白井二位屋遺跡 8・13号土坑、8号土坑出土遺物

号横列に切られる。土師器の小片が一点のみ出土している。

14号土坑

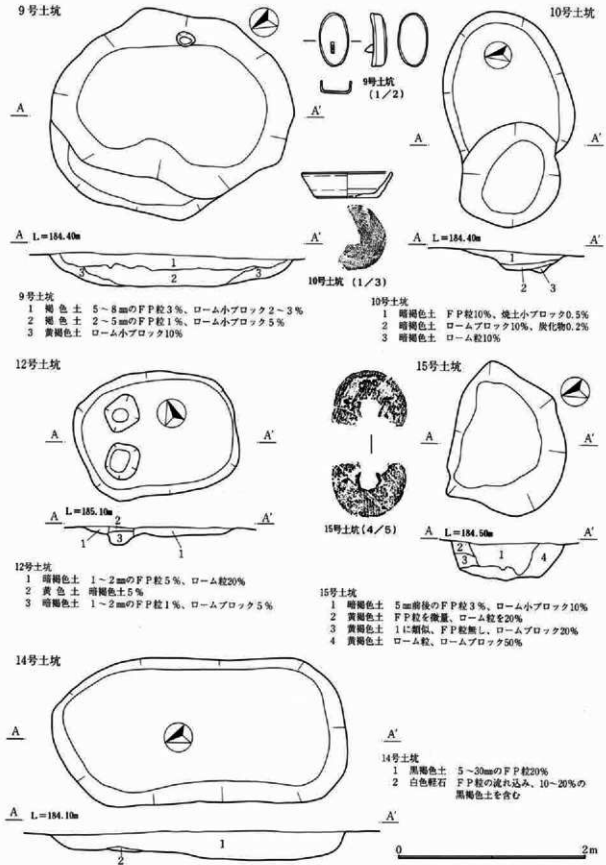
AV-87グリッドに存在する楕円形の土坑である。長

軸は312cm、短軸は150cm、深さは30cmである。遺物の出土は見られない。

15号土坑

BC-87グリッドに存在するやや崩れた円形土坑で

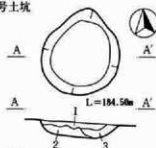
第1節 白井二位屋遺跡1区遺構群



第11図 白井二位屋遺跡 9・10・12・14・15号土坑、9・10・15号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

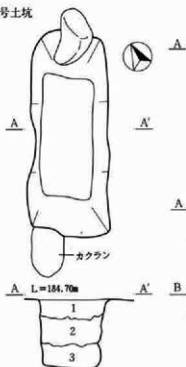
16号土坑



16号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック10%
 2 黄褐色土 ローム粒、ロームブロック50%
 3 黄褐色土 ローム粒、ロームブロック20~30%

17号土坑

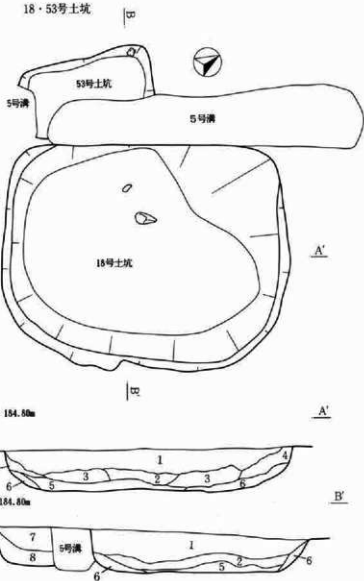


17号土坑

- 1 褐色土 5mm前後のF P粒1~2%、ローム粒
 ローム小ブロック5%
 2 黄褐色土 2~5mmのF P粒1%、ロームブロック
 20%
 3 暗褐色土 2~3mmのF P粒1%、ローム粒、ローム
 小ブロック10%

0 2m

18・53号土坑



18・53号土坑

- 1 暗褐色土 3~15mmのF P粒5%、ローム粒、ロームブロック3%
 2 暗褐色土 1~2mmのF P粒1%、ローム粒3%、やや砂質
 3 黄褐色土 3~7mmのF P粒2~3%、ロームブロック30%、炭化物を微量
 4 褐色土 3~5mm F P粒1~2%、ロームブロック20%
 5 褐色土 4に類似、F P粒少なくロームブロック多い
 6 黄褐色土 ロームブロック30~40%
 7 暗褐色土 5~10mmのF P粒5%、ローム小ブロック5%
 8 暗褐色土 3~10mmのF P粒2~3%、ロームブロック10%

ある。径は165cm、深さは38cmである。土師器の小片の他、銭が出土している。出土した銭は径2.45cm。極めて遺存状態が悪いが、皇宋通寶であると考えられる。

16号土坑

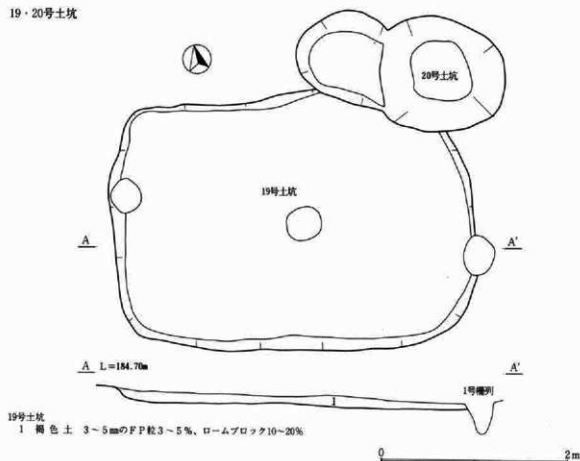
BB-87グリッドに存在する円形の土坑である。径



53号土坑 (1/3)

第12図 白井二位屋遺跡 16~18・53号土坑、53号土坑出土遺物

19・20号土坑



19号土坑

1 褐色土 3~5mmのF.P.粒3~5%, ロームブロック10~20%

第13図 白井二位屋遺跡 19・20号土坑

は90cm、深さは検出された面より15cmである。遺物の出土は見られない。

17号土坑

BD-87グリッドに存在する方形の土坑である。長軸は228cm、短軸は82cm、深さは72cmである。遺物の出土は見られない。

18号土坑

BC-87・88グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。5号溝に切られる。長軸は308cm、短軸は235cm、深さは45cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床は平らである。土師器、須恵器の小片の他に、カワラケの小片を数点含む。中世以降の遺構であると考えられるが、性格その他は不明である。

53号土坑

BC-88グリッドに存在する方形の土坑である。5号溝に切られる。長軸は142cm、短軸は75cm、深さは40cmである。土師器、須恵器片の他に陶器の皿が出

土している。皿は復元口径14.0cm、高台の径10.0cm、器高2.5cmである。回転ヘラケズリによる削り出し高台を持ち、強く外反する体部から、口唇部が僅かに内湾する。胎土は淡黄色で、細かい。見込部分に鉄軸で篋文を描き、内面全体に透明釉が施されている。見込にトチン痕、及び重ね焼きをした高台の痕跡が見られる。瀬戸・美濃の産であると考えられる。

19号土坑

BC-86・88、BD-86・88グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。20号土坑、1号欄列に切られる。長軸は383cm、短軸は272cm、深さは検出面から12cmである。土師器、カワラケの小片が僅かに出土している。

20号土坑

BD-86グリッドに存在する楕円形の土坑である。19号土坑を切る。長軸は225cm、短軸は122cm、深さは30cmである。土師器、カワラケの小片が出土して

いる。

21号土坑

BD-88・89グリッドに存在する円形の土坑である。1号溝に切られる。径は140cm、深さは40cmである。土師器の小片が出土している。

22号土坑

BB・BC-88グリッドに存在するやや崩れた円形の土坑である。2号溝に切られ、5号溝を切る。径は175cm、深さは84cmである。最下層の褐色土の上面に拳大から人頭大の石が多く見られる。播り鉢の小片が出土している。

23号土坑

BA-85グリッドに存在する楕円形の土坑である。25号土坑に切られる。長軸は213cm、短軸は140cm、深さは75cmである。土師器、須恵器の他、陶磁器片が出土している。

25号土坑

BA-85グリッドに存在する楕円形の土坑である。23号土坑を切る。長軸は160cm、短軸は120cm、深さは54cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

24号土坑

BB-86グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は210cm、短軸は103cm、深さは45cmである。土師器の小片の他、人頭大の石が出土している。形態的に見て、墓塚の可能性があるが、骨その他墓塚に関する遺物の出土は見られない。

26号土坑

BB-86グリッドに存在する方形の土坑である。長軸は検出されている部分で95cm、短軸は76cm、深さは20cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

27号土坑

BB-86グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は318cm、短軸は145cm、深さは87cmである。土師器の小片の他、完形の小型のカワラケ2個体が出土している。1は口径7.3cm、底径4.0cm、器高2.0cmである。ロクロによる整形を行っており、

底部回転切り、体部内外面にヨコナデを施している。底部から強く外反しながら立ち上がり、口唇部が屈曲する。全面に油あるいは煤による黒い染みが見られる。胎土は細砂粒を含み、色調は浅黄褐色を呈する。2は口径7.7cm、底径4.3cm、器高2.2cmである。1と同様にロクロによる整形を行っている。立ち上がり部分に強いヨコナデを施し、体部から口縁部及び内面にヨコナデ、立ち上がり内面にユビナデを施す。底部は回転切り。胎土は細砂粒、僅かに小石を含み、色調は褐色を呈する。

28号土坑

BB-84・85グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は175cm、短軸は125cm、深さは25cmである。遺物の出土は見られない。

29号土坑

BC・BD-84グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は175cm、短軸は100cm、深さは60cmである。土師器の小片のほか、陶磁器片、カワラケ片が出土している。

30号土坑

BC-85グリッドに存在する方形の土坑である。長軸は245cm、短軸は84cm、深さは57cmである。土師器、須恵器の小片の他に、カワラケ片が出土している。

31号土坑

AU-89グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は86cm、短軸は57cm、深さは21cmである。遺物の出土は見られない。

32号土坑

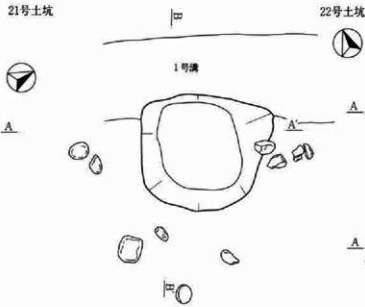
BJ-84・85グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は145cm、短軸は100cm、深さは21cmである。遺物の出土は見られない。

33号土坑

BJ-84・85グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は265cm、短軸は80cm、深さは77cmである。土師器、須恵器の他、陶磁器片が出土している。1は陶器の轆である。復元底径4.5cm、器高は残存部分で2.0cmである。ロクロ整形を行い、切り離し後回

第1節 白井二位屋遺跡1区遺構群

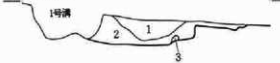
21号土坑



A L=184.70m



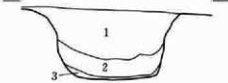
B L=184.70m



21号土坑

- 1 褐色土 3~7mmのF P粒5%、ロームブロック5%
- 2 褐色土 3と類似、F P粒少なくロームブロック多い
- 3 黄色土 ローム質土

A L=184.20m



23号土坑

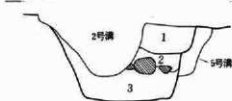
- 1 暗褐色土 5~20mmのF P粒5~10%、ローム粒5%
- 2 暗褐色土 3~10mmのF P粒10%、F A小ブロック10%
- 3 黒褐色土 3~5mmのF P粒2~3%、シルト質

0 2m

22号土坑



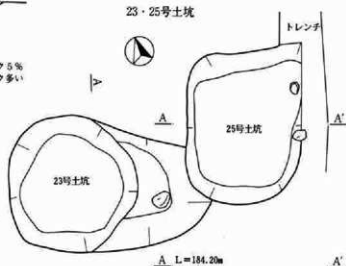
A L=184.70m



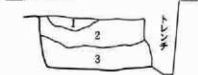
22号土坑

- 1 暗褐色土 3~5mmのF P粒5~10%、ローム粒5%
- 2 暗褐色土 1に類似、F P粒少なくローム粒多い
- 3 褐色土 2~5mmのF P粒5%、ローム粒、ロームブロック10%

23・25号土坑



A L=184.20m



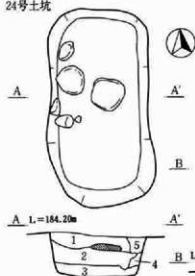
25号土坑

- 1 暗褐色土 3~10mmのF P粒3%、ローム粒10%
- 2 黄褐色土 3~5mmのF P粒1~2%、ロームと暗褐色土の混土
- 3 黒褐色土 5~15mmのF P粒5~10%、F A小ブロック20%、ローム粒ローム小ブロック2~3%

第14図 白井二位屋遺跡 21~23・25号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

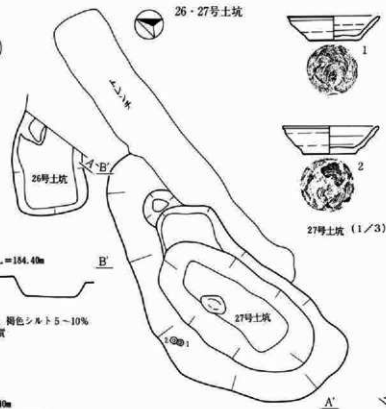
24号土坑



24号土坑

- 1 暗褐色土 2~5mmのF P粒2~3%、褐色シルト5~10%
- 2 褐色土 ローム粒5~10%、シルト質
- 3 褐色土 2に類似、ローム粒多い
- 4 褐色土 2に類似、やや暗い
- 5 暗褐色土 2~5mmのF P粒5%

26・27号土坑



27号土坑 (1/3)

A L=184.40m

27号土坑

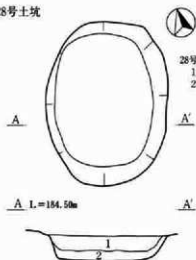
- 1 暗褐色土 2~20mmのF P粒10%、ローム粒1~2%
- 2 黒褐色土 2~7mmのF P粒1~2%、ローム粒10%、焼土粒1%
- 3 黒褐色土 1~2mmのF P粒1~2%、ローム粒、ロームブロック10%、焼土粒1%
- 4 黒褐色土 2~5mmのF P粒5%、ローム粒、ローム小ブロック2~3%、焼土粒1%
F Aを下部に壱状に含む
- 5 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック10~30%
- 6 黄褐色土 ローム主体、黒褐色土10~30%

29号土坑



A L=184.50m

28号土坑



A L=184.50m

28号土坑

- 1 暗褐色土 5~8mmのF P粒10%
- 2 暗褐色土 5~30mmのF P粒10~20%

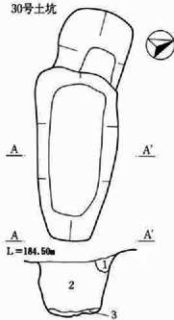
29号土坑

- 1 暗褐色土 5~20mmのF P粒10%、F Aブロック2%
- 2 暗褐色土 5~8mmのF P粒2~3%、F A小ブロック、黒色土を含む
- 3 暗褐色土 F A小ブロック3%、やや粘土質

0 2m

第15図 白井二位屋遺跡 24・26~29号土坑、27号土坑出土遺物

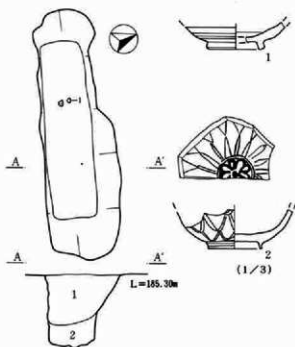
30号土坑



30号土坑

- 1 褐色土 5mmのF.P.粒1%, F.Aブロックを含む
- 2 暗褐色土 2~15mmのF.P.粒5~10%, 黒色土ブロック2~3%
- 3 黒褐色土 F.A小ブロック3%, やや粘土質

33号土坑



33号土坑

- 1 暗褐色土 3~8mmのF.P.粒1%, ロームブロック10~20%
- 2 黄褐色土 ロームブロック主体、暗褐色土ブロック20%

0 2m

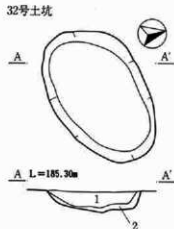
31号土坑



31号土坑

- 1 暗褐色土 F.P.粒、小礫多く含む

32号土坑



32号土坑

- 1 暗褐色土 5~20mmのF.P.粒30%
- 2 黄褐色土 ローム、暗褐色土ブロック5%

転へラケズリ調整を行っている。高台は削り出し高台であり、内面に透明軸、外面に鉄軸を施している。色調は、素地が淡白色、外面が灰赤色、内面が灰白色を呈する。瀬戸・美濃産であると考えられる。2は肥前産の磁器の碗である。復元底径4.4cm、器高は残存部分で3.0cmである。ロクロ整形をおこない、呉須の発色はややくすんでいる。外面は2重の網目文、内面は見込部分の2重圏線内の花文を中心に網目文を描き、高台内には渦福が見られる。色調は明オリブ灰色を呈する。

34号土坑

BE-84グリッドに存在する土坑である。35号土坑に切られる。長軸は190cm、短軸は126cm、深さは60cmである。須恵器の小片を一片出土している。

35号土坑

BE-84グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は258cm、短軸は132cm、深さは62cmである。土師器、須恵器の小片を出土している。

36号土坑

BE-84グリッドに存在する土坑である。35号土坑に切られる。長軸は205cm、短軸は120cm、深さは52cmである。遺物の出土は見られない。

37号土坑

BF-84グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は197cm、短軸は132cm、深さは100cmである。

第16図 白井二位屋遺跡 30~33号土坑、33号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

土師器、須恵器の小片を出土している。

38号土坑

AV-89グリッドに存在する崩れた円形の土坑である。径は75cm、深さは19cmである。遺物の出土は見られない。

39号土坑

AW-86グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は150cm、短軸は120cm、深さは32cmである。土師器の小片を出土している。

40号土坑

BF-85・86グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は237cm、短軸は164cm、深さは56cmである。土師器、須恵器の小片を数片出土している。

41号土坑

BG-85グリッドに存在する円形の土坑である。42号土坑を切る。径は175cm、深さは47cmである。土師器の小片が数片出土しているが、中世の土壌である42号土坑を切っていることから、中世以降の遺構であると考えられる。

42号土坑

BG-86グリッドに存在する楕円形の土坑である。41号土坑に切られる。長軸は107cm、短軸は60cm、深さは38cmである。人骨及び銅銭が出土している。時期を特定するような遺物は出土していないが、中世の墓域であると考えられる。1は紹聖元寶である。北宋銭であり、初鑄造年は1094年である。直径2.45cm、郭一辺の長さ0.7cmを測る。2は咸平元寶である。北宋銭であり、初鑄造年は998年である。直径2.45cm、郭一辺の長さ0.7cmを測る。3は熙寧元寶である。北宋銭であり、初鑄造年は1068年である。直径2.40cm、郭一辺の長さ0.75cmを測る。4は開元通寶である。唐銭であり、初鑄造年は621年である。直径2.45cm、郭一辺の長さ0.65cmを測る。5は皇宋元寶である。南宋銭であり、初鑄造年は1253年である。直径2.50cm、郭一辺の長さ0.7cmを測る。銭以外は何も副葬されていない。骨は頭骨、歯の他に上腕骨等が出土している。保存状態は良くない。

43号土坑

BG-86・87グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は290cm、短軸は65cm、深さは65cmである。土師器の小片が一片出土している。

44号土坑

BH-83・84グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は247cm、短軸は192cm、深さは35cmである。土師器、須恵器の小片がやや多く出土している。

45号土坑

BH-84グリッドに存在する円形の土坑である。46号土坑を切る。径は75cm、深さは17cmである。遺物の出土は見られない。

46号土坑

BH-84グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。45号土坑に切られる。長軸は74cm、短軸は42cm、深さは7cmである。遺物の出土は見られない。

47号土坑

BG-84グリッドに存在する長方形の土坑を直交させたような形の土坑である。長軸は191cm、短軸は140cm、深さは95cmである。遺物の出土はみられない。

50号土坑

BE-90グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は220cm、短軸は77cm、深さは48cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

51号土坑

BE-90グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は220cm、短軸は20cm、深さは30cmである。遺物の出土はみられない。

52号土坑

BE-89・90グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は170cm、短軸は75cm、深さは12cmである。遺物の出土はみられない。

54号土坑

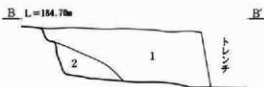
AV-88グリッドに存在する円形の土坑である。径は65cm、深さは30cmである。55号土坑を切る。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

55号土坑

AV-88グリッドに存在する円形の土坑である。径

第1節 白井二位屋遺跡1区遺構群

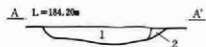
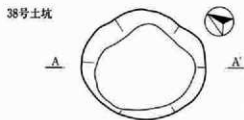
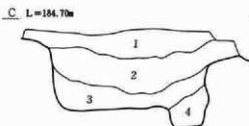
34・35・36・37号土坑



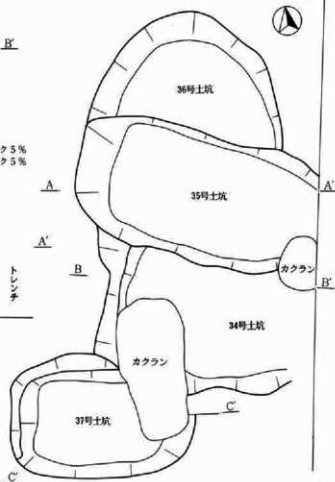
34号土坑
 1 暗褐色土 5~30mmのF P粒10%、ローム小ブロック5%
 2 暗褐色土 2~5mmのF P粒10%、ローム小ブロック5%



35号土坑
 1 暗褐色土 2~10mmのF P粒3~5%、ローム粒
 ロームブロック1~2%
 2 黄褐色土 5mm前後のF P粒5%、ローム
 ブロック10~20%



38号土坑
 1 黒褐色土 F P粒、小礫を多く含む
 2 暗褐色土 しまり強い



37号土坑
 1 暗褐色土 5~15mmのF P粒10%、ローム小ブロック10~20%
 2 暗褐色土 1に類似、F P粒が少ない
 3 暗褐色土 ロームブロック5~10%、シルト質
 4 暗褐色土 3に類似、ロームブロックが少ない



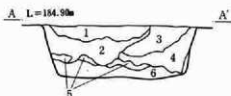
39号土坑
 1 暗褐色土 5~10mmのF P粒30~40%
 2 暗褐色土 5~10mmのF P粒20%



第17図 白井二位屋遺跡 34~39号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

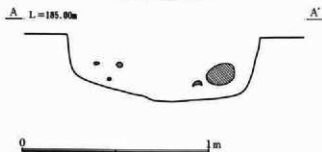
40号土坑



40号土坑

- 1 褐色土 2~20mのFP粒1%, ローム小ブロック5%
- 2 褐色土 2~3mのFP粒1%, ロームブロック10%
- 3 褐色土 2~5mのFP粒3%, ローム粒, ローム小ブロック2~3%
- 4 褐色土 2~5mのFP粒1%, ローム粒, ローム小ブロック5%
- 5 暗褐色土 ローム粒, ローム小ブロック5%
- 6 褐色土 1~3mのFP粒1%, ローム粒, ローム小ブロック3%

42号土坑



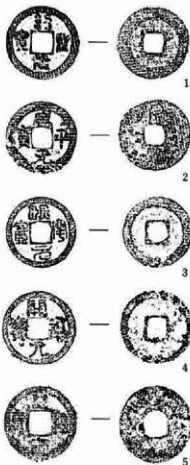
41・42号土坑



41・42号土坑

- 1 黒褐色土 F P粒、小礫を多く含み、ローム小ブロックを少し含む
- 2 黒褐色土 ローム小ブロックを多く含み、F P粒を僅かに含む
- 3 暗褐色土 F P粒、小礫を含み、ロームブロックを少し含む
- 4 褐色土 ロームブロックを多く含む
- 5 暗褐色土 ロームブロックを3より多く含む、F P粒を少し含む

0 2m

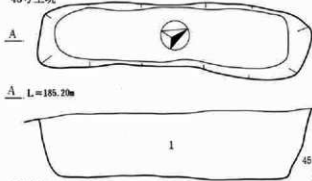


第18図 白井二位屋遺跡 40~42号土坑、42号土坑出土遺物

(4/5)

第1節 白井二位屋遺跡1区遺構群

43号土坑



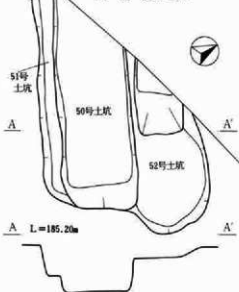
43号土坑

1 褐色土 3~10mmのF P粒2~3%、ロームブロック10%

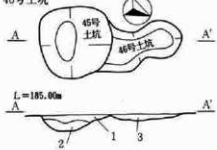
44号土坑



50・51・52号土坑



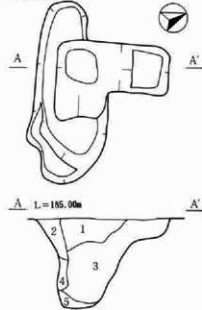
45・46号土坑



45・46号土坑

1 暗褐色土 1~3mmのF P粒、褐色土粒、ロームブロック30%
2 黄褐色土 暗褐色土ブロックを10~20%、ロームを多く含む
3 暗褐色土 ロームブロック30%

47号土坑



47号土坑

1 暗褐色土 2~10mmのF P粒5%、ロームブロック20~30%
2 黄褐色土 2mm前後のF P粒1%、暗褐色土ブロック20~30%
3 黄褐色土 暗褐色土ブロック20~30%
4 暗褐色土 ロームブロック5%
5 暗褐色土 粘質土

0 2m

は65cm、深さは40cmである。54号土坑に切られる。遺物の出土は見られない。

56号土坑

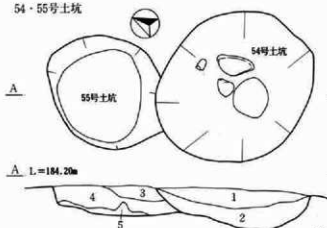
AV・AW-88グリッドに存在する方形の土坑である。長軸は163cm、短軸は140cm、深さは31cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

57号土坑

第19図 白井二位屋遺跡 43~47・50~52号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

54・55号土坑



54・55号土坑

- 1 暗褐色土 3～5mmのF P粒10%
- 2 暗褐色土 3～5mmのF P粒5%、FA粒2～3%
- 3 暗褐色土 3～10mmのF P粒10%
- 4 暗褐色土 3～5mmのF P粒10～20%、FA小ブロック2～3%
- 5 褐色土 2～5mmのF P粒5%、FAブロック20%

56号土坑



56号土坑

- 1 暗褐色土 3～7mmのF P粒5～10%
- 2 褐色土 3～15mmのF P粒10～20%
- 3 褐色土 3～5mmのF P粒5～10%、FA小ブロック10%

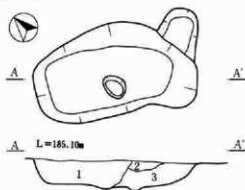
57・58号土坑



57・58号土坑

- 1 暗褐色土 3～7mmのF P粒5～10%、ロームブロック5%
- 2 褐色土 2～3mmのF P粒1～2%、ロームブロック10%
- 3 黄褐色土 2～7mmのF P粒5%、ローム粒1～2%

59号土坑



59号土坑

- 1 暗褐色土 3～7mmのF P粒3%、ロームブロック5%
- 2 暗褐色土 3～7mmのF P粒3%、ローム粒1～2%
- 3 褐色土 3～7mmのF P粒3%、ロームブロック10%

0 2m

第20図 白井二位屋遺跡 54～59号土坑

BF・BG-87グリッドに存在する円形の土坑である。径は115cm、深さは32cmである。58号土坑を切る。須恵器の小片が1片のみ出土している。

58号土坑

BF-87グリッドに存在する楕円形の土坑である。検出部分での長軸は175cm、短軸は150cm、深さは12cmである。57号土坑に切られる。

59号土坑

AY-88・89グリッドに存在する長方形の土坑であ

る。長軸は175cm、短軸は95cm、深さは31cmである。遺物の出土は見られない。

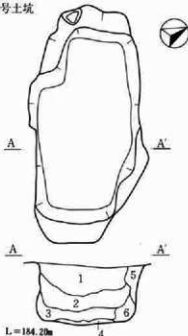
60号土坑

AY-88グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は250cm、短軸は117cm、深さは62cmである。土師器、須恵器の小片が数点出土している。

62号土坑

BD-89グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は135cm、短軸は残存部分で73cm、深さは20cm

60号土坑

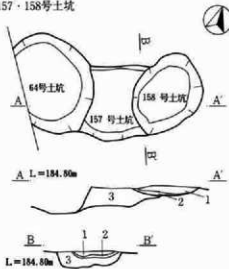


L=184.20m

60号土坑

- 1 暗褐色土 3~15mmのF P粒3%, ローム粒1%
- 2 暗褐色土 1に似る, F P粒少ない
- 3 暗褐色土 ロームブロック10%
- 4 黒色土 ロームブロック20%
- 5 暗褐色土 5mmのF P粒1%, ロームブロック5%
- 6 黄褐色土 ロームブロック主体, 暗褐色土20%

64・157・158号土坑



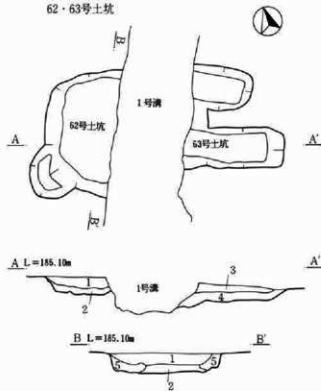
A L=184.90m

L=184.80m

64・157・158号土坑

- 1 暗褐色土 5~7mmのF A小ブロックを多く含む
- 2 黒褐色土 炭化物を多く含む
- 3 褐色土 2~3mmのF A小ブロック, ローム小ブロック, 小礫を多く含む

62・63号土坑



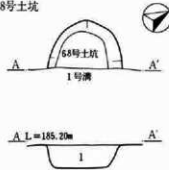
A L=185.10m

B L=185.10m

62・63号土坑

- 1 暗褐色土 3~10mmのF P粒5%, ロームブロック5%
- 2 暗褐色土 1~3mmのF P粒2~3%, ロームブロック10%
- 3 暗褐色土 2~5mmのF P粒2~3%, ロームブロック5%
- 4 暗褐色土 1~3mmのF P粒1%, ロームブロック10%
- 5 黄褐色土 ロームブロック主体, 暗褐色土を20%

68号土坑



A L=185.20m

68号土坑

- 1 暗褐色土 5~10mmのF P粒1%, 焼土, F A大ブロック10~20%
ロームブロック5%

0 2m

第21図 白井二位屋遺跡 60・62~64・68・157・158号土坑

である。1号溝に切られる。遺物の出土は見られない。

63号土坑

BD-88グリッドに存在する長方形の土坑であり、

1号溝に切られる。長軸は残存部分で106cm、短軸は45cm、深さは15cmである。土師器の小片の他、陶磁器片が出土している。

64号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

BB-91グリッドに存在する円形の土坑であり、157号土坑を切る。径は65cm、深さは26cmである。土師器の小片が出土している。

157号土坑

BB-91グリッドに存在する楕円形の土坑であり、64号土坑、158号土坑に切られる。長軸は残存部分で58cm、短軸は41cm、深さは23cmである。遺物の出土は見られない。

158号土坑

BB-91グリッドに存在する円形の土坑であり、157号土坑を切る。径は75cm、深さは10cmである。遺物の出土は見られない。

68号土坑

BF-88グリッドに存在する円形の土坑であり、1号溝に切られる。径は75cm、深さは24cmである。遺物の出土は見られない。

159号土坑

AW-87・88グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。土坑は2段に掘られ、下位の段は円形である。長軸は257cm、短軸は154cm、深さは82cmである。1号住居と切り合い関係にあるが、その前後関係ははっきりしなかった。遺物の出土は見られない。

160号土坑

AY-90グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は160cm、短軸は128cm、深さは19cmである。遺物の出土は見られない。

217号土坑

BD-82グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は125cm、短軸は98cm、深さは21cmである。土師器、須恵器の破片が出土している。

218号土坑

BE-82グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は152cm、短軸は64cm、深さは14cmである。土師器の小片が2片出土している。

219号土坑

BC-82グリッドに存在する崩れた円形の土坑である。長軸は105cm、短軸は98cm、深さは15cmである。土師器、須恵器の他、陶磁器片が出土している。

220号土坑

BF-82グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は、検出部分で137cm、短軸は72cm、深さは108cmである。竈の羽口の先端部が出土している。羽口は半截されており、先端部には溶解した、黒色のガラス質が付着している。そのほか土師器、須恵器、陶磁器片が出土している。

321号土坑

BS-77グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は検出部分で340cm、短軸は100cm、深さは46cmである。遺物の出土は見られない。

326号土坑

BE-80グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は検出部分で200cm、短軸は100cm、深さは32cmである。遺物の出土は見られない。

329号土坑

AR-90グリッドに存在する崩れた円形の土坑である。径は97cm、深さは32cmである。遺物の出土は見られない。

330号土坑

AR-90グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は250cm、短軸は115cm、深さは40cmである。遺物の出土は見られない。

331号土坑

AR-90グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は111cm、短軸は61cm、深さは32cmである。遺物の出土は見られない。

332号土坑

AR-90グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は推定で55cm、短軸は45cm、深さは32cmである。遺物の出土は見られない。

333号土坑

AR-90グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は推定で43cm、短軸は35cm、深さは32cmである。遺物の出土は見られない。

334号土坑

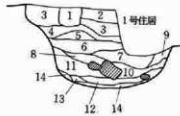
AR-90グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は50cm、短軸は推定で35cm、深さは38cmである。

第1節 白井二位屋遺跡1区遺構群

159号土坑



A L=184.20m A'



159号土坑

- | | |
|-----------|----------------------|
| 1 暗褐色土 | 5~8mmのF.P.粒を多く含む(攪乱) |
| 2 褐色土 | 3~5mmのF.P.粒を極めて多く含む |
| 3 暗褐色土 | 5~8mmのF.P.粒を多く含む |
| 4 鈍い黄褐色土 | F.P.粒を少し含み、FA主体 |
| 5 灰白色軽石 | 1~5mmのF.P.粒主体 |
| 6 鈍い黄褐色土 | 4に似る |
| 7 暗褐色土 | F.P.粒、FA含む |
| 8 鈍い黄褐色土 | 4に似る |
| 9 鈍い黄褐色土 | 4に似る |
| 10 鈍い黄褐色土 | 4に似るがやや大きめのF.P.粒を含む |
| 11 灰白色軽石 | 1~10mmのF.P.粒主体 |
| 12 灰白色軽石 | 11に50~70mmのF.P.粒を含む |
| 13 黄褐色土 | F.P.粒、小礫含む |
| 14 明褐色土 | 焼土主体、灰・炭化物を多く含む |

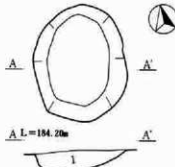
160号土坑



160号土坑

- | | |
|--------|--------------------------|
| 1 暗褐色土 | 0.5mmのF.P.粒をやや多く含む |
| 2 暗褐色土 | 1より茶色味が強い、F.P.粒をほとんど含まない |

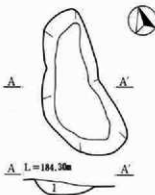
217号土坑



217号土坑

- | | |
|--------|---------------|
| 1 暗褐色土 | 3~5mmのF.P.粒5% |
|--------|---------------|

218号土坑



218号土坑

- | | |
|-------|---------------|
| 1 褐色土 | 3~5mmのF.P.粒1% |
|-------|---------------|

219号土坑



219号土坑

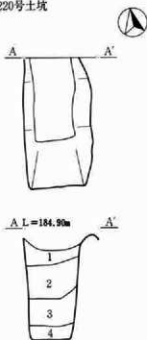
- | | |
|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色土 | 3~7mmのF.P.粒5%、黒色土を10% |
|--------|-----------------------|

0 2m

第22図 白井二位屋遺跡 159・160・217~219号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

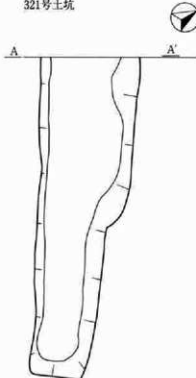
220号土坑



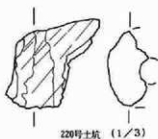
220号土坑

- 1 暗褐色土 3~7mmのF P粒10%
- 2 暗褐色土 3~7mmのF P粒7%
- 3 暗褐色土 2~5mmのF P粒20%
- 4 暗褐色土 2~5mmのF P粒3%

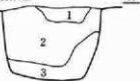
321号土坑



A L = 185.70m



220号土坑 (1/3)

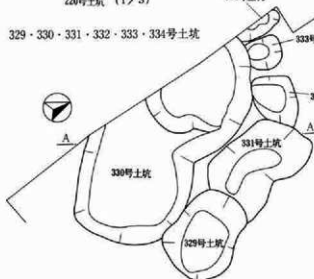


321号土坑

- 1 暗褐色土 3~5mmのF P粒10%
- 2 褐色土 3~5mmのF P粒10%
- 3 暗褐色土 3~5mmのF P粒10%

334号土坑

329・330・331・332・333・334号土坑



A L = 197.90m

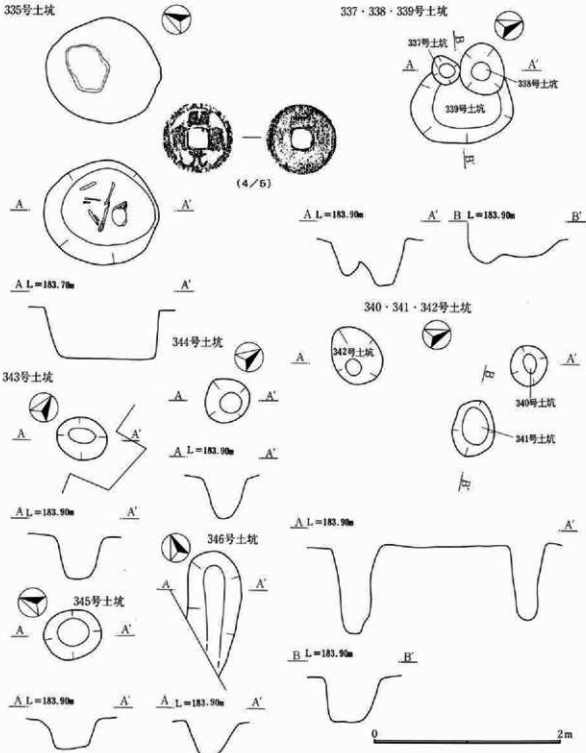


330・331号土坑

- 1 暗褐色土 3~5mmのF P粒5%
- 2 軽石 3~10mmのF P粒の中に褐色土を少量含む

0 2m

第23図 白井二位屋遺跡 220・321・326・329~334号土坑、220号土坑出土遺物



第24図 白井二位屋遺跡 335・337～346号土坑、335号土坑出土遺物

遺物の出土は見られない。

335号土坑

AQ-89グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は123cm、短軸は111cm、深さは53cmである。検出面であるⅡ層（FP）上面に、40cm大の平たい石が

見られた。土坑の底部近くからは、人骨が検出された。人骨は、保存状態が悪く、大腿骨、脛骨、腓骨と頭骨上半部、歯の一部が検出されたのみであった。足は大腿骨と脛骨が折れ曲がった形で検出された。また頭骨は土坑の底部に上下逆の形で検出され、頭

第3章 検出された遺構と遺物

骨が落下したときに、遺体の周辺に空間があったことを物語っている。したがって、335号土坑の埋葬方法は、座棺であったと考えられる。副葬品としては、開元通寶が1枚検出されている。

337号土坑

AP-86グリッドに存在するやや崩れた円形の土坑であり、339号土坑を切る。長軸は32cm、短軸は27cm、深さは36cmである。遺物の出土は見られない。

338号土坑

AQ-86グリッドに存在するやや崩れた円形の土坑であり、339号土坑を切る。長軸は57cm、短軸は46cm、深さは47cmである。遺物の出土は見られない。

339号土坑

AP・AQ-86グリッドに存在する楕円形の土坑であり、337号土坑、338号土坑に切られる。長軸は108cm、短軸は80cm、深さは27cmである。遺物の出土は見られない。

340号土坑

AP・AQ-86グリッドに存在するやや崩れた円形の土坑である。長軸は43cm、短軸は40cm、深さは80cmである。遺物の出土は見られない。

341号土坑

AP-86グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は55cm、短軸は46cm、深さは47cmである。遺物の出土は見られない。

342号土坑

AP-86グリッドに存在するやや崩れた楕円形の土坑である。長軸は65cm、短軸は52cm、深さは91cmである。遺物の出土は見られない。

343号土坑

AP-86グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は53cm、短軸は46cm、深さは46cmである。遺物の出土は見られない。

344号土坑

AP-86グリッドに存在する円形の土坑である。径は50cm、深さは44cmである。遺物の出土は見られない。

345号土坑

AO-86グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は60cm、短軸は50cm、深さは51cmである。遺物の出土は見られない。

346号土坑

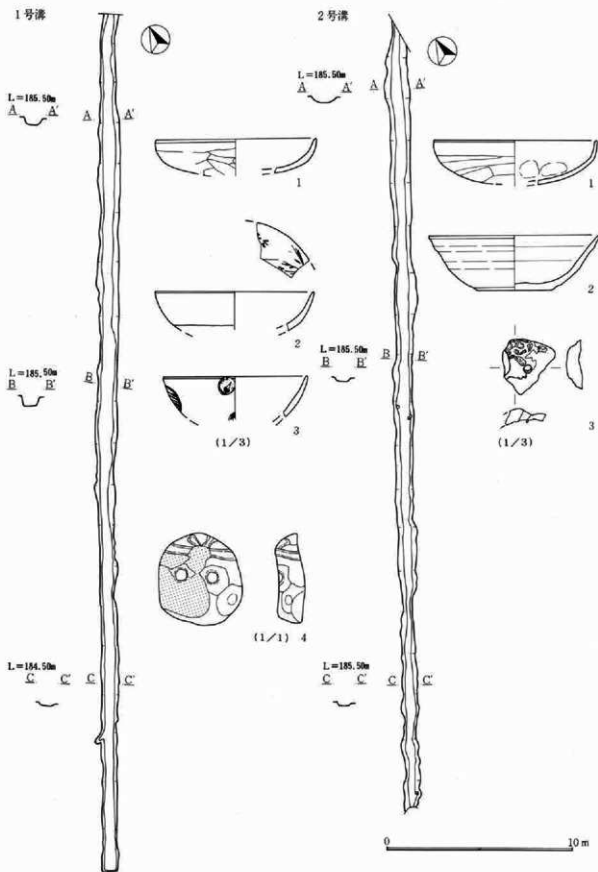
AO-86グリッドに存在する長い楕円形の土坑である。長軸は検出部分で95cm、短軸は55cm、深さは35cmである。遺物の出土は見られない。

1号溝

BA-90～BJ-85グリッドまで南北に、2号溝と並んで伸びる溝である。巾は約100cm、1区をほぼ縦断する形で存在する。土師器、須恵器、陶磁器類の他に、プラスチック類も出土していることから、現代のものと考えられる。1は土師器の杯で、体部から口縁部まで一部のみ残存している。口縁部、内面はヨコナデ、体部は手持ちのヘラケズリを施す。復元口径13.0cm、胎土は細砂粒を含み、焼成は酸化炭で明赤褐色を呈する。2は磁器の碗である。青、赤の2色で上絵付けがなされている。復元口径12.8cm、残存高は3.1cm、色調は灰白色、有田吉田窯の産であると考えられる。3は磁器の碗である。貝須で丸い文様が描かれている。復元口径11.6cm、残存高は3.2cm、色調は緑灰色である。4は泥めんこである。径2.4cmの円形で、ひょっとこをかたどっている。

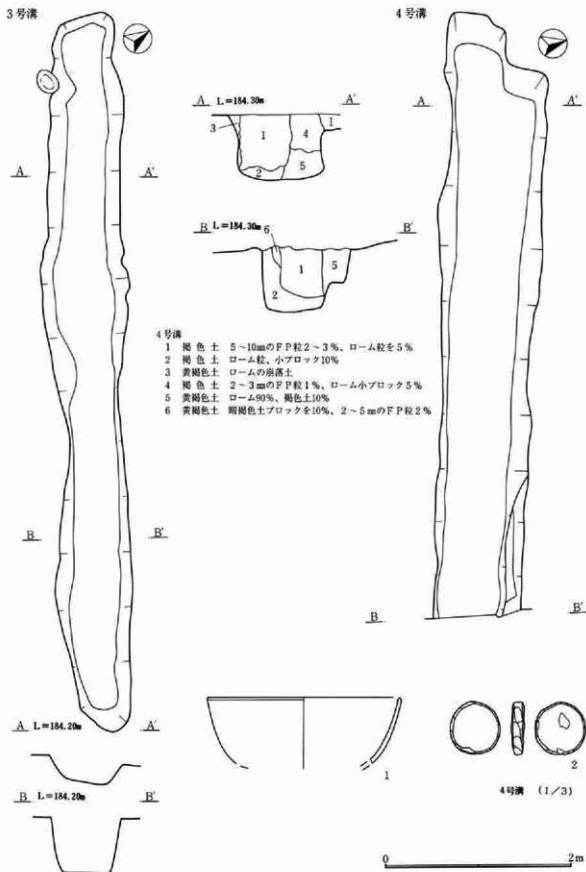
2号溝

BA-90～BJ-85グリッドまで南北に、1号溝と並んで伸びる溝である。巾は約100cm、1区をほぼ縦断する形で存在する。発掘区域南端部で8号溝につながっていく。土師器、須恵器、陶磁器類が出土している。1号溝と同様に近・現代のものと思われる。1は土師器の杯であり、口縁部から体部の約1/4が残存している。復元口径13.0cm。内面に成形時の作業と思われる指痕が見られる。成形後は口縁部外面及び内面全体にヨコナデを施し、体部外面に手持ちのヘラケズリを施している。胎土は細砂粒を含み、色調は鈍い橙色を呈する。2は黒色土器の杯で、底部1/2、体部から口縁部にかけて約1/4が残存している。成形後、ロクロ整形を行っている。内外面に丁寧なヨコナデを施し、回転糸切りにより切り離し



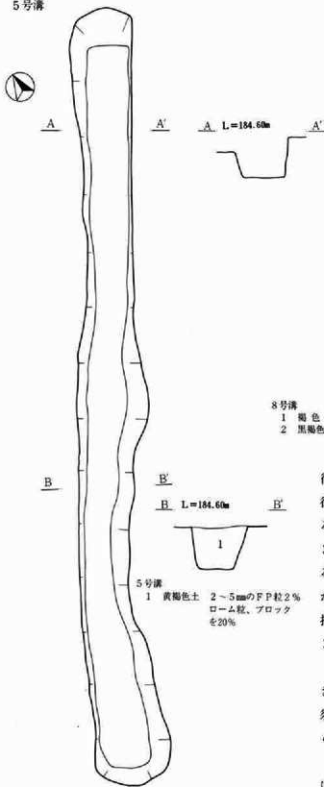
第25图 白井二位屋遺跡 1・2号溝、1・2号溝出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

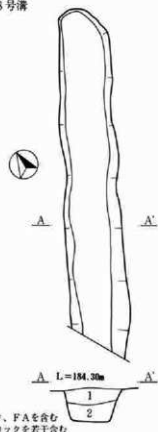


第26図 白井二位屋遺跡 3・4号溝、4号溝出土遺物

5号溝



8号溝



8号溝

- 1 褐色土 黒褐色土ブロック、FAを含む
2 黒褐色土 FA、ロームブロックを若干含む

後、ミガキを施して黒色処理をおこなっている。復元口径13.5cm、復元底径6.0cm、器高は4.3cmである。胎土は細砂粒を含み、色調は黒色を呈する。3は獣の頭部をかたどった、土器の把手部分であると考えられる。獣は獅子であろう。円形の穿孔が穿たれている。おそらくもう1箇所にも穿孔され、把手が付くと考えられる。

3号溝

AW-86～AX-88グリッドに存在する溝である。長さは760cm、幅は75cm、深さは57cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

4号溝

BL-83～BJ-84グリッドに存在する溝である。長さは検出部分で638cm、幅は100cm、深さは69cmである。土師器、須恵器の他に陶磁器が出土している。発掘区域北端で2号溝に直交することから、2号溝、8号溝と一連の遺構であることも考えられる。1は陶器の椀で、口縁部から体部にかけて約1/6が残存し

第27図 白井二位屋遺跡 5・8号溝

1号横列



8号溝

AX-90~AY-90グリッドに存在する溝である。長さは検出部分で354cm、幅は60cm、深さは36cmである。遺物の出土は見られない。2号溝に連続して存在することから、同じ性格の遺構であると考えられる。

1号横列

BB-84~BE-89グリッドにかけて発掘区域のほぼ中央を横切るピットの列である。全貌は明らかではないが、ほぼ等間隔に並んでいると考えられる。深さは全てのピットでほぼ揃っており、区画のための横状の遺構とも考えられる。柱の痕跡は確認できなかった。ピットの径は20cm、深さは検出面から20cm、ピットの間隔は1mである。二位屋敷に伴う施設の可能性もあるが、耕作痕である溝にはほぼ直行することから、近世から圃場整備前にかけての耕作に伴う施設の可能性もある。遺物の出土が見られないことから、正確な時期、性格共に不明である。

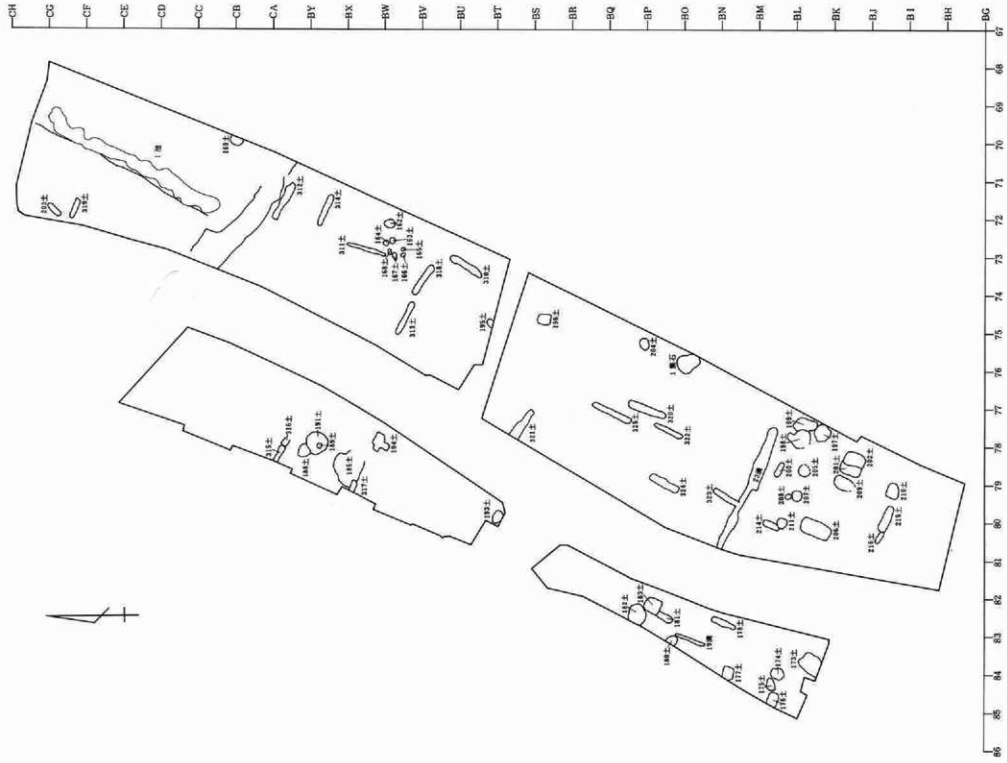
ている。復元口径15.5cm。ロクロ整形を行っており、内外面に透明釉を施す。胎土は細砂粒を含み、色調は淡黄色を呈する。唐津の産であると考えられる。2は軽石である。直径4cm、厚さ1cmの円盤状のものを磨いて作り出している。玩具とも考えられるが、時期、用途共に不明である。

5号溝

BB-88~BD-88グリッドに存在する溝である。長さは815cm、幅は58cm、深さは43cmである。2号溝と並列して存在する。土師器の小片が出土している。

0 2m

第28図 白井二位屋遺跡 1号横列



第23図 白井二位原産跡 2区全体図

第2節 白井二位屋遺跡2区遺構群

2区は1区のすぐ北の発掘区である。今回報告の対象になっていないが、白井二位屋遺跡の発掘区のうち、奈良・平安時代の竪穴住居跡が最も集中した区である。発掘区北端には、1号池が存在する。この池に水を供給する水路と考えられるのが、3区の1号石積である。他の遺構としては、土坑、溝等が挙げられる。墓墳は見られない。310号土坑から324号土坑までの長い楕円形の土坑は圃場整備以前の耕作の跡であろう。

162号土坑

BV-72グリッドに存在するやや崩れた楕円形の土坑である。長軸は110cm、短軸は87cm、深さは55cmである。実測し得なかったが、多数の土師器、須恵器片が出土している。

163号土坑

BV-72グリッドに存在する円形の土坑である。径は62cm、深さは42cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

164号土坑

BV-72グリッドに存在する円形の土坑である。径は55cm、深さは35cmである。遺物の出土は見られない。

165号土坑

BV-72グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は46cm、短軸は32cm、深さは32cmである。遺物の出土は見られない。

166号土坑

BV-72グリッドに存在する円形の土坑である。径は47cm、深さは45cmである。遺物の出土は見られない。

167号土坑

BV-72・73グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は83cm、短軸は42cm、深さは45cmである。土師器の小片が出土している。

168号土坑

BV-72・73グリッドに存在する楕円形の土坑である。

長軸は63cm、短軸は32cm、深さは24cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

169号土坑

CA-69・70グリッドに存在する円形の土坑である。発掘区域東端に位置するため、遺構の西半分のみ検出されている。径は133cm、深さは31cmである。遺物の出土は見られない。

173号土坑

BK-83グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。発掘区南端に位置するため、遺構の北半分のみ検出されている。長軸は検出されている部分で245cm、短軸は180cm、深さは27cmである。遺構の西側の壁には、20～40cm大の石が集められている。

174号土坑

BL-83・84グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は143cm、短軸は115cm、深さは15cmである。遺物の出土は見られない。

175号土坑

BL-84グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は126cm、短軸は90cm、深さは12cmである。遺物の出土は見られない。

176号土坑

BL-84グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は143cm、短軸は103cm、深さは14cmである。遺物の出土は見られない。

177号土坑

BM-83・84グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は138cm、短軸は116cm、深さは24cmである。遺物の出土は見られない。

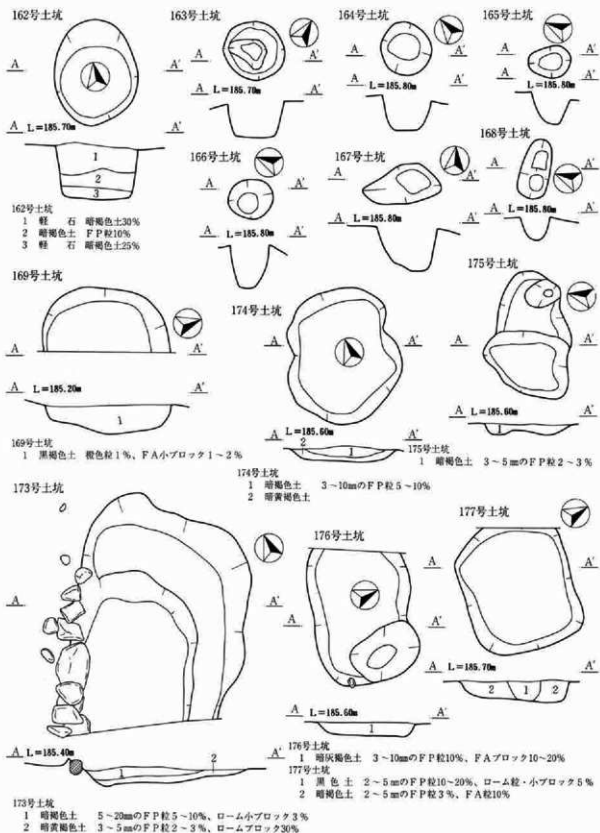
178号土坑

BM・BN-82グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は266cm、短軸は62cm、深さは61cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

180号土坑

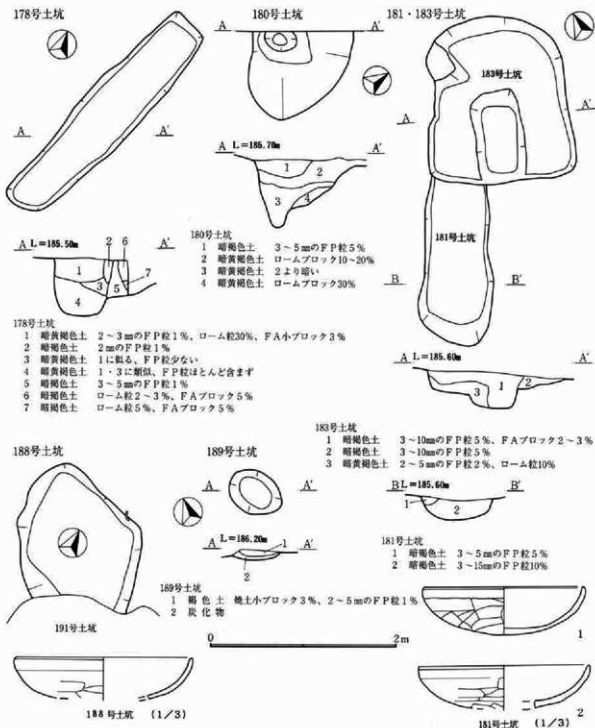
BO-83グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は検出部分で107cm、短軸は93cm、深さは72cm

第3章 検出された遺構と遺物



第30図 白井二位屋遺跡 162~169・173~177号土坑

第2節 白井二位屋遺跡2区遺構群



第31圖 白井二位屋遺跡 178・180・181・183・188・189号土坑、181・188号土坑出土遺物

である。遺物の出土は見られない。

181号土坑

BO-82グリッドに存在する長方形の土坑である。北半分を183号土坑に切られる。長軸は残存部分で177cm、短軸は75cm、深さは22cmである。土師器片が出土している。1は土師器の杯で、約1/2が残存し

ている。成形後、口縁部から内面にかけてヨコナデを施し、体部外面には手持ちのヘラズリにより整形を行っている。復元口径13.0cm、器高は4.8cmである。胎土は細砂粒を含み、色調は鈍い赤褐色を呈する。2も土師器の杯で、口縁部から体部にかけて約1/5が残存している。成形後口縁部から内面にか

第3章 検出された遺構と遺物

けてヨコナダを施し、体部外面には手持ちのヘラケズリにより整形を行っている。復元口径13.6cm。胎土は細砂粒を含み、色調は鈍い橙色を呈する。

183号土坑

BO-82グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は176cm、短軸は145cm、深さは37cmである。181号土坑を切る。土師器、須恵器の小片が多数出土している。

188号土坑

BY-78グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。191号土坑に切られる。長軸は140cm、短軸は127cm、深さは47cmである。土師器の杯が出土している。杯は復元口径14.3cm、口縁部から体部にかけて約1/5が残存している。成形後、口縁部から内面にかけてヨコナダを施し、体部下半には手持ちのヘラケズリにより成形を行っている。口縁部のヨコナダの部分と、体部下半のヘラケズリの間に、調整が行われていない部分があるが、表面が滑らかで、粘土を何かに押し付けたような様相を示す。従って、成形の段階で「型」を利用した可能性が考えられる。

189号土坑

BX-77・78グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は53cm、短軸は46cm、深さは10cmである。土師器の小片が数点出土している。

193号土坑

BS-79グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は145cm、短軸は93cm、深さは40cmである。遺物の出土は見られない。

194号土坑

BW-77・78グリッドに存在する不定形の土坑である。2あるいは3基の土坑が切り合っている可能性がある。長軸は180cm、短軸は133cm、深さは65cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

195号土坑

BT-74グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は82cm、短軸は75cm、深さは22cmである。遺物の出土は見られない。

196号土坑

BR-74グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は142cm、短軸は113cm、深さは17cmである。遺物の出土は見られない。

197号土坑

BK-77グリッドに存在する隅丸正方形の土坑である。辺165cm、深さは89cmである。土師器、須恵器の他、鉄滓が出土している。図は羽釜で、胴から口縁部にかけて約1/8が残存しており、復元口径は22cmである。内外面にヨコナダを施しており、胎土はやや粗砂粒、一部1～2mmの小石を含み、色調は灰黄色を呈する。

198号土坑

BK-77グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑で、199号土坑を切る。長軸は210cm、短軸は200cm、深さは54cmである。土師器、須恵器の他、陶磁器が出土している。

199号土坑

BK-77グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑で、198号土坑に切られる。長軸は255cm、短軸は113cm、深さは35cmである。土師器、須恵器の小片が多数出土している。

200号土坑

BL-78グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は170cm、短軸は56cm、深さは55cmである。土師器、須恵器の小片が多数出土している。

201号土坑

BJ-78グリッドに存在する隅丸方形の土坑で、202号土坑に切られる。長軸は230cm、短軸は残存部分で170cm、深さは24cmである。土師器、須恵器の小片が多数出土している。

202号土坑

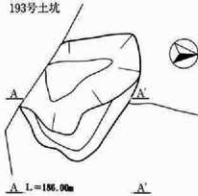
BJ-78グリッドに存在する隅丸方形の土坑で、201号土坑を切る。長軸は229cm、短軸は135cm、深さは48cmである。土師器、須恵器の小片が多数出土している。

203号土坑

CF-71グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は167cm、短軸は56cm、深さは44cmである。土

第2節 白井二位屋遺跡2区遺構群

193号土坑



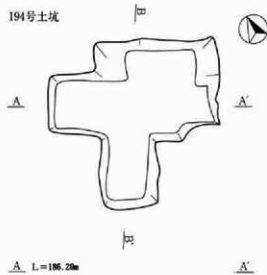
A L=186.00m



193号土坑

- 1 暗灰色土 3~10mmのF P粒30%、FA、黒色土ブロック3%
- 2 暗灰色土 3~5mmのF P粒2~3%、FAブロック
- 3 暗灰色土 2に似る、F P粒含まない
- 4 暗灰色土 FA、黒色土、ロームブロックよりなる

194号土坑

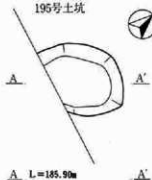


A L=186.20m

B L=186.20m

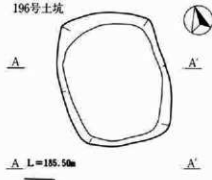
0 2m

195号土坑



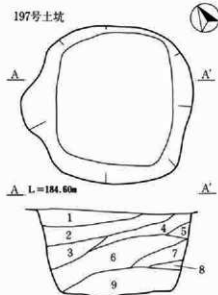
A L=185.90m

196号土坑



A L=185.50m

197号土坑



A L=184.60m

197号土坑

- 1 暗褐色土 5~15mmのF P粒5%
- 2 暗褐色土 5~10mmのF P粒10%、FA小ブロック5%
- 3 黒褐色土 3~7mmのF P粒30%
- 4 暗褐色土 3~7mmのF P粒10%
- 5 暗褐色土 3~7mmのF P粒30%
- 6 暗褐色土 5~30mmのF P粒50%
- 7 暗褐色土 3~5mmのF P粒20%
- 8 暗灰色土 3~5mmのF P粒10%、FA小ブロック30%
- 9 暗褐色土 3~20mmのF P粒20%



197号土坑 (1/3)

第32図 白井二位屋遺跡 193~197号土坑、197号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

198・199号土坑



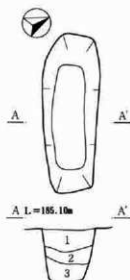
A L=184.80m



198・199号土坑

- 1 暗褐色土 3~10mmのF P粒10%
- 2 暗褐色土 3~5mmのF P粒20%
- 3 黒褐色土 3~5mmのF P粒5%
- 4 灰褐色土 1~2mmのF P粒5%
- 5 暗褐色土 5~10mmのF P粒10%
- 6 暗褐色土 5~10mmのF P粒20%
- 7 軽石 F P粒の流れ込み、黒褐色土30%

200号土坑

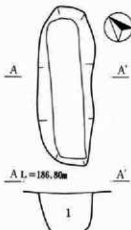


A L=185.10m

200号土坑

- 1 暗褐色土 5~10mmのF P粒5%、FAブロック5%
- 2 暗褐色土 5~10mmのF P粒20%
- 3 軽石 F P粒に黒褐色土30~40%

203号土坑



A L=186.80m

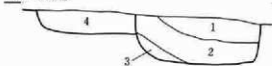
203号土坑

- 1 褐色土 2~3mmのF P粒5%

201・202号土坑



A L=184.60m



203号土坑 (1/3)

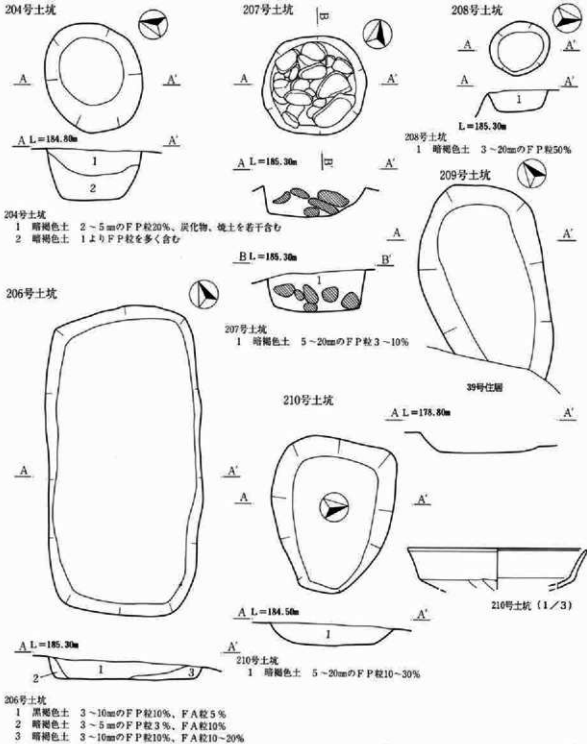
201・202号土坑

- 1 暗褐色土 5~20mmのF P粒10~20%
- 2 暗褐色土 10~30mmのF P粒30%
- 3 暗褐色土 3~10mmのF P粒30~40%
- 4 暗褐色土 5~20mmのF P粒10%

0 2m

第33図 白井二位屋遺跡 198~203号土坑、203号土坑出土遺物

第2節 白井二位屋遺跡2区遺構群



第34図 白井二位屋遺跡 204・206~210号土坑、210号土坑出土遺物

節器の小片が出土している。図は土師器の杯で、口縁部から体部にかけて約1/8が残存している。復元口径は16.4cmで、口縁部と体部との境に稜をもつ。成形後、口縁部から体部内面にかけてヨコナエを施し、体部外面は、手持ちのヘラケズリにより整形を

行っている。胎土は細砂粒を含み、色調は橙色を呈する。

204号土坑

BP-75グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は114cm、短軸は103cm、深さは53cmである。土

第3章 検出された遺構と遺物

師器、須恵器の小片が多数出土している。

206号土坑

BK-79・80グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は327cm、短軸は162cm、深さは20cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

207号土坑

BK-79グリッドに存在する円形の土坑である。径は110cm、深さは43cmである。遺物の出土は見られない。埋土中に10～40cm大の礫が詰まっており、約5m西に存在する211号土坑と対になる可能性がある。

208号土坑

BL-79グリッドに存在する円形の土坑である。径は62cm、深さは22cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

209号土坑

BJ-78・79グリッドに存在する楕円形の土坑である。39号住居を切る。長軸は298cm、短軸は125cm、深さは22cmである。遺物の出土は見られない。

210号土坑

BI-79グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は163cm、短軸は132cm、深さは23cmである。土師器の小片が僅かに出土している。因は土師器の杯で、口縁部から体部にかけて約1/8が残存している。復元口径は14.4cm、口縁部と体部を画する稜線をもつ。成形後、口縁部から体部内面にかけてヨコナデを施し、体部外面は手持ちのヘラケズリによる整形が行われている。胎土は細砂粒を含み、色調は橙色を呈する。

211号土坑

BL-79・80グリッドに存在する円形の土坑である。径は105cm、深さは34cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。埋土中に10～40cmの礫を含むこと、形態、深さ等207号土坑と共通する部分が多いことから、対になって機能していたことも考えられる。

214号土坑

BL-79・80グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は184cm、短軸は62cm、深さは55cmである。土

師器、須恵器の小片が多数出土している。

215号土坑

BI-79・80グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は282cm、短軸は95cm、深さは67cmである。遺物の出土は見られない。

216号土坑

BI-80グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は135cm、短軸は55cm、深さは28cmである。遺物の出土は見られない。

310号土坑

BT・BU-73グリッドに存在する長い楕円形の土坑である。長軸は400cm、短軸は95cm、深さは49cmである。遺物の出土は見られない。

311号土坑

BW-72グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は430cm、短軸は37cm、深さは23cmである。遺物の出土は見られない。

312号土坑

BY-71グリッドに存在する長い楕円形の土坑である。長軸は424cm、短軸は86cm、深さは60cmである。土師器、須恵器が出土している。

313号土坑

BV-74グリッドに存在する長い楕円形の土坑である。長軸は380cm、短軸は60cm、深さは31cmである。遺物の出土は見られない。

314号土坑

BX-71・72グリッドに存在する長い楕円形の土坑である。長軸は415cm、短軸は120cm、深さは62cmである。遺物の出土は見られない。

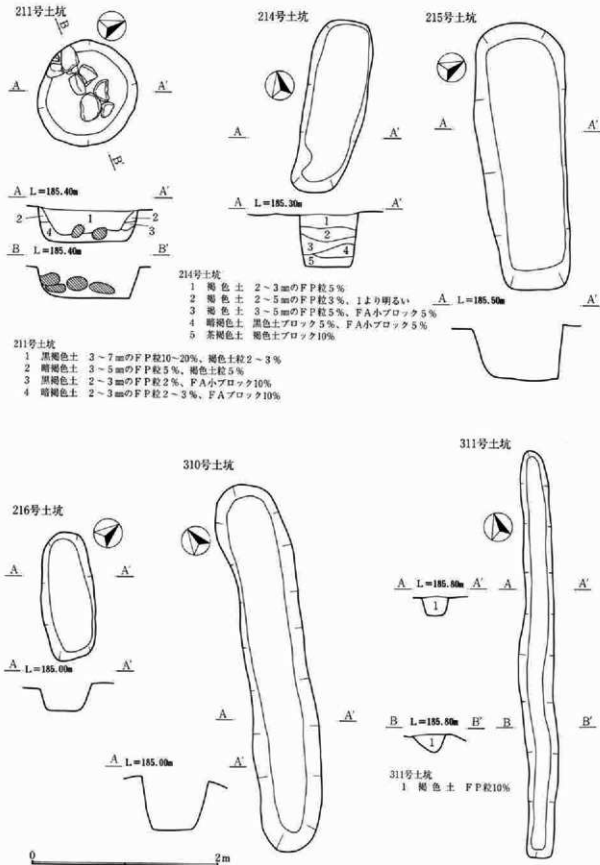
315号土坑

BY-78グリッドに存在する長い楕円形の土坑である。長軸は検出部分で200cm、短軸は43cm、深さは61cmである。316号土坑に続く。遺物の出土は見られない。

316号土坑

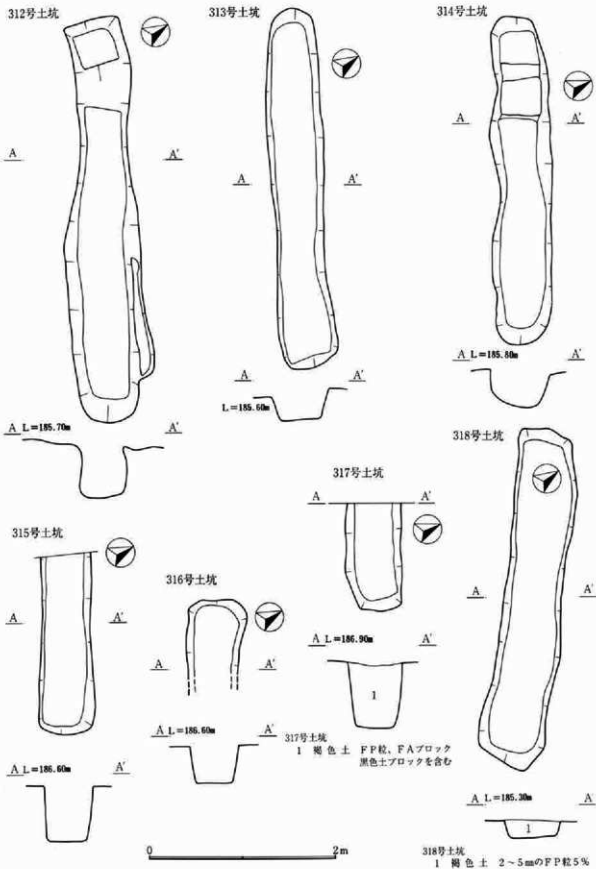
BY-77グリッドに存在する楕円形の土坑である。東半分は検出できなかった。短軸は60cm、深さは58cmで、315号土坑に続くようである。遺物の出土は

第2節 白井二位屋遺跡2区遺構群



第35図 白井二位屋遺跡 211・214~216・310・311号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



第36図 白井二位屋遺跡 312~318号土坑

見られない。

317号土坑

BV-72グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は検出部分で120cm、短軸は57cm、深さは52cmである。土師器、須恵器、陶磁器が僅かに出土している。

318号土坑

BU・BV-73グリッドに存在する長い楕円形の土坑である。長軸は365cm、短軸は60cm、深さは13cmである。遺物の出土は見られない。

319号土坑

CF-71グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は210cm、短軸は45cm、深さは61cmである。土師器の小片が僅かに出土している。

320号土坑

BO・BP-76・77グリッドに存在する長い楕円形の土坑である。長軸は420cm、短軸は80cm、深さは64cmである。遺物の出土は見られない。

322号土坑

BO-77グリッドに存在する長い楕円形の土坑である。長軸は331cm、短軸は50cm、深さは14cmである。土師器、須恵器、陶磁器の小片が僅かに出土している。

323号土坑

BM・BN-79グリッドに存在する長い楕円形の土坑である。23号溝に切られる。長軸は382cm、短軸は60cm、深さは24cmである。土師器、須恵器、陶磁器の小片が多数出土している。図は須恵器の蓋で、約1/4強が残存しているが、鈕は剥離している。マキアゲ成形の後、ロクロによる整形を行っている。切り直し後、外面に回転ヘラケズリ、内面にヨコナデを施し、鈕、かえりをはりつけ、強いナデで補強を行っている。胎土はやや粗砂粒、0.5～1mmの小石を含み、焼成はやや軟質で、色調は灰白色を呈する。

324号土坑

BO-78・79グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は335cm、短軸は90cm、深さは37cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

325号土坑

BP-76・77グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は444cm、短軸は70cm、深さは72cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。図は須恵器の蓋で、天井部のみ的小片である。成形後、天井部外面上半に回転ヘラケズリ整形を行い、内面にはヨコナデを施す。

19号溝

BN・BO-82・83グリッドに存在する溝である。長さは330cm、幅は40cm、深さは7cmである。遺物の出土は見られない。

23号溝

BL-77～BN-80グリッドに存在する溝である。長さは14.4m、幅は130cm、深さは66cmである。土師器、須恵器の他に、灰軸碗の破片も出土している。図は土師器の杯で、口縁部から体部にかけて約1/5が残存している。復元口径11.2cm、残存高は3cmである。成形後、口縁部から体部内面にかけてヨコナデを施し、ヘラケズリにより、体部外面を整形している。胎土は細砂粒を含み、橙色を呈する。

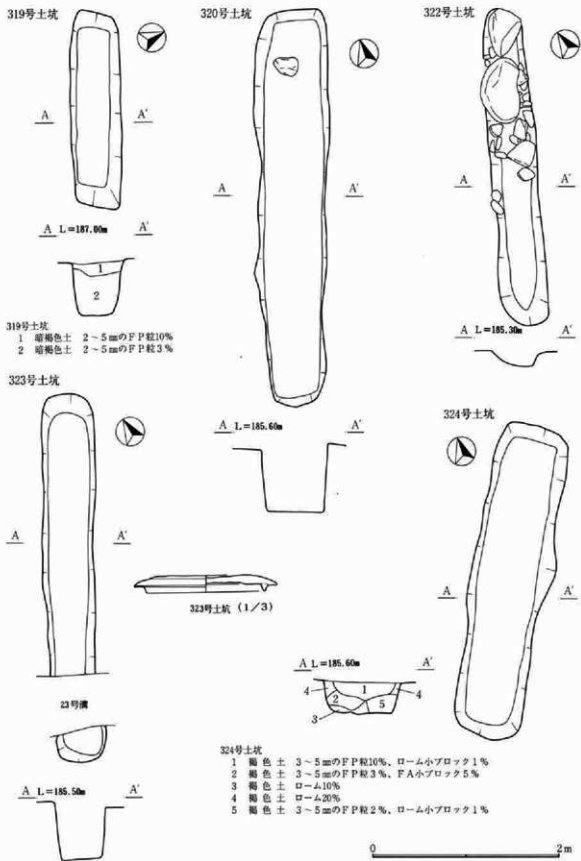
1号集石

BN～BO-75～76グリッドに存在する遺構である。傘大から人頭大の石を一箇所に集めている。石に混じって、須恵器の羽釜と把手付長頸瓶の破片が検出されている。1は羽釜である。口縁部のみ出土で、復元口径は27.8cmである。マキアゲ成形、鈔はりつけ後に内外面にヨコナデを施している。鈔の下には斜め方向のユビナデを施している。2は把手付長頸瓶である。頸部から体部上半のみが残存している。マキアゲ成形。全面にナデ。頸部には特に強いナデを施している。把手接合部には、放射状に強いナデを施し、接合を強化している。体部外面にはヘラケズリを施す。

1号石積

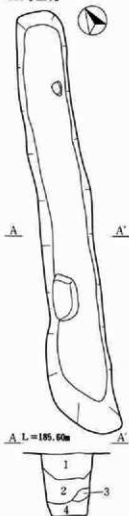
CD-74～CF-78グリッドに存在する遺構である。3区の遺構であるが、2区の1号池に直接つながる可能性が高いのでここで扱う。遺構は発掘区を北西から南東に向かって横切るように存在する。現在遺構の

第3章 検出された遺構と遺物



第37図 白井二位屋遺跡 319・320・322~324号土坑、323号土坑出土遺物

325号土坑



325号土坑

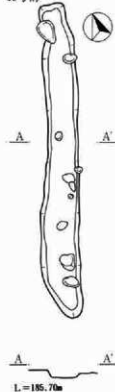
- 1 褐色土 2~4mmのF P粒5%
- 2 褐色土 3~7mmのF P粒7%
- 3 茶褐色土 F P粒10%
- 4 暗褐色土 2~3mmのF P粒7%

0 2m



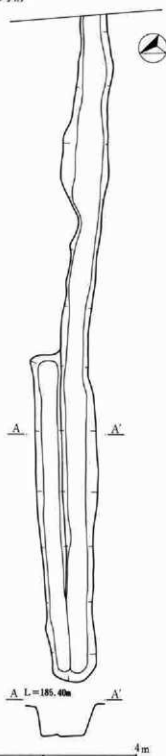
325号土坑 (1/3)

19号溝



L=185.70m

23号溝



A L=185.40m

0 4m

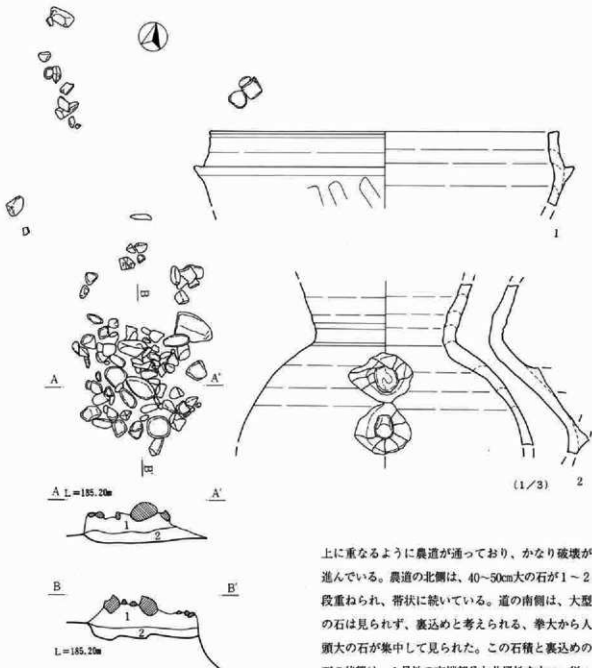


23号溝 (1/3)

第38図 白井二位屋遺跡 325号土坑、325号土坑出土土物、19・23号溝、23号溝出土土物

第3章 検出された遺構と遺物

1号集石



1号集石

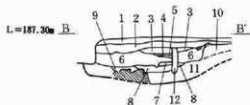
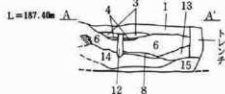
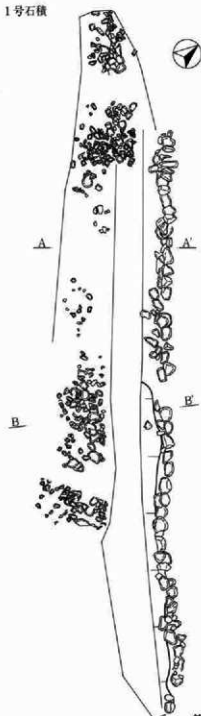
- 1 黒褐色土 3～10mmのF P粒10%、As-D軽石粒 5～10%
 2 暗褐色土 5～30mmのF P粒20～30%

0 2m

上に重なるように農道が通っており、かなり破壊が進んでいる。農道の北側は、40～50cm大の石が1～2段重ねられ、帯状に続いている。道の南側は、大型の石は見られず、裏込めと考えられる、拳大から人頭大の石が集中して見られた。この石積と裏込めの石の状態は、1号池の南端部分と共通性をもつ。従って、1号石積は、1号池と接続することは確実であり、その性格としては、池につながる水路とも考えられる。遺物は、土師器、須恵器の他に、陶磁器、砥石、鏡などが出土している。1～4は土師器の杯である。1は口縁部から体部にかけての小片である。復元口径は12.0cm、器高は残存部分で3.2cmである。口縁部から内面にかけてヨコナデを、体部にはハラケズ

第39図 白井二位屋遺跡 1号集石、1号集石出土遺物

1号石積



1号石積

- 1 黒褐色土 表土
 2 黒色土 2~15mmのF.P.粒をやや多く含む
 3 黒色土 3~5mmのF.P.粒を非常に多く含む
 4 褐色土 ローム土の客土、道路面、堅く締まる
 5 黒色土 F.P.粒を若干含む
 6 黒褐色土 2~10mmのF.P.粒を含む
 7 雑石 1~6mmのF.P.粒主体
 8 黒褐色土 3~5mmのF.P.粒を非常に多く含む
 9 黒色土 F.P.粒を若干含む
 10 黒褐色土 2~10mmのF.P.粒を含む
 11 黒褐色土 褐色土ブロックを若干含む
 12 黒褐色土 水道管用堅土
 13 黒色土 6に似るがやや黒色味が強い
 14 黒褐色土 6とはほぼ同じ、上面が硬化、道であったと考えられる
 15 黒褐色土 3とはほぼ同じ(住居跡埋土)

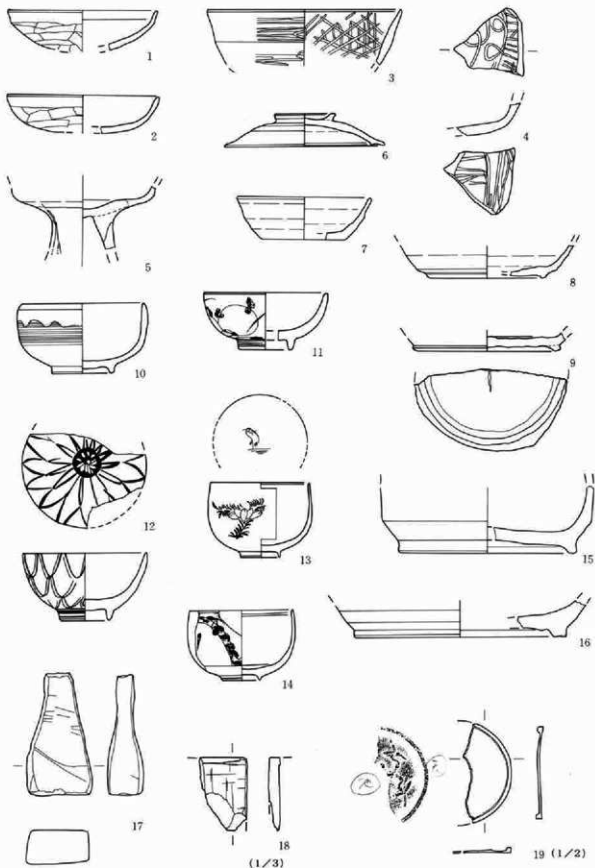
0 5m

第40図 白井二位屋遺跡 1号石積

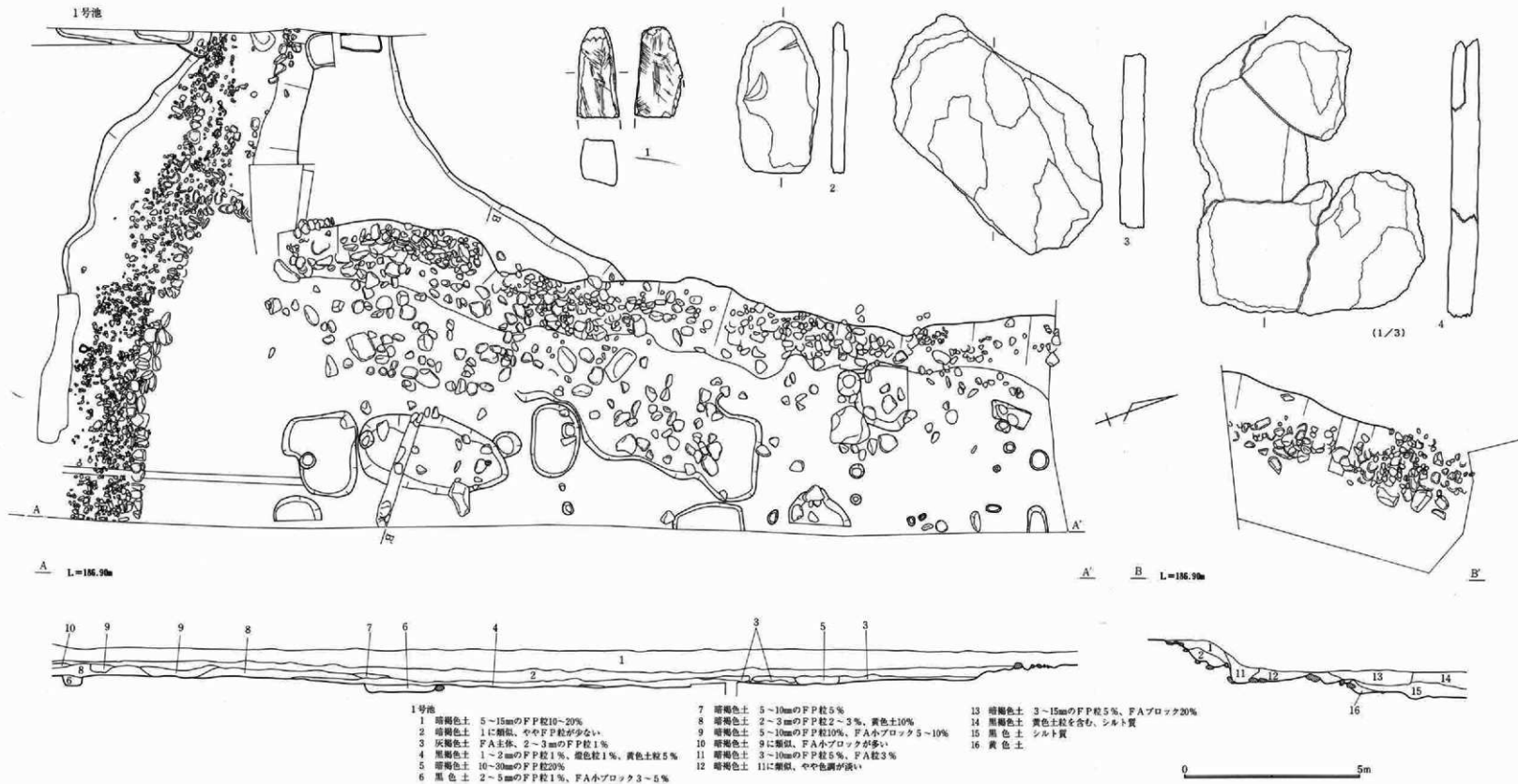
りを施している。胎土は長石粒を若干含む細砂粒で、色調は橙色を呈する。2は口縁部から体部にかけて約1/2が残存している。復元口径は12.2cm、器高は3.0cmである。成形後、口縁部から内面にかけてヨコナデを、体部外面にはヘラケズリを施している。胎土は細砂粒を含み、色調は鈍い赤褐色を呈する。3は口縁部から体部にかけての小片である。復元口

径15.6cm。内外面に丁寧なヨコナデを施した後、外面には横方向のミガキ、内面には放射状の暗文を施した後、右下がり、左下がりの格子状の暗文を施している。胎土は細砂粒、小石を含み、色調は灰褐色を呈する。4は底部の一部のみ残存している。内外面に丁寧なヨコナデを施した後、外面はミガキ、内面は放射状及び螺旋状の暗文を施している。胎土は

第3章 検出された遺構と遺物



第41図 白井二位屋遺跡 1号石横出土遺物、1~18 (1/3)・19 (1/2)



第42図 白井二位屋遺跡 1号池、1号池出土遺物 (1/3) (1)

細砂粒を含み、色調は鈍い黄褐色を呈する。5は須恵器の高杯で、杯部下半と脚部上半の一部が残存している。脚部、杯部底部、杯部体部及び口縁部の3分割で成形されたことが確認できる。ロクロを利用した整形を行っている。杯部は外面ヘラケズリ後ヨコナデを、脚部はナデによる調整を行っており、スカシは3方に穿たれている。胎土は細砂粒を含み、色調は灰色を呈する。6は須恵器の壺である。約1/8が残存している。復元口径は12.8cm、器高は2.6cmである。成形後、ロクロ整形を行っている。内面は強いヨコナデでかえりを表現している。天井部外面は回転ヘラケズリを施し、輪状の紐をはりつけ、ヨコナデ調整を行っている。胎土は細砂粒、黒色粒子を含み、色調は灰色を呈する。7は須恵器の杯である。ロクロによる整形を行っており、内外面にヨコナデ調整を施している。底部は回転糸切り無調整である。胎土は細砂粒を含み、色調は灰色を呈する。8・9は須恵器の高台付杯である。8は底部から体部の一部のみ残存している。復元口径9.4cm。ロクロ利用の整形を行っており、内外面はヨコナデ調整を施している。切り離し後、回転ヘラケズリによる削り出し高台を持つ。胎土は細砂粒、黒色粒子を含み、色調は灰色を呈する。9は底部のみ約1/2が残存している。復元口径11.8cm。ロクロによる整形を行っており、内外面はヨコナデ調整を施す。切り離し後、底部に高台をはりつけ、ヨコナデ調整を行っている。底部中央裏面に刻印が見られる。10は陶器の碗で、約1/2が残存している。口径10.0cm、底径5.0cm、器高5.5cmである。ロクロ成形と考えられる。体部上半に、回転台利用の沈線を描き、鉄軸をかけており、口縁部から内面全体には、灰軸を厚くかけている。胎土は細砂粒を含み、色調は、素地が灰白色、鉄軸部分が黒褐色、灰軸部分が明オリーブ灰色を呈する。11~14は磁器の碗である。11は約1/2が残存している。口径10.0cm、底径4.3cm、器高4.5cmである。体部に呉須で草文を描いている。色調は灰白色を呈し、呉須の発色はやや鈍い。12は1/2強が残存している。口径10.0cm、底径4.0cm、

器高5.3cmである。体部外面に二重の網目文、内面は見込部分の一重網目内の花文を中心に網目文が描かれている。色調は明青灰色を呈する。13は口縁部1/3、体部約1/2が残存している。復元口径8.0cm、底径3.2cm、器高6.0cmである。体部に花文、見込部分に鳥文が描かれている。色調は明青灰色を呈する。14は口縁から底部にかけての小片である。復元口径8.4cm、底径5.5cm、器高3.0cmである。体部外面には草文が描かれ、見込部分には五弁花の一部が見られる。色調は明緑灰色を呈する。15は陶器の壺で、底部1/3と体部の一部のみが残存している。体部下端部から底部にかけて、回転ヘラケズリを施し、高台は削り出し高台である。体部内外面に鉄軸がかけられている。胎土は粗砂粒、長石粒を含み、素地は淡黄色、軸部分は暗赤褐色を呈する。16は陶器のこね鉢で、底部のみ小片である。復元口径17.0cm。外面は回転ヘラケズリを施し、高台は削り出し高台である。内面に透明軸がかけられており、トチンの跡が見られる。胎土は細砂粒を含み、色調は素地が灰白色、軸の部分が淡黄色を呈する。17は磁石である。現状で長さ9.6cm、幅5.0cm、厚さ2.7cmである。4面が使用されている。18は硯の一部である。海の部分のみが使用面として残存している。19は鏡である。復元径は25.5cm。鳥の文様が浮き彫りされている。

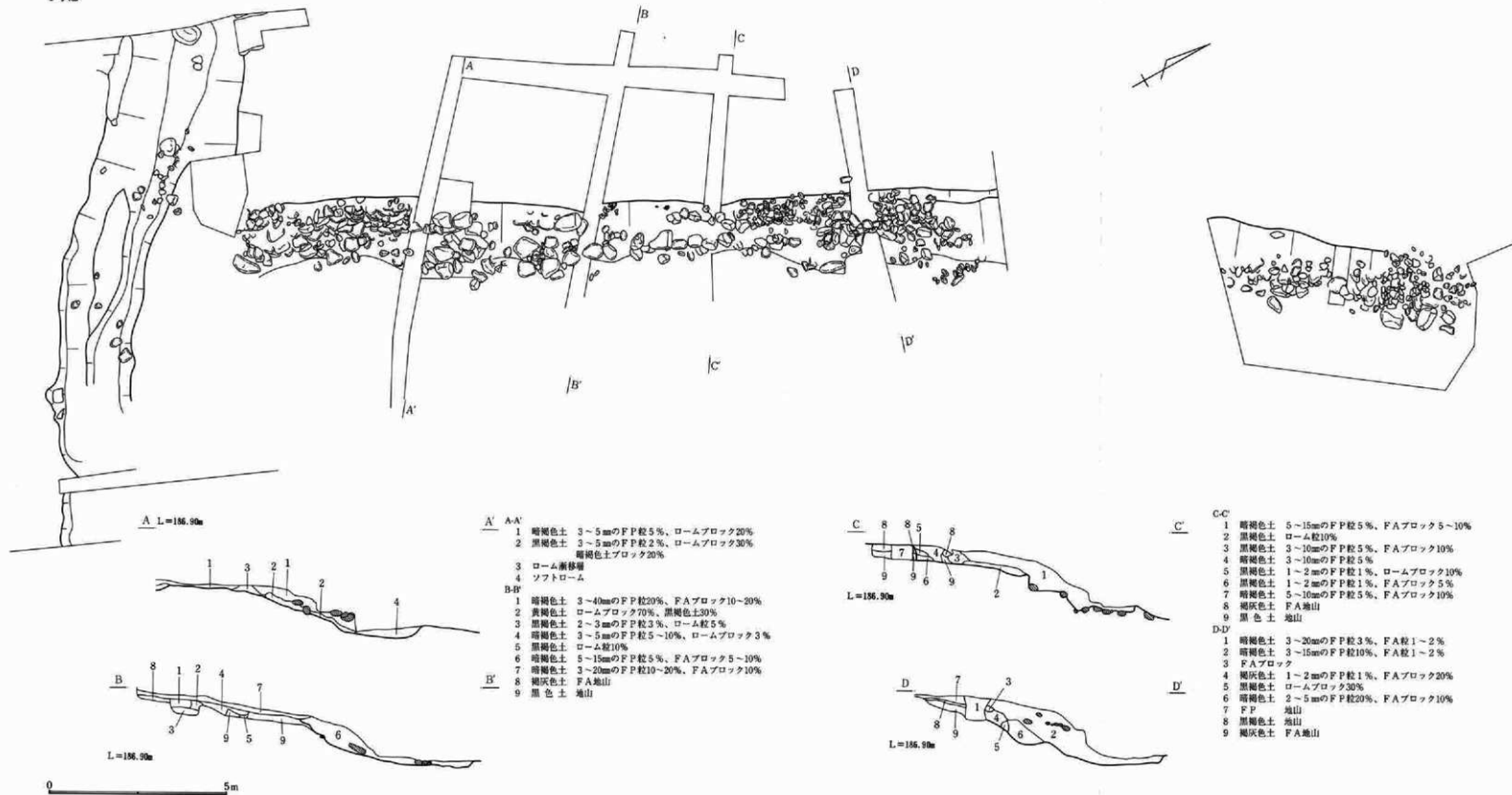
1号池

BY-70~CI-68グリッドにかけて存在する、方形と想定される堀込みに、石垣状の立ち上がりを持つ遺構である。この遺構は、堀のように長く伸びず、方形の窪地であること。水路の遺構と考えられる1号石積が直接つながることから、池であると考えられる。西側の辺と、南側の辺の一部のみが確認されている。掘り方は、ローム下の礫層の直上まで掘り込まれており、一部大形の礫が顔を出している部分もある。西側の辺は、長さ約35mあり、緩やかな斜面に礫層の礫を落とすし込んで石垣状に作り上げている。自然礫に混じって、中世末のものと考えられる五輪塔の水輪や、細かく砕かれた石臼、茶臼等も転用材として用いられている。南側の辺は40cm大の礫の裏

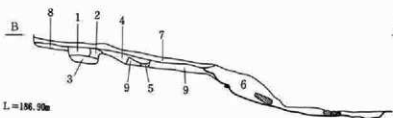
に、10~20cm大の礫を裏込めとして使用している。表土を削ぐ前からこの周辺が、約30m四方にわたり窪地となっていることが確認でき、山崎一氏が『群馬県古城址の研究』の中で、ここに何らかの遺構があることを、図面の中で指摘している。この池は1号堀に区画された屋敷内の、庭園遺構の一部であると考えられる。遺物は土師器、須恵器の他、陶磁器、内耳土器、石臼、五輪塔等多数出土している。1は砥石である。4面が使用されており、7.5cmで欠損している。2~4は緑色片岩の破片で、板碑の一部である。2のみに梵字を掘り込んだ跡が見られる。5は土師器の杯で、ほぼ完形である。口径は11.4cm、器高は3.3cmである。成形後、口縁部から内面全体にかけてヨコナダを施し、外部外面には、手持ちのヘラケズリを施している。胎土はやや粗砂粒を含み、色調は橙色を呈する。6は須恵器の杯で、約1/5が残存している。成形後、ロクロ整形を行っている。内外面にヨコナダを施し、切り放し後、底部の外周を回転ヘラケズリで輪状に削ることにより、高台状の僅かな高まりを作り出している。胎土はごく僅かに細砂粒を含み、色調は灰色を呈する。7は須恵器の杯で、底部から体部の一部が約1/2残存しており、底径は8.0cm、残存高は3.0cmである。体部は腰が張り、直線的に口縁部に向かうタイプであると思われる。成形後、ロクロ整形を行い、回転糸切りで切り放し後、高台をはりつけている。高台はりつけ後に、器全体にヨコナダを施しており、その際に、底部の糸切り痕も撫でられている。胎土は細砂粒を含み、色調は灰白色を呈する。8は灰輪の椀で、高台部分のみ約1/4が残存している。底径は6.5cm、残存高は1.8cmである。切り放し後、回転ヘラケズリにより高台を作り出しており、高台の断面は台形である。胎土は小石を僅かに含み、色調は灰白色を呈する。9は青磁の椀で、底部のみ残存している。底径は5.2cm、残存高は1.4cmである。削り出し高台と考えられ、軸は高台の外周まで施されている。胎土は細砂粒を含み、色調は軸がオリーブ灰色、素地が明オリーブ灰色、高台裏面が赤灰色を呈する。14世紀後

半から15世紀にかけての、龍泉窯の製品と考えられる。10~17はカワラケである。10は底部から口縁部にかけて約1/5が残存し、復元口径12.0cm、底径7.4cm、器高2.6cmである。器形は、底部から反しながら立ち上がり、口縁部は内湾気味である。成形後、体部内外面にはヨコナダを施し、底部内面には並列したユビナダを施す。底部は回転糸切り後、手持ちのヘラケズリにより、軽く調整されている。胎土は細砂粒、小石を含み、色調は明赤褐色を呈する。11は底部から口縁部の約1/2が残存し、復元口径11.0cm、底径6.6cm、器高2.8cmである。成形後、体部内外面にヨコナダを施し、底部内面には並列したユビナダを施しており、内面立ち上がり部分には強いユビナダを施しており、底部は回転糸切り無調整である。胎土はやや粗い砂粒、金雲母、赤褐色粒子を含み、色調は鈍い橙色を呈する。12は口径11.2cm、底径7.6cm、器高2.4cmで、器形はやや反りながら開くタイプである。成形後、体部内外面にヨコナダを施し、内面立ち上がり部分には強いヨコナダにより輪状の溝ができています。胎土は細砂粒を含み、色調は鈍い褐色を呈する。13は底部から開きながら口縁に達する器形で、約1/4が残存し、復元口径は12.4cm、底径6.7cm、器高は2.3cmである。成形後、体部内外面にはヨコナダを施し、底部内面にはナダを施している。内面立ち上がり部分には、強いユビナダにより輪状の溝ができています。胎土は細砂粒、赤色粒子を含み、色調は鈍い赤褐色を呈する。14も体部が開く器形である。約1/4が残存し、復元口径11.5cm、底径6.7cm、器高は2.7cmである。成形後、体部内外面にヨコナダを施し、底部は回転糸きり後、軽くヘラケズリを施している。胎土は細砂粒を含み、色調は赤褐色を呈する。15は他のものと比較してやや小形のもので、復元口径7.7cm、底径4.3cm、器高1.7cmである。約1/2が残存している。成形後、体部内外面にヨコナダを施し、内面立ち上がり部分は、強いユビナダにより溝状になっている。底部内面はユビナダを施し、底部は回転糸切り無調整である。胎土は細砂粒を含み、色調は橙色を呈する。16もやや小形のものであり、

1号池



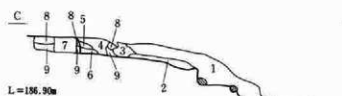
A L=186.90m



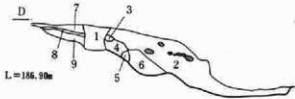
L=186.90m

0 5m

- A-A'**
- 1 暗褐色土 3~5mmのF.P.粒5%、ロームブロック20%
 - 2 黒褐色土 3~5mmのF.P.粒2%、ロームブロック30%
暗褐色土ブロック20%
 - 3 ローム崩移層
 - 4 ソフトローム
- B-B'**
- 1 暗褐色土 3~40mmのF.P.粒20%、F.A.ブロック10~20%
 - 2 黄褐色土 ロームブロック70%、黒褐色土30%
 - 3 暗褐色土 2~3mmのF.P.粒3%、ローム粒5%
 - 4 暗褐色土 3~5mmのF.P.粒5~10%、ロームブロック3%
 - 5 暗褐色土 ローム粒10%
 - 6 暗褐色土 5~15mmのF.P.粒5%、F.A.ブロック5~10%
 - 7 暗褐色土 3~20mmのF.P.粒10~20%、F.A.ブロック10%
 - 8 褐色土 F.A.地山
 - 9 黒色土 地山



L=186.90m

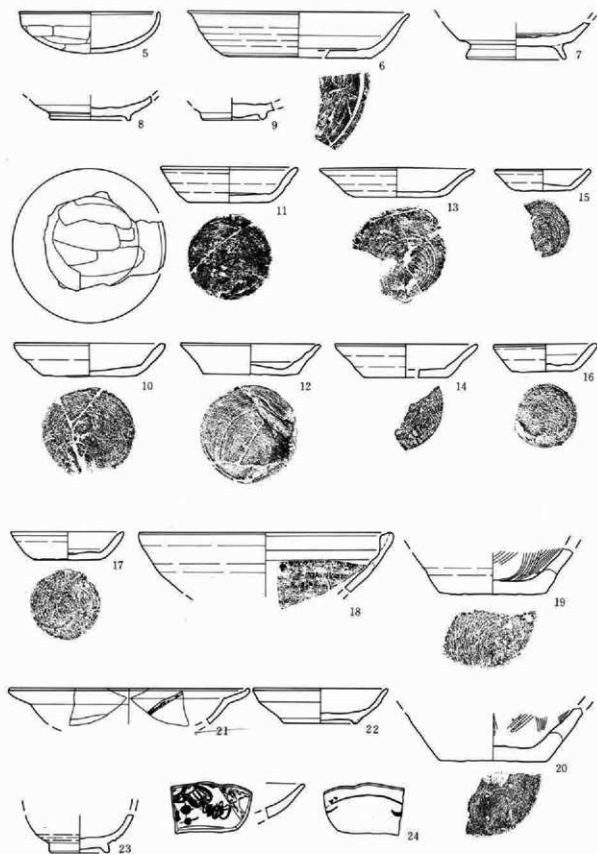


L=186.90m

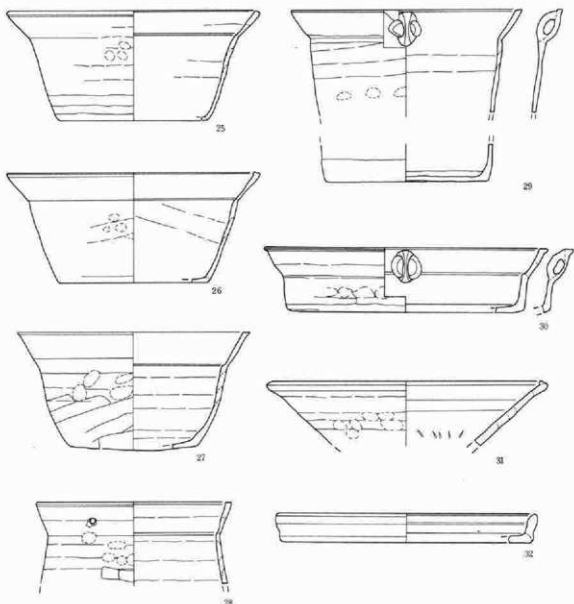
- C-C'**
- 1 暗褐色土 5~15mmのF.P.粒5%、F.A.ブロック5~10%
 - 2 黒褐色土 ローム粒10%
 - 3 黒褐色土 3~10mmのF.P.粒5%、F.A.ブロック10%
 - 4 暗褐色土 3~10mmのF.P.粒5%
 - 5 暗褐色土 1~2mmのF.P.粒1%、ロームブロック10%
 - 6 黒褐色土 1~2mmのF.P.粒1%、F.A.ブロック5%
 - 7 暗褐色土 5~10mmのF.P.粒5%、F.A.ブロック10%
 - 8 褐色土 F.A.地山
 - 9 黒色土 地山
- D-D'**
- 1 暗褐色土 3~20mmのF.P.粒3%、F.A.粒1~2%
 - 2 暗褐色土 3~15mmのF.P.粒10%、F.A.粒1~2%
 - 3 F.A.ブロック
 - 4 褐色土 1~2mmのF.P.粒1%、F.A.ブロック20%
 - 5 黒褐色土 ロームブロック30%
 - 6 暗褐色土 2~5mmのF.P.粒20%、F.A.ブロック10%
 - 7 F.P. 地山
 - 8 暗褐色土 地山
 - 9 褐色土 F.A.地山

第43図 白井二位塚遺跡 1号池 (2)

第2節 白井二位屋遺跡2区遺構群



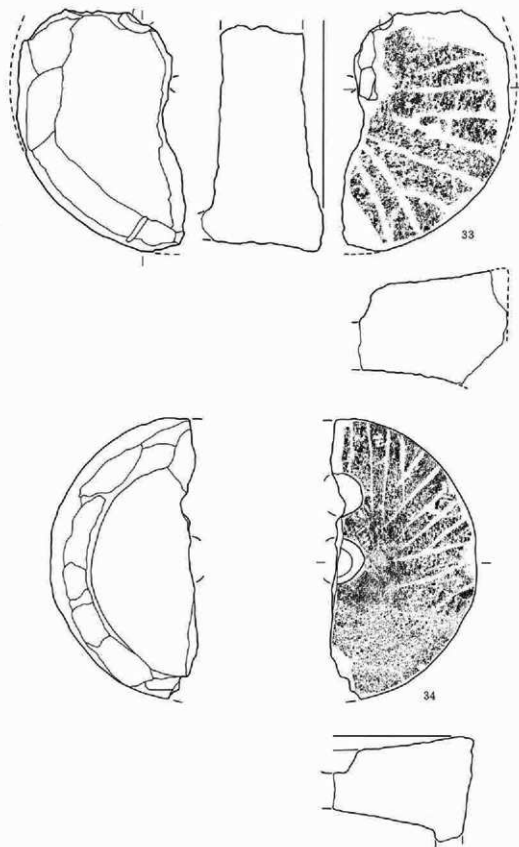
第44图 白井二位屋遺跡 1号池出土遺物 (1/3) 19-20 (1/4) (3)



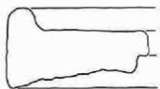
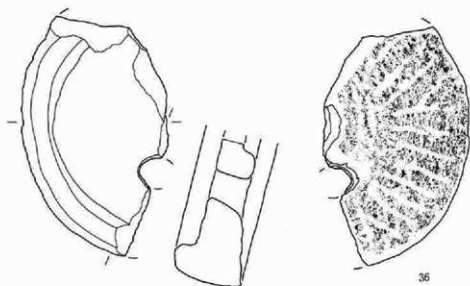
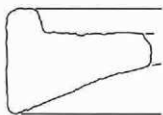
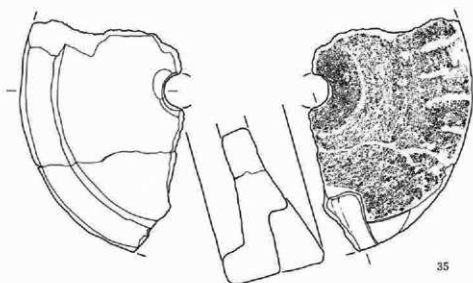
第45図 白井二位屋遺跡 1号池出土遺物 (1/5) (4)

口径8.4cm、底径4.9cm、器高は2.1cmで、1/2が残存している。成形後、体部内外面にヨコナデを施し、内面立ち上がり部分には強いヨコナデを施している。底部は回転糸切り無調整である。胎土は細砂粒を含み、色調は鈍い褐色を呈する。17は直線的に立ち上がりながら口縁部がやや内湾する器形で、復元口径9.1cm、底径5.4cm、器高は2.5cmである。成形後、体部内外面にヨコナデを施し、内面立ち上がり部分には強いユビナデを、底部内面にはユビナデを施している。底部は回転糸切り後、ハラケズリを施している。胎土は細砂粒を含み、色調は鈍い赤褐色を呈

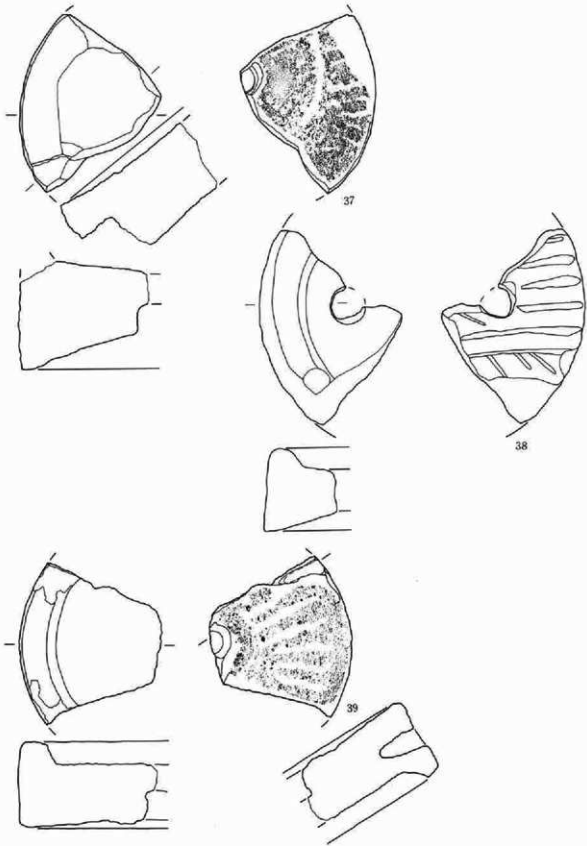
する。18～20は播り鉢である。18は堅く焼き締まったもので、口縁部のみ的小片である。復元口径は20.4cm、残存高は4.8cmである。体部は丸みをもって立ち上がり、口唇部は玉縁状に仕上げられている。胎土は粗砂粒、長石粒を含み、色調は鈍い褐色を呈する。19・20は酸化炎で焼成され、ややもろい。底部には回転糸切り痕が見られる。胎土は19は粗砂粒、小石を多く含み、20は細砂粒を含む。21は陶器の鉢で、口縁部のみ的小片である。復元口径は26.0cm、残存高は2.1cmである。22は陶器の皿で、約2/3が残存し、口径10.8cm、底径6.0cm、器高は2.5cmであ



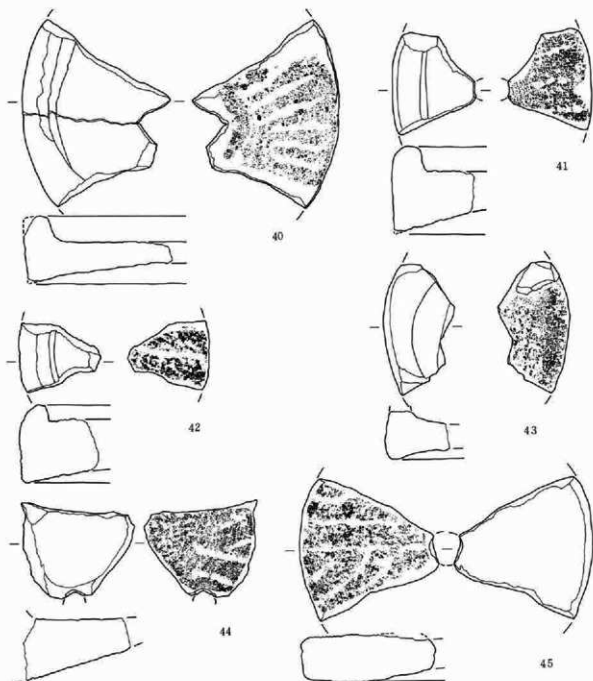
第46図 白井二位屋遺跡 1号池出土遺物 (1/4) (5)



第47図 白井二位屋遺跡 1号池出土遺物 (1/4) (6)



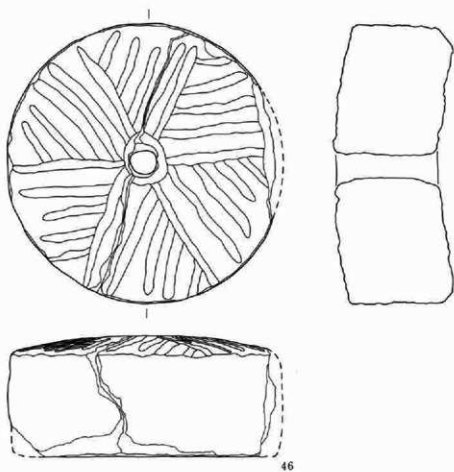
第48圖 白井二位屋遺跡 1号池出土遺物 (1/4) (7)



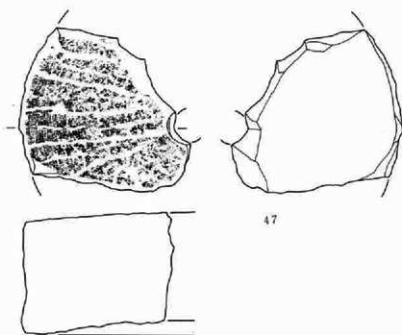
第49図 白井二位塚遺跡 1号池出土遺物 (1/4) (8)

る。体部と口縁部の境に弱い稜をもち、体部には回転ヘラケズリを施している。高台は削り出し高台で、軸は全体にかけられ、底部内面のみ拭き取られている。胎土は細砂粒を僅かに含み、色調は素地が灰白色、軸が浅黄色である。23は陶器の碗で、底部から体部の一部のみ残存しており、底径は4.8cm、残存高は3.9cmである。底部は回転ヘラケズリによる削

り出し高台で、体部下半には回転ヘラケズリを施している。胎土は細砂粒を含み、色調は素地が灰白色、軸が鈍い赤褐色である。24は磁器の皿で、口縁部から体部の一部のみ約1/5が残存している。口縁部は花卉状に波打ち、内外面に草文が描かれている。色調は明緑灰色を呈する。25~30は内耳鍋である。25は約1/6が残存し、耳の部分は欠落している。復元

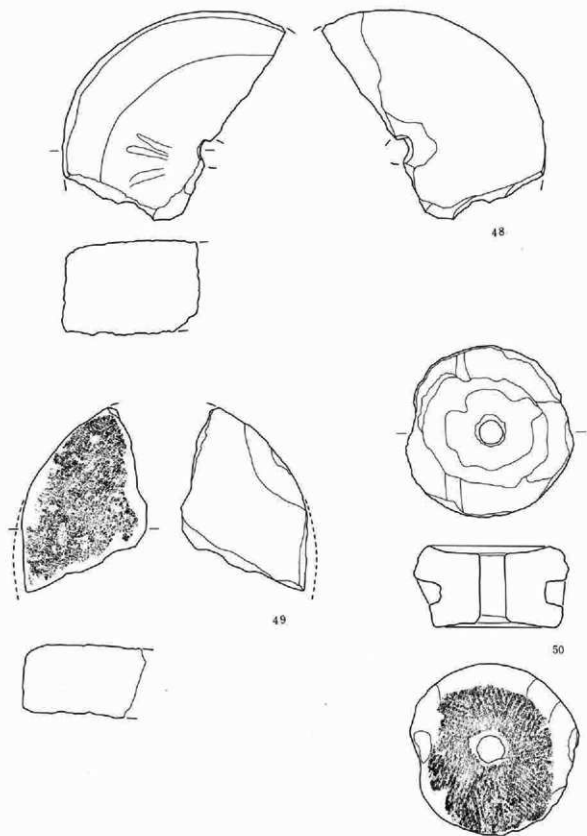


46

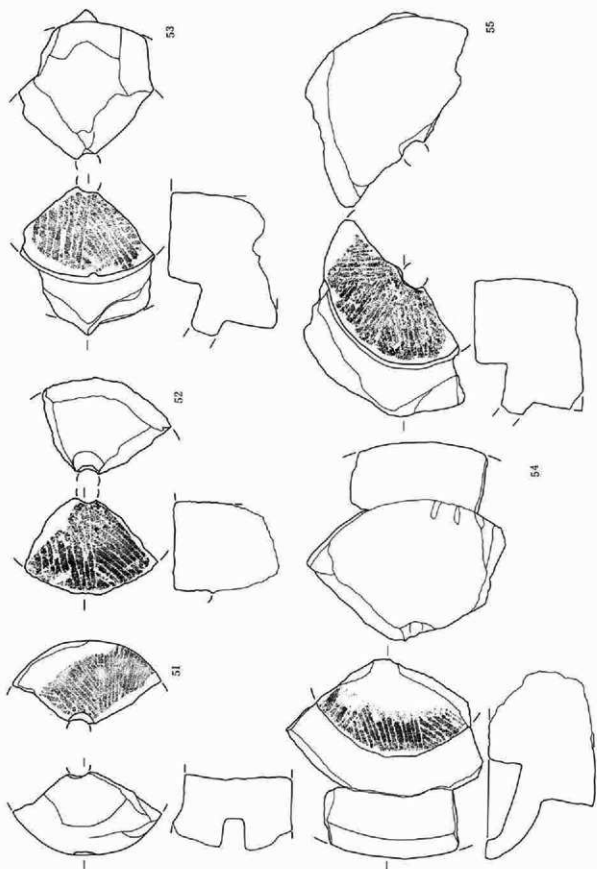


47

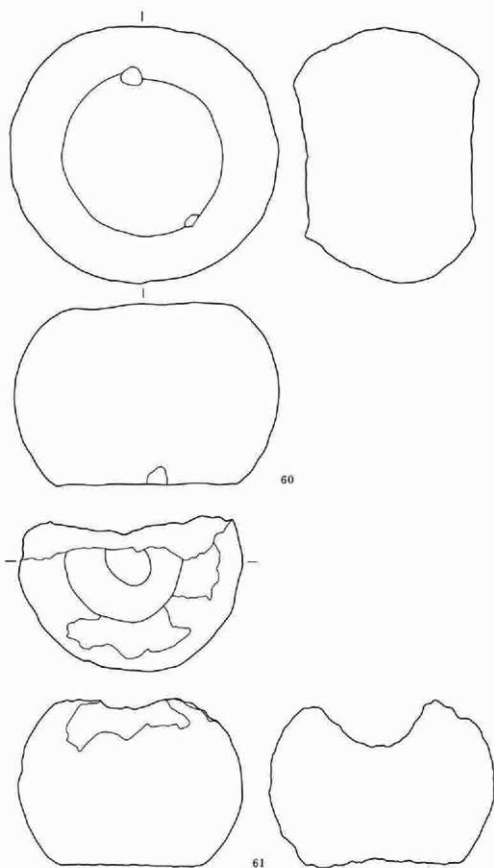
第50図 白井二位屋遺跡 1号池出土遺物 (1/4) (9)



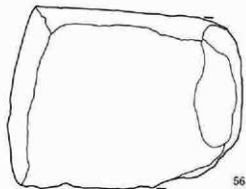
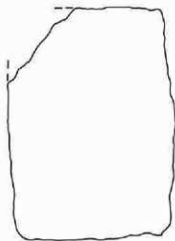
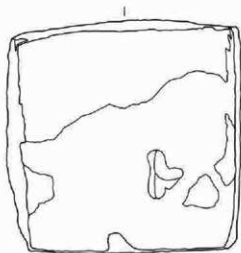
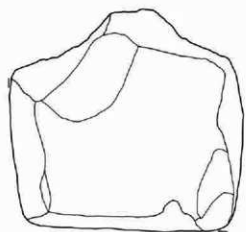
第51図 白井二位屋遺跡 1号池出土遺物 (1/4) (10)



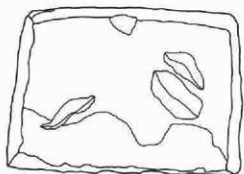
第52図 白井二位屋遺跡 1号池出土遺物 (1/4) (11)



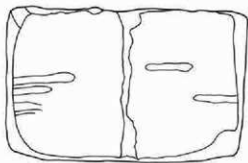
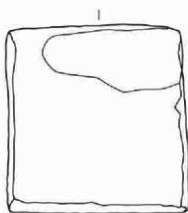
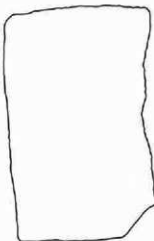
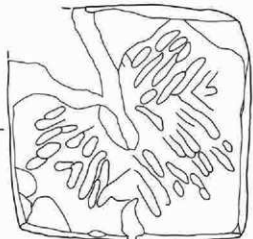
第54図 白井二位屋遺跡 1号池出土遺物 (1/4) (13)



56



57

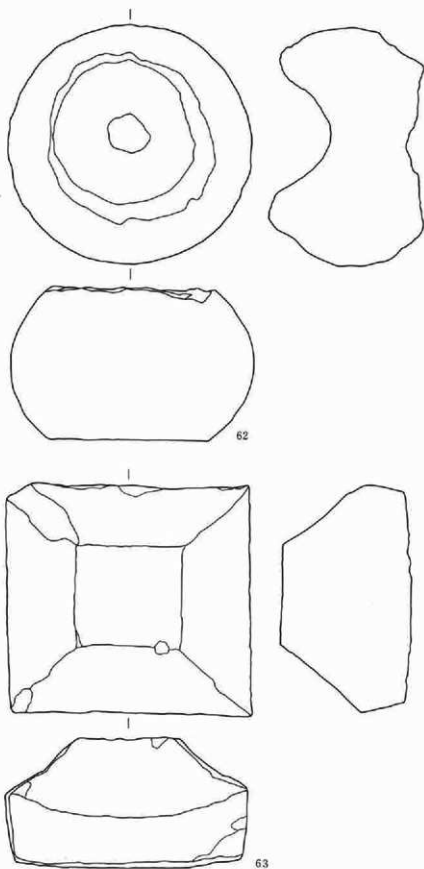


58

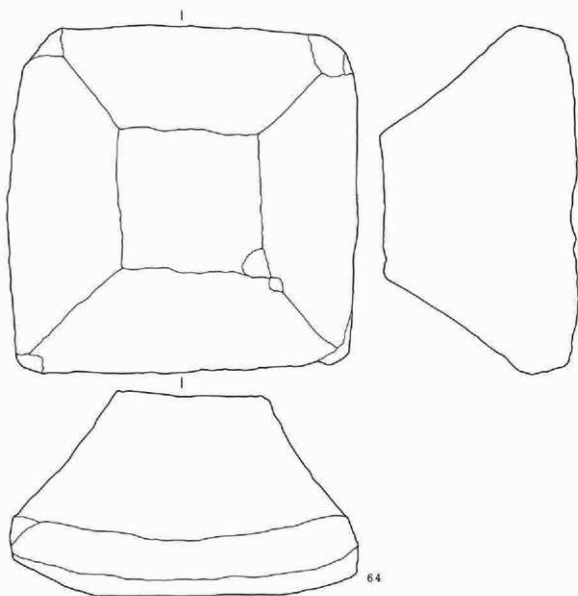


59

第53図 白井二位屋遺跡 1号池出土遺物 (1/4) (12)



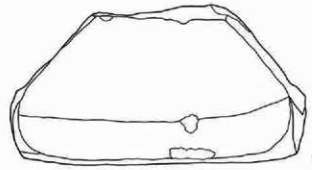
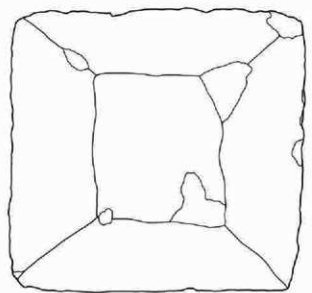
第55図 白井二位屋遺跡 1号池出土遺物 (1/4) (14)



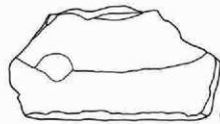
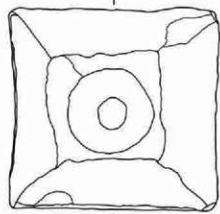
第56図 白井二位屋遺跡 1号池出土遺物 (1/4) (15)

口径は31.0cm、器高は15.5cmである。成形はマキアゲ成形で、口縁部及び体部内面にはヨコナデを施している。体部外面はヘラケズリによる整形を行った後、ヘラナデにより器面を整えている。胎土はやや粗砂粒を含み、燻されているため、色調は黒褐色を呈する。26は約1/6が残存し、耳の部分は欠落している。復元口径は34.0cm、底径は20.0cm、器高は14.5cmで、成形・整形技法は、25と同様である。27は約1/6が残存し、耳の部分は欠落している。復元口径は34.0cm、底径20.0cm、器高は14.5cmである。成形・整形技法は、25と同様である。28は約1/5が

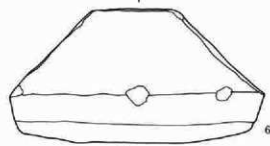
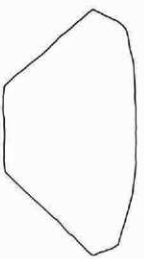
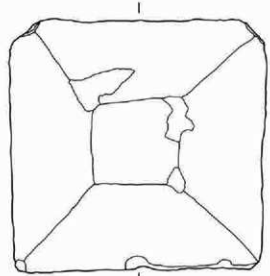
残存し、耳の部分は欠落している。口縁部に円形の穿孔が見られる。復元口径は26.0cm、残存高は10.7cmである。成形・整形技法は25と同様である。29は口径31.0cm、底径22.0cmである。マキアゲによる成形後、口縁部及び体部内面にヨコナデを施し、体部外面は、回転ヘラケズリ後、ヨコナデを施している。胎土は細砂粒を含み、燻されておらず、色調は鈍い褐色を呈する。30は浅い器形で、復元口径は37.8cm、底径31.6cm、器高は8.5cmである。マキアゲによる成形後、口縁部から体部内面にかけてヨコナデを施し、体部外面にはヘラナデ、外面立ち上がり部分と



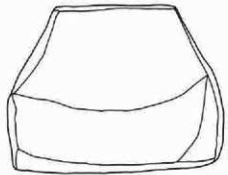
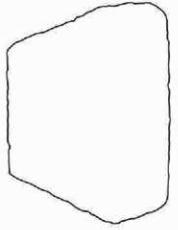
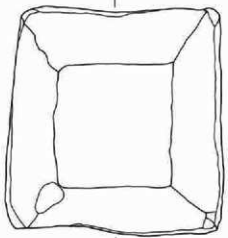
65



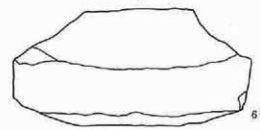
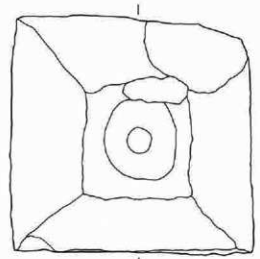
68



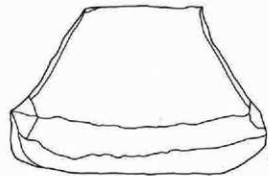
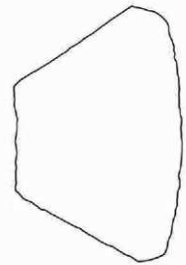
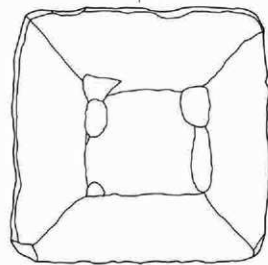
66



69

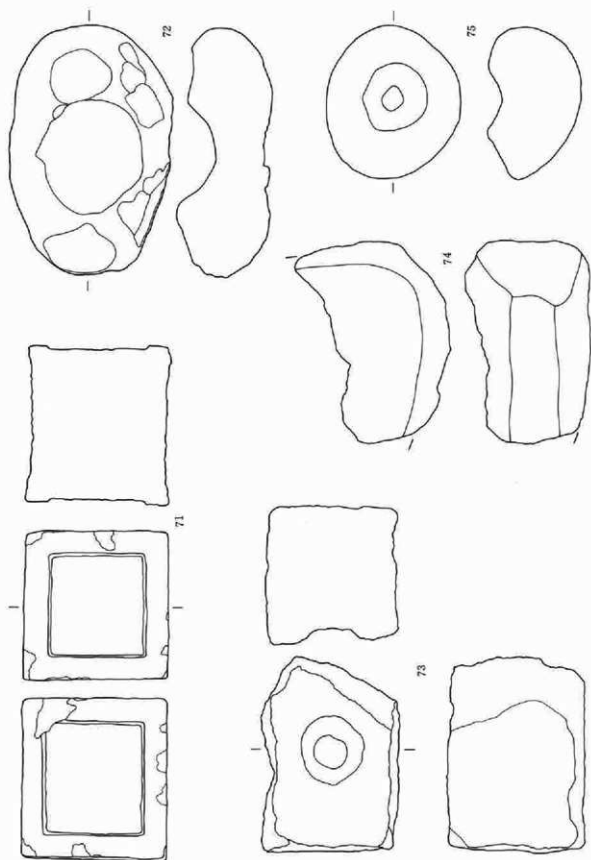


67

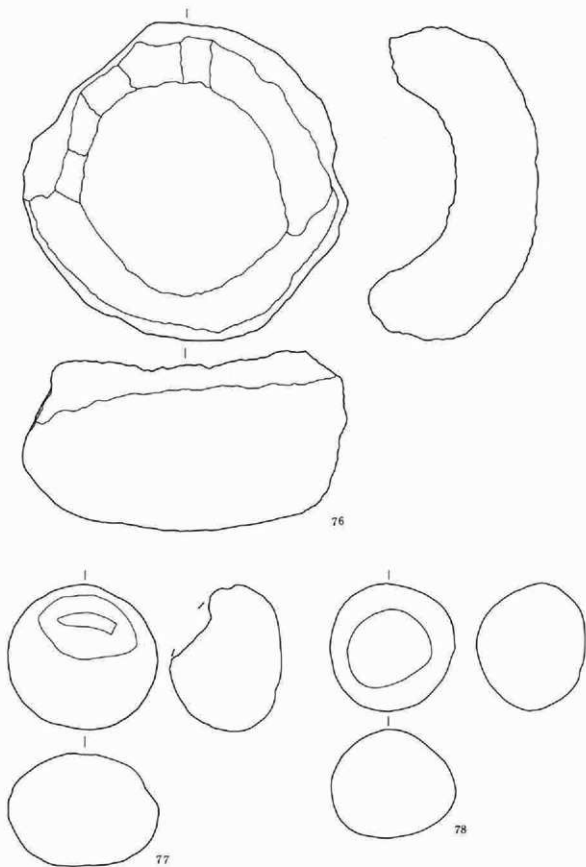


70

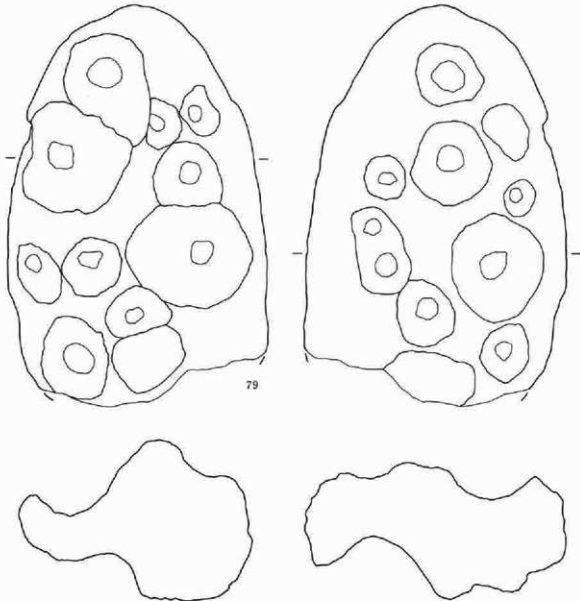
第57圖 白井二位屋遺跡 1号池出土遺物 (1/4) (16)



第58図 白井二位屋遺跡 1号池出土遺物 (1/4) (17)



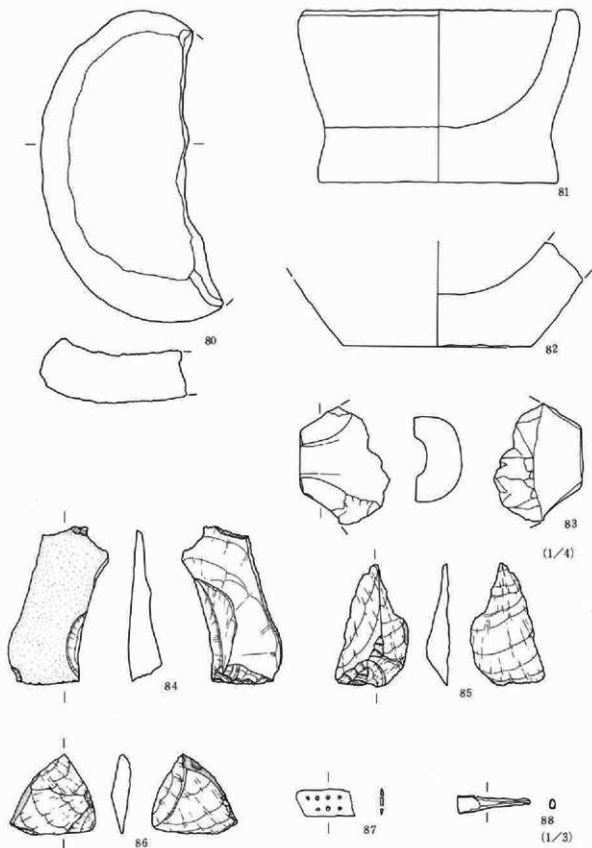
第59図 白井二位塚遺跡 1号池出土遺物 (1/4) (18)



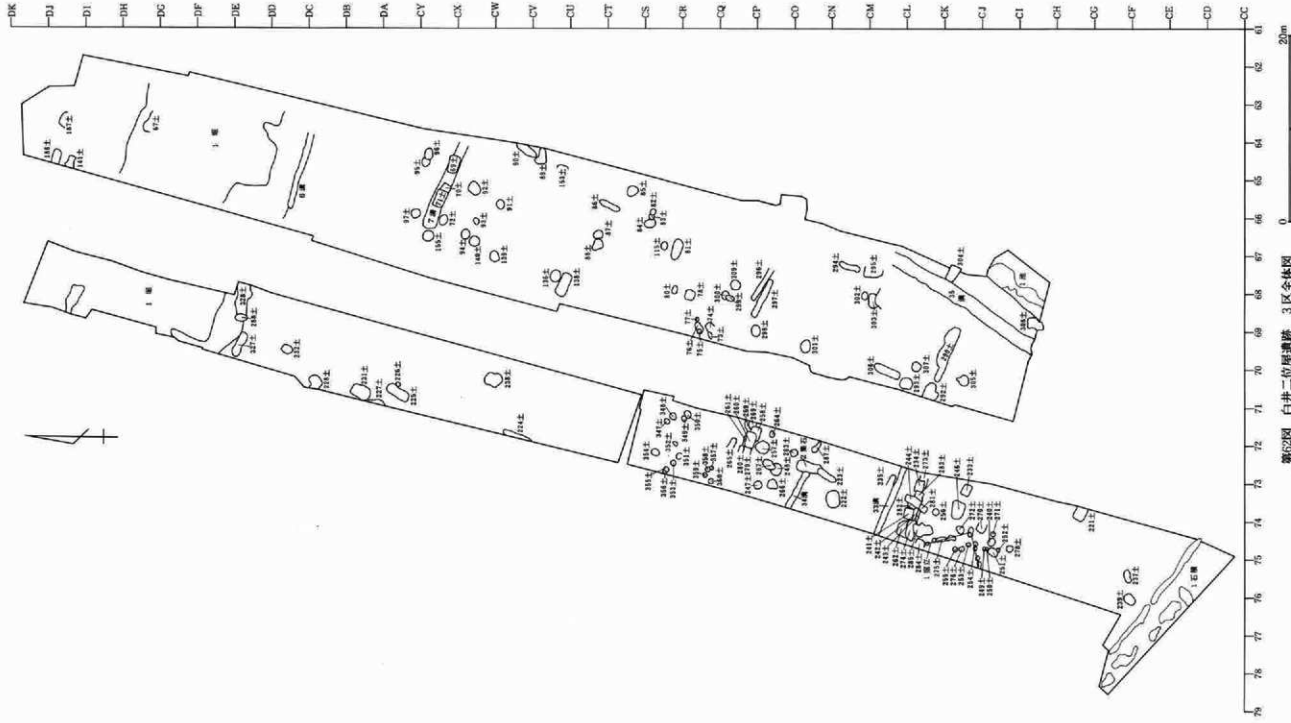
第60図 白井二位屋遺跡 1号池出土遺物(1/4) (19)

底部外周に回転ヘラケズリが施されている。胎土は細砂粒を含み、燻されているため、色調は黒色を呈する。31は摺り鉢で、口縁部から体部の一部のみが残存している。口径は37.6cm、残存高は8.6cmである。マキアゲによる成形後、口唇部を玉縁状に仕上げ、内外面にヨコナデを施している。還元炎焼成で焼かれており、摺り目は一本びきである。32は鉢の小片で、復元口径34.0cm、底径33.4cm、器高は3.7cmである。成形後、口縁部及び体部内面にヨコナデを施し、立ち上がり外面と底部の外周にヘラケズリを

施している。胎土は粗砂粒、赤色粒子、白色粒子を含み、色調は内面が鈍い褐色、外面は燻されており、黒褐色を呈する。33~55は石臼である。石臼は粉挽き白と茶白に分けられ、ほとんどが細かく破損されている。33~49は粉挽き白で、33~43が上臼、44~49が下臼である。上臼は目が消失するほど擦り減っているものが多く、使用者による再目立ても見られる。また、挽き手穴の確認できる例(35・37・39)と供給口が確認できる例(34・36・38)があるが、両者の位置関係が分かるものは無い。下臼も摺



第61図 白井二位屋遺跡 1号池出土遺物 (20)



柳河图 白井二龙潭水库 3区总体图

り減り方が激しく、使用者による再目立てが確認できる。特に47は目が放射状に刻印されており、使用に耐えるものであったかどうか疑問である。唯一全体像が確認できる46では、目は6分割のものであったことが分かる。48・49は目がほとんど確認できないほど使い込まれている。50～55は茶白で、50～52が上白、53～55が下白である。上白は完形に近い50によると、中心に芯穴と供給口を兼ねた穴が穿たれ、中心軸を通る両端の2個所に挽き手穴が穿たれている。挽き手穴の周辺には、装飾が施されていたと考えられるが、確認できる例は皆無であった。下白は破損が激しく全体像が把握しにくい。上白と共に再目立ての跡が確認できる。石材は全て粗粒安山岩である。56～70は五輪塔の一部で、56～59が地輪、60～62が水輪、63～70が火輪であると考えられる。地輪は全て角閃石安山岩製で、表面に鑿による加工痕が認められる例(58)もある。全体像が分かる57～59では、57が $25\text{cm} \times 25\text{cm} \times 18\text{cm}$ 、58が $25\text{cm} \times 25\text{cm} \times 16\text{cm}$ 、59が $20\text{cm} \times 20\text{cm} \times 13\text{cm}$ である。水輪も全て角閃石安山岩製で、上面が平坦なもの(60)、窪みが見られるもの(61・62)がある。火輪も全て角閃石安山岩製で、幾つかのバリエーションが見られる。共通点としては、軒の上幅に対する下幅の長さ

第3節 白井二位屋遺跡3区遺構群

白井二位屋遺跡の北端、白井南中道遺跡との境に位置する区である。この区の北端に存在する1号堀は、北へ向かって屈折して、白井南中道遺跡の発掘区域に入り、再び屈折して西に向かう。また、1号堀に沿って、近世から近代にかけての遺構と考えられる、牛を埋葬した土坑が数基存在することも、特徴的である。

67号土坑

DG-63グリッドに存在する土坑である。1号堀の北壁に沿うような形で掘られており、堀を埋める際と一緒に破壊されたものと考えられる。長軸は215cm、深さは検出面より28cmである。牛の右前足の肩甲骨、上腕骨、橈尺骨の他、骨片が多数出土してい

の比はほぼ1:1で、軒の反りも緩やかである事が上げられるが、幅に対して高さが低く、頂部に穿孔が見られるもの(69・70)、幅に対して高さが高いもの(66・68)などがある。71は粗粒安山岩製の一辺16cmの立方体で、四方に方形の掘り込みが見られる。何らかの台座として使用されていたものと考えられる。72～75は楕円形又は方形の石の頂部に円形の窪みをもつもので、全て角閃石安山岩製である。蔵骨器の可能性もある。76は粗粒安山岩製の鉢状の石製品である。77・78は粗粒安山岩製の球形の石製品である。加工されたものであるかどうか不明である。79は楕円形の角閃石安山岩の表面を、他の丸い石を使って擦りながら、多数の窪みをつくっている。80は楕円形の粗粒安山岩製の石製品で、上面に擦った跡が見られる。81・82は石製の臼あるいは鉢と考えられ、いずれも粗粒安山岩製である。83は片口状の石製品の注ぎ口部分と考えられ、粗粒安山岩製である。84は黒色頁岩製の二次加工のある剥片で、下端部に背面側から調整加工が施されている。85は黒色安山岩製の縦長剥片である。86は黒色頁岩製の横長剥片で左半部が欠損する。87は板状の鉄製品で、等間隔に2列小孔が穿たれている。88は煙管の吸い口である。

る。327・328号土坑と同様に牛の埋葬土坑であると考えられる。他の部位の骨は、堀の中へ転落したものであると思われるが、堀の埋土からは、大量の骨は確認されていない。

69号土坑

CX-64グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は182cm、短軸は109cm、深さは90cmである。7号溝を切り、北半は耕作により破壊されている。土師器、須恵器のほか、近世の陶磁器片が僅かに出土している。

70号土坑

CX-65グリッドに存在する長方形の土坑である。71号土坑に切られる。長軸は残存部分で92cm、短軸

第3章 検出された遺構と遺物

は82cm、深さは92cmである。遺物の出土は見られない。

71号土坑

CX-65グリッドに存在する長方形の土坑である。70号土坑を切る。長軸は186cm、短軸は114cm、深さは98cmである。遺物の出土は見られない。

72号土坑

CX-65・66グリッドに存在する円形の土坑である。径は110cm、深さは25cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

73号土坑

CQ-69グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。74号土坑を切る。長軸は75cm、短軸は35cm、深さは44cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

74号土坑

CQ-68グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。73号土坑に切られる。長軸は100cm、短軸は88cm、深さは39cmである。遺物の出土は見られない。

75号土坑

CQ-69グリッドに存在する楕円形の土坑である。76号土坑を切る。長軸は53cm、短軸は42cm、深さは45cmである。遺物の出土は見られない。

76号土坑

CQ-68グリッドに存在する楕円形の土坑である。75号土坑に切られる。長軸は127cm、短軸は60cm、深さは25cmである。遺物の出土は見られない。

77号土坑

CQ-68グリッドに存在する円形の土坑である。径は40cm、深さは15cmである。遺物の出土は見られない。

78号土坑

Q-67・68グリッドに存在する円形の土坑である。径は110cm、深さは45cmである。多数の土師器と、須恵器の小片が出土している。

80号土坑

CR-67・68グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は90cm、短軸は45cm、深さは55cmである。遺物

の出土は見られない。

81号土坑

CR-66・67グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は210cm、短軸は106cm、深さは60cmである。土師器、陶磁器片が僅かに出土している。

82号土坑

CR-65グリッドに存在する円形の土坑である。径は67cm、深さは55cmである。遺物の出土は見られない。

83号土坑

CR-65・66グリッドに存在する円形の土坑である。径は53cm、深さは45cmである。遺物の出土は見られない。

84号土坑

CR-66・67グリッドに存在する円形の土坑である。径は130cm、深さは85cmである。土師器の小片が僅かに出土している。

85号土坑

CS-65グリッドに存在する崩れた円形の土坑である。径は120cm、深さは59cmである。土師器の小片が僅かに出土している。

86号土坑

CS・CT-65グリッドに存在する長い楕円形土坑である。長軸は230cm、短軸は53cm、深さは60cmである。遺物の出土は見られない。

87号土坑

CT-66グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は106cm、短軸は70cm、深さは46cmである。遺物の出土は見られない。

88号土坑

CT-66グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は108cm、短軸は80cm、深さは52cmである。遺物の出土は見られない。

89号土坑

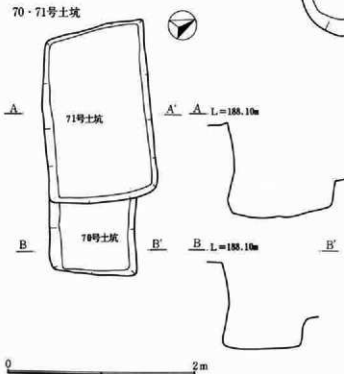
CU-64グリッドに存在する土坑である。長軸は167cm、短軸は84cm、深さは72cmである。遺物の出土は見られない。

90号土坑

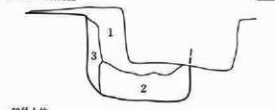
第3節 白井二位屋遺跡3区遺構群



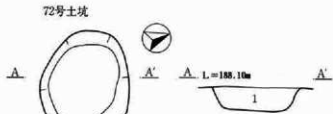
- 67号土坑
- 1 暗褐色土 3~4mmのF P粒を多量に含む
 - 2 暗褐色土 1よりやや黒みが強い
 - 3 褐色土 F P粒を若干含む



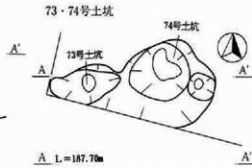
0 2m



- 69号土坑
- 1 暗褐色土 3~8mmのF P粒5%、FA小ブロック2%
 - 2 黒褐色土 3~5mmのF P粒2%、FA小ブロック2%
 - 3 暗褐色土 3~8mmのF P粒2%、FAブロックを含む



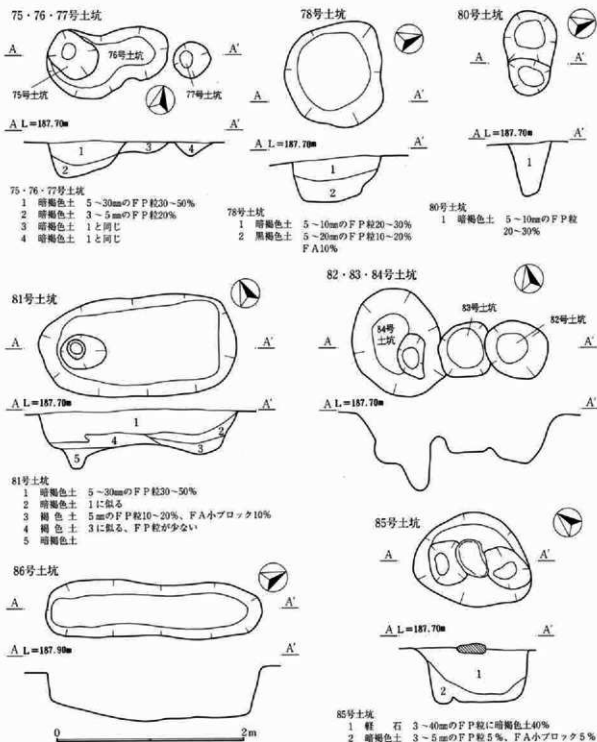
- 72号土坑
- 1 黒褐色土 5~20・30mmのF P粒30~90%



- 73・74号土坑
- 1 暗褐色土 5~30mmのF P粒30~50%
 - 2 暗褐色土 5~10mmのF P粒30%
 - 3 暗褐色土 5~10mmのF P粒20~30%
 - 4 軽石 F P粒の崩落、暗褐色土20%

第63図 白井二位屋遺跡 67・69~74号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



第64図 白井二位屋遺跡 75~78・80~86号土坑

CV-64グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は235cm、短軸は88cm、深さは45cmである。遺物の出土は見られない。

91号土坑

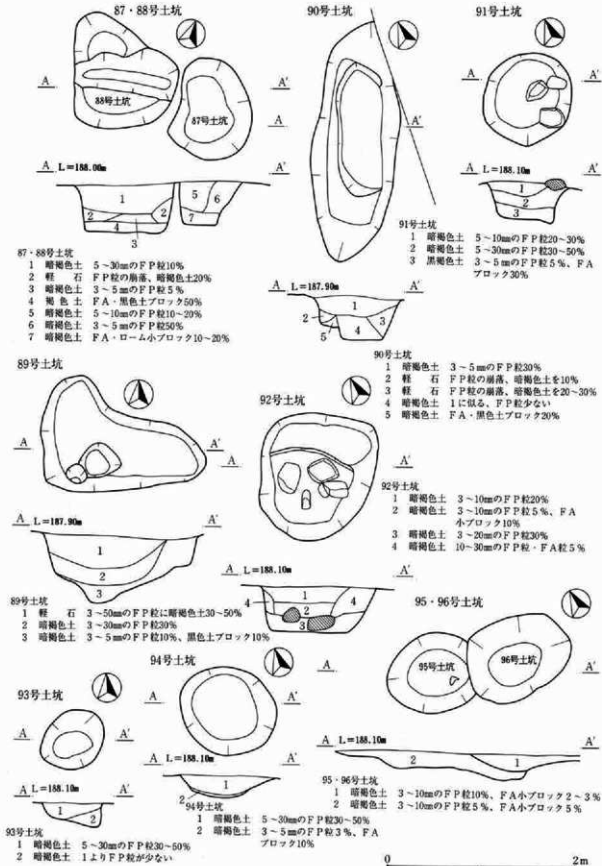
CV-65グリッドに存在する円形の土坑である。径

は95cm、深さは40cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

92号土坑

CV-65グリッドに存在する崩れた円形の土坑である。長軸は135cm、短軸は123cm、深さは47cmである。

第3節 白井二位屋遺跡3区遺構群



第65図 白井二位屋遺跡 87~96号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

土師器、須恵器の小片が出土している。

93号土坑

CW-66グリッドに存在する円形の土坑である。径は64cm、深さは25cmである。遺物の出土は見られない。

94号土坑

CW-66グリッドに存在する円形の土坑である。径は103cm、深さは23cmである。遺物の出土は見られない。

95号土坑

CX-64グリッドに存在する円形の土坑である。96号土坑に切られる。径は86cm、深さは16cmである。土師器の小片が僅かに出土している。

96号土坑

CX-64グリッドに存在する円形の土坑である。95号土坑を切る。径は110cm、深さは28cmである。遺物の出土は見られない。

97号土坑

CY-65グリッドに存在する円形の土坑である。径は100cm、深さは26cmである。土坑の底部には20～40cm大の円礫が見られた。土師器、須恵器の小片が数多く出土している。

115号土坑

CR-66グリッドに存在する円形の土坑である。径は81cm、深さは75cmである。陶磁器片が僅かに出土している。

136号土坑

CU-67グリッドに存在する円形の土坑である。径は120cm、深さは55cmである。遺物の出土は見られない。

138号土坑

CU-67グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は260cm、短軸は113cm、深さは33cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

139号土坑

CW-66・67グリッドに存在する円形の土坑である。径は110cm、深さは33cmである。遺物の出土は見られない。

140号土坑

CW-66グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は130cm、短軸は117cm、深さは32cmである。土師器、須恵器、陶磁器の小片が出土している。

141号土坑

DI-64グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は検出部分で120cm、短軸は65cm、深さは42cmである。土師器、陶磁器等が出土している。

153号土坑

CU-64グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は120cm、短軸は残存部分で40cm、深さは78cmである。遺物の出土は見られない。

155号土坑

CX-66・67グリッドに存在する円形の土坑である。径は128cm、深さは37cmである。土坑の底から鳥骨がまとまって検出された。現在の鶏よりも小型であることから、鳥の種類は雉子であると考えられ、少なくとも2羽以上の骨が見られる。頭骨及び嘴は見られない。出土状況から見て、骨を完全にばらした状態でまとめて捨てられていることから、食事の後のごみをまとめてこの土坑に入れたものと思われる。時期を決定する遺物は出土していないが、中世から近世にかけての遺構であると考えられる。

186号土坑

DI-64グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は検出部分で197cm、短軸は74cm、深さは119cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。図は鉄製の猿轡ぎである。一本の細い鉄板を折り曲げて作り出している。

187号土坑

DI-63グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は154cm、短軸は検出部分で60cm、深さは54cmである。5号住居の検出中に確認されたが、住居との前後関係は不明であった。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

221号土坑

CG-73グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は検出部分で139cm、短軸は117cm、深さは60cm

第3節 白井二位屋遺跡3区遺構群

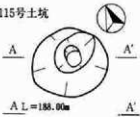
97号土坑



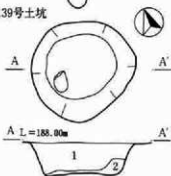
97号土坑

1 黒褐色土 3~15mmのF P粒30%

115号土坑



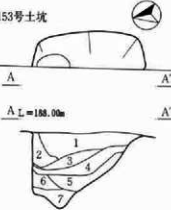
139号土坑



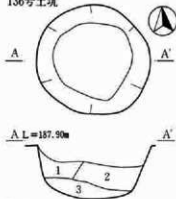
139号土坑

1 暗褐色土 3~10mmのF P粒20%、20~30mmの円礫2~3%
2 褐色土 F A主体、暗褐色土20%

153号土坑



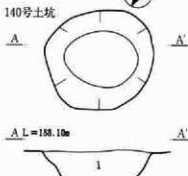
136号土坑



136号土坑

1 暗褐色土 5~10mmのF P粒5~10%
2 暗褐色土 3~7mmのF P粒20%
3 暗褐色土 3~7mmのF P粒5~10%

140号土坑



140号土坑

1 暗褐色土 5~30mmのF P粒30~50%

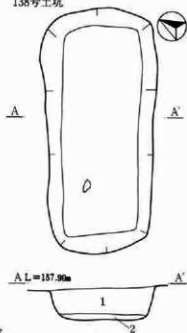
141号土坑

1 褐色土 褐色土50%
2 褐色土 褐色土10%、2~10mmのF P粒2%
3 暗褐色土 2~10mmのF P粒10%
4 暗褐色土 2~10mmのF P粒15%
5 褐色土 2~10mmのF P粒20%

153号土坑

1 暗褐色土 5~30mmのF P粒20%
2 暗褐色土 5~30mmのF P粒50%
3 暗褐色土 5~30mmのF P粒20~30%
4 軽石 F P粒の崩落
5 黒褐色土 3~20mmのF P粒10%、F A小ブロック10%、黒土ブロック10%
6 灰褐色土 3~20mmのF P粒5%、F A小ブロック20%、黒土ブロック10%
7 灰褐色土 3~7mmのF P粒3%、F A小ブロック20%、黒土ブロック20%

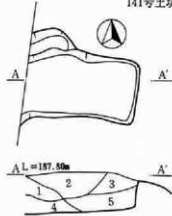
138号土坑



138号土坑

1 軽石 F P粒の流れ込み、暗褐色土20%
2 褐色土 F A30%

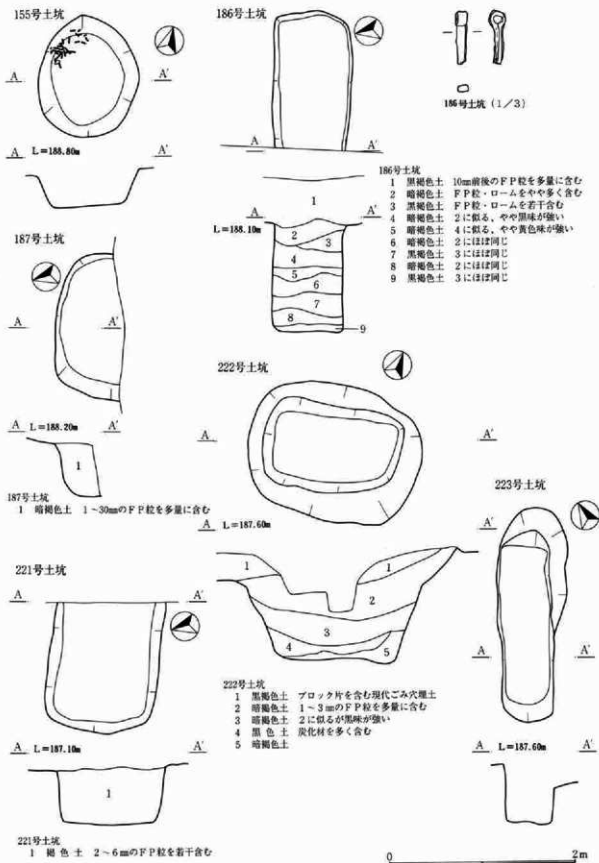
141号土坑



0 2m

第66図 白井二位屋遺跡 97・115・136・138~141・153号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



第67図 白井二位屋遺跡 155・186・187・221~223号土坑、186号土坑出土遺物

である。土師器、須恵器の小片が出土している。

222号土坑

CM・CN-73グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は183cm、短軸は145cm、深さは115cmである。底部から中位までは直立気味に壁が立ち上がり、中位より上は広がり気味に立ち上がる。土師器の小片が僅かに出土している。

223号土坑

CN-72グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は227cm、短軸は55cm、深さは58cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

224号土坑

CV-71グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は328cm、短軸は48cm、深さは65cmである。遺物の出土は見られない。

225号土坑

CY-70グリッドに存在する長方形の土坑である。長軸は255cm、短軸は95cm、深さは80cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

226号土坑

CY-70グリッドに存在する円形の土坑である。径は45cm、深さは55cmである。遺物の出土は見られない。

227号土坑

DA-70グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は190cm、短軸は検出部分で44cm、深さは54cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

228号土坑

DB-90グリッドに存在する土坑である。長軸は145cm、短軸は107cm、深さは60cmである。土師器、須恵器の小片が多数出土している。1は土師器の杯である。復元口径11.0cm、底径8.0cm、器高3.7cmである。平底の底部から、やや影らみを持ちながら立ち上がり、口縁に至る。底部と体部の境に回転ヘラケズリを施す。体部から内外面に至るまで丁寧な磨きを施し、内面に黒色処理を施している。胎土は細砂粒を含み、色調は外面が鈍い橙色、内面が黒色を呈する。2は須恵器の杯である。復元口径15.4cm、残存高は4.8cm

である。ロクロ整形で、内外面丁寧なヨコナアを施している。胎土は細砂粒、黒色粒子を含み、色調は内外面が灰色、断面が灰赤色を呈する。

231号土坑

DA-70グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は214cm、短軸は145cm、深さは56cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。埋土に焼土、炭化物を含む。

232号土坑

DC-69グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は117cm、短軸は88cm、深さは53cmである。遺物の出土は見られない。

233号土坑

CJ-73グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は120cm、短軸は97cm、深さは37cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

234号土坑

CK-73グリッドに存在する方形の土坑である。273号土坑を切る。長軸は126cm、短軸は97cm、深さは30cmである。遺物の出土は見られない。

273号土坑

CK-72・73グリッドに存在する方形の土坑である。234号土坑に切られる。長軸は105cm、短軸は89cm、深さは14cmである。遺物の出土は見られない。

235号土坑

CL-72・73グリッドに存在する長方形の土坑である。46号住居と切り合い関係にあるが、その前後関係は不明である。長軸は検出部分で125cm、短軸は63cm、深さは45cmである。遺物の出土は見られない。

237号土坑

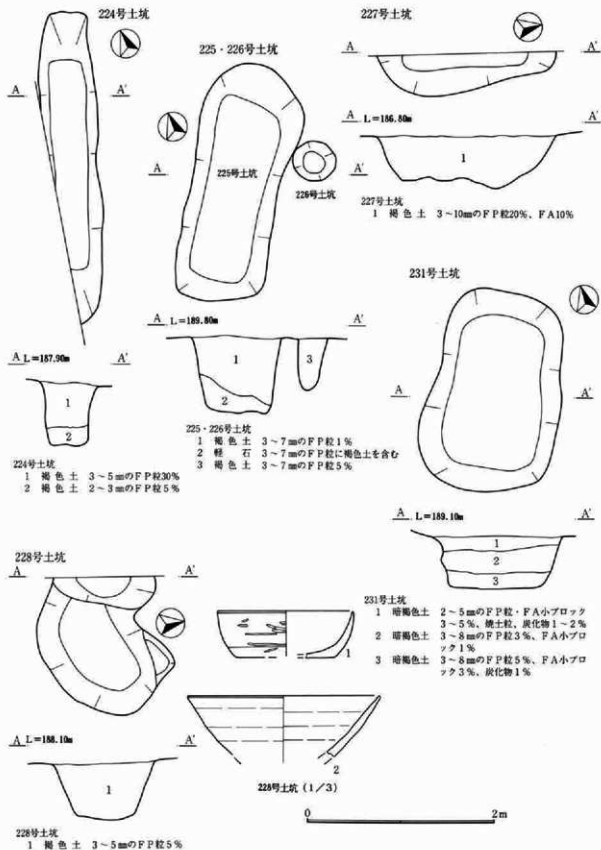
CF-75グリッドに存在する土坑である。長軸は132cm、短軸は70cm、深さは22cmである。鉄片が出土している。

238号土坑

CV・CW-70グリッドに存在する土坑である。長軸は192cm、短軸は178cm、深さは37cmである。遺物の出土は見られない。

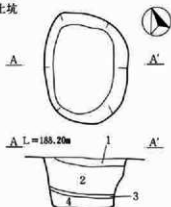
239号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



第68図 白井二位屋遺跡 224~228・231号土坑、228号土坑出土遺物

232号土坑



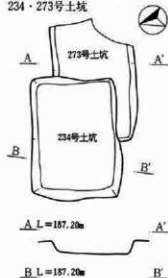
232号土坑

- 1 褐色土 3~5mmのF P粒1%
 2 軽石 2~7mmのF P粒中心、褐色土15%
 3 黒色土 3~5mmのF P粒5%
 4 軽石 2とほぼ同じ

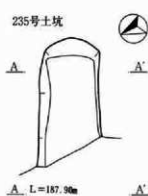
233号土坑



234・273号土坑



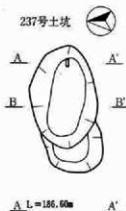
235号土坑



235号土坑

- 1 黒褐色土 4.5~10mmのF P粒をやや多く含む

237号土坑



237号土坑

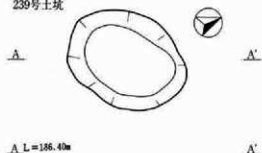


238号土坑



CF-75・76グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は80cm、短軸は49cm、深さは47cmである。遺物の出土は見られない。

239号土坑



240号土坑

CI-74グリッドに存在する円形の土坑である。径は75cm、深さは33cmである。須恵器の小片が1片のみ出土している。

241号土坑

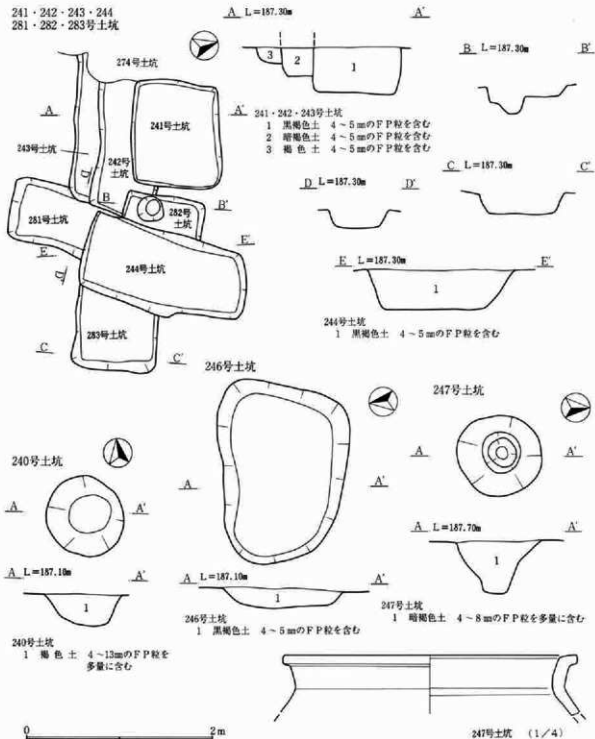
CK-73グリッドに存在する方形の土坑である。242号土坑を切る。長軸は112cm、短軸は95cm、深さは50cmである。遺物の出土は見られない。

242号土坑

第69図 白井二位屋遺跡 232~235・237~239・273号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

241・242・243・244
281・282・283号土坑



第70図 白井二位塚遺跡 240~244・246・247・281~283号土坑、247号土坑出土遺物

CK-73グリッドに存在する長方形の土坑である。281号土坑を切り、282号土坑、241号土坑に切られる。長軸は95cm、短軸は残存部分で70cm、深さは30cmである。遺物の出土は見られない。

243号土坑

CK-73グリッドに存在する方形の土坑である。281号土坑を切り、242号土坑に切られる。長軸は152cm、短軸は残存部分で27cm、深さは17cmである。遺物の出土は見られない。

244号土坑

CK-73グリッドに存在する方形の土坑である。281・282・283号土坑を切る。長軸は180cm、短軸は86cm、深さは42cmである。遺物の出土は見られない。

281号土坑

CK-73グリッドに存在する方形の土坑である。242・243・244号土坑に切られる。長軸は残存部分で85cm、短軸は67cm、深さは20cmである。遺物の出土は見られない。

282号土坑

CK-73グリッドに存在する方形の土坑である。244号土坑に切られる。長軸は残存部分で86cm、短軸は38cm、深さは29cmである。遺物の出土は見られない。

283号土坑

CK-73グリッドに存在する方形の土坑である。244号土坑に切られる。長軸は残存部分で90cm、短軸は67cm、深さは23cmである。遺物の出土は見られない。

246号土坑

CJ-73グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は188cm、短軸は127cm、深さは20cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

247号土坑

CO・CP-73グリッドに存在する円形の土坑である。径は92cm、深さは55cmである。柱穴と考えられ、263号土坑と対になる可能性もあるが、掘立の建物にはならない。土師器、須恵器の他に、火鉢と考えられる土器の口縁部が出土している。

248号土坑

CO-72グリッドに存在する円形の土坑である。径は130cm、深さは22cmである。土師器、須恵器の小片が多数出土している。1は釘と考えられる鉄製品である。先端部を欠損しているが、残存部分で長さ7cm、断面は径約5mmの正方形である。2は土師器の蓋である。口縁部から体部の小片で、復元口径は17.2cm、残存高は3.6cmである。底部からはっきりしない稜を経て、口縁部は大きく外反する。成形後、口縁部から内面全体にヨコナデを施し、口縁部の下に5mm程の間隔をあけて体部に手持ちのヘラケズリを施している。胎土は細砂粒を含み、色調は明赤褐

色を呈する。

249号土坑

CI-74グリッドに存在する楕円形の土坑である。250号土坑に切られる。長軸は40cm、短軸は31cm、深さは23cmである。遺物の出土は見られない。

250号土坑

CI-74グリッドに存在する楕円形の土坑である。249号土坑を切る。長軸は37cm、短軸は32cm、深さは23cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

251号土坑

CI-74グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。252号土坑に切られる。長軸は76cm、短軸は51cm、深さは22cmである。遺物の出土は見られない。

252号土坑

CI-74グリッドに存在する円形の土坑である。251号土坑を切る。径は37cm、深さは35cmである。土師器の小片が僅かに出土している。

253号土坑

CJ-74グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は45cm、短軸は35cm、深さは15cmである。遺物の出土は見られない。

254号土坑

CI-74グリッドに存在する円形の土坑である。径は45cm、深さは40cmである。遺物の出土は見られない。

255号土坑

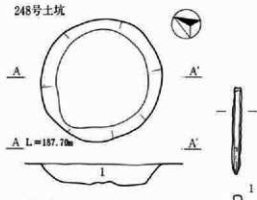
CJ-74グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は55cm、短軸は45cm、深さは10cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

256号土坑

CK-73グリッドに存在する円形の土坑である。径は68cm、深さは22cmである。土師器、須恵器が出土している。器は土師器の杯である。口縁の一部と、体部の破片である。口縁部と体部は、弱い稜で画される。成形後、口縁部から内面全体にかけてヨコナデを施し、外面は口縁部直下から手持ちのヘラケズリを施している。胎土は細砂粒を含み、色調は橙色

第3章 検出された遺構と遺物

248号土坑



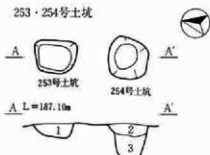
248号土坑

1 暗褐色土 4~8mmのF P粒を多量に含む



248号土坑 (1/3)

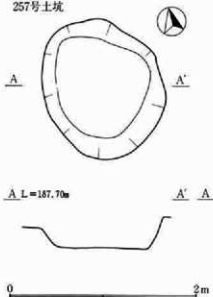
253・254号土坑



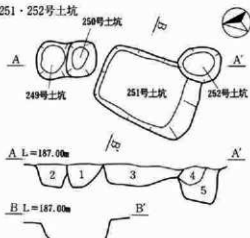
253・254号土坑

- 1 黄褐色土 3~4mmのF P粒をやや多く含む
- 2 黒褐色土 3~10mmのF P粒を多量に含む
- 3 暗褐色土 3~10mmのF P粒を多量に含む

257号土坑



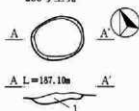
249・250・251・252号土坑



249・250・251・252号土坑

- 1 黒褐色土 4~5mmのF P粒をやや多く含む
- 2 暗褐色土 4~5mmのF P粒をやや多く含む
- 3 黒褐色土 4~5mmのF P粒をやや多く含む
- 4 黒褐色土 3とはほぼ同じ、F Aブロックをやや多く含む
- 5 暗褐色土 F P粒を多量に含む

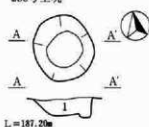
255号土坑



255号土坑

1 黒褐色土 F P粒を含む

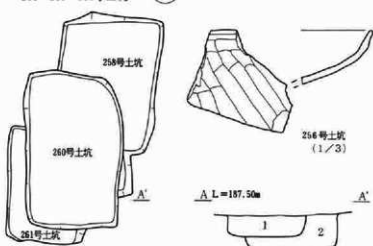
256号土坑



256号土坑

1 暗褐色土 4~20mmのF P粒を含む

258・260・261号土坑

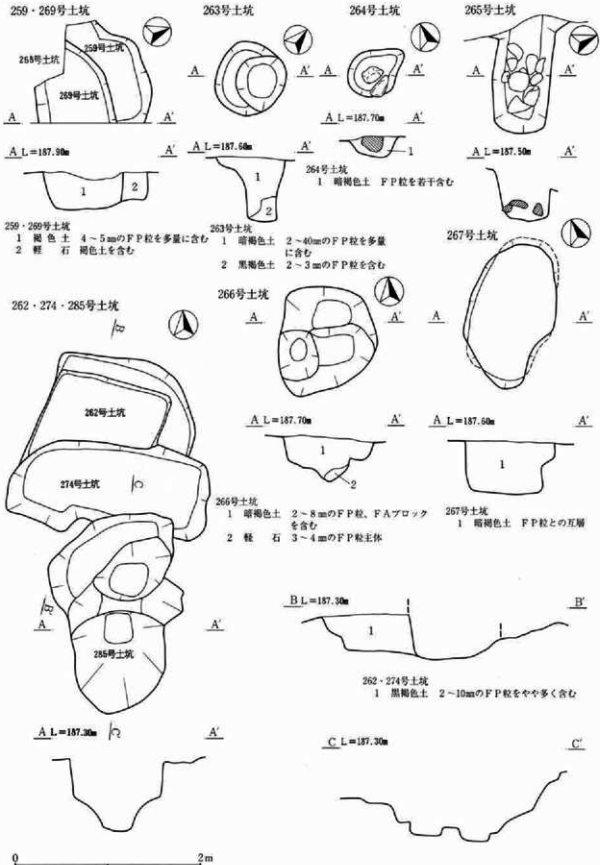


260・261号土坑

- 1 黒褐色土 3~12mmのF P粒を含む
- 2 暗褐色土 4~5mmのF P粒、F A小ブロックを多量に含む

第71図 白井二位屋遺跡 248~258・260・261号土坑、248・256号土坑出土遺物

第3節 白井二位屋遺跡3区遺構群



第72図 白井二位屋遺跡 259・262~267・269・274・285号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

を戻す。

257号土坑

CO-72グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は170cm、短軸は149cm、深さは34cmである。土師器、須恵器の他、播り鉢、こね鉢等近世の陶磁器片も出土している。

258号土坑

CO・CP-71グリッドに存在する方形の土坑である。260号土坑に切られる。長軸は144cm、短軸は107cm、深さは17cmである。土師器、須恵器、陶磁器片が出土している。

260号土坑

CP-71・72グリッドに存在する方形の土坑である。258号土坑を切り、261号土坑に切られる。長軸は167cm、短軸は105cm、深さは37cmである。遺物の出土は見られない。

261号土坑

CP-71・72グリッドに存在する方形の土坑である。260号土坑を切る。長軸は122cm、短軸は83cm、深さは22cmである。遺物の出土は見られない。

259号土坑

CP-71グリッドに存在する土坑である。269号土坑に切られる。長軸は91cm、短軸は残存部分で45cm、深さは29cmである。土師器、須恵器、陶磁器片が出土している。

269号土坑

CP-71グリッドに存在する土坑である。259号土坑を切る。長軸は88cm、短軸は78cm、深さは29cmである。遺物の出土は見られない。

262号土坑

CL-74グリッドに存在する土坑である。274号土坑に切られる。長軸は160cm、短軸は92cm、深さは40cmである。遺物の出土は見られない。

274号土坑

CK-74グリッドに存在する土坑である。262号土坑を切り、285号土坑に切られる。長軸は214cm、短軸は85cm、深さは47cmである。遺物の出土は見られない。

285号土坑

CK-74グリッドに存在する土坑である。長軸は210cm、短軸は120cm、深さは77cmである。遺物の出土は見られない。

263号土坑

CN・CO-72グリッドに存在する円形の土坑である。径は75cm、深さは67cmである。柱穴と考えられ、247号土坑と対になる可能性もあるが、掘立の建物にはならない。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

264号土坑

CO-71グリッドに存在する崩れた円形の土坑である。長軸は65cm、短軸は53cm、深さは22cmである。遺物の出土は見られない。

265号土坑

CP-71・72グリッドに存在する土坑である。46号住居の検出後に確認されたため、住居跡との新旧関係ははっきりしなかった。長軸は検出部分で117cm、短軸は62cm、深さは48cmである。底に20～40cm大の礫が見られる。遺物の出土は見られない。

266号土坑

CO-72・73グリッドに存在する崩れた円形の土坑である。長軸は114cm、短軸は97cm、深さは46cmである。底部は小土坑が複雑に切り合っており、立木痕である可能性もある。遺物の出土は見られない。

267号土坑

CO-72グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は160cm、短軸は94cm、深さは55cmである。壁は垂直か、ややオーバーハング気味に掘られている。土師器、須恵器の小片が出土している。

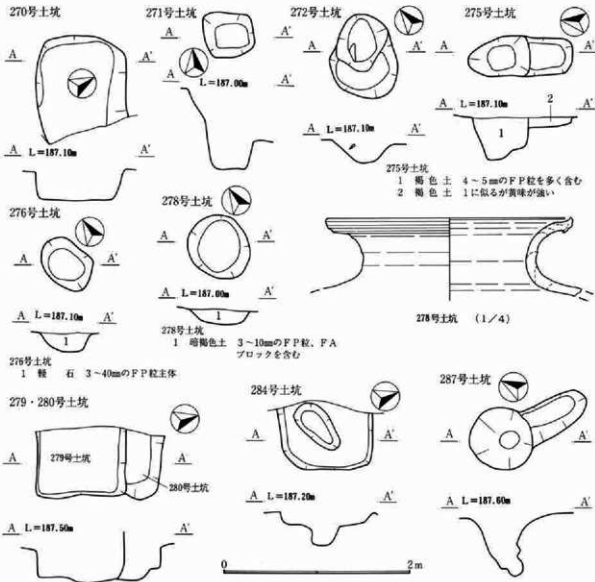
270号土坑

CI・CJ-74グリッドに存在する土坑である。長軸は検出部分で130cm、短軸は82cm、深さは32cmである。遺物の出土は見られない。

271号土坑

CI-74グリッドに存在する方形の土坑である。長軸は52cm、短軸は47cm、深さは80cmである。遺物の出土は見られない。

第3節 白井二位屋遺跡3区遺構群



第73図 白井二位屋遺跡 270~272・275・276・278~280・284・287号土坑、278号土坑出土遺物

272号土坑

CJ-74グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は91cm、短軸は73cm、深さは23cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

275号土坑

CK-74グリッドに存在する土坑である。長軸は109cm、短軸は42cm、深さは11cmである。遺物の出土は見られない。

276号土坑

CJ-74グリッドに存在する崩れた円形の土坑である。径は53cm、深さは20cmである。遺物の出土は見られない。

278号土坑

CJ-74グリッドに存在する円形の土坑である。径は65cm、深さは16cmである。土師器、須恵器が出土している。図は須恵器の甕である。口縁部から頸部にかけての小片であり、復元口径は26.4cm、残存高は8.3cmである。マキアゲにより成形し、ロクロを利用して整形を行っている。肩部内外面に、弱いタタキ目が見られる。口縁部から頸部までヨコナアを施している。胎土は細砂粒を含み、色調は灰色を呈する。

279号土坑

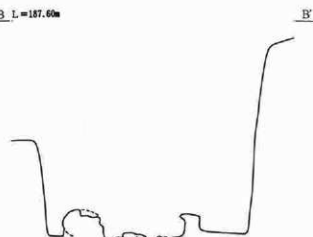
CP-72グリッドに存在する方形の土坑である。280

第3章 検出された遺構と遺物

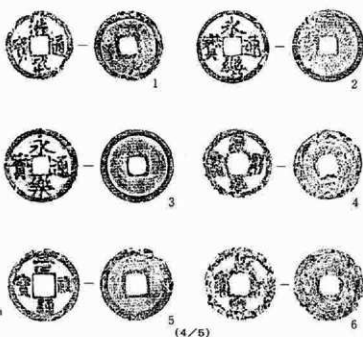
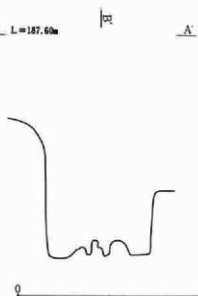
288号土坑



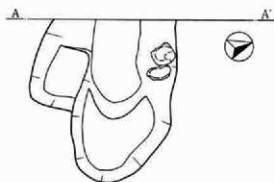
B. L=187.60m



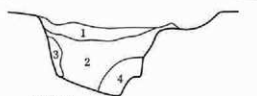
A. L=187.60m



292号土坑



A. L=187.40m



292号土坑

- 1 黒褐色土 F P 粒を含む
- 2 黒褐色土 1に比べややF P 粒の混入が少ない
- 3 黒色土 F A ブロックを含む・壁の崩壊土
- 4 黒褐色土 F P 粒粗粒を少量含む

0 2m

第74図 白井二位屋遺跡 288・292号土坑、288号土坑出土遺物

号土坑を切る。長軸は93cm、短軸は70cm、深さは39cmである。遺物の出土は見られない。

280号土坑

CP-72グリッドに存在する方形の土坑である。279号土坑に切られる。長軸は72cm、短軸は37cm、深さは37cmである。遺物の出土は見られない。

284号土坑

CK-74グリッドに存在する土坑である。長軸は100cm、短軸は67cm、深さは33cmである。遺物の出土は見られない。

287号土坑

CN-72グリッドに存在する土坑である。長軸は132cm、短軸は68cm、深さは63cmである。遺物の出土は見られない。

288号土坑

DD-68グリッドに存在する楕円形の土坑である。328号土坑の下から確認された。長軸は125cm、短軸は68cm、深さは120cmである。腰を抱えるように横たわった人骨が検出されている。検出状況から、屈葬が推定される。人骨と共に銭が6枚出土している。銭以外の副葬品は確認できない。1は洪武通寶である。直径2.3cm、郭は一辺0.65cm、重さは2.87g、初鑄造年は1368年である。2・3は永樂通寶である。2は直径2.45cm、郭は一辺0.65cm、重さは3.17g。3は直径2.50cm、郭は一辺0.60cm、重さは2.12g、初鑄造年は1408年である。4は元豐通寶である。直径2.35cm、郭は一辺0.70cm、重さは2.58g、初鑄造年は1078年である。5は元祐通寶である。直径2.45cm、郭は一辺0.80cm、重さは3.02g、初鑄造年は1086年である。6は皇宋通寶である。直径2.45cm、郭は一辺0.75cm、重さは2.81g、初鑄造年は1039年である。

292号土坑

CK-70グリッドに存在する土坑である。長軸は検出部分で172cm、短軸は129cm、深さは72cmである。土師器、須恵器の他に、僅かであるが陶磁器が出土している。

293号土坑

CL-70グリッドに存在する崩れた円形の土坑であ

る。長軸は132cm、短軸は120cm、深さは58cmである。遺物の出土は見られない。

294号土坑

CM-67グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は230cm、短軸は50cm、深さは14cmである。土師器の小片が僅かに出土している。

295号土坑

CK-69・70グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。68号住居の検出後に確認されたため、住居との新旧関係は確認できなかった。一辺が189cmのほぼ正方形になると予想される。遺物の出土は見られない。

296号土坑

CD-67グリッドに存在する長い方形の土坑である。長軸は検出部分で381cm、短軸は44cm、深さは60cmである。遺物の出土は見られない。

297号土坑

CO-67・68グリッドに存在する長い方形の土坑である。長軸は428cm、短軸は62cm、深さは49cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

298号土坑

CP-68・69グリッドに存在する円形の土坑である。径は110cm、深さは47cmである。遺物の出土は見られない。

299号土坑

CP-68グリッドに存在する楕円形の土坑である。300号土坑を切る。長軸は94cm、短軸は51cm、深さは20cmである。土師器、須恵器の小片が多数出土している。

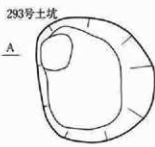
300号土坑

CP-68グリッドに存在する円形の土坑である。299号土坑に切られる。径は97cm、深さは61cmである。遺物の出土は見られない。

301号土坑

CN-69グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は139cm、短軸は107cm、深さは86cmである。壁は下場で一回り大きく広がり、全体的にオーバーハングしている。土師器、須恵器の小片が僅かに出土

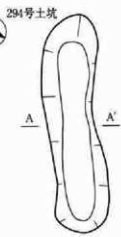
第3章 検出された遺構と遺物



A L = 187.50m



- 293号土坑
1 黄褐色土 F P粒主体
2 黒褐色土 F P粒を多く含む



A L = 186.90m



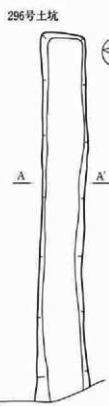
- 294号土坑
1 黒褐色土 5mm大のF P粒を多く含む



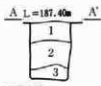
A L = 186.70m



- 295号土坑
1 暗褐色土 F P粒を多く含む



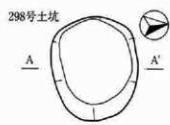
A L = 187.50m



- 296号土坑
1 黒褐色土 As-Bを含む黒色土とFAの混土
2 暗褐色土 黒色土、F P粒を含む
3 黒褐色土 黒色土、FAブロックを含む



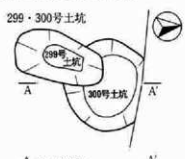
- 297号土坑
1 暗褐色土 FAブロックを多く含み F P粒を含む
2 暗褐色土 1に比べてFAの混入が少ない



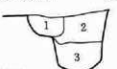
A L = 187.60m



- 298号土坑
1 暗褐色土 As-B、FA小ブロック、F P粒を含む
2 黒褐色土 1に似る、FAは見られない
3 黒褐色土 2cm大のF P粒を多く含む



A L = 187.60m

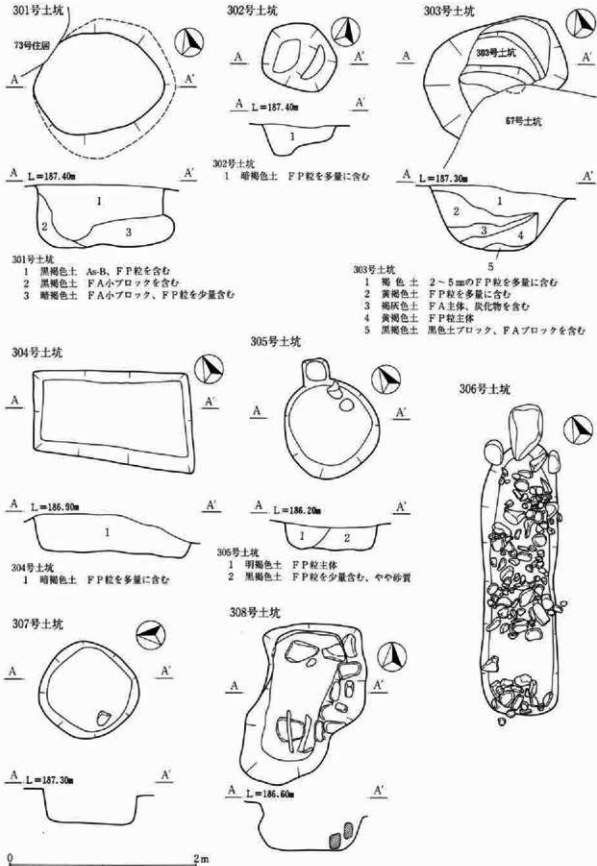


- 299・300号土坑
1 暗褐色土 F P粒を少量含む
2 暗褐色土 F P粒を多量に含む
3 暗褐色土 F P粒の細粒を多量に含む



第75図 白井二位屋遺跡 293~300号土坑

第3節 白井二位屋遺跡3区遺構群



第76図 白井二位屋遺跡 301~308号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

している。

302号土坑

CM-68グリッドに存在する円形の土坑である。径は80cm、深さは33cmである。遺物の出土は見られない。

303号土坑

CL-68グリッドに存在する崩れた円形の土坑である。67号住居の検出後に確認されたため、住居との新旧関係は確認できなかった。長軸は153cm、短軸は90cm、深さは67cmである。遺物の出土は見られない。

304号土坑

CJ-67グリッドに存在する方形の土坑である。長軸は168cm、短軸は96cm、深さは30cmである。遺物の出土は見られない。

305号土坑

CJ-70グリッドに存在する円形の土坑である。径は55cm、深さは25cmである。土師器の小片が僅かに出土している。

306号土坑

CL-69・70グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は285cm、短軸は75cm、深さは40cmである。土坑の底に拳から人頭大の礫が多数見られた。須恵器の小片が僅かに出土している。

307号土坑

CK-69グリッドに存在する円形の土坑である。径は106cm、深さは36cmである。遺物の出土は見られない。

308号土坑

CH-68グリッドに存在する土坑である。長軸は169cm、短軸は110cm、深さは31cmである。底に20～40cm大の礫が多数見られる。大腿骨と思われる骨が出土したが、遺存状態は極めて悪い。埋土中に、土師器、須恵器の小片を含むが、紛れ込みであろう。中世から近世の土壌であると考えられる。

309号土坑

GP-67グリッドに存在する円形の土坑である。径は107cm、深さは29cmである。遺物の出土は見られ

ない。

327号土坑

DD-69グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は267cm、短軸は74cm、深さは53cmである。すぐ東に見られる328号土坑と同様に、完全骨格と思われる、牛の骨が2頭分出土している。土坑は1号堀の南側の掘り方に沿うように存在し、1頭は東、1頭は西に頭を向けて横たわっている。時期を決定するような遺物は出土していないが、堀が機能しなくなつてからの遺構であることは確実のようである。

328号土坑

DD-67・68グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は検出部分で332cm、短軸は123cm、深さは55cmである。327号土坑と同様に2頭分の牛の完全骨格が出土している。牛は2頭とも東を向きながら、西を振り返るように首を曲げており、西側のものは横向き、東側のものは足を広げて仰向けの状態で横たわっている。327号土坑と同様に時期を決定するような遺物は出土していないが、土坑の下から中世の墓壇である288号土坑が確認されていることから、中世から近世以降の遺構であると考えられる。

347号土坑

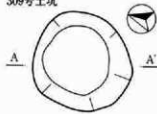
CR-71グリッドに存在する円形の土坑である。径は63cm、深さは45cmである。土師器、須恵器の他に僅かであるが、陶器が出土している。図は須恵器の甕である。口縁から頸部1/4程度が残存している。復元口径は19.8cm、残存高は7.5cmである。マキアゲ成形、ロク口整形。口縁部内外面にナデを施し、口縁部より下、内面にはタタキの当て具の痕跡が見られる。肩部外面には、へら状の工具で強く撫でた跡が見られる。胎土は細砂粒を含み、色調は灰白色を呈する。

348号土坑

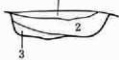
CR-71グリッドに存在する円形の土坑である。径は75cm、深さは55cmである。土師器、須恵器の他に、僅かであるが、陶器が出土している。図は須恵器の壺である。底部から体部の一部の小片である。復元底径13.2cm、残存高は3.1cmである。成形後、ロク

第3節 白井二位屋遺跡3区遺構群

309号土坑



A L=187.60m



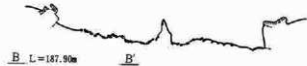
309号土坑

- 1 暗褐色土: F P粒を多量に含む
- 2 暗褐色土: 大粒のF P粒を多量に含む
- 3 黄褐色土: F P粒主体

327号土坑

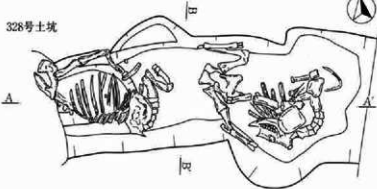


A L=187.90m



B L=187.90m

328号土坑

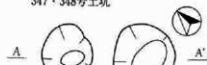


A L=187.60m

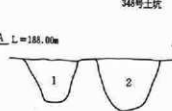


B L=187.60m

347・348号土坑

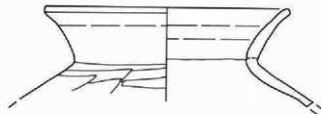


A L=188.00m



347・348号土坑

- 1 暗褐色土 2~10mmのF P粒30%
- 2 暗褐色土 2~10mmのF P粒30%、30~50mmのF P粒を含む



347号土坑 (1/3)

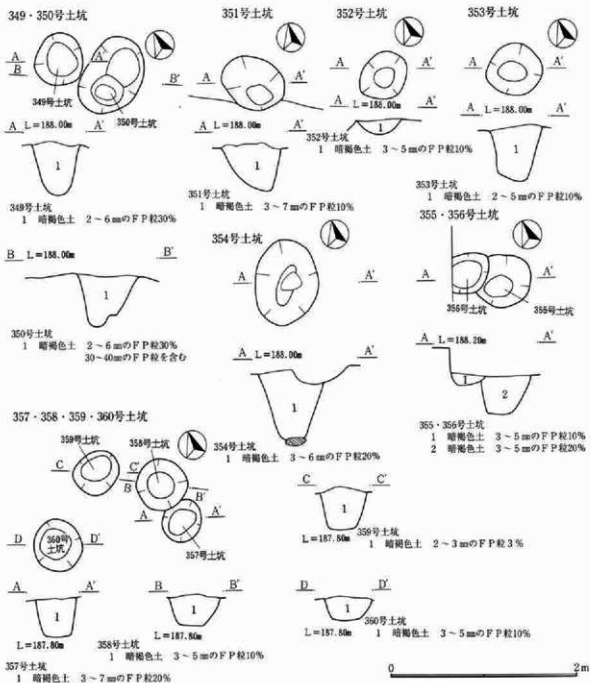


348号土坑 (1/3)

0 2m

第77図 白井二位屋遺跡 309・327・328・347・348号土坑、347・348号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第78図 白井二位屋遺跡 349～360号土坑

口整形を行っている。内面は全面ヨコナデ調整、外面は、底部ユビナデ調整、底部からの立ち上がりは、手持ちのヘラケズリが2cm程見られ、その上には回転台利用のカキ目が見られる。胎土は中～細砂粒、長石、白色粒子を含み、色調は灰色を呈する。

349号土坑

CQ-71グリッドに存在する円形の土坑である。径は55cm、深さは55cmである。土師器、須恵器の小片

が出土している。

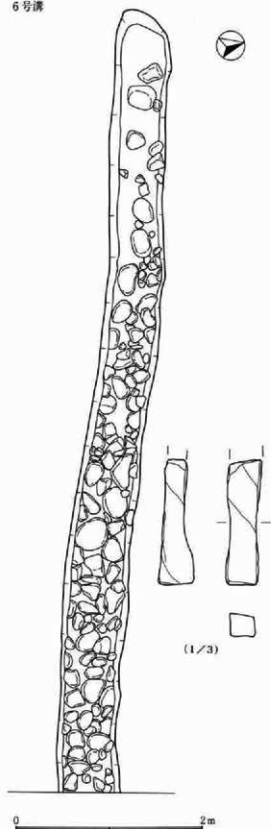
350号土坑

CQ-71グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は86cm、短軸は62cm、深さは54cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

351号土坑

CR-72グリッドに存在する円形の土坑である。径は70cm、深さは48cmである。遺物の出土は見られな

6号溝



第79図 白井二位屋遺跡 6号溝、6号溝出土遺物

い。

352号土坑

CR-71グリッドに存在する円形の土坑である。径は57cm、深さは16cmである。遺物の出土は見られない。

353号土坑

CR-72グリッドに存在する円形の土坑である。径は58cm、深さは58cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

354号土坑

CR-72グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は91cm、短軸は68cm、深さは74cmである。底に平たい石が据えてあり、柱穴であった可能性がある。遺物の出土は見られない。

355号土坑

CR-72グリッドに存在する円形の土坑である。356号土坑に切られる。径は60cm、深さは40cmである。遺物の出土は見られない。

356号土坑

CR-72グリッドに存在する円形の土坑である。355号土坑を切る。径は40cm、深さは12cmである。遺物の出土は見られない。

357号土坑

CQ-72グリッドに存在する円形の土坑である。358号土坑に切られる。径は44cm、深さは33cmである。遺物の出土は見られない。

358号土坑

CQ-72グリッドに存在する円形の土坑である。357号土坑を切る。径は55cm、深さは33cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

359号土坑

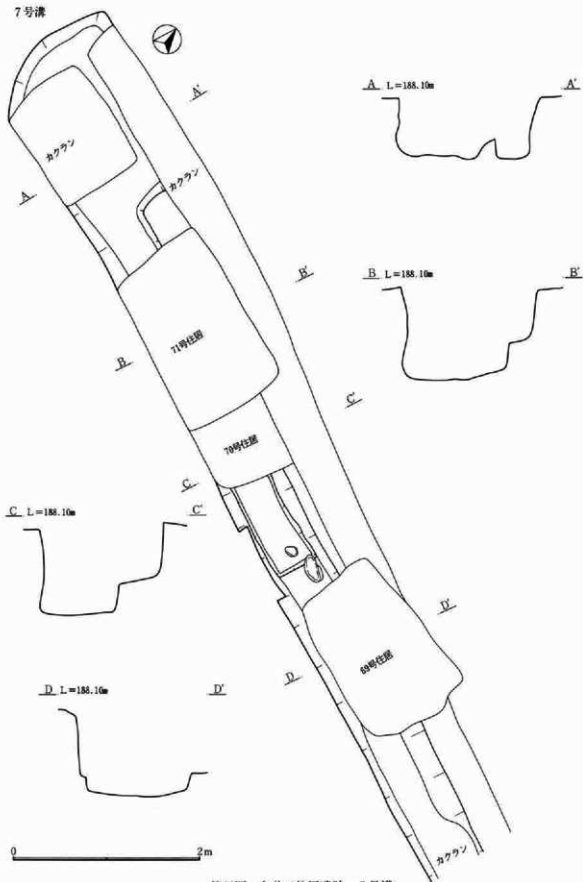
Q-72グリッドに存在する円形の土坑である。径は55cm、深さは45cmである。遺物の出土は見られない。

360号土坑

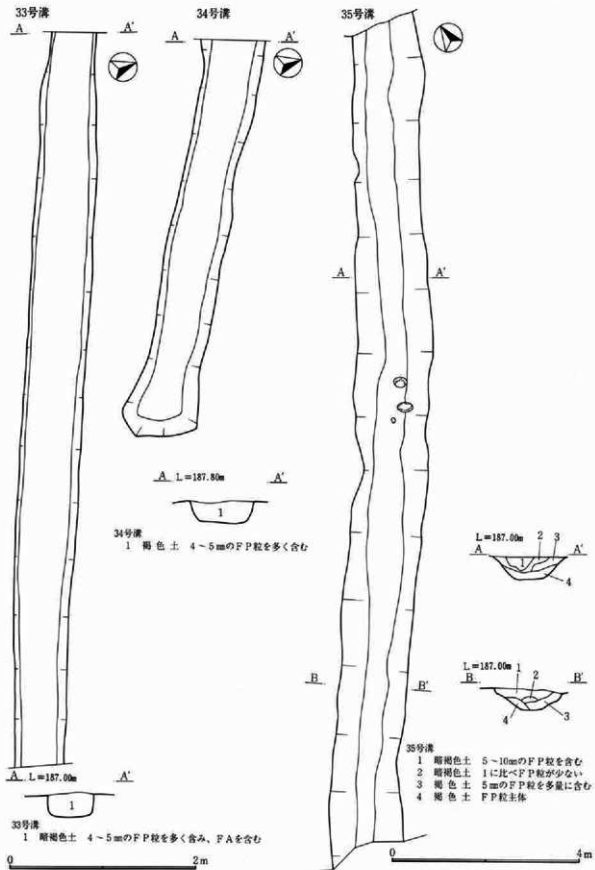
Q-72グリッドに存在する円形の土坑である。径は56cm、深さは26cmである。遺物の出土は見られない。

第3章 検出された遺構と遺物

7号溝

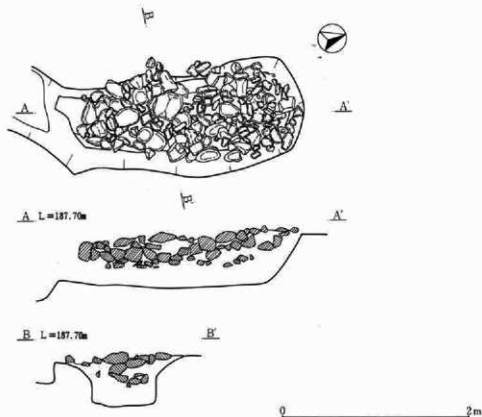


第80図 白井二位屋遺跡 7号溝



第81図 白井二位屋遺跡 33~35号溝

2号集石



第82図 白井二位屋遺跡 2号集石

6号溝

DB-63～DC-65グリッドに存在する溝である。幅は70cm、深さは18cmである。1号堀の南側の壁に沿うように掘られている。底に20～40cm大の石が敷き詰められている。土師器、須恵器の小片の他、砥石が出土している。

7号溝

CW-64～CX-66グリッドに存在する溝である。69・70・71号土坑に切られる。遺物の出土は見られない。

33号溝

CL-72～CL-74グリッドに存在する溝である。幅は63cm、深さは27cmである。遺物の出土は見られない。

34号溝

CN-72～CO-73グリッドに存在する溝である。幅は65cm、深さは24cmである。遺物の出土は見られない。

35号溝

CH-69～CL-67グリッドに存在する溝である。幅は154cm、深さは46cmである。土師器、須恵器の小

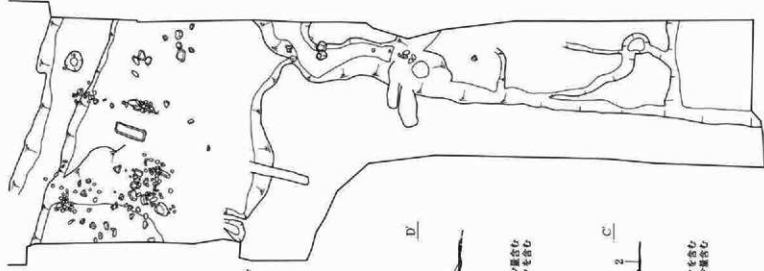
片が多数出土している。

2号集石

CN-72グリッドに存在する遺構である。楕円形の掘り込みの上に10～40cm大の礫が集められている。遺物の出土が見られないために、時期の決定ができない。

1号堀

白井二位屋遺跡と白井南中道遺跡の間にまたがって存在する堀である。白井二位屋遺跡の範囲では、3区の北端に、白井南中道遺跡の範囲では1区の南端に位置する。DC～DF-63グリッドから東西方向に伸び、DE-60グリッド付近で北に向かって90度折れる。そのまま南中道遺跡の1区に入り、DR-60グリッド付近で再び90度折れて西に向かう。堀の下場の幅は7～10m、上場の幅は15～20m、深さは検出面より約2mである。堀の立ち上がりは傾斜が緩やかで、底の幅も広く、箱型状を呈している。堀の南側、あるいは西側の隅に、ロームを掘り残した張り出し状の高まりが見ら



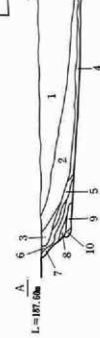
- 記号
- 1 黒色土 5~10mmのF.P.粒を多数含む
 - 2 黒色土 5~10mmのF.P.粒を多く含む
 - 3 黒色土 F.A.小アロクを少量含む
 - 4 黒色土 2~3mmのF.P.粒を少量含む
 - 5 黒色土 F.A.小アロクを少量含む
 - 6 黒色土 黒色土小アロクを含む



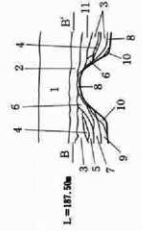
- D-D'
- 1 黒色土 5~10mmのF.P.粒を少量含む
 - 2 黒色土 5~10mmのF.P.粒を多数含む
 - 3 黒色土 F.A.小アロクを少量含む
 - 4 黒色土 F.A.小アロク、黒色土アロクを含む
 - 5 黒色土 黒色土アロクを含む



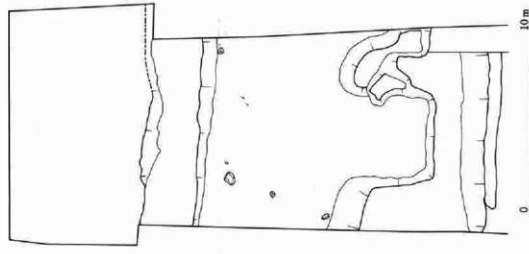
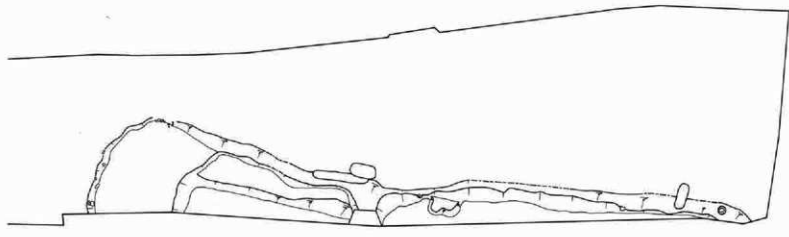
- C-C'
- 1 黒色土 F.A.小アロク、黒色土アロクを含む
 - 2 黒色土 F.A.小アロク、2~3mmのF.P.粒を少量含む
 - 3 黒色土 黒色土アロクを含む



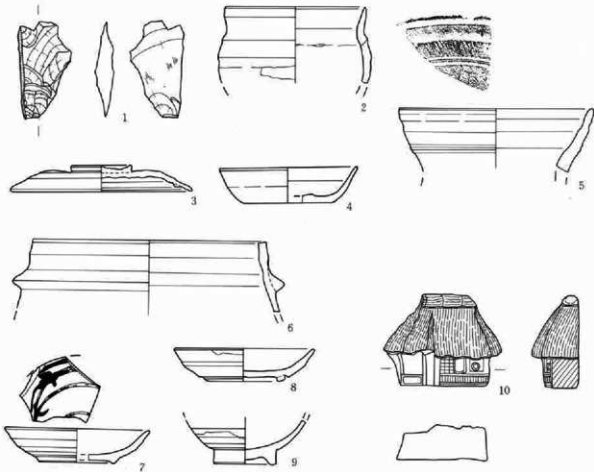
- A-A'
- 1 黒色土 2~3mmのF.P.粒30%
 - 2 黒色土 2~3mmのF.P.粒15%
 - 3 黒色土 2~3mmのF.P.粒30%、砂粒を含む
 - 4 黒色土 2~3mmのF.P.粒5%、黒色土小アロクを含む
 - 5 黒色土 2~3mmのF.P.粒30%、砂粒を含む
 - 6 黒色土 2~3mmのF.P.粒30%、砂粒を含む
 - 7 黒色土 2~3mmのF.P.粒10%、砂粒を含む
 - 8 黒色土 2~3mmのF.P.粒10%、F.A.アロクを5%砂粒を多数含む
 - 9 黒色土 2~3mmのF.P.粒2%、砂粒を含む
 - 10 黒色土 砂粒を含む



- B-B'
- 1 黒色土 4~5mmのF.P.粒を少量含む
 - 2 黒色土 4~5mmのF.P.粒を少量含む
 - 3 黒色土 4~10mmのF.P.粒を少量含む
 - 4 砂粒 5~10mmのF.P.粒を多数含む
 - 5 砂粒 5~10mmのF.P.粒を多数含む
 - 6 黒色土 F.P.粒がやや多く、F.A.を含む
 - 7 黒色土 砂粒を多数含む
 - 8 黒色土 砂粒を多数含む
 - 9 黒色土 砂粒を多数含む
 - 10 黒色土 F.A.小アロク、黒色土アロクを含む
 - 11 黒色土 砂粒を多数含む



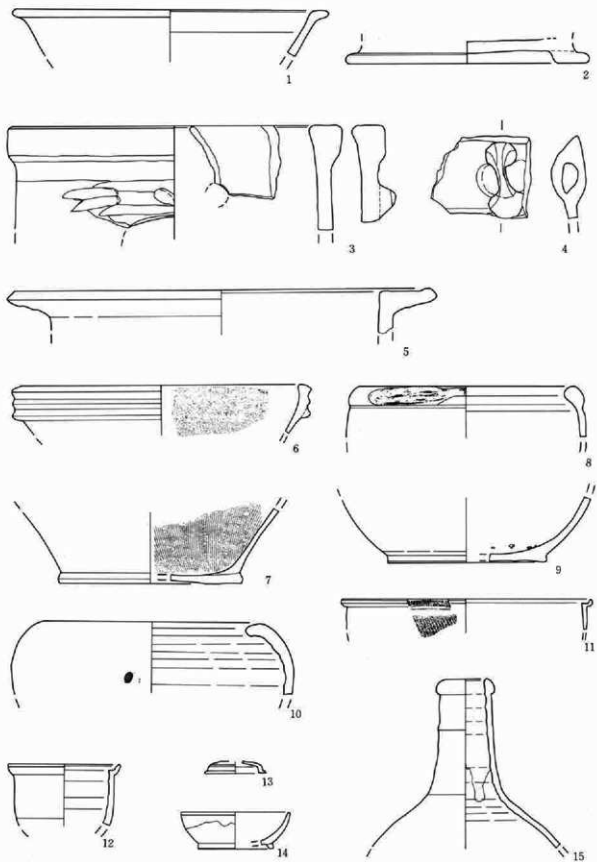
第35図 白井二位遺跡跡 1号堀 (1)



第84図 白井二位屋遺跡 1号堀出土遺物1~9 (1/3)、10 (1/1) (2)

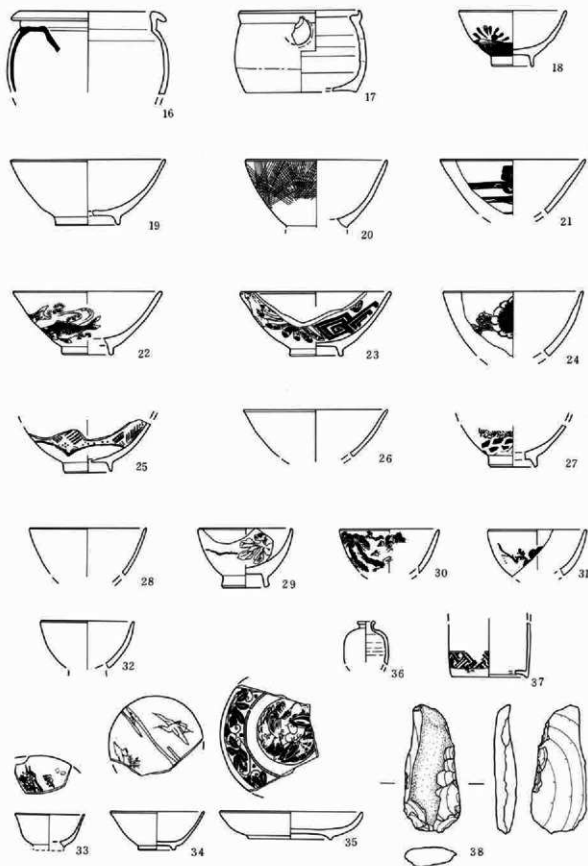
れる。また、堀の西側の発掘区域外には、土塁の痕跡が見られ、現在は墓地となっている。堀の立ち上がり斜面には、人あるいは牛などを埋葬した墓塚が多数検出されている。埋土中からは、土師器、須恵器の他、17~18世紀代の瀬戸・美濃産の陶器等が出土しているが、遺構の時期を決定付けるものではない。1は黒色頁岩製の横長剥片である。上半部を欠損している。全面にわたり風化が進んでいる。2は土師器の小形甕で、口縁部から体部上半の約1/5が残存している。復元口径11.4cm、残存高は6.0cmである。マキアゲによる成形を行っており、外面は体部上半から口縁部にかけて、内面は全体にヨコナデを施している。体部下半は横方向の手持ちヘラケズリを施す。胎土はやや粗砂粒を含み、色調は鈍い黄褐色を呈する。3は須恵器の蓋で、約1/5が残存している。復元口径14.5cm、器高は2.1cmである。

成形後、ロクロ整形を行っている。内面には整形時の渦巻き文がはっきりと残っている。突出度の低いかえりが付き、強いユビナデによって補強している。外面は輪状の紐を取り付けた後、全体に丁寧なヨコナデを施している。4は須恵器の杯で、約1/5が残存している。復元口径11.0cm、底径7.0cm、器高2.8cmである。ロクロ整形を行っており、内外面にヨコナデを施す。底部は回転糸切り無調整である。胎土は細砂粒、黒色粒子を含み、色調は灰色を呈する。5は須恵器の甕で、口縁部のみ約1/5が残存している。復元口径15.6cm、残存高は5.0cmである。ロクロ整形を行っており、外面は櫛状の工具で刺突文、波状文、及び沈線文を施す。全面に自然釉がかかっている。胎土はやや粗砂粒を含み、色調は灰色を呈する。6は羽釜で、口縁部から胴にかけて約1/6が残存している。復元口径18.8cm、残存高は5.5cmで

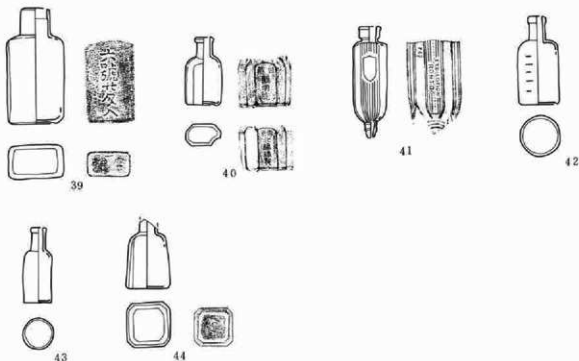


第85図 白井二位屋遺跡 3区一括遺物 (1/4)、4・5・10・12~15 (1/3) (1)

第3節 白井二位屋遺跡3区遺構群



第86図 白井二位屋遺跡 3区一括遺物 (1/3) (2)



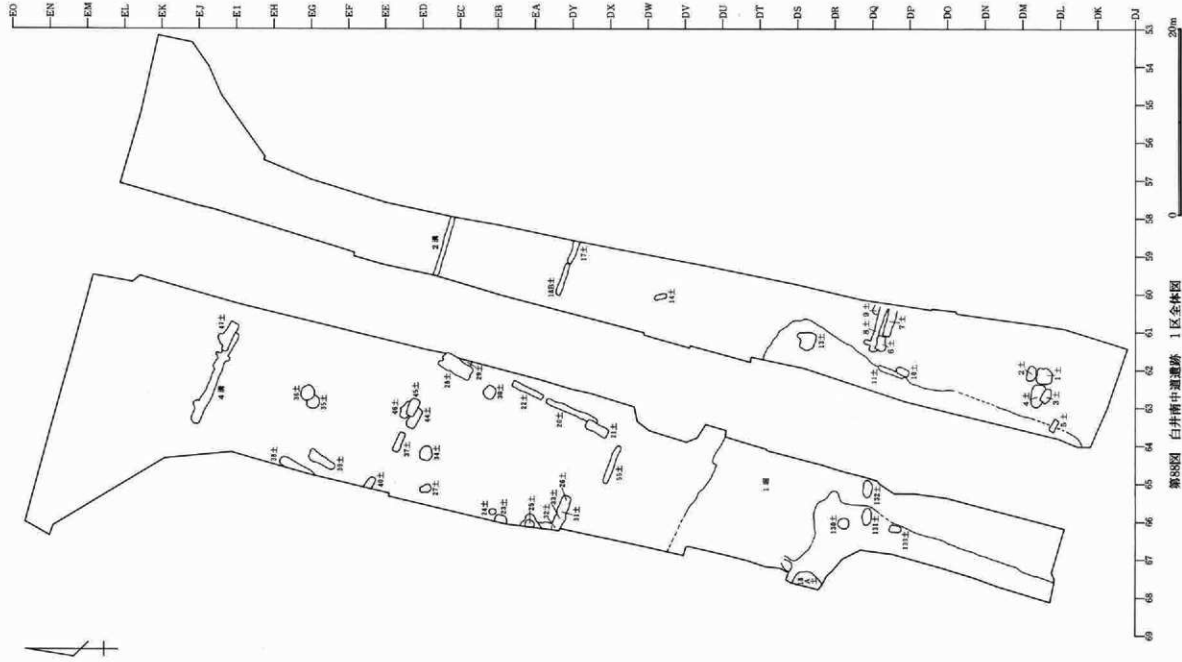
第87図 白井二位屋遺跡 3区一括遺物 (1/3) (3)

ある。マキアケ成形を行っており、口縁部中位に段が見られ、端部には面を作っている。鈔をはりつけ後、鈔上面から口縁部内外面にかけてヨコナデを施し、内面口縁部下には斜め方向のナデを施している。胎土は細砂粒を含み、色調は灰白色を呈する。7は陶器の皿であり、約1/6が残存している。復元口径11.6cm、底径は6.0cm、器高は2.7cmである。ロクロ整形で、高台は回転ヘラケズリによる削り出し高台であり、内面は鉄軸により草文が描かれ、全体に透明釉がかけられている。胎土は細砂粒を含み、色調は灰白色を呈する。8は陶器の皿で、約1/3が残存している。復元口径は11.2cm、底径6.0cm、器高は2.5cmである。ロクロ整形を行い、高台は回転ヘラケズリによる削り出し高台である。高台と共に、体部下端に回転ヘラケズリを施している。灰白色の不透明の釉がかけられているが、全体に火ぶくれをおこしている。胎土は細砂粒、長石を含み、色調は灰白色を呈する。9は陶器の椀で、底部から体部下半が残存している。底径5.0cm、残存高は3.5cmである。成形後、回転ヘラケズリによる整形を行っている。全面に薄く鉄軸を施し、体部下半から口縁部にか

て、更に濃い鉄軸がかけられている。畳付けの部分の釉は拭き取られている。胎土は細砂粒、極めて少量長石を含み、色調は素地が灰白色、釉が黒褐色を呈する。10は陶器の家である。葦貫の家をかたどっており、高さが2.5cm、幅が3.0cm、厚みが1.0cmである。黄色と緑色の釉がかけられている。

3区一括遺物

3区からは大正から昭和初期のものと思われる遺物が大量に出土している。1～5は火鉢、内耳鍋等で、燻されている。6・7は摺り鉢である。8～17は陶器、18～37は磁器製品である。39～44はガラス製品である。



第88图 白井南中遺跡 1区全体図

第4節 白井南中道遺跡1区遺構群

1区は白井南中道遺跡の南端に位置し、白井二位屋遺跡と接している。区の南端には白井二位屋遺跡から1号堀が続き、墓塚等も多数見られる。

1号土坑

DL-62グリッドに存在する崩れた円形の土坑である。長軸は180cm、短軸は162cm、深さは50cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

2号土坑

DL-62グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は154cm、短軸は103cm、深さは45cmである。遺物の出土は見られない。

3号土坑

DL-62グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は155cm、短軸は93cm、深さは38cmである。遺物の出土は見られない。

4号土坑

DL-62グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は244cm、短軸は105cm、深さは42cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

5号土坑

DL-63グリッドに存在する方形の土坑である。長軸は124cm、短軸は52cm、深さは67cmである。遺物の出土は見られない。

6号土坑

DP-61グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は158cm、短軸は87cm、深さは64cmである。遺物の出土は見られない。

7号土坑

DP-60グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で286cm、短軸は78cm、深さは45cmである。遺物の出土は見られない。

8号土坑

DP-60・61グリッドに存在する溝状の土坑で、9号土坑を切る。長軸は検出部分で470cm、短軸は52cm、深さは79cmである。遺物の出土は見られない。

9号土坑

DP-60グリッドに存在する土坑で、8号土坑に切られる。長軸は88cm、短軸は62cm、深さは62cmである。遺物の出土は見られない。

10号土坑

DP-62グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は134cm、短軸は69cm、深さは56cmである。遺物の出土は見られない。

11号土坑

DP・DQ-61・62グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は296cm、短軸は47cm、深さは37cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

12号土坑

DP-62グリッドに存在する土坑である。掘り方ははっきりしなかった。馬骨と思われる骨片が出土している。須恵器の小片が僅かに見られる。

13号土坑

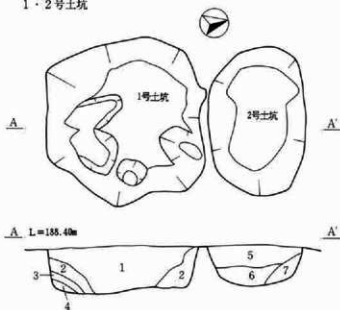
DR-61グリッドに存在する土坑である。長軸は205cm、短軸は143cm、深さは24cmである。人骨が出土しているが、遺存状態は極めて悪い。1・2は皇宋通寶で、1は直径2.35cm、郭は一辺1.90cm、重さは0.77gであり、2は直径2.45cm、郭は一辺0.70cm、重さは2.36gである。初鑄造年は1039年である。3は天聖元寶で、直径2.40cm、郭は一辺0.65cm、重さは1.75gであり、初鑄造年は1023年である。4は景德元寶で、直径2.40cm、郭は一辺0.65cm、重さは1.33gであり、初鑄造年は1004年である。5は元祐通寶で、直径2.35cm、郭は一辺0.65cm、重さは2.67gであり、初鑄造年は1086年である。6は永樂通寶で、直径2.50cm、郭は一辺0.60cm、重さは3.11gであり、初鑄造年は1408年である。7・8は元豐通寶で、7は直径2.50cm、郭は一辺0.60cm、重さは3.12gであり、8は直径2.40cm、郭は一辺0.70cm、重さは3.41gである。初鑄造年は1078年である。他に土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

14号土坑

DV-60グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。

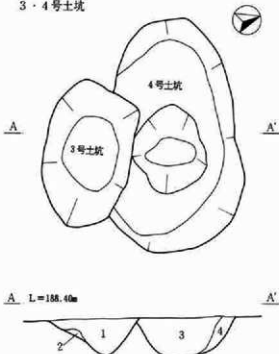
第3章 検出された遺構と遺物

1・2号土坑



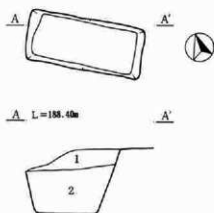
- 1・2号土坑
 1 暗褐色土 30~40mmのF P粒を含む
 2 黄褐色土 細粒~小指頭大のF P粒が主
 壁の崩落土
 3 黒褐色土 FAのブロック、F P細粒混入
 F P粒下層の崩落土
 4 軽石
 5 黒褐色土 5~10mmのF P粒を多量に含み粗く
 もろい
 6 黒褐色土 30~50mmのF P粒を多量に含む
 7 黒褐色土 FAが小ブロック状に
 多量に混入し、F P粒の粗粒少量含む

3・4号土坑



- 3・4号土坑
 1 暗褐色土 F P細粒を多量に含む。しまりは弱い
 2 黄褐色土 F P細粒が主体
 3 暗褐色土 30~40mmのF P粒を含む
 4 褐色土 F P細粒が主。壁の崩落土

5号土坑

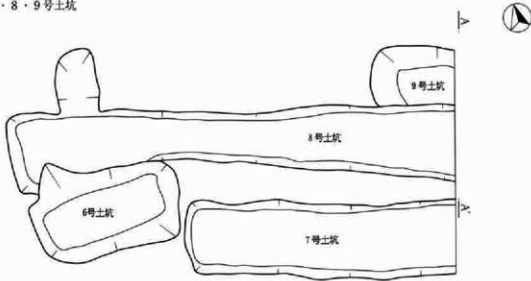


- 5号土坑
 1 黒褐色土 F P細粒、FA小ブロックを含む
 2 暗褐色土 F P粒、FAを含む

0 2m

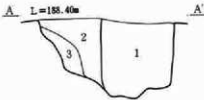
第89図 白井南中道遺跡 1~5号土坑

6・7・8・9号土坑

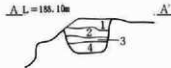
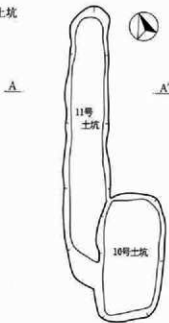


8・9号土坑

- 1 黒褐色土 F P粒を多量に含み、FA小ブロックを含む
- 2 黒褐色土 1よりF P粒を多量に含む
- 3 褐色土 F P粒主体でもない



10・11号土坑



11号土坑

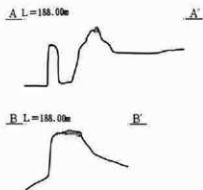
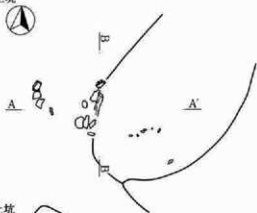
- 1 黒褐色土 F P粒、FAの粗粒を含む
- 2 軽石 10~30mmのF P粒を中心とする
- 3 黒褐色土 1に似る
- 4 軽石 2に似る



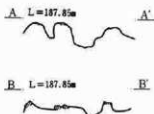
第90図 白井南中道遺跡 6~11号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

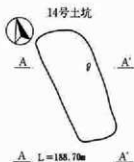
12号土坑



13号土坑



13号土坑 (4/5)



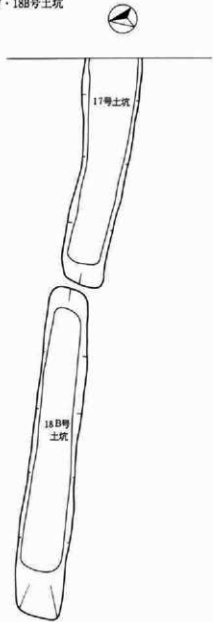
0 2m

第91図 白井南中道遺跡 12~15号土坑、13号土坑出土遺物

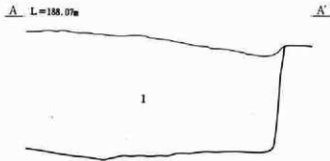
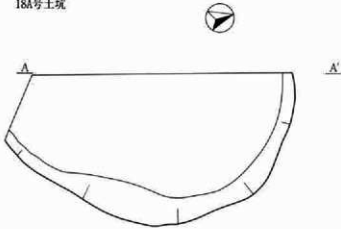
16号土坑



17・18号土坑



18A号土坑

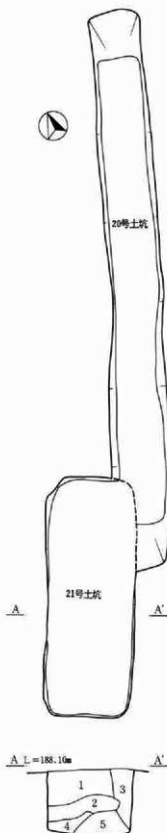


18A号土坑

1 軽石 F P 粒を主体に褐色土が互層に入る

第92図 白井南中道遺跡 16・17・18A・18B号土坑

20・21号土坑

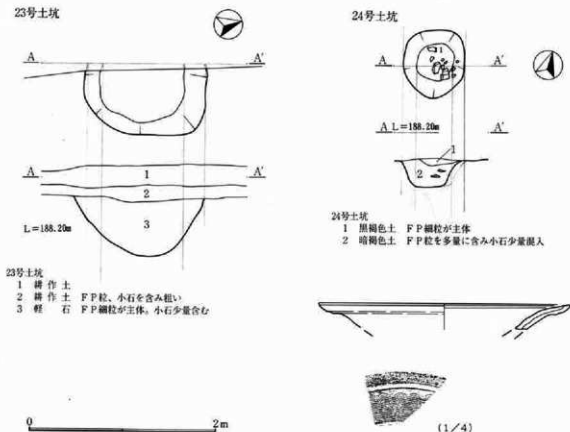


22号土坑



第93図 白井南中道遺跡 20~22号土坑

0 2m



第94図 白井南中道遺跡 23・24号土坑、24号土坑出土遺物

長軸は72cm、短軸は49cm、深さは4cmである。遺物の出土は見られない。

15号土坑

長軸は140cm、短軸は90cm、深さは28cmである。人骨が出土している。

17号土坑

DY-58グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は230cm、短軸は47cm、深さは50cmである。遺物の出土は見られない。

18A号土坑

DQ-67グリッドに存在する土坑である。長軸は290cm、短軸は162cm、深さは54cmである。遺物の出土は見られない。

18B号土坑

DY-59グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は346cm、短軸は49cm、深さは45cmである。遺物の出土は見られない。

20号土坑

DX-63グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は589cm、短軸は63cm、深さは46cmである。遺物の出土は見られない。

21号土坑

DX-63グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は252cm、短軸は93cm、深さは68cmである。土師器、須恵器、陶磁器片が出土している。

22号土坑

EA-62グリッドに存在する方形の土坑である。長軸は353cm、短軸は65cm、深さは46cmである。遺物の出土は見られない。

23号土坑

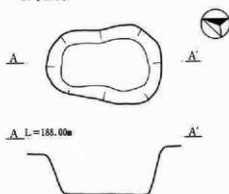
EA-65グリッドに存在する土坑である。長軸は130cm、深さは96cmである。遺物の出土は見られない。

24号土坑

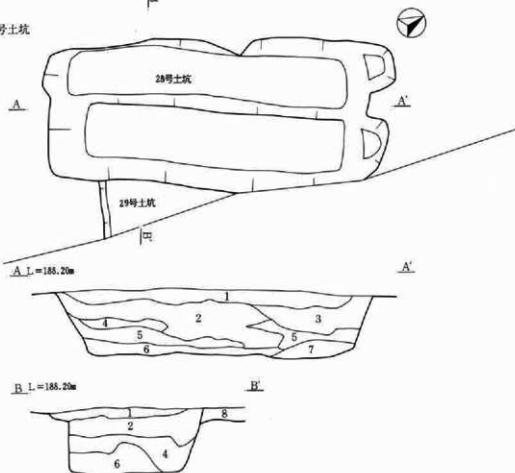
EB-65グリッドに存在する円形の土坑である。径は73cm、深さは31cmである。土師器の小片が僅かに出土している。

第3章 検出された遺構と遺物

27号土坑



28・29号土坑



28・29号土坑

- 1 暗褐色土 F P粒を多量に含む
- 2 黒褐色土 5～6mmのF P粒が主体。小礫とF Aの小ブロックを少量含む
- 3 黒褐色土 F P粒を多量に含む
- 4 にぶい褐色土 F Aのブロックが主体
- 5 にぶい褐色土 F Aと黒色土の混土
- 6 黒褐色土 F P粒を少量含む
- 7 黒褐色土 6よりF P粒の混入多い
- 8 黒褐色土 F P粒を多量に含みしよりは良い

0 2m

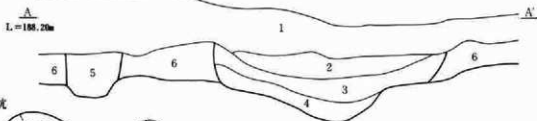
第95図 白井南中道遺跡 27～29号土坑

25・26・31・32・33号土坑

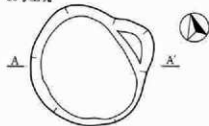


25・32・33号土坑

- 1 耕作土
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土 20~40mmのF P粒が主体
- 4 黒褐色土
- 5 黒褐色土 大粒のF P粒を少量含みしまりは良い
- 6 暗褐色土 5mmのF P粒を多量に含む



30号土坑



A L=188.10m



30号土坑

- 1 暗褐色土 F P粒を多量に含み、FAの小ブロックを少量含む
- 2 暗褐色土 F P粒主体

0 2m

25号土坑

EA-65・66グリッドに存在する土坑である。長軸は238cm、短軸は230cm、深さは52cmである。遺物の出土は見られない。

26号土坑

DY-65グリッドに存在する土坑である。長軸は210cm、短軸は101cm、深さは70cmである。遺物の出土は見られない。

31号土坑

DY-65グリッドに存在する土坑である。長軸は107cm、短軸は100cm、深さは59cmである。遺物の出土は見られない。

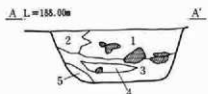
第96図 白井南中道遺跡 25・26・30~33号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

34号土坑



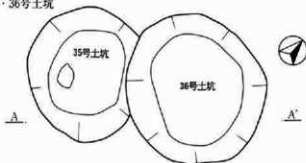
A L=188.00m



34号土坑

- 1 明黄褐色土 F P 粒主体、わずかに暗褐色土を含む
- 2 黒褐色土 F P 粒を含み柔らかくもろい
- 3 黒褐色土 2 に似るがやや黒色味が強い
- 4 明黄褐色土 1 に似る
- 5 明黄褐色土 4 に似る

35・36号土坑



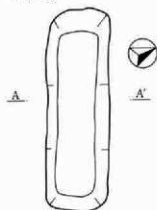
A L=187.80m



35・36号土坑

- 1 黒褐色土 F P 粒を含み柔らかい
- 2 暗褐色土 5~10mmのF P 粒を多量に含む
- 3 暗褐色土 2よりF P 粒の粒子細かく、やや少ない
- 4 明黄褐色土 粒子の細かいF P 粒と黒色土を含む
- 5 明黄褐色土 F P 粒主体
- 6 黒褐色土 やや大粒のF P 粒を含む

37号土坑



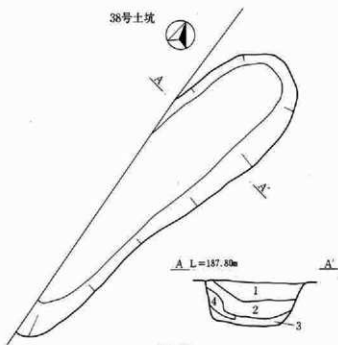
A L=188.00m



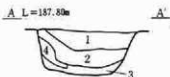
37号土坑

- 1 黒褐色土 F P 粒を含む

38号土坑



A L=187.80m



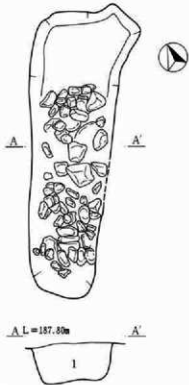
38号土坑

- 1 暗褐色土 大粒のF P 粒を多く含む
- 2 黒褐色土 F P 粒を少量含む
- 3 暗褐色土 F P 粒の細粒を多く含む
- 4 軽石 F P 粒、壁の崩落

0 2m

第97図 白井南中道遺跡 34~38号土坑

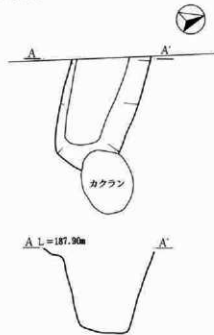
39号土坑



39号土坑

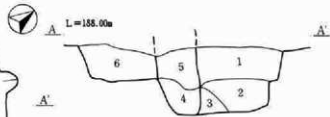
1 暗褐色土 F P細粒が主体でもろく崩れ易い

40号土坑



44号土坑 (4/5)

44・45・46号土坑



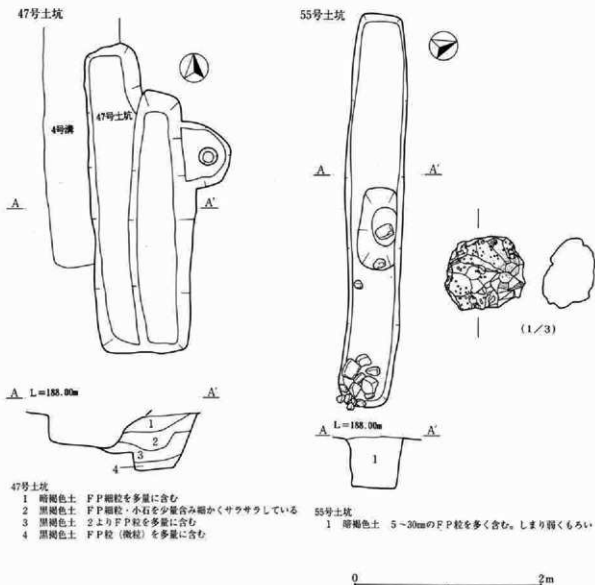
44・45・46号土坑

- 1 黒褐色土 F P粒を含む
- 2 黒褐色土 1に似るがF P粒の量は多く明るい
- 3 黒褐色土 F P粒の混入は非常に少なく細かい。しまり強い
- 4 暗褐色土 F P細粒を多量に含む
- 5 暗褐色土 4よりF P粒(10mm)が大きい
- 6 黒褐色土 F P細粒を多量に含み明るい

0 2m

第98図 白井南中道遺跡 39・40・44~46号土坑、44号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



47号土坑

- 1 暗褐色土 F P 細粒を多量に含む
- 2 黒褐色土 F P 細粒・小石を少量含み細かくサラサラしている
- 3 黒褐色土 2よりF P 粒を多量に含む
- 4 黒褐色土 F P 粒（微粒）を多量に含む

55号土坑

55号土坑

- 1 暗褐色土 5~30cmのF P 粒を多く含む。しまり弱くもろい

第99図 白井南中道遺跡 47・55号土坑、55号土坑出土遺物

32号土坑

DY-66グリッドに存在する土坑である。遺物の出土は見られない。

33号土坑

DY-65グリッドに存在する土坑である。遺物の出土は見られない。

27号土坑

EC-65グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は123cm、短軸は75cm、深さは51cmである。遺物の出土は見られない。

28号土坑

EC-61グリッドに存在する長方形の土坑で、29号土坑を切る。長軸は370cm、短軸は150cm、深さは70cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

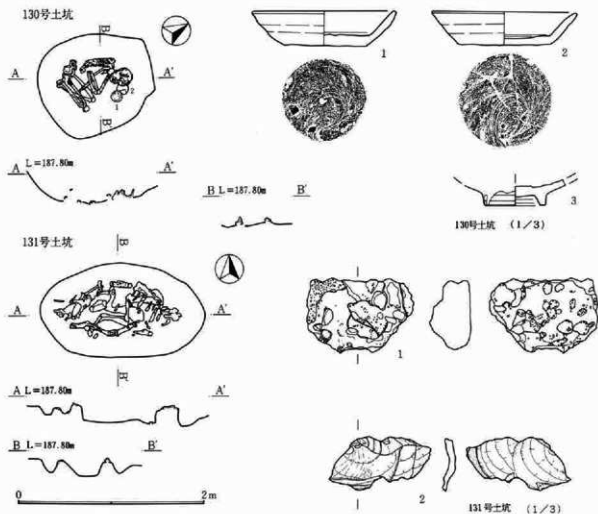
29号土坑

EB-61グリッドに存在する土坑で、28号土坑に切られる。遺物の出土は見られない。

30号土坑

EB-62グリッドに存在する円形の土坑である。径は75cm、深さは24cmである。遺物の出土は見られない。

34号土坑



第100図 白井南中道遺跡 130・131号土坑、130・131号土坑出土遺物

EC-64グリッドに存在する円形の土坑である。径は143cm、深さは55cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

35号土坑

EF-62グリッドに存在する円形の土坑である。径は140cm、深さは42cmである。遺物の出土は見られない。

36号土坑

EG-62グリッドに存在する円形の土坑である。径は160cm、深さは51cmである。遺物の出土は見られない。

37号土坑

ED-63グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は212cm、短軸は167cm、深さは43cmである。

遺物の出土は見られない。

38号土坑

EG-64グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は397cm、短軸は104cm、深さは45cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

39号土坑

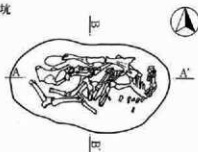
EF-64グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は303cm、短軸は85cm、深さは42cmである。底に20～30cm大の礫が多数見られる。遺物の出土は見られない。

40号土坑

EE-64グリッドに存在する土坑である。長軸は検出部分で85cm、短軸は45cm、深さは87cmである。土師器の他、陶磁器の小片が見られる。

第3章 検出された遺構と遺物

132号土坑



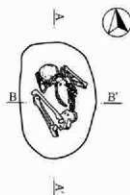
A L=187.20m



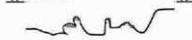
B L=187.20m



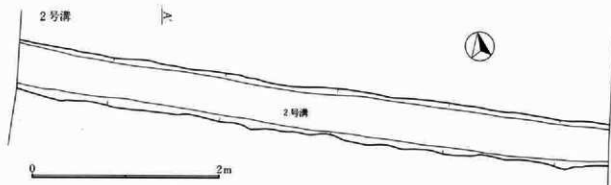
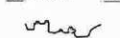
133号土坑



A L=187.60m



B L=187.60m



第101図 白井南中道遺跡 132・133号土坑・2号溝

44号土坑

ED-63グリッドに存在する隅丸方形の土坑で、45号土坑に切られる。長軸は222cm、短軸は100cm、深さは48cmである。寛永通寶の破片が出土している。

45号土坑

ED-63グリッドに存在する隅丸方形の土坑で、44号土坑、46号土坑を切る。長軸は198cm、短軸は70cm、深さは70cmである。遺物の出土は見られない。

46号土坑

ED-63グリッドに存在する隅丸方形の土坑で、45号土坑に切られる。長軸は190cm、短軸は88cm、深さは70cmである。遺物の出土は見られない。

47号土坑

EI-61グリッドに存在する長方形の土坑で、4号溝に切られる。長軸は323cm、短軸は112cm、深さは55cmである。遺物の出土は見られない。

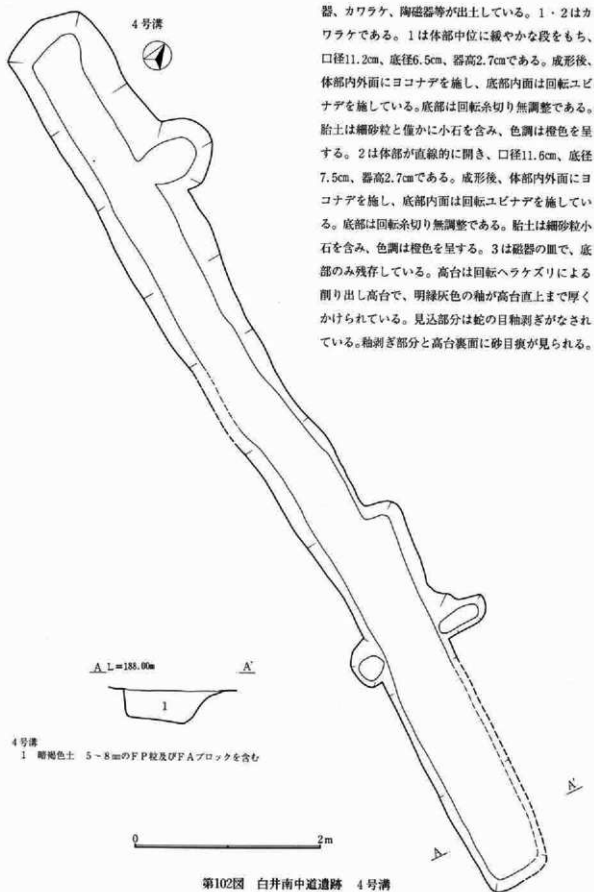
55号土坑

DX・DW-64グリッドに存在する長い方形の土坑である。長軸は414cm、短軸は62cm、深さは55cmである。土師器、須恵器、陶磁器の小片、鉄滓が出土している。

130号土坑

DR-65グリッドに存在する楕円形の土坑で、成人男性と考えられる人骨が、頭を北向きに、両足首を揃え、膝を曲げた状態で検出されている。長軸は123cm、短軸は113cm、深さは37cmである。土師器、須恵

第4節 白井南中道遺跡1区遺構群



器、カワラケ、陶磁器等が出土している。1・2はカワラケである。1は体部中位に緩やかな段をもち、口径11.2cm、底径6.5cm、器高2.7cmである。成形後、体部内外面にヨコナデを施し、底部内面は回転ユビナデを施している。底部は回転糸切り無調整である。胎土は細砂粒と僅かに小石を含み、色調は橙色を呈する。2は体部が直線的に開き、口径11.6cm、底径7.5cm、器高2.7cmである。成形後、体部内外面にヨコナデを施し、底部内面は回転ユビナデを施している。底部は回転糸切り無調整である。胎土は細砂粒小石を含み、色調は橙色を呈する。3は磁器の皿で、底部のみ残存している。高台は回転ヘラケズリによる削り出し高台で、明緑灰色の釉が高台直上まで厚くかけられている。見込部分は蛇の目軸剥ぎがなされている。軸剥ぎ部分と高台裏面に砂目痕が見られる。

第102図 白井南中道遺跡 4号溝

131号土坑

DQ-65グリッドに存在する楕円形の土坑で、132号土坑と並ぶように存在する。長軸は175cm、短軸は100cm、深さは22cmである。牛の骨が出土している。頭骨が検出できず、背骨、肋骨、寛骨の他は左右前脚と、左後脚一本が残存していたのみであった。土坑の掘り方からみて最初から頭骨その他は無かった可能性が高い。土師器、須恵器、陶磁器の小片の他、鉄滓も出土している。1は鉄滓である。小気泡が数多く観察され、比重は重く、磁石が強く付くことから鉄分も多いと考えられる。2は黒色頁岩製の縦長剥片である。

132号土坑

DQ-65グリッドに存在する楕円形の土坑で、131号土坑と並ぶように存在する。長軸は169cm、短軸は90cm、深さは34cmである。131号土坑と同様に牛の骨が出土している。骨は四脚共に揃っているが、

頭骨は全く見られない。遺物の出土は見られないが、131号土坑との関係は注目される。

133号土坑

DP-66グリッドに存在する楕円形の土坑で、墓壙である。長軸は123cm、短軸は81cm、深さは28cmである。非常に残りの良い人骨が検出されている。人骨は、膝を揃えて、脚を折り曲げ、頭を北向きにして横に倒れている。遺物の出土は見られない。

2号溝

CE-57～59にかけて存在する溝である。長さは検出部分で633cm、幅は50cm、深さは20cmである。遺物の出土は見られない。

4号溝

EI-61～63グリッドにかけて存在する溝である。長さは10.54m、幅は84cm、深さは33cmである。遺物の出土は見られない。

第5節 白井南中道遺跡2区遺構群

2区からは土坑のみ検出されている。土坑は、区の北端、3区との接点に集中して見られる。

62号土坑

EQ-58グリッドに存在する土坑である。長軸は検出部分で336cm、短軸は55cmである。鉄滓が出土している。1は椀状滓の一部であると考えられ、比較的重みがあり、実測面の裏に、部分的に磁石に強く引き付けられる部分がある。細かい気泡が多く見られるが、全体的にはしまった感じがする。2は1よりも細かい気泡を多く持ち、やや軽い感じであるが、実測面に、磁石に強く引き付けられる部分がある。3は棒状の滓が塊つかままとまったような形状で、気泡は見られない。滓全体が強く磁石に引き付けられる。半製品の可能性もある。

63号土坑

EQ-58グリッドに存在する土坑である。長軸は293cm、短軸は87cmである。遺物の出土は見られない。

64号土坑

ER-59グリッドに存在する隅丸方形の土坑で、65

号土坑を切る。長軸は257cm、短軸は95cm、深さは85cmである。遺物の出土は見られない。

65号土坑

ER-59グリッドに存在する土坑で、64号土坑に切られる。長軸は210cm、短軸は77cm、深さは72cmである。遺物の出土は見られない。

66号土坑

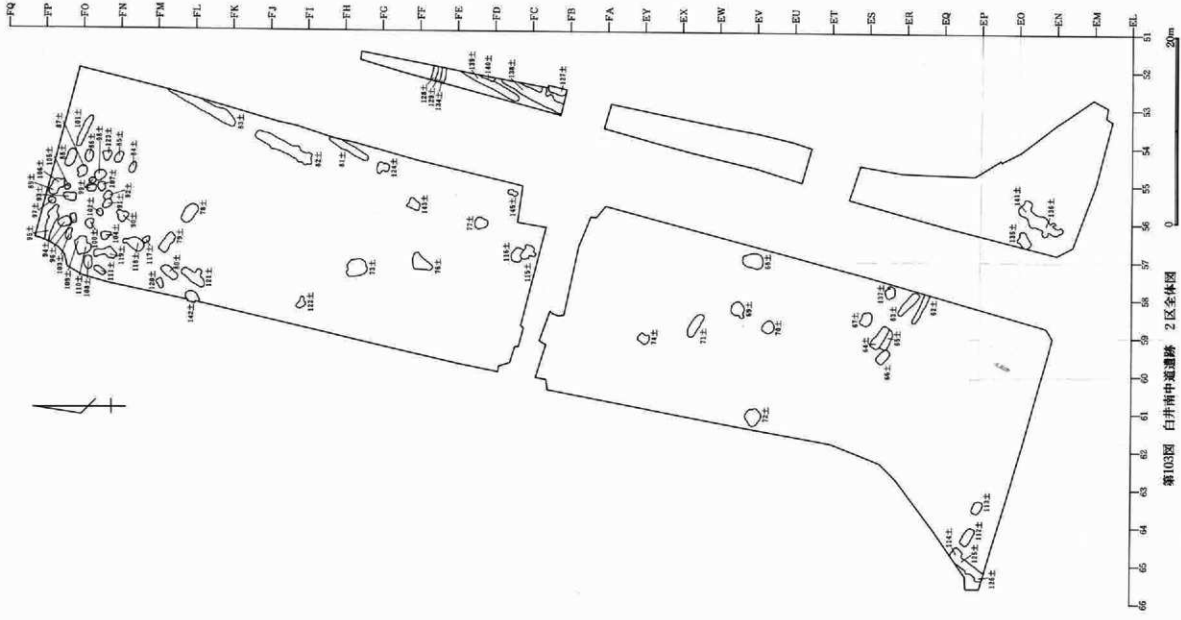
ER-59グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は163cm、短軸は92cm、深さは56cmである。遺物の出土は見られない。

67号土坑

ES-58グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は140cm、短軸は113cm、深さは47cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

68号土坑

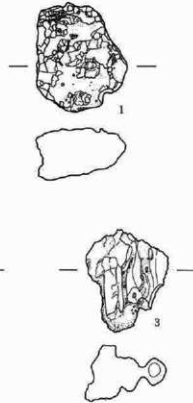
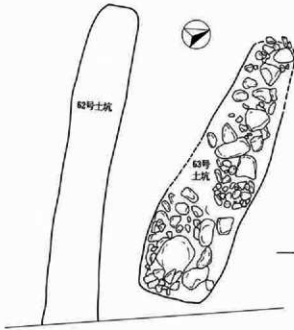
EV-57グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は212cm、短軸は113cm、深さは49cmである。土師器、須恵器の小片の他、鉄滓が出土している。実測した上面は気泡が多く、色調は黒味がかってぬめっ



第103图 白井镇中学操场 2区总体图

62号土坑

63号土坑



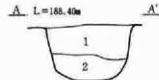
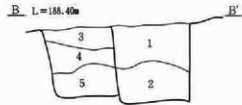
64・65・66号土坑



62号土坑 (1/3)

64・65号土坑

- 1 黒褐色土 FAの小ブロックを含む。FP粒の細粒少量含む
- 2 黒褐色土 1よりFAの小ブロックが少なく黒色が強い
- 3 黒色土 大粒のFP粒を少量含むサツカラしている
- 4 黒褐色土 1に似る
- 5 暗褐色土 FAを多量にFP粒(細粒)は少量含む。やや粘性あり



66号土坑

- 1 黒褐色土 5~10mmのFP粒を多量に含む
- 2 暗褐色土 FP粒を少量含む。やや粘性あり

0 2m

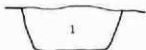
第104図 白井南中道遺跡 62-66号土坑、62号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

67号土坑



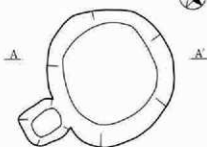
A A' L=188.70m



67号土坑

1 黒褐色土 F P粒を多量に含みしまりは良い

69号土坑



A A' L=188.70m



69号土坑

1 黒褐色土 F P粒をやや多量に含みサラサラしている
2 暗褐色土 1に似る
3 黒色土 F P粒を少量含みしまり悪い

68号土坑



A A' L=188.50m



68号土坑 (1/3)

70号土坑



A A' L=188.60m



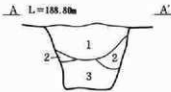
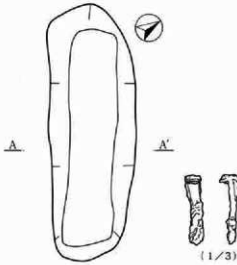
70号土坑

1 黒褐色土 F P粒を多量に含む
2 黄褐色土 F P粒が主体
3 黒褐色土 F P粒を少量含む



第105図 白井南中道遺跡 67~70号土坑、68号土坑出土遺物

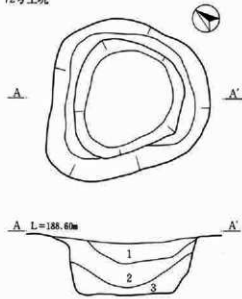
71号土坑



71号土坑

- 1 黒褐色土 F P粒を少量含みや粘性あり
- 2 明黄褐色土 F P粒が主体
- 3 暗褐色土 F P粒を多量に含みしり細かい

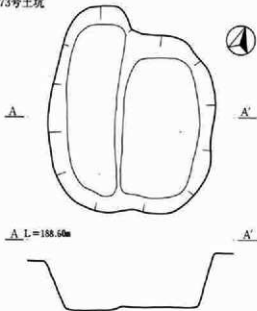
72号土坑



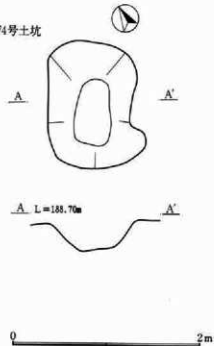
72号土坑

- 1 暗褐色土 3~5mmのF P粒を多量に含む
- 2 黒色土 サラサラしている
- 3 明黄褐色土 F P粒が主体

73号土坑



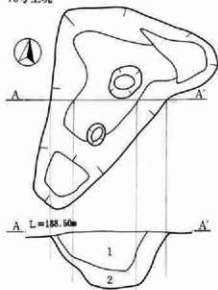
74号土坑



第106図 白井南中道遺跡 71~74号土坑、71号土坑出土遺物

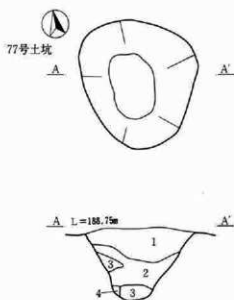
第3章 検出された遺構と遺物

76号土坑



76号土坑

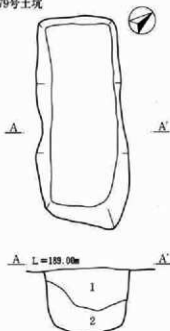
- 1 黒色土 5mmのF P粒を多量に含み上位に河原石を少量含む
- 2 黒色土 F P粒を1より多量に含みF Aをブロック状に少量含む



77号土坑

- 1 黒色土 2~3mm・10mmのF P粒を多量に含む。下段に30mmのF P粒が多量に集中する
- 2 黒褐色土 2~5mm・10mmのF P粒を1より多量に含む
- 3 軽石 F P粒の崩落、他の土はほとんど入らない
- 4 灰褐色土 F Aに2~3mmのF P粒を少量含む

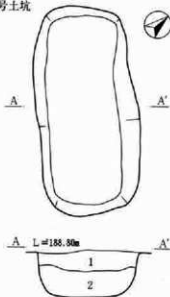
79号土坑



79号土坑

- 1 黒褐色土 2~10mmのF P粒を多量に含む
- 2 黒褐色土 5mmのF P粒を主に1より多量に含む

78号土坑

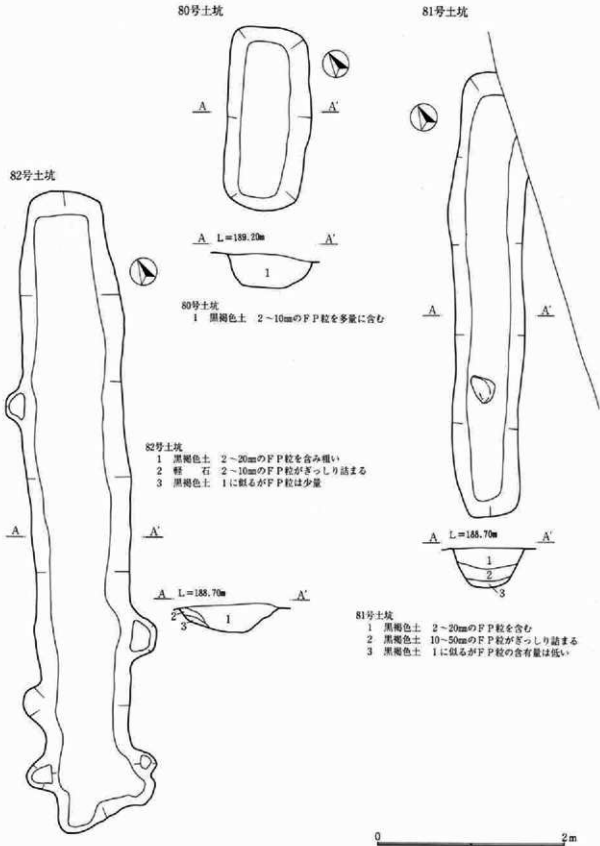


78号土坑

- 1 黒褐色土 2~10mmのF P粒を多量に含む
- 2 黒褐色土 5mmのF P粒を主に1より多量に含む



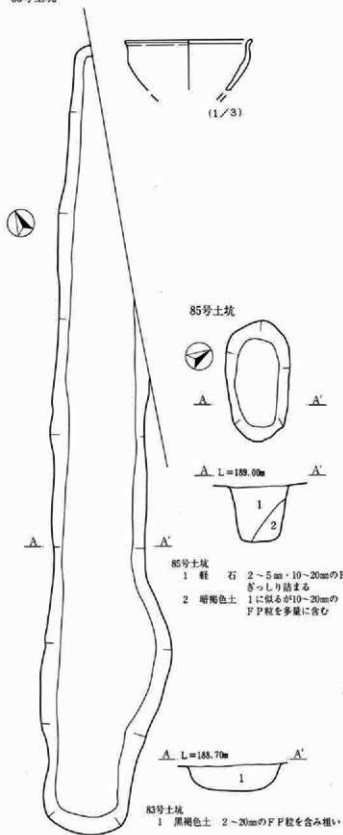
第107図 白井南中道遺跡 76~79号土坑



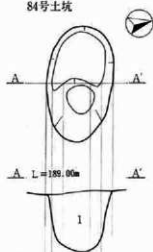
第108図 白井南中道遺跡 80~82号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

83号土坑

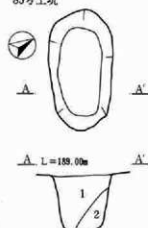


84号土坑



84号土坑
1 黒褐色土 2~10mのF P粒を含む

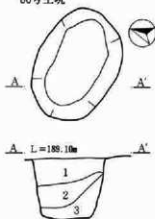
85号土坑



85号土坑

- 1 軽石 2~5m・10~20mのF P粒が
ぎっしり詰まる
2 暗褐色土 1に似るが10~20mの
F P粒を多量に含む

86号土坑



86号土坑

- 1 黒褐色土 5m前後のF P粒を多量に含む
2 軽石 2~5m・10~20mのよごれたF P粒を
中心とする
3 軽石 5~10mのF P粒を中心とし暗褐色土
が厚く3層堆積する

0 2m

第109図 白井南中道遺跡 83~86号土坑、83号土坑出土遺物

とした印象を与え、磁石による吸着も弱い、下面は若干重い感じがして、錆び付いた様になっており、磁石による吸着も強い。

69号土坑

EV-58グリッドに存在する円形の土坑である。径は153cm、深さは53cmである。土師器、須恵器の小片が数多く出土している。

70号土坑

EV-58グリッドに存在する崩れた円形の土坑である。長軸は130cm、短軸は125cm、深さは47cmである。遺物の出土は見られない。

71号土坑

EW-58グリッドに存在する崩れた隅丸方形の土坑である。長軸は270cm、短軸は92cm、深さは70cmである。鉄釘が出土している。

72号土坑

EV-61グリッドに存在する崩れた円形の土坑である。長軸は175cm、短軸は167cm、深さは55cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

73号土坑

EV-61グリッドに存在する土坑である。長軸は217cm、短軸は174cm、深さは61cmである。土師器、須恵器の他に、陶磁器の小片が出土している。

74号土坑

EV-59グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は135cm、短軸は90cm、深さは22cmである。遺物の出土は見られない。

76号土坑

FF-57グリッドに存在する土坑である。長軸は214cm、短軸は125cm、深さは60cmである。遺物の出土は見られない。

77号土坑

FD-56グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は138cm、短軸は123cm、深さは76cmである。遺物の出土は見られない。

78号土坑

FL-55グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は221cm、短軸は110cm、深さは48cmである。遺

物の出土は見られない。

79号土坑

FL-56グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は219cm、短軸は87cm、深さは68cmである。土師器、須恵器の他に、陶磁器の小片が僅かに出土している。

80号土坑

FL-57グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は194cm、短軸は90cm、深さは34cmである。遺物の出土は見られない。

81号土坑

FG・FH-54グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は468cm、短軸は74cm、深さは40cmである。土師器の他に、陶磁器片が僅かに出土している。

82号土坑

FI-54グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は675cm、短軸は105cm、深さは30cmである。遺物の出土は見られない。

83号土坑

FK・FL-52・53グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は830cm、短軸は97cm、深さは27cmである。土師器、須恵器の他に、陶磁器の小片が僅かに出土している。図は天目椀の小片で、復元口径10.2cm、残存高は4cmである。

84号土坑

FM-54グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は122cm、短軸は69cm、深さは65cmである。遺物の出土は見られない。

85号土坑

FN-54グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は125cm、短軸は62cm、深さは58cmである。遺物の出土は見られない。

86号土坑

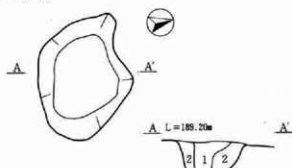
FN-54グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は120cm、短軸は86cm、深さは35cmである。土師器の小片が僅かに出土している。

87号土坑

FO-54グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑で

第3章 検出された遺構と遺物

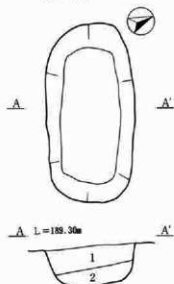
87号土坑



87号土坑

- 1 赤褐色土 5mm前後のF.P.粒を多量に含む
2 軽石 2~5mm・10~30mmのよごれたF.P.粒を中心とする

88号土坑



88号土坑

- 1 暗褐色土 5~50mmのF.P.粒・炭化物を含む
2 暗褐色土 1に似るがより多量にF.P.粒を含む炭化物まれに含む



89・93・97・105・106号土坑



97号土坑 (1/3)



- 89号土坑
1 黒褐色土 5mm前後のF.P.粒を多量に含む



97号土坑

- 1 暗褐色土 2~5mmのF.P.粒を多量に含む
2 黒褐色土 5mmのF.P.粒を多量に含む
3 暗褐色土 1に似るがやや茶色味を帯びる



93号土坑

- 1 軽石 1~5mmのよごれたF.P.粒がざっしり詰まる。炭化物少量含む



105号土坑

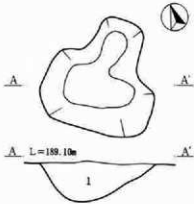
- 1 明褐色土 2~10mmのF.P.粒を多量に含む



第110図 白井南中道遺跡 87~89・93・97・105・106号土坑、97号土坑出土遺物

第5節 白井南中道遺跡2区遺構群

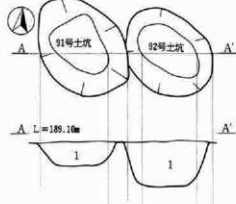
90号土坑



90号土坑

1 暗褐色土 1~10mのF P粒を多量に含む

91・92号土坑



91・92号土坑

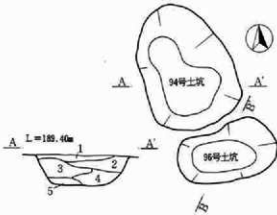
1 軽石 5mのF P粒の中に10~30mのF P粒を少量含む

94・95・96号土坑



95号土坑

1 暗褐色土 2に似るがF P粒がより少ない
2 暗褐色土 2~20mmのF P粒を含む



B L=189.40m

96号土坑

1 暗褐色土 2~3m・30mのF P粒を含む
2 灰褐色土 F A主体で5m前後のF P粒を多量に含む

94号土坑

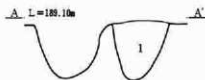
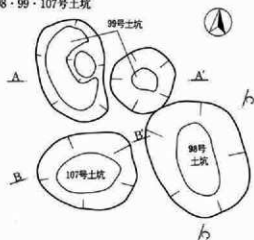
1 暗褐色土 5m前後のF P粒を含み横い
2 暗赤褐色土 3~5mのF P粒を含む。焼土を含みやや粘性を帯びる
3 軽石 2~5m・10~20mのF P粒がざっしり詰まる。2層までよごれている
4 軽石 3に似るが10~20mm以上のF P粒は含まない
5 軽石 3に似るが10~20mm以上のF P粒で占められている



第111図 白井南中道遺跡 90~92・94~96号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

98・99・107号土坑

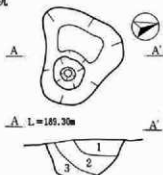


99号土坑
1 暗褐色土 2-5m・10-20mのF P粒を含み粗い



96号土坑
1 暗褐色土 F P粒・焼土を含む
2 暗褐色土 1に似るが焼土を含まない
3 軽石

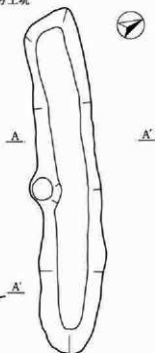
100号土坑



100号土坑

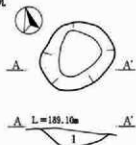
1 暗赤褐色土 2-3mの多量のF P粒の中に10-30mのF P粒を少量含む
2 暗赤褐色土 1に似るが5mのF P粒を多量に含む。炭化物少量含む
3 暗赤褐色土 1に似るが5-10mのF P粒を多量に含む

101号土坑



101号土坑
1 黒褐色土 2-20mのF P粒を多量に含む

102号土坑



102号土坑
1 軽石 2-10mのF P粒がぎっしり詰まる



第112図 白井南中道遺跡 98-102・107号土坑

ある。長軸は122cm、短軸は97cm、深さは36cmである。遺物の出土は見られない。

88号土坑

FO-54グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は190cm、短軸は94cm、深さは48cmである。遺物の出土は見られない。

89号土坑

FO-55グリッドに存在する土坑である。長軸は187cm、短軸は90cm、深さは46cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

93号土坑

FO-55グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は140cm、短軸は82cm、深さは35cmである。遺物の出土は見られない。

97号土坑

FO-55グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は110cm、短軸は80cm、深さは42cmである。鉄滓が出土している。図は滓と言うよりも釘などの鉄製品が溶け固まったように見られ、全体的に磁石によって強く引き付けられる。これは62号土坑出土の鉄滓と共通点を持つものである。

105号土坑

FO-55グリッドに存在する崩れた円形の土坑である。径は62cm、深さは34cmである。遺物の出土は見られない。

90号土坑

FM-55グリッドに存在する土坑である。長軸は122cm、短軸は120cm、深さは14cmである。遺物の出土は見られない。

91号土坑

FN-55グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は100cm、短軸は92cm、深さは47cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

92号土坑

FN-55グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は90cm、短軸は80cm、深さは27cmである。土師器の小片が多く出土している。

94号土坑

FO-56グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は137cm、短軸は102cm、深さは32cmである。遺物の出土は見られない。

95号土坑

FO-56グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で388cm、短軸は81cm、深さは36cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

96号土坑

FO-56グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は106cm、短軸は53cm、深さは40cmである。土師器、須恵器の小片が一片づつ出土している。

98号土坑

FN-54グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は127cm、短軸は100cm、深さは53cmである。煙管と考えられる銅製品の小片が出土している。

99号土坑

FN-55グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は110cm、短軸は68cm、深さは62cmである。遺物の出土は見られない。

107号土坑

FN-55グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は103cm、短軸は82cm、深さは40cmである。遺物の出土は見られない。

100号土坑

FN-56グリッドに存在する土坑である。長軸は102cm、短軸は70cm、深さは42cmである。遺物の出土は見られない。

101号土坑

FN-53グリッドに存在する土坑である。長軸は357cm、短軸は62cm、深さは22cmである。遺物の出土は見られない。

102号土坑

FN-55グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は81cm、短軸は70cm、深さは19cmである。遺物の出土は見られない。

103号土坑

FO-56グリッドに存在する歪んだ楕円形の土坑である。長軸は131cm、短軸は56cm、深さは37cmであ

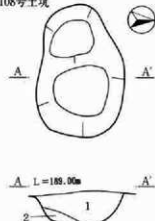
第3章 検出された遺構と遺物

103号土坑



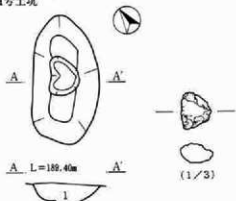
- 103号土坑
 1 黒褐色土 2~20mmのF P粒を多量に含み粗い
 2 雑石 2~3mmのF P粒中心

108号土坑



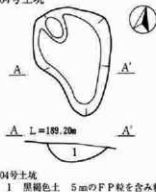
- 108号土坑
 1 雑石 2~10mmのよごれたF P粒がぎっしり詰まる
 2 帯灰褐色土 FAを主体とし2~3mmのF P粒を含む

111号土坑



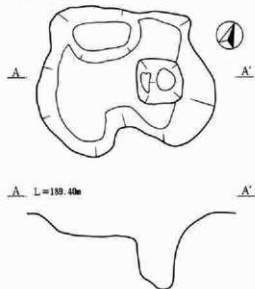
- 111号土坑
 1 雑石 5~10mmのよごれたF P粒がぎっしり詰まる

104号土坑



- 104号土坑
 1 黒褐色土 5mmのF P粒を含み粗い

109・110号土坑



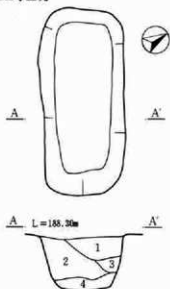
113号土坑



0 2m

第113図 白井南中道遺跡 103・104・108-111・113号土坑、111号土坑出土遺物

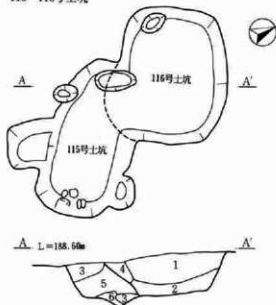
112号土坑



112号土坑

- 1 黒褐色土 5~10mmのF P粒を含む
- 2 黒褐色土 F P粒の細粒を多量に含みもろい
- 3 暗褐色土 小指頭大のF P粒が主体
- 4 黒褐色土 1に似る

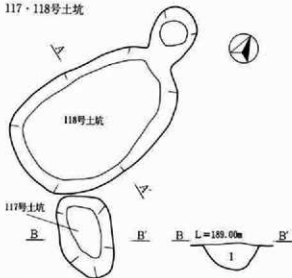
115・116号土坑



115・116号土坑

- 1 黒褐色土 2~5mmのF P粒を含む
- 2 黒褐色土 1に似るが10~20mmのF P粒を多量に含む
- 3 黒褐色土 1に似る
- 4 黒褐色土 3に似るが2~3mmのF P粒を多量に含む
- 5 黒褐色土 2~5mmのF P粒が斜方向に細粒に入る
- 6 黒褐色土 2~5mmのよごれたF P粒を非常に多く含む

117・118号土坑



117号土坑

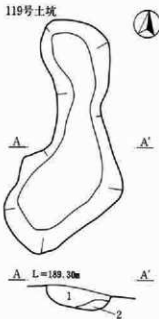
- 1 暗褐色土 土質は細かい。5mmほどのF P粒を多く含む



118号土坑

- 1 暗褐色土 2~5mmのF P粒を多量に含みしまりあり

119号土坑



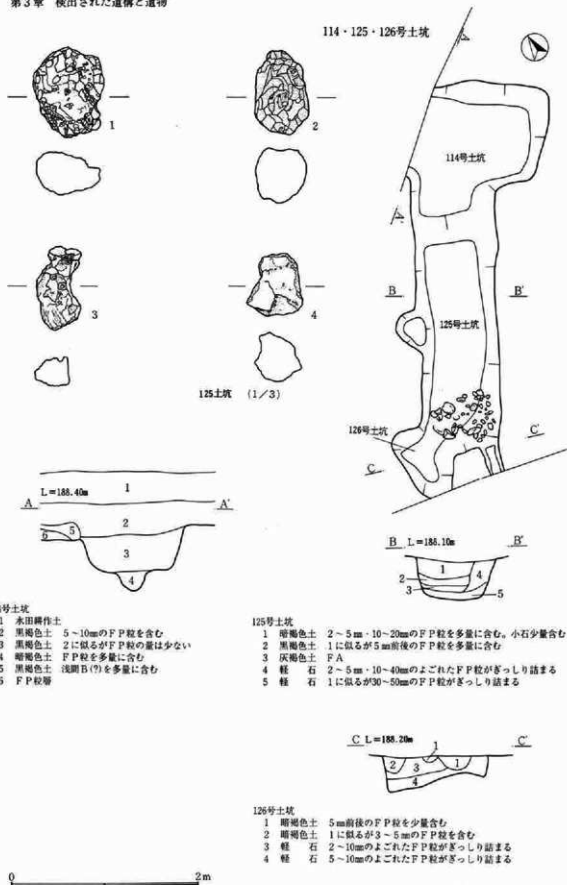
119号土坑

- 1 暗褐色土 10~20mmのF P粒を多量に含み粗い
- 2 暗褐色土 5mmのF P粒を多量に含む



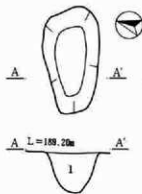
第114図 白井南中道遺跡 112・115~119号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



第115図 白井南中道遺跡 114・125・126号土坑、125号土坑出土遺物

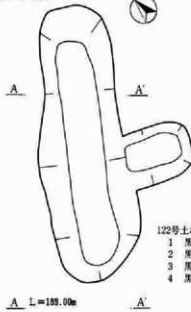
120号土坑



120号土坑

- 1 黒褐色土 2~5mmのF P粒を多く含み、10mm~20mmのF P粒を少量含む

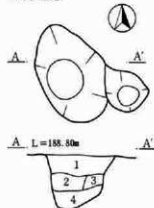
121号土坑



121号土坑

- 1 暗褐色土 2~20mmのF P粒を多量に含む
 2 暗黄褐色土 2~5mm・20~50mmのよれたF P粒を多量に含む
 3 暗褐色土 1に似る
 4 暗褐色土 1に似るが5mmのF P粒を多量に含む
 5 褐色土 5~10mmのF P粒を含む

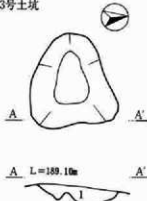
122号土坑



122号土坑

- 1 黒褐色土 2~20mmのF P粒を多量に含む
 2 黒褐色土 1に似るが2~5mmのF P粒が主体
 3 黒褐色土 1に似るが10~20mmのF P粒が主体
 4 黒褐色土 1に似るが10~20mmのF P粒が多い

123号土坑



123号土坑

- 1 暗褐色土 2~20mmのF P粒を多量に含む

124号土坑



124号土坑

- 1 黒褐色土 2~3mm・10~20mmのF P粒を含む
 2 暗褐色土 1に似るが2~3mmのF P粒を多量に含む
 3 軽石 2~5mmのF P粒がどっしり詰まる



第116図 白井南中道遺跡 120~124号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

る。遺物の出土は見られない。

104号土坑

FN-56グリッドに存在する土坑である。長軸は116cm、短軸は60cm、深さは19cmである。遺物の出土は見られない。

108号土坑

FN-57グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は140cm、短軸は92cm、深さは35cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

109号土坑

FO-56グリッドに存在する土坑である。長軸は140cm、短軸は85cm、深さは80cmである。遺物の出土は見られない。

110号土坑

FN-56グリッドに存在する土坑である。長軸は162cm、短軸は100cm、深さは23cmである。遺物の出土は見られない。

111号土坑

FN-57グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は135cm、短軸は70cm、深さは23cmである。土師器の他、陶磁器片、鉄滓が出土している。図は小形の鉄滓である。比重は同じ大きさの石よりは重く、鉄よりは軽い程度である。気泡は見られず、全体的に磁石によって強く引き付けられる。

112号土坑

EP-64グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は200cm、短軸は86cm、深さは55cmである。土師器の小片が僅かに出土している。

113号土坑

EP-63グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は138cm、短軸は88cm、深さは43cmである。土師器の小片が僅かに出土している。

114号土坑

EP-64グリッドに存在する土坑である。長軸は135cm、短軸は120cm、深さは60cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

115号土坑

FC-56グリッドに存在する隅丸方形の土坑で、116

号土坑に切られる。長軸は168cm、短軸は90cm、深さは38cmである。遺物の出土は見られない。

116号土坑

FC-56グリッドに存在する隅丸方形の土坑で、115号土坑を切る。長軸は145cm、短軸は62cm、深さは44cmである。遺物の出土は見られない。

117号土坑

FM-56グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は90cm、短軸は58cm、深さは28cmである。遺物の出土は見られない。

118号土坑

FM-56グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は188cm、短軸は120cm、深さは16cmである。遺物の出土は見られない。

119号土坑

FN-56・57グリッドに存在する土坑である。長軸は298cm、短軸は67cm、深さは21cmである。遺物の出土は見られない。

120号土坑

FL-57グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は108cm、短軸は50cm、深さは41cmである。遺物の出土は見られない。

121号土坑

FL-57グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は293cm、短軸は74cm、深さは44cmである。遺物の出土は見られない。

122号土坑

FJ-58グリッドに存在する土坑である。長軸は122cm、短軸は72cm、深さは57cmである。土師器、須恵器の小片が出土している。

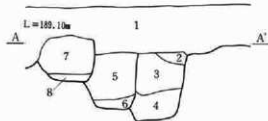
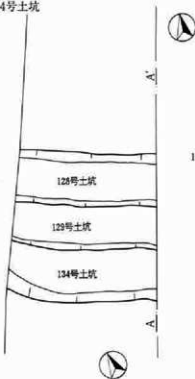
123号土坑

FN-54グリッドに存在する土坑である。長軸は96cm、短軸は85cm、深さは58cmである。土師器の小片が1片のみ出土している。

124号土坑

FG-54グリッドに存在する土坑である。長軸は123cm、短軸は71cm、深さは30cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

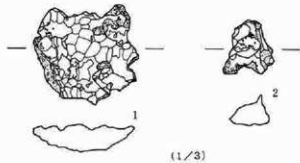
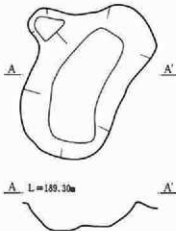
128・129・134号土坑



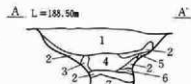
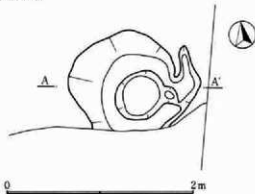
126・129・134号土坑

- 1 褐色土 5~10mmのF P粒を含む。10mlほどの小石少量含む
- 2 暗褐色土 2~5mmのF P粒を含む
- 3 暗褐色土 2~10mmのF P粒を多量に含む
- 4 暗褐色土 5mm前後のF P粒を1より多量に含む
- 5 褐色土 3に似るがF Aが混入する
- 6 褐色土 5と同様だが10mlほどのF P粒が多い
- 7 黒褐色土 3に似るが色調がやや暗い
- 8 黒褐色土 7に似る。5~10mmのF P粒を含む

135号土坑



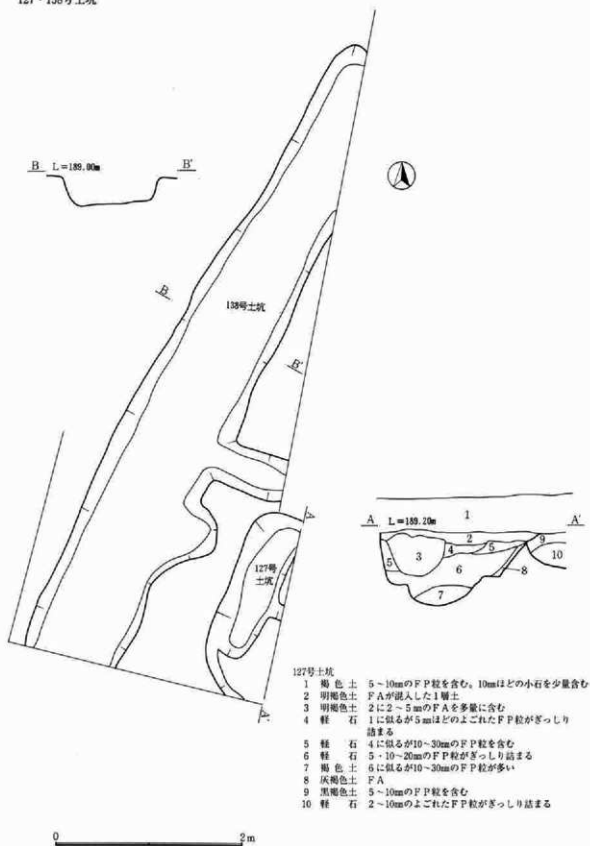
137号土坑



137号土坑

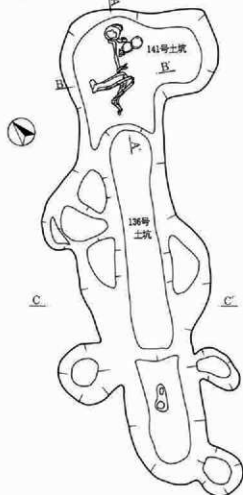
- 1 暗褐色土 2~10mmのF P粒を多量に含む粗い
- 2 暗黄褐色土 2~3mmのF P粒層
- 3 灰褐色土 F A、2~5mmのF P粒を少量含む
- 4 暗褐色土 1に似るが5mm前後のF P粒が多い
- 5 灰褐色土 2に3が混入する
- 6 暗褐色土 2に4が混入する
- 7 暗褐色土 2に4が多量に混入する

第117図 白井南中道遺跡 128・129・134・135・137号土坑、135号土坑出土遺物

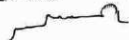


第118図 白井南中道遺跡 127・138号土坑

136・141号土坑



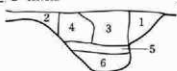
A L=189.20m A'



B L=189.20m B'

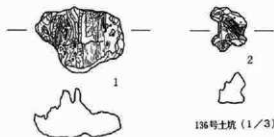


C L=189.20m C'



136号土坑

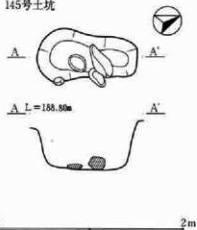
- 1 暗赤褐色土 5mmまでのF P粒を含む
- 2 赤褐色土 2~3mm・20~50mmのF P粒を多量に含む
- 3 暗褐色土 2~10mmのF P粒を多量に含む
- 4 暗褐色土 3に似るが10~50mmのF P粒を多量に含む
- 5 褐色土 3に似る
- 6 黒褐色土 5~20mmのF P粒を含みやや粗い



143号土坑



145号土坑



0 2m

第119図 白井南中道遺跡 136・141・143・145号土坑、136号土坑出土遺物

125号土坑

EP-65グリッドに存在する土坑である。長軸は225cm、短軸は83cm、深さは40cmである。土師器、須恵器、陶磁器の小片の他、鉄滓が出土している。1は気泡が少なく、重みがあり、実測した面が磁石に引き付けられる力が強く、裏面がやや弱い。2は全体に極めて細かい気泡が見られ、全面が比較的強く磁石に引き付けられる。3は気泡が見られず、一部黒いガラス質が付着している。磁石に引き付けられる力はガラス質の部分を除いて強い。4は気泡が少なく、比重も比較的軽い。磁石に引き付けられる力は実測面では弱く、裏面が強い。

126号土坑

EP-65グリッドに存在する土坑である。長軸は107cm、短軸は50cm、深さは37cmである。土師器の小片が僅かに出土している。

128号土坑

FE-52グリッドに存在する溝状の土坑で、129号土坑を切る。長軸は検出部分で147cm、短軸は57cm、深さは69cmである。遺物の出土は見られない。

129号土坑

FE-52グリッドに存在する溝状の土坑で、128号土坑を切り、134号土坑に切られる。長軸は152cm、短軸は45cm、深さは160cmである。遺物の出土は見られない。

134号土坑

FE-52グリッドに存在する溝状の土坑で、129号土坑を切る。長軸は108cm、短軸は55cm、深さは47cmである。遺物の出土は見られない。

135号土坑

EN-56グリッドに存在する歪んだ楕円形の土坑である。長軸は177cm、短軸は103cm、深さは31cmである。土師器、須恵器の小片が多く出土し、また鉄滓も出土している。1は楕円状の一部と考えられ、気泡が多く、比重が軽く、磁石に引き付けられる力も弱い。鉄分はほとんど含まれていないと考えられる。2は気泡がほとんど見られず、所処にガラス質が付着している。磁石に引き付けられる力は全面にわたっ

て強い。

137号土坑

ER-57グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は140cm、短軸は105cm、深さは67cmである。土師器、須恵器の他、陶磁器、軽石等が出土している。

127号土坑

FB-52グリッドに存在する土坑である。長軸は200cm、短軸は検出部分で63cm、深さは78cmである。土師器、須恵器の他、陶磁器片が出土している。

138号土坑

FB・FC-52グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は714cm、短軸は140cm、深さは26cmである。土師器、須恵器の小片が一片づつ出土している。

136号土坑

EN-55・56グリッドに存在する土坑で、141号土坑を切る。長軸は376cm、短軸は82cm、深さは65cmである。鉄滓が出土している。1は気泡が多く、比重は極めて軽い。所処に木炭の圧痕が見られる。磁石に引き付けられる力はほとんど無いに等しい。2は気泡はほとんど確認できず、比重はやや重い。磁石に引き付けられる力は全面にわたって強い。

141号土坑

EN-56グリッドに存在する楕円形の土坑で、墓壇である。136号土坑に切られる。人骨が検出されている。その他の遺物の出土は見られない。

143号土坑

FP-55グリッドに存在する崩れた隅丸方形の土坑である。長軸は131cm、短軸は95cm、深さは48cmである。遺物の出土は見られない。

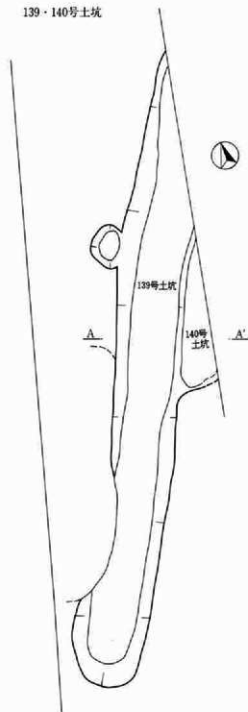
145号土坑

FC-55グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は106cm、短軸は45cm、深さは43cmである。遺物の出土は見られない。

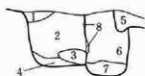
139号土坑

FC・FD-52グリッドに存在する溝状の土坑で、140号土坑に切られる。長軸は検出部分で650cm、短軸は45cm、深さは56cmである。土師器、須恵器の小片が僅かに出土している。

139・140号土坑



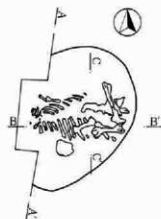
A L=189.20m A'



139・140号土坑

- | | |
|--------|----------------------------|
| 1 暗褐色土 | 2～5mmのF P粒を含む。FAが混入する |
| 2 暗褐色土 | 1に2～5mm・10～30mmのF P粒を多量に含む |
| 3 暗褐色土 | 1に似るが2～5mmのF P粒をより多く含む |
| 4 暗褐色土 | 1にFAをブロック状に含む |
| 5 暗褐色土 | |
| 6 暗褐色土 | 2に似るが2～3mmのF P粒がより多い |
| 7 暗褐色土 | 6に5～10mmのF P粒が多くなる |
| 8 灰褐色土 | FA |

142号土坑



A L=189.30m A'

B L=189.30m B'

C L=189.30m C'

0 2m

第120図 白井南中道遺跡 139・140・142号土坑

140号土坑

FD-52グリッドに存在する土坑で、139号土坑を切る。土師器、須恵器の小片が出土している。

142号土坑

FL-58グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は160cm、短軸は125cm、深さは25cmである。131号土坑、132号土坑と同様に、頭骨を欠く牛の骨

が出土している。検出された骨は、右肩胛骨、上腕骨、橈尺骨、寛骨、大腿骨、胫骨、背骨、肋骨の一部のみで、頭骨と、左半の骨を欠損している。他の同様の土坑のように、埋められた時点からこれらの骨は無かったと考えられる。骨の他に遺物の出土は見られない。

第6節 白井南中道遺跡3区遺構群

3区は遺構の分布が最も希薄な区で、数基の土坑が確認されているに過ぎないが、そのほとんどは墓塚である。区の北端には、4区に続くローム探掘坑が存在している。

148号土坑

GI-50・51グリッドに存在する長い楕円形の土坑である。長軸は511cm、短軸は100cm、深さは75cmである。遺物の出土は見られない。

149号土坑

GK・GL-51・52グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は885cm、短軸は87cm、深さは24cmである。寛永通寶が一枚出土している。直径2.30cm、郭は一辺0.65cm、重さは3.71gである。

150号土坑

GN-50・51グリッドに存在する長い楕円形の土坑である。長軸は403cm、短軸は67cm、深さは22cmである。遺物の出土は見られない。

151号土坑

GP-50グリッドに存在する円形の土坑である。径は117cm、深さは31cmである。遺物の出土は見られない。

152号土坑

GI-48グリッドに存在する楕円形の土坑で、長軸160cm、短軸71cm、深さ30cmの墓塚である。膝を曲げ、足を揃えるように埋葬された人骨が確認されている。頭は頭骨以下、左右尺骨、橈骨、上腕骨、背骨、肋骨、骨盤、大腿骨、胫骨等が検出されている。皇宋通寶が一枚出土している。直径2.50cm、郭は一辺0.70cm、重さは3.19gで、初鋳造年は1039年である。

153号土坑

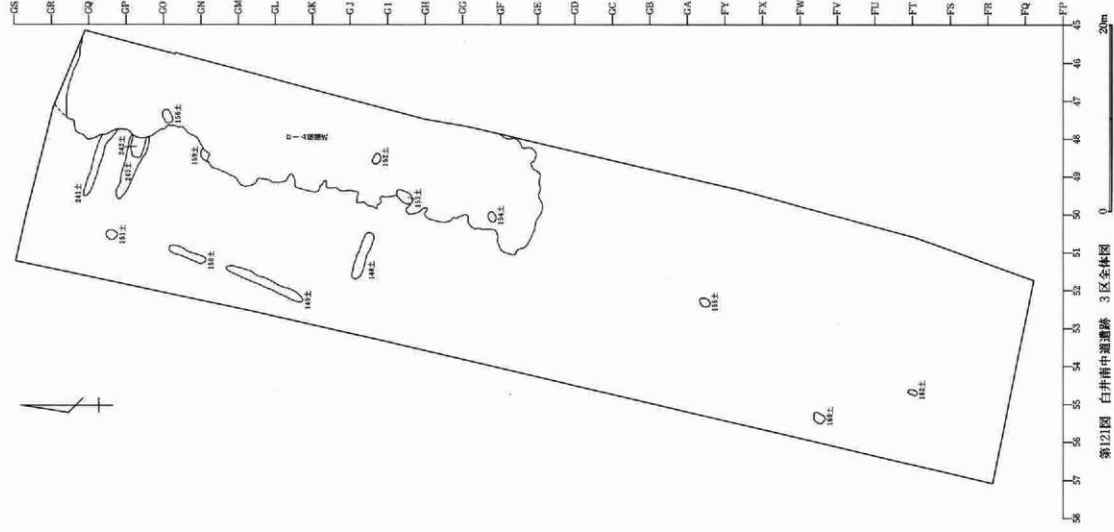
GH-49グリッドに存在する楕円形の土坑で、長軸181cm、短軸111cm、深さ48cmの墓塚である。手足を折り曲げるようにして埋葬された人骨が確認されている。骨格はほとんど全身残っており、骨以外の遺物は検出されていない。

154号土坑

GF-49グリッドに存在する楕円形の土坑で、長軸110cm、短軸81cm、深さ13cmの墓塚である。人骨と思われる骨が確認されているが、保存状態は極めて悪く、胫骨以外は部位を確定できない。流れ込みと考えられるが、土器、陶磁器の破片が出土している。1は土鍋の把手が付く部分で、把手を引かける穴が3箇所内側から外側に向けて穿たれている。胎土は細砂粒を含み、色調は黒褐色を呈する。2は陶器の大皿で、底部から体部の一部の小片である。復元底径14.0cm、残存高は4.0cmである。体部外面は回転ヘラケズリ、底部は削り出し高台で、鉄軸が施されている。内面には白砂による三鳥文が見られる。胎土は細砂粒を含み、色調は鈍い赤褐色を呈する。

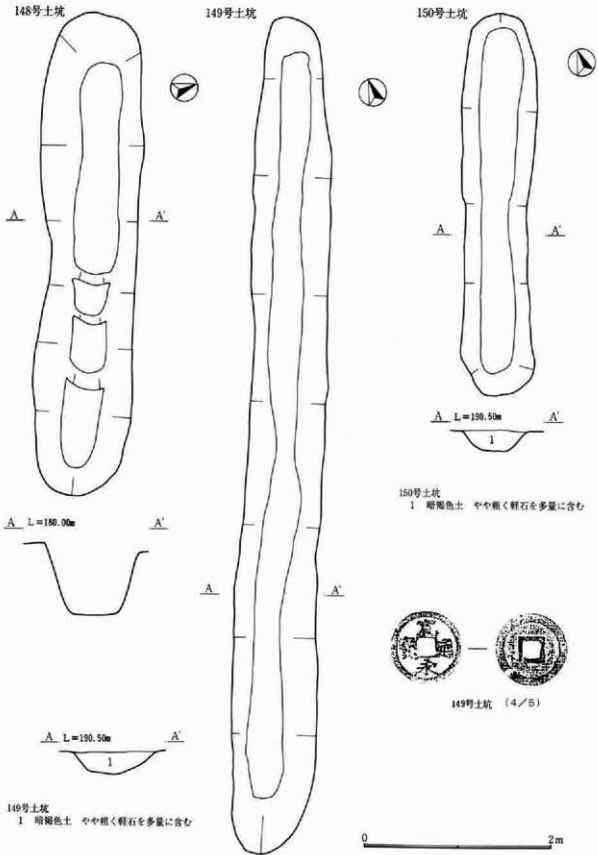
155号土坑

FY-52グリッドに存在する楕円形の土坑で、長軸123cm、短軸82cm、深さ19cmの墓塚である。人骨と思われる骨が確認されているが、保存状態は極めて悪く、頭骨の他は橈骨の一部が確認出来るのみである。銭が5枚確認されている。銭は全て寛永通寶であり、1は直径2.30cm、郭は一辺が0.70cm、重さは3.06g。2は直径2.45cm、郭は一辺が0.65cm、重さは3.33g。3は直径2.25cm、郭は一辺が0.70cm、重さは2.25g。



第121圖 白井南中環線 3区全体圖

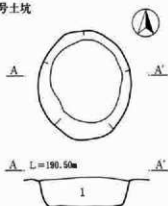
第6節 白井南中道遺跡3区遺構群



第122図 白井南中道遺跡 148~150号土坑、149号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

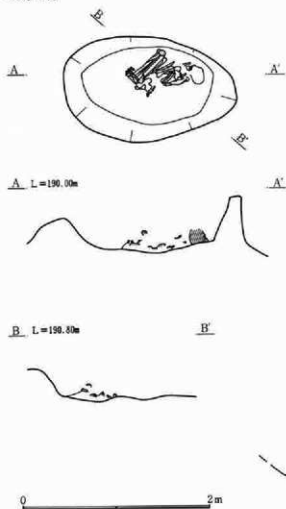
151号土坑



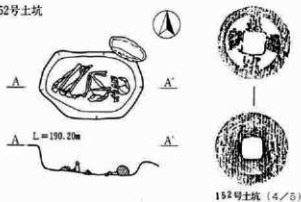
151号土坑

1 暗褐色土 やや粗く軽石を多量に含む。炭化物を少量含む

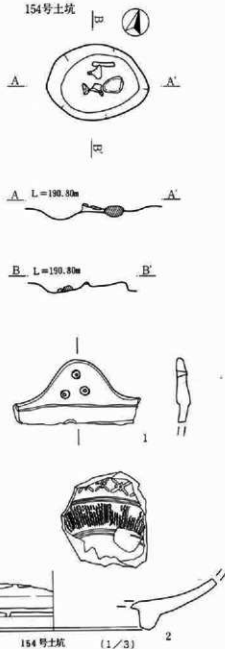
153号土坑



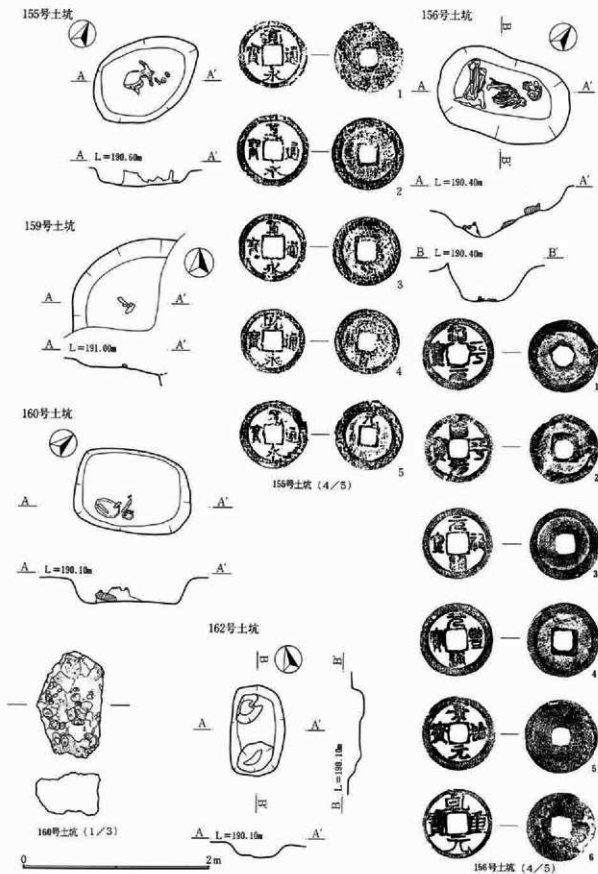
152号土坑



154号土坑



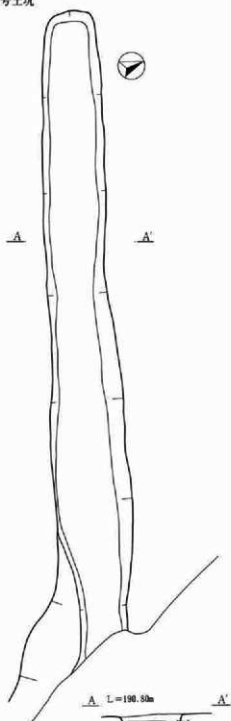
第123図 白井南中道遺跡 151-154号土坑、152・154号土坑出土遺物



第124図 白井南中道遺跡 155・156・159・160・162号土坑、155・156・160号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

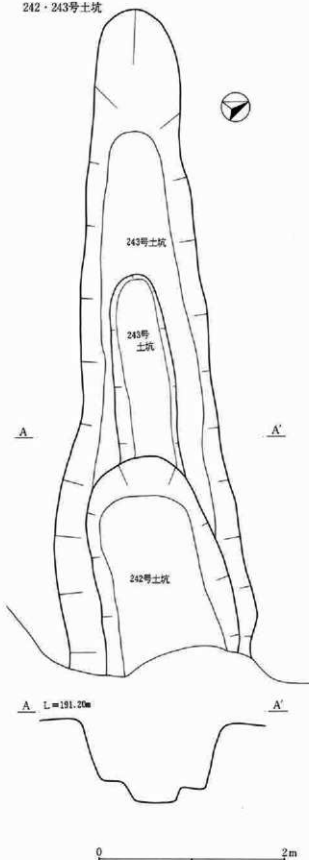
241号土坑



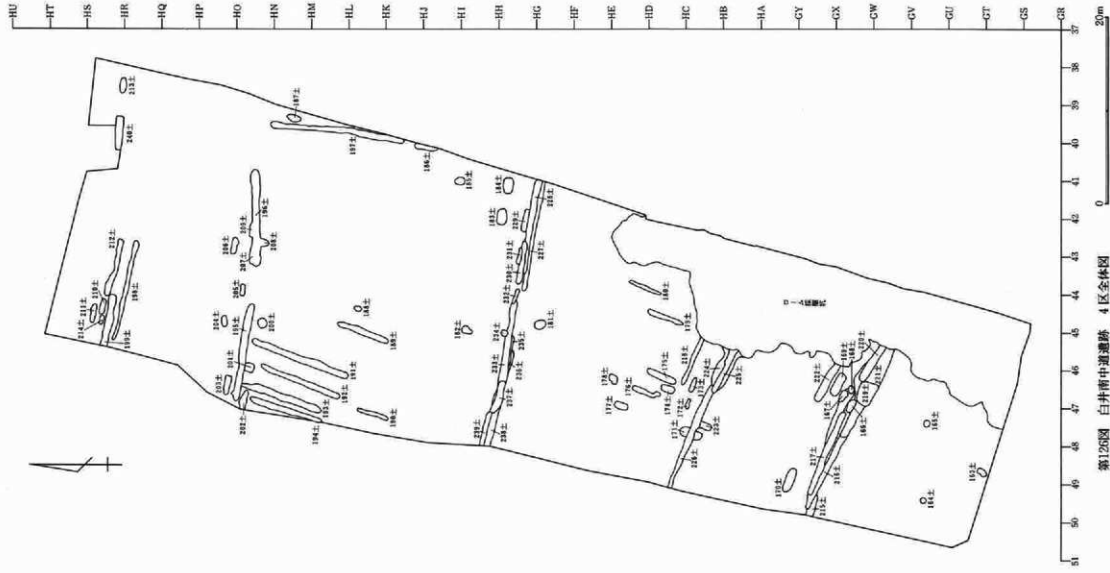
241号土坑

- 1 暗褐色土 2に5~30mmの軽石を多量に含む
- 2 暗褐色土 やや粗く軽石を含む
- 3 暗褐色土 2に5mm前後の軽石を多量に含む

242・243号土坑



第125図 白井南中道遺跡 241~243号土坑



4は直径2.15cm、郭は一辺が0.65cm、重さは2.32g。
5は直径2.35cm、郭は一辺が0.60cm、重さは2.50gであり、「元」の背文を持つ。その他の遺物は確認されていない。

156号土坑

GN-47グリッドに存在する楕円形の土坑で、長軸142cm、短軸94cm、深さ52cmの墓塚である。頭部が潰れているが、ほぼ全身骨格の骨が確認されている。手足を折り曲げた形で、ほぼ土坑の主軸に沿って横たわっている。人骨の他に銭が出土している。1・2は治平元寶で、1は直径2.40cm、郭は一辺0.70cm、重さは3.68gであり、2は直径2.30cm、郭は一辺0.60cm、重さは2.19gである。初鋳造年は1064年である。3は元祐通寶で、直径2.40cm、郭は一辺0.70cm、重さは3.92gである。初鋳造年は1086年である。4は元豊通寶で、直径2.45cm、郭は一辺0.65cm、重さは3.08gである。初鋳造年は1078年である。5は景祐元寶で、直径2.45cm、郭は一辺0.55cm、重さは2.88gである。初鋳造年は1034年である。6は貞元重寶で、直径2.25cm、郭は一辺0.70cm、重さは2.71gである。初鋳造年は666年である。

159号土坑

GM-48グリッドに存在する土坑で、ローム探掘坑に切られる。骨片が出土しているが、残存状態は極めて悪く、部位の確定は不可能である。骨以外の遺

物は見られない。

160号土坑

FV-55グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は125cm、短軸は87cm、深さは28cmである。馬あるいは牛と考えられる骨が検出されている。骨は中足骨が確認できる他は部位の確定はできない。埋土中より鉄滓が検出されている。鉄滓は大小の気泡が数多く見られ、磁石によって引き付けられる力はやや弱い。

162号土坑

FT-54グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は97cm、短軸は58cm、深さは15cmである。遺物の出土は見られない。

241号土坑

GP-48グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で663cm、短軸は64cm、深さは30cmである。遺物の出土は見られない。

242号土坑

GO-48グリッドに存在する土坑である。長軸は検出部分で205cm、短軸は133cm、深さは80cmである。遺物の出土は見られない。

243号土坑

GO-48・49グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で676cm、短軸は142cm、深さは26cmである。遺物の出土は見られない。

第7節 白井南中道遺跡4区遺構群

4区の南半には3区に続いてローム探掘坑が見られる。その他の遺構としては、近世から近代にかけての耕作痕と考えられる溝状の土坑が数多く検出されている。

146号土坑

長軸は131cm、短軸は110cm、深さは51cmの土坑である。骨片が見られる。

157号土坑

長軸は123cm、短軸は105cm、深さは44cmの墓塚で、人骨が検出されている。骨はほぼ全身が揃っており、手足を曲げるようにして埋葬されている。骨以外の遺

物は検出されていない。

158号土坑

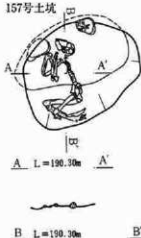
長軸は170cm、短軸は89cm、深さは49cmの墓塚で、人骨が検出されている。骨はほぼ全身が揃っており、土坑の長軸に沿って、横たわるように、背せに埋葬されている。骨の腰の部分に、漆の小片が見られる。副葬品として、銭が5枚検出されている。1は熙寧元寶で、直径2.40cm、郭は一辺0.70cm、重さは4.26g、初鋳造年は1068年である。2は祥符元寶で、直径2.45cm、郭は一辺0.75cm、重さは2.92g、初鋳造年は1008年である。3は紹聖元寶で、直径2.35cm、郭は一

第3章 検出された遺構と遺物

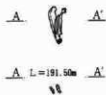
146号土坑



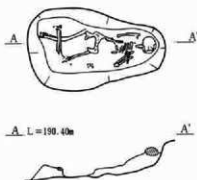
157号土坑



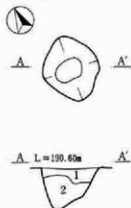
161号土坑



158号土坑



164号土坑



164号土坑

- 1 黒褐色土 よごれたF P粒 (小粒) を含み堅くしまっている
- 2 暗褐色土 よごれたF P粒を多量に含みややもろい

0 2m

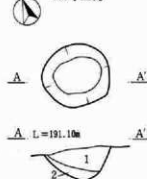
163号土坑



163号土坑

- 1 黒褐色土 よごれたF P粒 (小粒) を含み堅くしまっている
- 2 暗褐色土 よごれたF P粒を多量に含みややもろい

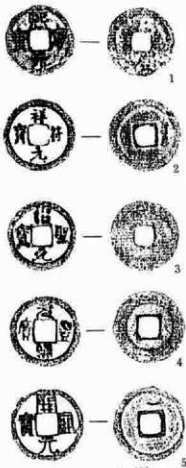
165号土坑



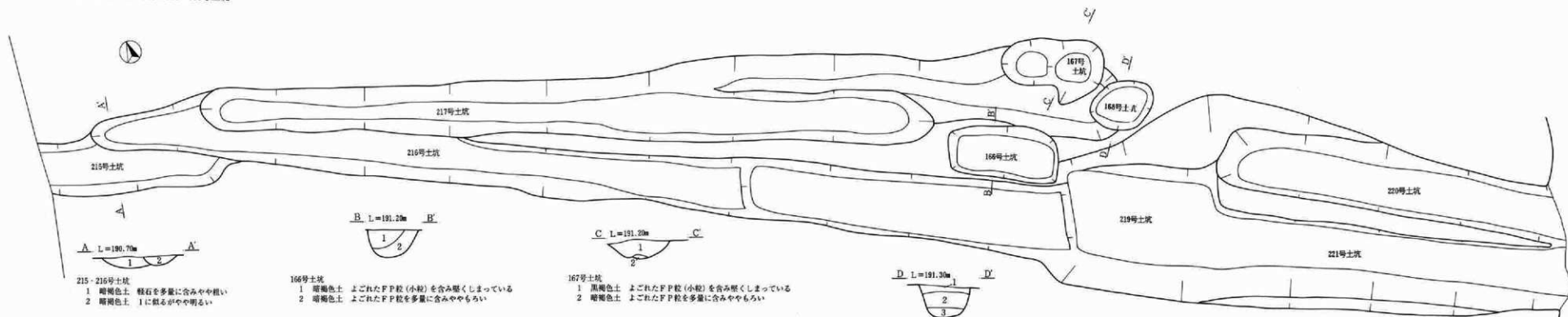
165号土坑

- 1 暗褐色土 2 よりも大粒のよごれたF P粒を多量に含む
- 2 暗褐色土 よごれたF P粒を多量に含む

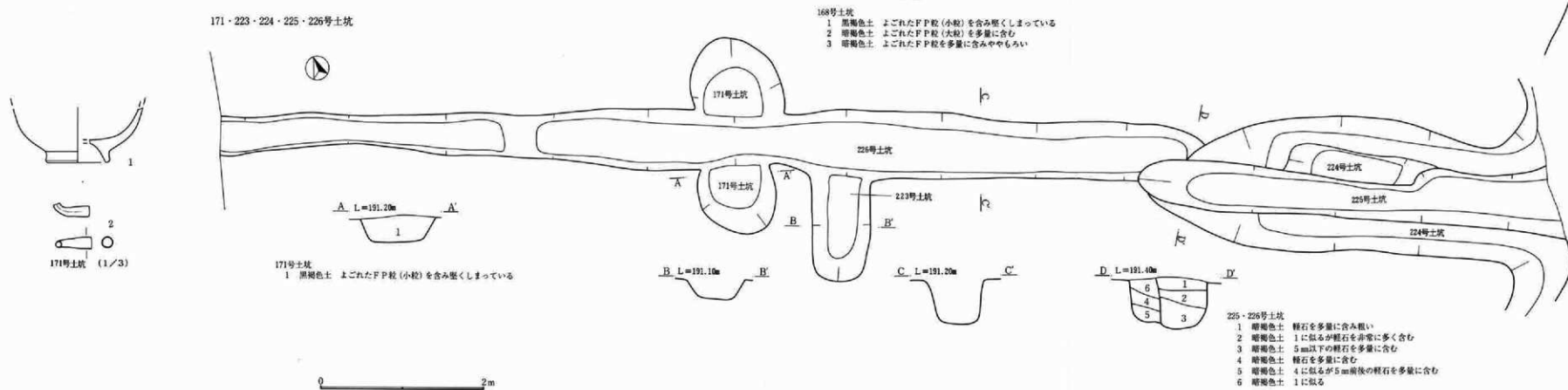
158号土坑 (4/5)



第127図 白井南中道遺跡 146・157・158・161・163～165号土坑、158号土坑出土遺物



171・223・224・225・226号土坑



第128図 白井南中道遺跡 166-168・215-217・219-221・171・223-226号土坑、171号土坑出土遺物

辺0.70cm、重さは3.26g、初鋳造年は1094年である。4は元豊通寶で、直径2.45cm、郭は一辺0.75cm、重さは4.12g、初鋳造年は1078年である。5は開元通寶で、直径2.50cm、郭は一辺0.75cm、重さは3.88g、初鋳造年は621年である。

163号土坑

GT-48グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は102cm、短軸は53cm、深さは19cmである。遺物の出土は見られない。

164号土坑

GU-49グリッドに存在する崩れた円形の土坑である。径は70cm、深さは46cmである。遺物の出土は見られない。

165号土坑

GU-47グリッドに存在する円形の土坑である。径は72cm、深さは29cmである。遺物の出土は見られない。

166号土坑

GW-46・47グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は143cm、短軸は65cm、深さは35cmである。遺物の出土は見られない。

167号土坑

GW-46グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は135cm、短軸は59cm、深さは26cmである。遺物の出土は見られない。

168号土坑

GW-46グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は78cm、短軸は65cm、深さは41cmである。遺物の出土は見られない。

215号土坑

GX-49グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で293cm、短軸は70cm、深さは15cmである。遺物の出土は見られない。

216号土坑

GW-47グリッドに存在する溝状の土坑である。短軸は80cm、深さは12cmである。遺物の出土は見られない。

217号土坑

GX-47・48グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は956cm、短軸は72cm、深さは19cmである。遺物の出土は見られない。

219号土坑

GW-46グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は170cm、短軸は165cm、深さは79cmである。遺物の出土は見られない。

220号土坑

GV-45・46グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で435cm、短軸は87cm、深さは86cmである。遺物の出土は見られない。

221号土坑

GV-45グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で460cm、短軸は110cm、深さは58cmである。遺物の出土は見られない。

171号土坑

HB-47グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は250cm、短軸は75cm、深さは32cmである。陶磁器、煙管等が出土している。1は陶器の柄で、底部1/2と体部の一部が残存し、復元底径5.4cm、残存高は5.0cmである。酸化炎焼成の素地に透明の釉を施している。胎土は細砂粒を含み、色調は鈍い黄橙色を呈する。2は煙管の雁首である。

223号土坑

HB-47グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は127cm、短軸は70cm、深さは26cmである。遺物の出土は見られない。

224号土坑

HA-45グリッドに存在する土坑である。長軸は495cm、短軸は140cm、深さは55cmである。遺物の出土は見られない。

225号土坑

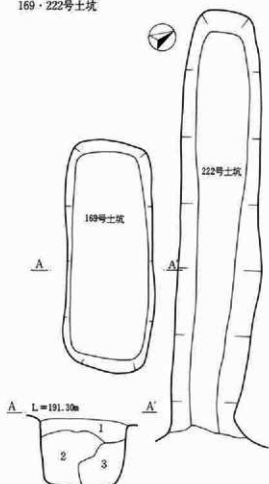
HB-46グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で510cm、短軸は56cm、深さは50cmである。遺物の出土は見られない。

226号土坑

HB-46グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で22m、短軸は81cm、深さは63cmであ

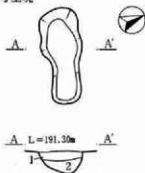
第3章 検出された遺構と遺物

169・222号土坑



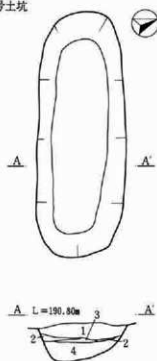
- 169号土坑
- 1 黒褐色土 よごれたF P粒(小粒)を含み堅くしまっている
 - 2 暗褐色土 よごれたF P粒を多量に含みややもろい
 - 3 暗褐色土 2に似るがよごれたF P粒・FAブロックを少量含む

172号土坑



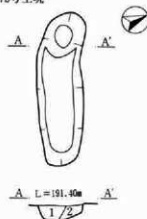
- 172号土坑
- 1 黒褐色土 よごれたF P粒(小粒)を含み堅くしまっている
 - 2 暗褐色土 よごれたF P粒を多量に含みややもろい

170号土坑



- 170号土坑
- 1 黒褐色土 よごれたF P粒(小粒)を含み堅くしまっている
 - 2 黒褐色土 F P粒を多量に含む
 - 3 黒褐色土 よごれたF P粒(小粒)を含み堅くしまっている
 - 4 黒褐色土 F P粒

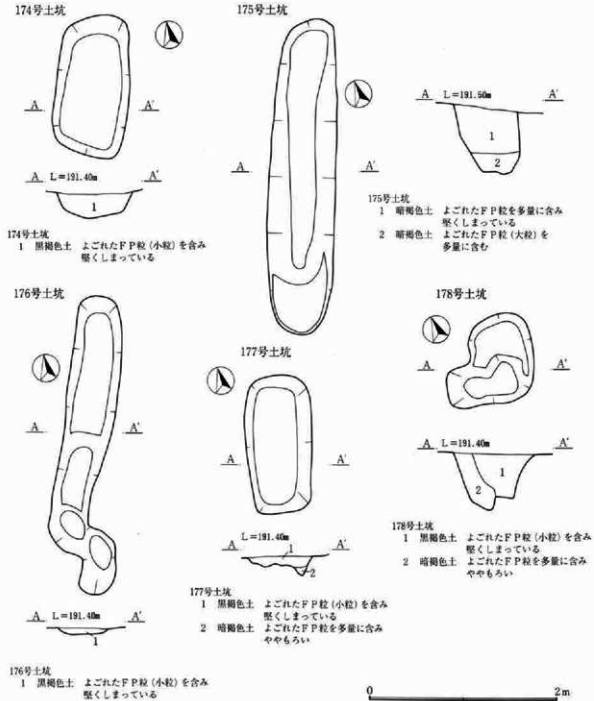
173号土坑



- 173号土坑
- 1 黒褐色土 よごれたF P粒(小粒)を含み堅くしまっている
 - 2 暗褐色土 よごれたF P粒を多量に含みややもろい

0 2m

第129図 白井南中道遺跡 169・170・172・173・222号土坑



第130図 白井南中道遺跡 174～178号土坑

る。遺物の出土は見られない。

169号土坑

GW・GX-46グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は248cm、短軸は92cm、深さは73cmである。遺物の出土は見られない。

222号土坑

GX-46グリッドに存在する溝状の土坑である。長

軸は検出部分で450cm、短軸は83cm、深さは56cmである。遺物の出土は見られない。

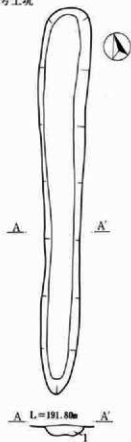
170号土坑

GY-48グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は257cm、短軸は93cm、深さは31cmである。遺物の出土は見られない。

172号土坑

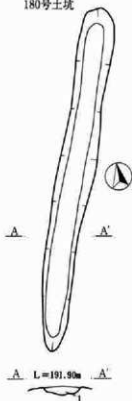
第3章 検出された遺構と遺物

179号土坑



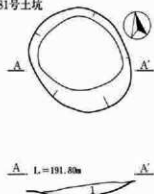
179号土坑
1 暗褐色土 よごれたF P粒を少量含む

180号土坑



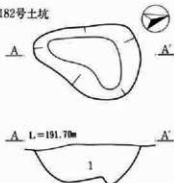
180号土坑
1 暗褐色土 よごれたF P粒を少量含む

181号土坑



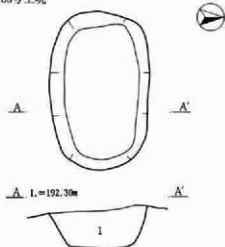
181号土坑
1 暗褐色土 よごれたF P粒を少量含む

182号土坑



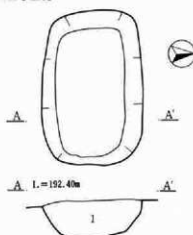
182号土坑
1 黒褐色土 よごれたF P粒(小粒)を多量に含む

183号土坑



183号土坑
1 軽石 F P粒が主

184号土坑



184号土坑
1 軽石 F P粒が主

0 2m

第131図 白井南中道遺跡 179~184号土坑

HB-46グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は102cm、短軸は43cm、深さは24cmである。遺物の出土は見られない。

173号土坑

HB-46グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は161cm、短軸は46cm、深さは15cmである。遺物の出土は見られない。

174号土坑

HC-46グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は150cm、短軸は79cm、深さは25cmである。遺物の出土は見られない。

175号土坑

HC-46グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は330cm、短軸は71cm、深さは68cmである。遺物の出土は見られない。

176号土坑

HD-46グリッドに存在する土坑である。長軸は275cm、短軸は50cm、深さは7cmである。遺物の出土は見られない。

177号土坑

HD-46グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は145cm、短軸は67cm、深さは20cmである。遺物の出土は見られない。

178号土坑

HD-46グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は93cm、短軸は67cm、深さは60cmである。遺物の出土は見られない。

179号土坑

HC-44グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は406cm、短軸は38cm、深さは11cmである。遺物の出土は見られない。

180号土坑

HC・HD-43グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は365cm、短軸は40cm、深さは10cmである。遺物の出土は見られない。

181号土坑

HF-44グリッドに存在する円形の土坑である。径は110cm、深さは12cmである。遺物の出土は見られ

ない。

182号土坑

HH-44グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は192cm、短軸は80cm、深さは42cmである。遺物の出土は見られない。

183号土坑

HG-41グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は167cm、短軸は102cm、深さは39cmである。遺物の出土は見られない。

184号土坑

HG-41グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は161cm、短軸は107cm、深さは38cmである。遺物の出土は見られない。

185号土坑

HI-41グリッドに存在する崩れた円形の土坑である。径は105cm、深さは2cmである。遺物の出土は見られない。

186号土坑

HJ・HI-40グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は238cm、短軸は検出部分で90cm、深さは75cmである。遺物の出土は見られない。

188号土坑

HK-44グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は82cm、短軸は53cm、深さは6cmである。遺物の出土は見られない。

189号土坑

HK-44・45グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は576cm、短軸は61cm、深さは48cmである。遺物の出土は見られない。

190号土坑

HK-47グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は340cm、短軸は40cm、深さは21cmである。遺物の出土は見られない。

187号土坑

HM-39グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は148cm、短軸は66cm、深さは26cmである。遺物の出土は見られない。

191号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

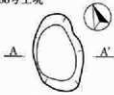
185号土坑



A L=192.40m A'

185号土坑
1 軽石 F Pが主

188号土坑



A L=191.70m A'

188号土坑
1 黒褐色土 F P粒を含む(中世)

HL・HM-45・46グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は18.2m、短軸は84cm、深さは70cmである。遺物の出土は見られない。

192号土坑

HL・HM-46グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は900cm、短軸は64cm、深さは62cmである。磁器の向付が出土している。高台部分と口縁部が1/3残存し、復元口径7.6cm、底径3.6cm、器高は5.2cmの蕎麦猪口状を呈し、深向の一種であると思われる。口唇部は輪花状に歪みをもつ。体部外面には柄の葉をかたどった染付の文様が見られる。

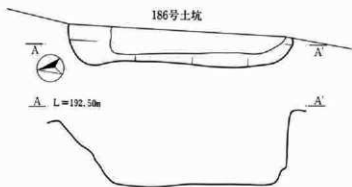
193号土坑

HL・HM-46グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で860cm、短軸は78cm、深さは51cmである。遺物の出土は見られない。

194号土坑

HM・HN-46・47グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は800cm、短軸は70cm、深さは52cmである。遺物の出土は見られない。

186号土坑



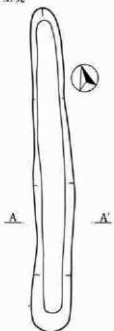
A L=192.50m A'

189号土坑



A L=191.40m A'

190号土坑



A L=191.60m A'

190号土坑
1 暗褐色土 FAが多い

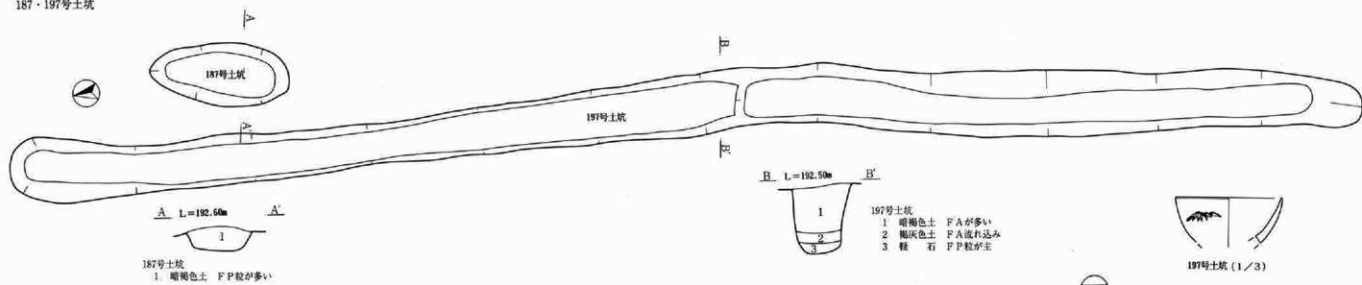
189号土坑

1 軽石 F P粒が主
2 暗褐色土 F P粒が多い

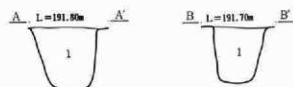
0 2m

第132図 白井南中道遺跡 185・186・188～190号土坑

187・197号土坑

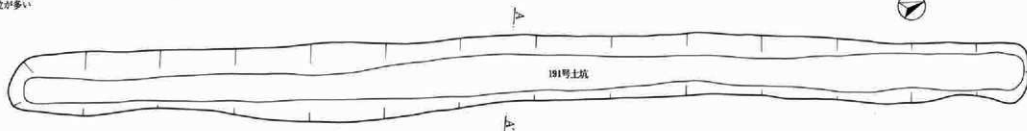
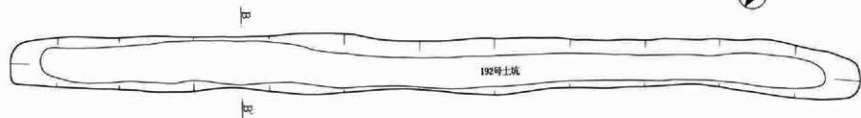


191・192号土坑



191号土坑
1 暗褐色土 F P粒を含む(近縁以降)

192号土坑
1 軽石 F P粒が多い

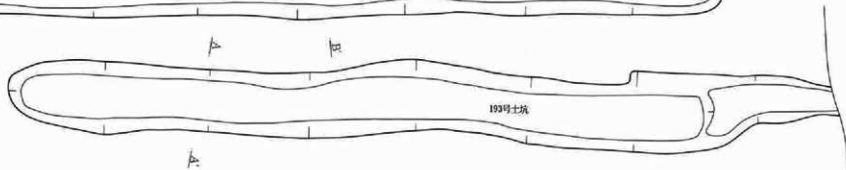
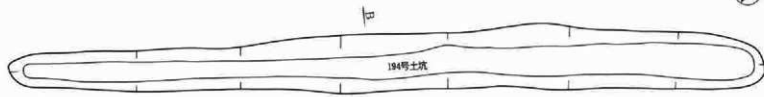


192号土坑 (1/3)

193・194号土坑



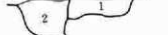
193号土坑
1 軽石 F P粒が多い



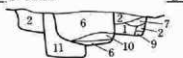
第133图 白井南中道遺跡 187・191—194・197号土坑、192・197号土坑出土遺物

227・228・229・230・231号土坑

A. L=191.90m



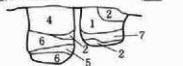
B. L=192.00m



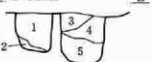
C. L=192.20m



D. L=192.20m



E. L=192.20m



227・228・229・230・231号土坑

- 1 暗褐色土 F Aを含む。5mm前後の軽石を多量に含む
- 2 暗褐色土 1に似るが20~30mmの軽石を多量に含む。F Aを含まない
- 3 褐色土 5mmほどの軽石を含みやや稀い
- 4 暗褐色土 1に似るがF Aを含まない。軽石も少ない
- 5 暗褐色土 4に5~10mmの軽石を多量に含む
- 6 褐色土 F Aを含む。5mm以下の軽石を少量含む
- 7 暗褐色土 1に似るが軽石を少量含むのみ
- 8 暗褐色土 1に似るがF Aを含まない
- 9 黄褐色土 F P粒流れ込み
- 10 暗褐色土 6に30~40mmの軽石を含む
- 11 褐色土 5~10mmの軽石を含みやや稀い。F Aを含む

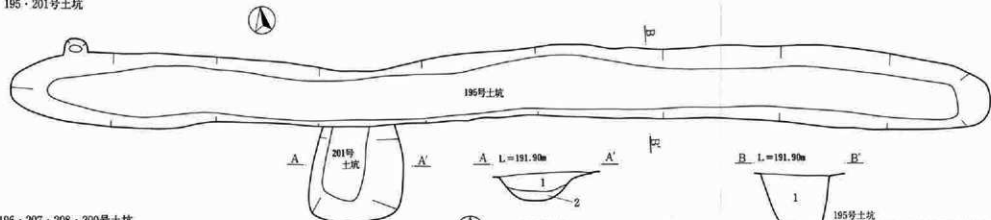


227号土坑 (1/3)

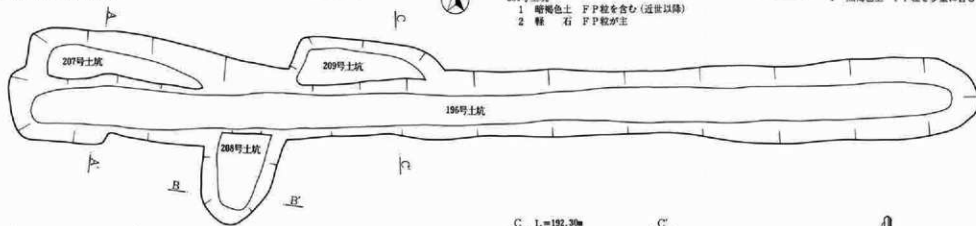


231号土坑 (1/3)

195・201号土坑



195・207・208・209号土坑

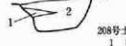


A. L=192.20m



- 195・207号土坑
- 1 暗褐色土 F P粒を含む
 - 2 軽石 F P粒が主
 - 3 暗褐色土 F P粒が多い

B. L=192.20m



- 208号土坑
- 1 暗褐色土 F P粒が多い
 - 2 軽石 F P粒が主

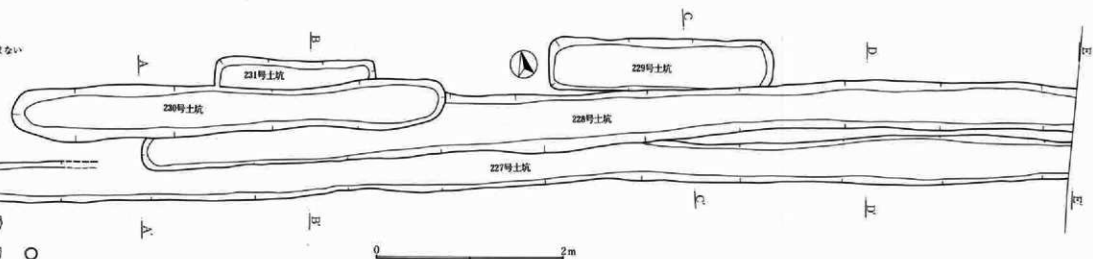
C. L=192.30m



- 196・209号土坑
- 1 暗褐色土 F P粒を含む
 - 2 軽石 F P粒が主
 - 3 暗褐色土 F P粒が多い



200号土坑 (1/3)



0 2m

第134図 白井南中道遺跡 195・196・201・207~209・227~231号土坑、208・230・231号土坑出土遺物

197号土坑

HK~HM-39グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は14.3m、短軸は70cm、深さは76cmである。磁器の碗が出土している。口縁部から体部の一部が約1/4が残存し、復元口径8.4cm、残存高は3.5cmである。体部外面に草文の染付が見られる。

195号土坑

HN-44~46グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は14m、短軸は78cm、深さは66cmである。遺物の出土は見られない。

196号土坑

HN-41・42グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は12.6m、短軸は84cm、深さは54cmである。遺物の出土は見られない。

201号土坑

HN-45グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は101cm、短軸は97cm、深さは29cmである。遺物の出土は見られない。

207号土坑

HN-41グリッドに存在する土坑である。長軸は290cm、短軸は57cm、深さは27cmである。遺物の出土は見られない。

208号土坑

HN-42グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は100cm、短軸は66cm、深さは31cmである。フック状の鉄製品が出土している。

209号土坑

HN-42グリッドに存在する土坑である。長軸は167cm、短軸は59cm、深さは38cmである。遺物の出土は見られない。

227号土坑

HF・HG-41~43グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で11.8m、短軸は48cm、深さは41cmである。遺物の出土は見られない。

228号土坑

HG-41・42グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で994cm、短軸は56cm、深さは61cmである。遺物の出土は見られない。

229号土坑

HG-41・42グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は240cm、短軸は55cm、深さは24cmである。遺物の出土は見られない。

230号土坑

HG-42・43グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は463cm、短軸は53cm、深さは42cmである。陶器の皿が出土している。底部から体部まで約1/4が残存し、復元口径12.8cm、底径7.4cm、器高は2.8cmである。ロクロ整形で、底部は回転ヘラケズリによるやや粗雑な削り出し高台が付され、底部を除く全面に灰軸が施されている。見込部分にはトチンの痕跡が2箇所見られる。胎土は細砂粒を含み、色調は灰白色を呈する。

231号土坑

HG-42・43グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は170cm、短軸は32cm、深さは20cmである。火皿の部分に欠くが、煙管の雁首が出土している。

200号土坑

HN-44グリッドに存在する円形の土坑である。径は102cm、深さは14cmである。遺物の出土は見られない。

202号土坑

HN-46グリッドに存在する土坑である。長軸は検出部分で200cm、短軸は63cm、深さは67cmである。遺物の出土は見られない。

203号土坑

HO-46グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は212cm、短軸は58cm、深さは47cmである。遺物の出土は見られない。

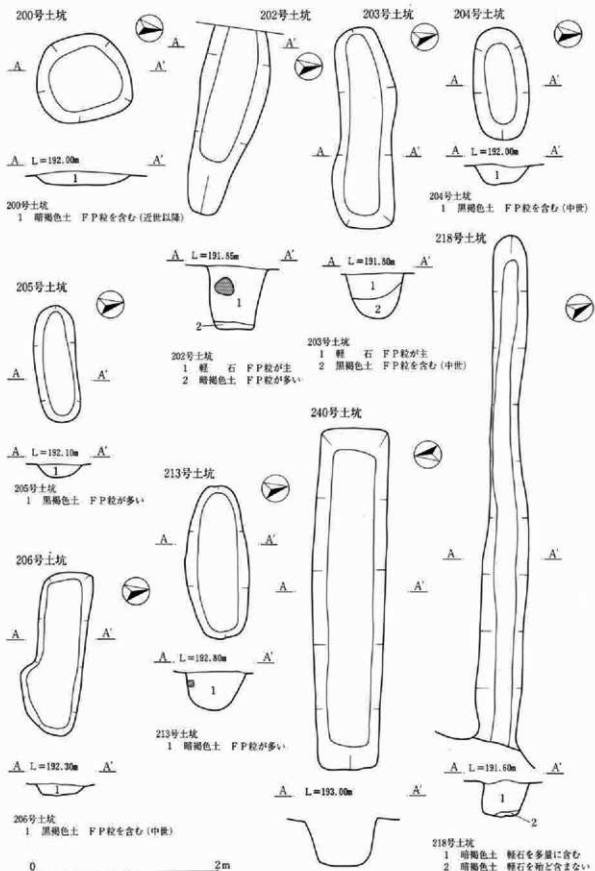
204号土坑

HO-44グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は120cm、短軸は60cm、深さは22cmである。遺物の出土は見られない。

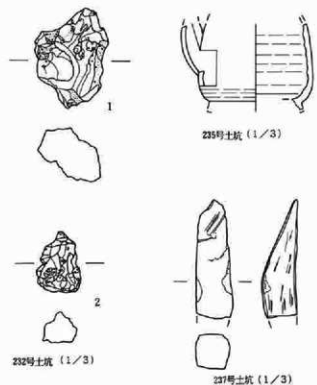
205号土坑

HN-43グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は123cm、短軸は44cm、深さは14cmである。遺物の出土は見られない。

第3章 検出された遺構と遺物



第135図 白井南中道遺跡 200・202～206・213・218・240号土坑



198・199・210・211・212・214号土坑

F L=192.00m F



214号土坑
1 暗褐色土 F P粒が多い

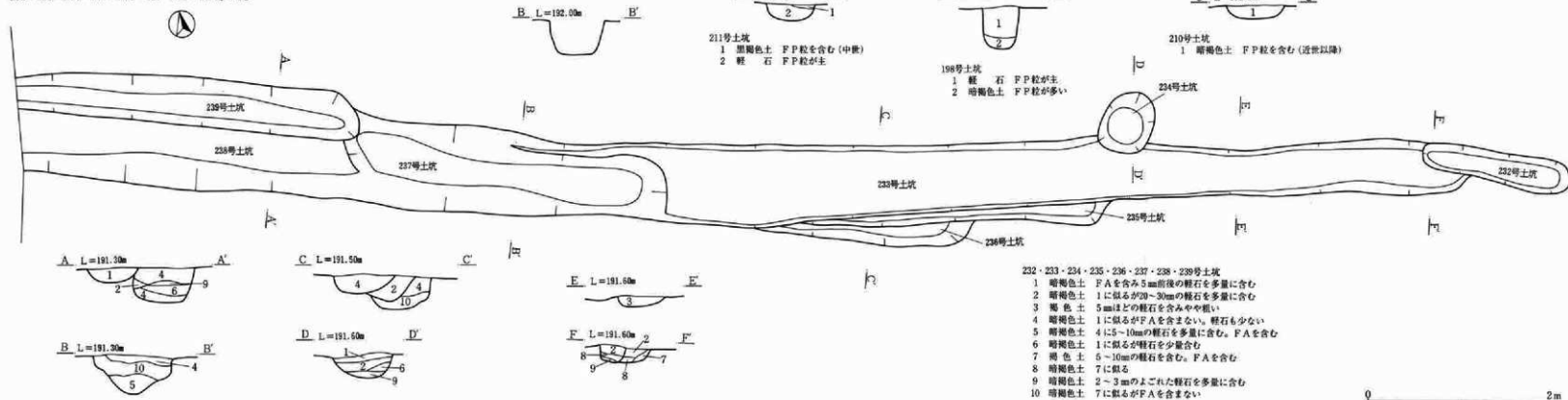
211号土坑

210号土坑

212号土坑

1 暗褐色土 F P粒を含む (近世以降)

232・233・234・235・236・237・238・239号土坑



0 2m

第136図 白井南中道遺跡 198・199・210~212・214・232~239号土坑、232・235・237号土坑出土遺物

206号土坑

HO-42グリッドに存在する崩れた隅丸方形の土坑である。長軸は172cm、短軸は52cm、深さは13cmである。遺物の出土は見られない。

213号土坑

HQ-38グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は162cm、短軸は63cm、深さは41cmである。遺物の出土は見られない。

218号土坑

HB-45グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で540cm、短軸は48cm、深さは39cmである。遺物の出土は見られない。

240号土坑

HR-39グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は360cm、短軸は77cm、深さは50cmである。遺物の出土は見られない。

198号土坑

HQ・HR-43・44グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は17.4m、短軸は46cm、深さは54cmである。遺物の出土は見られない。

199号土坑

HR-44・45グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で550cm、短軸は80cm、深さは41cmである。遺物の出土は見られない。

210号土坑

HR-44グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は166cm、短軸は62cm、深さは15cmである。遺物の出土は見られない。

211号土坑

HR-44グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は191cm、短軸は51cm、深さは17cmである。遺物の出土は見られない。

212号土坑

HR-43グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は615cm、短軸は67cm、深さは22cmである。遺物の出土は見られない。

214号土坑

HR-44グリッドに存在する楕円形の土坑である。

長軸は100cm、短軸は47cm、深さは56cmである。遺物の出土は見られない。

232号土坑

HG-43・44グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は162cm、短軸は34cm、深さは22cmである。鉄滓が出土している。

233号土坑

HG-44グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は873cm、短軸は48cm、深さは20cmである。遺物の出土は見られない。

234号土坑

HG-45グリッドに存在する円形の土坑である。径は67cm、深さは27cmである。遺物の出土は見られない。

235号土坑

HG-45グリッドに存在する土坑で、233号土坑に切られる。鉄軸の水注が出土している。注ぎ口部分のみの小片で、全体像は明らかではないが、高台部分を除き、内外面に鉄軸が施されている。

236号土坑

HG-45グリッドに存在する土坑で、233・235号土坑に切られる。遺物の出土は見られない。

237号土坑

HH-46グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は340cm、短軸は95cm、深さは43cmである。砥石が出土している。

238号土坑

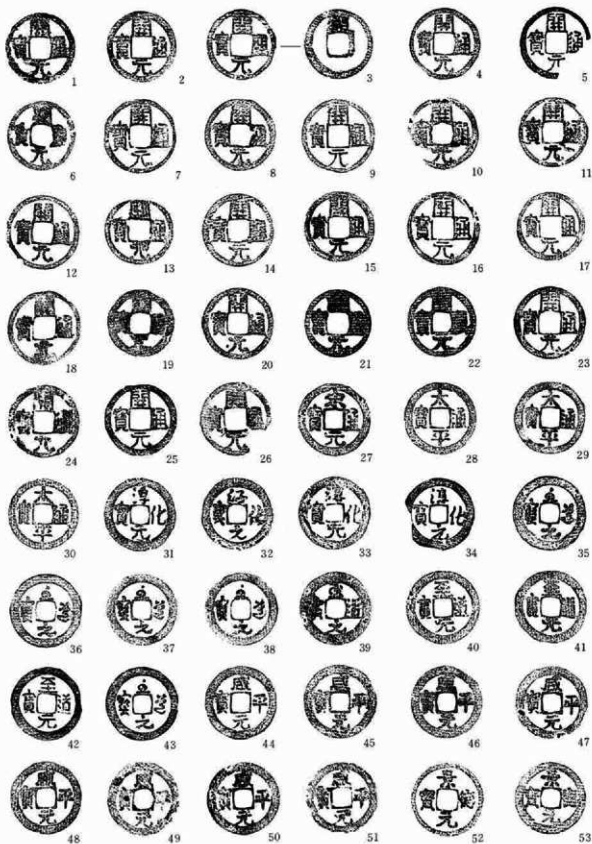
HH-47グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で354cm、短軸は62cm、深さは47cmである。遺物の出土は見られない。

239号土坑

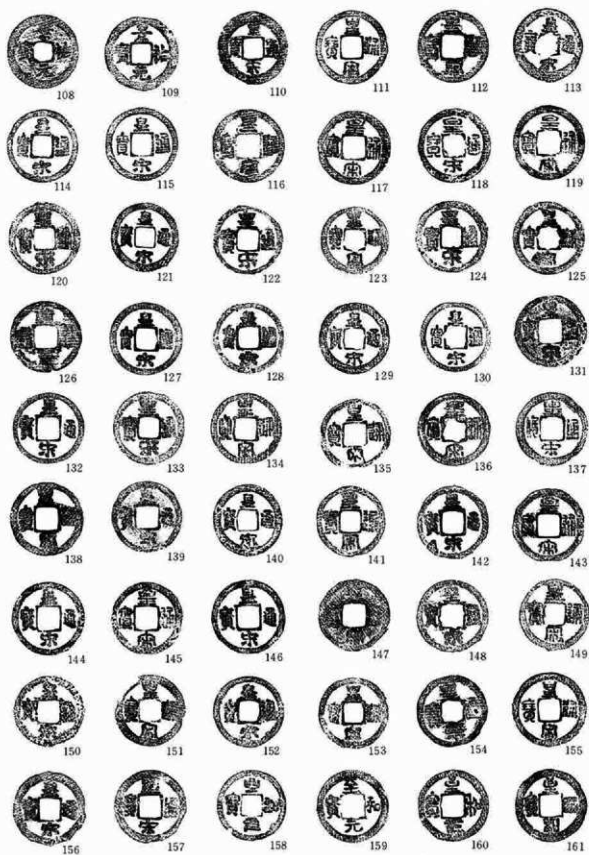
HH-47グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で377cm、短軸は54cm、深さは16cmである。遺物の出土は見られない。

ローム探掘坑

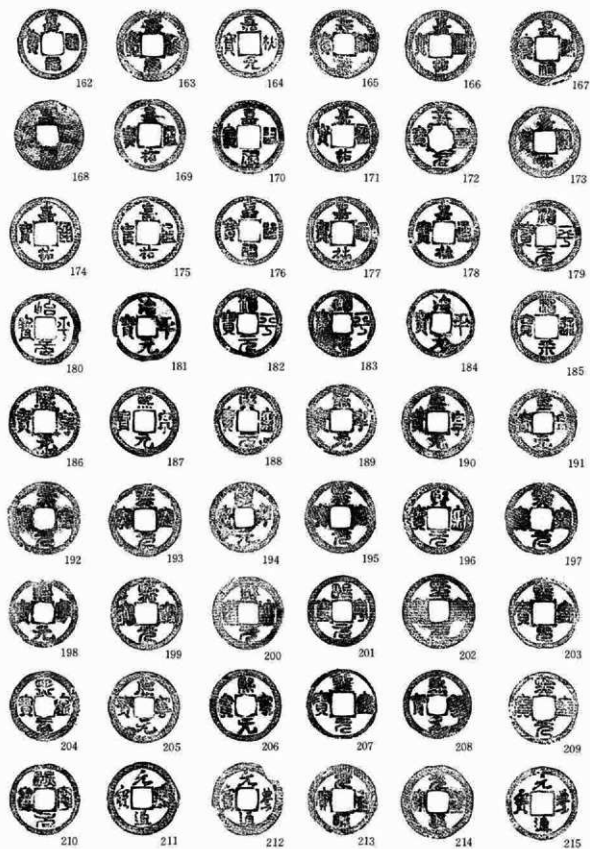
3区から4区にかけて発掘区の東半分を占める遺構で、その様子からロームの探掘を目的とした遺構であると考えられる。大部分がローム層の下の礫層上面まで達する掘り込みであるとともに、探掘され



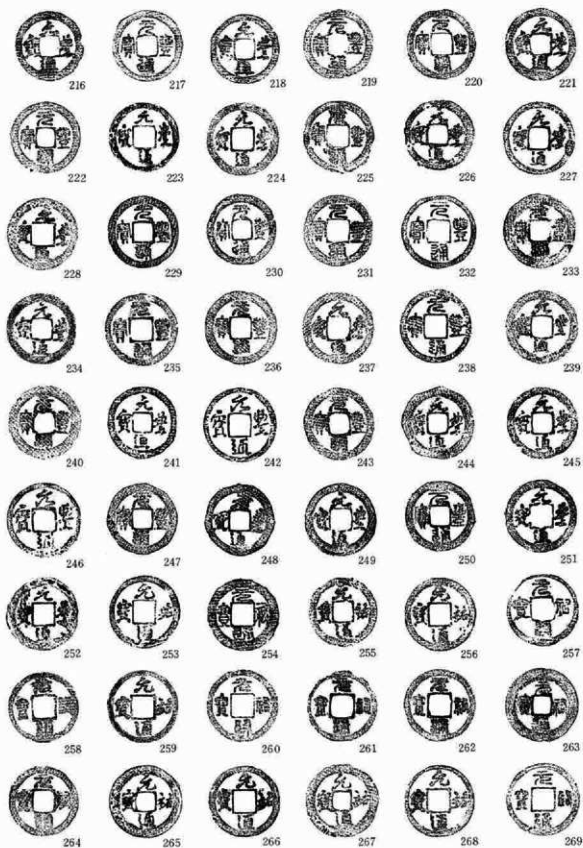
第137図 白井南中道遺跡 ローム探掘坑出土遺物 (1)



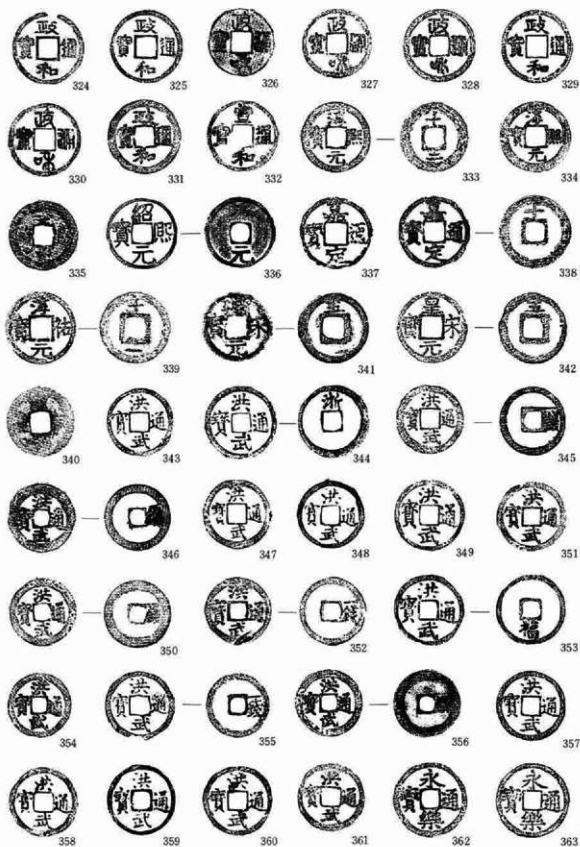
第139図 白井南中道遺跡 ローム探掘坑出土遺物 (3)



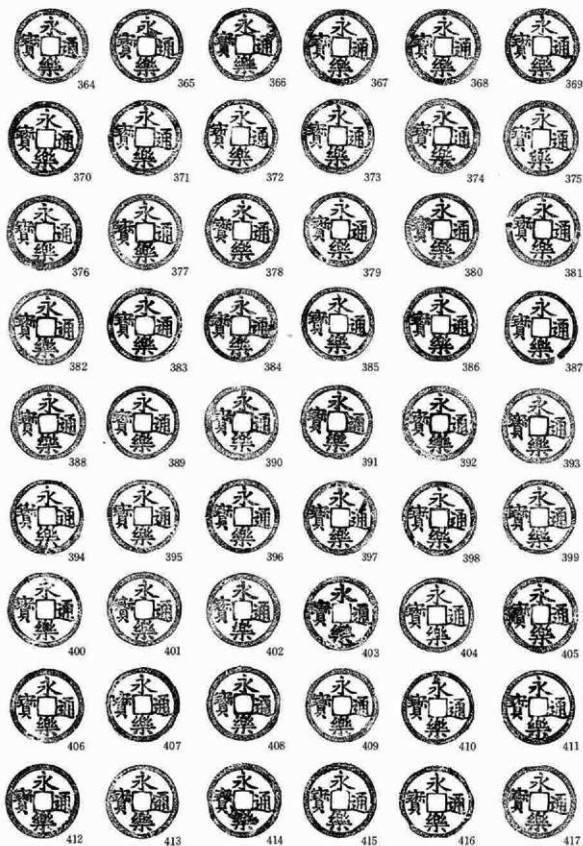
第140図 白井南中道遺跡 ローム探掘坑出土遺物 (4)



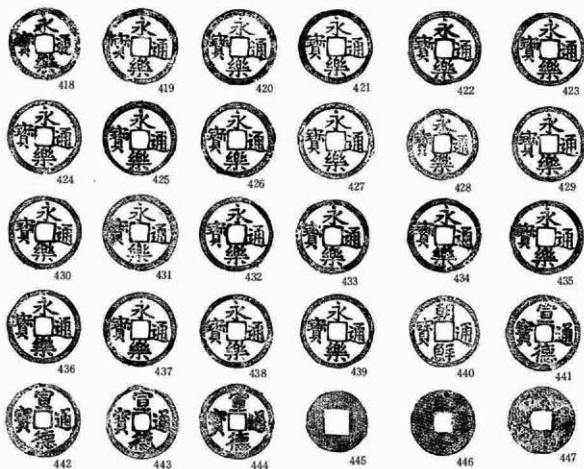
第141図 白井南中道遺跡 ローム採掘坑出土遺物 (5)



第143図 白井南中道遺跡 ローム採掘坑出土遺物 (7)



第144図 白井南中道遺跡 ローム探掘坑出土遺物 (8)



第145図 白井南中道遺跡 ローム探掘坑出土遺物 (9)

番号	銭貨名	直径	輪	郭	重さ	背文	番号	銭貨名	直径	輪	郭	重さ	背文
1	開元通寶	2.40	2.00	0.70	2.97	開	27	宋通元寶	2.45	1.85	0.60	3.18	
2	開元通寶	2.40	1.95	0.70	2.29		28	太平通寶	2.45	1.95	0.65	3.25	
3	開元通寶	2.40	2.00	0.75	2.93		29	太平通寶	2.35	1.95	0.65	3.75	
4	開元通寶	2.30	2.00	0.70	3.58		30	太平通寶	2.40	1.90	0.60	2.91	
5	開元通寶	2.45	2.05	0.75	2.95		31	淳化元寶	2.45	1.85	0.65	3.08	
6	開元通寶	2.35	2.00	0.75	2.65		32	淳化元寶	2.45	1.85	0.65	3.56	
7	開元通寶	2.45	2.15	0.80	3.28		33	淳化元寶	2.35	1.85	0.55	3.70	
8	開元通寶	2.45	1.95	0.75	2.83		34	淳化元寶	2.40	1.80	0.55	3.12	
9	開元通寶	2.45	2.10	0.75	3.31		35	至道元寶	2.50	1.90	0.65	3.46	
10	開元通寶	2.45	2.10	0.75	3.22		36	至道元寶	2.35	1.85	0.65	2.70	
11	開元通寶	2.30	2.00	0.65	3.11		37	至道元寶	2.45	1.85	0.65	3.72	
12	開元通寶	2.40	2.15	0.75	3.77		38	至道元寶	2.45	1.95	0.65	2.92	
13	開元通寶	2.20	1.95	0.65	4.11		39	至道元寶	2.45	1.75	0.65	3.61	
14	開元通寶	2.35	2.05	0.75	3.47		40	至道元寶	2.45	1.90	0.60	3.24	
15	開元通寶	2.40	2.00	0.70	2.88		41	至道元寶	2.40	1.90	0.65	3.38	
16	開元通寶	2.45	2.05	0.70	3.14		42	至道元寶	2.45	1.90	0.65	3.60	
17	開元通寶	2.30	1.85	0.65	2.62		43	至道元寶	2.35	1.90	0.60	3.83	
18	開元通寶	2.50	2.15	0.80	2.93		44	咸平元寶	2.45	1.85	0.65	3.40	
19	開元通寶	2.25	1.75	0.70	3.10		45	咸平元寶	2.50	1.90	0.65	4.00	
20	開元通寶	2.35	2.00	0.70	2.77		46	咸平元寶	2.45	1.90	0.60	3.29	
21	開元通寶	2.20	1.85	0.75	2.39		47	咸平元寶	2.50	1.90	0.65	3.59	
22	開元通寶	2.30	2.00	0.65	2.77		48	咸平元寶	2.40	1.85	0.60	3.95	
23	開元通寶	2.40	2.00	0.80	2.70		49	咸平元寶	2.40	1.90	0.65	2.96	
24	開元通寶	2.40	2.05	0.70	3.82		50	咸平元寶	2.40	1.80	0.70	3.42	
25	開元通寶	2.40	2.10	0.75	3.51		51	咸平元寶	2.35	1.95	0.65	3.83	
26	開元通寶	2.40	2.05	0.75	3.09		52	景德元寶	2.45	2.10	0.70	3.12	

第7節 白井南中道遺跡4区遺構群

番号	銭貨名	直径	輪	郭	重さ	背文	番号	銭貨名	直径	輪	郭	重さ	背文
53	景徳元寶	2.40	1.85	0.60	3.65		114	皇宋通寶	2.45	2.10	0.75	3.49	
54	景徳元寶	2.45	1.95	0.65	3.68		115	皇宋通寶	2.45	2.05	0.70	3.26	
55	景徳元寶	2.50	1.95	0.65	3.57		116	皇宋通寶	2.50	2.05	0.75	3.96	
56	景徳元寶	2.40	1.85	0.65	3.65		117	皇宋通寶	2.40	2.05	0.80	3.16	
57	景徳元寶	2.35	1.80	0.65	3.66		118	皇宋通寶	2.45	1.95	0.70	4.18	
58	景徳元寶	2.45	2.05	0.65	3.52		119	皇宋通寶	2.40	2.00	0.85	3.36	
59	景徳元寶	2.40	2.05	0.65	3.18		120	皇宋通寶	2.45	1.95	0.75	3.76	
60	景徳元寶	2.35	2.05	0.70	3.64		121	皇宋通寶	2.35	1.85	0.65	3.62	
61	祥符元寶	2.50	1.80	0.65	4.16		122	皇宋通寶	2.35	2.00	0.70	2.00	
62	祥符元寶	2.45	1.75	0.65	3.17		123	皇宋通寶	2.30	1.90	0.75	2.60	
63	祥符元寶	2.50	1.80	0.70	3.10		124	皇宋通寶	2.40	2.00	0.65	4.04	
64	祥符元寶	2.45	1.90	0.65	2.79		125	皇宋通寶	2.45	2.05	0.75	3.56	
65	祥符元寶	2.45	1.85	0.65	3.49		126	皇宋通寶	2.45	2.05	0.80	2.70	
66	祥符元寶	2.50	2.00	0.70	3.67		127	皇宋通寶	2.40	1.90	0.75	3.42	
67	祥符元寶	2.45	1.85	0.65	2.61		128	皇宋通寶	2.35	2.00	0.70	2.99	
68	祥符元寶	2.50	1.90	0.75	3.00		129	皇宋通寶	2.40	1.80	0.70	3.52	
69	祥符元寶	2.50	1.80	0.65	2.95		130	皇宋通寶	2.40	2.00	0.75	2.90	
70	祥符元寶	2.40	1.95	0.70	3.39		131	皇宋通寶	2.40	2.00	0.85	3.12	
71	祥符元寶	2.40	1.95	0.65	3.09		132	皇宋通寶	2.45	2.00	0.80	3.06	
72	祥符元寶	2.40	1.80	0.65	4.52		133	皇宋通寶	2.40	2.00	0.75	3.40	
73	祥符元寶	2.35	1.85	0.70	4.02		134	皇宋通寶	2.35	2.00	0.75	4.44	
74	祥符通寶	2.40	2.00	0.65	2.89		135	皇宋通寶	2.20	1.95	0.75	2.72	
75	祥符通寶	2.40	2.00	0.70	3.87		136	皇宋通寶	2.40	1.95	0.60	3.70	
76	祥符通寶	2.50	1.90	0.60	4.05		137	皇宋通寶	2.40	1.90	0.80	3.73	
77	祥符通寶	2.35	1.95	0.65	4.95		138	皇宋通寶	2.50	2.05	0.80	3.18	
78	祥符通寶	2.45	1.95	0.65	3.50		139	皇宋通寶	2.30	2.00	0.80	3.10	
79	天禧通寶	2.45	1.95	0.65	3.72		140	皇宋通寶	2.35	1.90	0.70	3.13	
80	天禧通寶	2.40	2.05	0.70	2.97		141	皇宋通寶	2.35	2.00	0.70	3.30	
81	天禧通寶	2.40	1.95	0.70	3.67		142	皇宋通寶	2.40	2.10	0.85	3.62	
82	天禧通寶	2.40	2.00	0.65	3.11		143	皇宋通寶	2.40	2.00	0.80	3.50	
83	天禧通寶	2.45	2.00	0.70	2.63		144	皇宋通寶	2.45	2.05	0.80	3.85	
84	天禧通寶	2.25	2.05	0.65	2.62		145	皇宋通寶	2.40	1.90	0.80	2.62	
85	天禧通寶	2.50	2.10	0.70	3.16		146	皇宋通寶	2.40	2.10	0.80	3.18	
86	天聖元寶	2.45	2.15	0.70	3.67		147	皇宋通寶	2.35	1.95	0.80	3.03	
87	天聖元寶	2.50	2.15	0.70	4.02		148	皇宋通寶	2.35	2.05	0.80	3.69	
88	天聖元寶	2.45	2.00	0.75	3.16		149	皇宋通寶	2.40	2.05	0.70	3.81	
89	天聖元寶	2.40	2.10	0.65	3.76		150	皇宋通寶	2.35	2.00	0.80	3.38	
90	天聖元寶	2.45	2.30	0.75	3.54		151	皇宋通寶	2.35	1.95	0.75	3.37	
91	天聖元寶	2.40	2.00	0.80	3.46		152	皇宋通寶	2.30	1.95	0.75	3.21	
92	天聖元寶	2.35	1.90	0.65	3.09		153	皇宋通寶	2.45	2.05	0.65	3.24	
93	天聖元寶	2.35	2.05	0.75	3.32		154	皇宋通寶	2.30	1.95	0.70	3.18	
94	天聖元寶	2.45	2.10	0.80	3.44		155	皇宋通寶	2.40	2.00	0.75	3.05	
95	天聖元寶	2.40	2.05	0.70	3.20		156	皇宋通寶	2.50	1.95	0.75	2.95	
96	天聖元寶	2.40	2.05	0.75	2.79		157	皇宋通寶	2.40	1.85	0.80	3.42	
97	天聖元寶	2.50	2.05	0.80	3.12		158	至和元寶	2.35	1.95	0.65	2.93	
98	天聖元寶	2.30	1.95	0.60	3.95		159	至和元寶	2.45	1.95	0.85	3.06	
99	天聖元寶	2.40	2.15	0.70	3.20		160	至和元寶	2.35	1.80	0.75	3.68	
100	明道元寶	2.45	2.10	0.70	3.88		161	至和元寶	2.35	1.90	0.70	3.11	
101	明道元寶	2.50	2.15	0.80	3.00		162	嘉祐元寶	2.35	2.00	0.75	2.97	
102	景祐元寶	2.40	2.10	0.80	3.57		163	嘉祐元寶	2.45	1.90	0.70	3.07	
103	景祐元寶	2.45	1.85	0.65	2.61		164	嘉祐元寶	2.30	2.00	0.70	3.85	
104	景祐元寶	2.35	1.95	0.65	2.88		165	嘉祐元寶	2.30	1.90	0.70	4.47	
105	景祐元寶	2.40	2.05	0.70	3.79		166	嘉祐元寶	2.35	1.95	0.75	2.84	
106	景祐元寶	2.45	2.00	0.65	3.06		167	嘉祐元寶	2.50	1.95	0.75	3.65	
107	景祐元寶	2.40	1.85	0.65	3.53		168	嘉祐元寶	2.35	1.90	0.75	3.50	
108	景祐元寶	2.40	1.90	0.60	3.66		169	嘉祐元寶	2.45	2.05	0.80	3.03	
109	景祐元寶	2.45	1.95	0.65	3.14		170	嘉祐元寶	2.50	2.00	0.80	3.45	
110	皇宋通寶	2.45	2.80	0.65	2.77		171	嘉祐元寶	2.35	2.00	0.75	3.47	
111	皇宋通寶	2.45	2.90	0.75	3.42		172	嘉祐元寶	2.40	2.10	0.85	2.86	
112	皇宋通寶	2.45	2.05	0.80	3.18		173	嘉祐元寶	2.45	1.95	0.75	3.24	
113	皇宋通寶	2.35	1.95	0.65	3.63		174	嘉祐元寶	2.35	1.95	0.80	3.40	

第3章 検出された遺構と遺物

番号	銭貨名	直径	輪	郭	高さ	背文	番号	銭貨名	直径	輪	郭	高さ	背文
175	嘉祐元貨	2.40	2.00	0.80	3.48		236	元豐通寶	2.40	1.90	0.70	3.34	
176	嘉祐元貨	2.30	2.00	0.70	3.29		237	元豐通寶	2.35	1.85	0.75	3.35	
177	嘉祐元貨	2.45	1.95	0.80	3.48		238	元豐通寶	2.45	1.95	0.70	3.56	
178	嘉祐元貨	2.30	2.00	0.70	4.02		239	元豐通寶	2.45	1.85	0.70	3.38	
179	治平元貨	2.40	2.00	0.70	3.84		240	元豐通寶	2.45	1.75	0.65	2.81	
180	治平元貨	2.35	2.00	0.65	3.62		241	元豐通寶	2.35	1.90	0.65	3.27	
181	治平元貨	2.30	2.05	0.70	4.20		242	元豐通寶	2.45	2.25	0.70	3.16	
182	治平元貨	2.30	1.95	0.65	3.64		243	元豐通寶	2.35	1.90	0.70	2.83	
183	治平元貨	2.20	1.90	0.65	3.51		244	元豐通寶	2.40	1.85	0.70	3.86	
184	治平元貨	2.30	2.25	0.70	2.24		245	元豐通寶	2.35	1.90	0.75	2.15	
185	治平通寶	2.35	2.00	0.85	3.30		246	元豐通寶	2.45	2.10	0.70	3.05	
186	熙寧元貨	2.40	2.05	0.80	3.22		247	元豐通寶	2.30	1.90	0.65	3.65	
187	熙寧元貨	2.35	1.90	0.70	3.31		248	元豐通寶	2.30	1.80	0.75	3.62	
188	熙寧元貨	2.40	1.85	0.70	3.45		249	元豐通寶	2.45	1.80	0.70	3.62	
189	熙寧元貨	2.45	1.95	0.70	3.42		250	元豐通寶	2.35	1.75	0.65	2.82	
190	熙寧元貨	2.50	1.90	0.70	4.23		251	元豐通寶	2.40	1.85	0.70	2.77	
191	熙寧元貨	2.30	1.85	0.70	3.07		252	元豐通寶	2.35	1.80	0.75	3.63	
192	熙寧元貨	2.45	2.05	0.80	3.20		253	元祐通寶	2.40	2.00	0.75	3.33	
193	熙寧元貨	2.45	2.05	0.75	3.82		254	元祐通寶	2.40	1.80	0.75	3.22	
194	熙寧元貨	2.40	1.95	0.70	4.58		255	元祐通寶	2.35	1.85	0.70	2.66	
195	熙寧元貨	2.40	2.05	0.75	3.71		256	元祐通寶	2.50	2.05	0.75	3.35	
196	熙寧元貨	2.45	1.90	0.70	2.89		257	元祐通寶	2.45	2.05	0.75	2.82	
197	熙寧元貨	2.40	2.05	0.75	3.37		258	元祐通寶	2.40	2.00	0.70	3.12	
198	熙寧元貨	2.25	1.95	0.70	3.45		259	元祐通寶	2.40	2.05	0.80	3.12	
199	熙寧元貨	2.35	2.00	0.70	3.26		260	元祐通寶	2.35	2.00	0.75	3.44	
200	熙寧元貨	2.40	1.95	0.70	4.20		261	元祐通寶	2.45	2.05	0.80	2.67	
201	熙寧元貨	2.30	1.85	0.70	3.80		262	元祐通寶	2.40	2.00	0.75	3.58	
202	熙寧元貨	2.45	2.10	0.75	3.25		263	元祐通寶	2.50	1.80	0.60	3.95	
203	熙寧元貨	2.40	2.05	0.80	4.04		264	元祐通寶	2.35	1.95	0.75	3.71	
204	熙寧元貨	2.03	1.90	0.65	2.95		265	元祐通寶	2.45	1.80	0.70	3.30	
205	熙寧元貨	2.35	2.00	0.70	4.08		266	元祐通寶	2.35	2.05	0.70	3.84	
206	熙寧元貨	2.35	1.95	0.70	2.96		267	元祐通寶	2.55	1.85	0.65	4.60	
207	熙寧元貨	2.35	2.05	0.75	3.72		268	元祐通寶	2.45	2.10	0.80	3.19	
208	熙寧元貨	2.25	1.85	0.70	2.68		269	元祐通寶	2.50	2.05	0.80	3.84	
209	熙寧元貨	2.35	2.10	0.85	3.64		270	元祐通寶	2.45	2.00	0.75	2.96	
210	熙寧元貨	2.30	2.10	0.70	3.63		271	元祐通寶	2.25	1.90	0.75	2.85	
211	元豐通寶	2.45	1.95	0.70	3.88		272	元祐通寶	2.30	2.05	0.75	3.91	
212	元豐通寶	2.45	1.80	0.70	3.17		273	元祐通寶	2.40	2.00	0.70	3.58	
213	元豐通寶	2.40	1.85	0.70	3.24		274	元祐通寶	2.35	1.80	0.70	3.28	
214	元豐通寶	2.50	1.85	0.70	2.80		275	元祐通寶	2.40	1.85	0.65	2.90	
215	元豐通寶	2.45	2.05	0.80	3.73		276	元祐通寶	2.40	2.05	0.80	3.67	
216	元豐通寶	2.35	1.85	0.70	2.67		277	元祐通寶	2.40	2.10	0.80	3.25	
217	元豐通寶	2.35	1.95	0.65	3.20		278	元祐通寶	2.40	1.90	0.65	3.57	
218	元豐通寶	2.35	1.95	0.70	3.29		279	元祐通寶	2.35	1.85	0.65	3.96	
219	元豐通寶	2.35	1.90	0.75	3.18		280	元祐通寶	2.30	2.05	0.75	3.86	
220	元豐通寶	2.35	1.95	0.70	3.78		281	元祐通寶	2.35	2.00	0.75	3.24	
221	元豐通寶	2.45	1.90	0.65	3.21		282	元祐通寶	2.35	2.05	0.75	4.19	
222	元豐通寶	2.35	1.90	0.65	3.60		283	元祐通寶	2.45	1.85	0.60	3.96	
223	元豐通寶	2.40	1.95	0.75	3.51		284	元祐通寶	2.35	1.95	0.70	3.69	
224	元豐通寶	2.40	2.00	0.75	3.30		285	元祐通寶	2.45	2.00	0.65	3.75	
225	元豐通寶	2.40	1.90	0.75	3.70		286	元祐通寶	2.30	2.05	0.70	3.51	
226	元豐通寶	2.40	1.85	0.70	3.30		287	紹聖元貨	2.35	2.00	0.70	4.26	
227	元豐通寶	2.30	2.05	0.70	3.14		288	紹聖元貨	2.40	1.90	0.75	3.96	
228	元豐通寶	2.40	1.85	0.80	3.22		289	紹聖元貨	2.40	1.95	0.75	3.64	
229	元豐通寶	2.35	1.95	0.65	4.15		290	紹聖元貨	2.30	1.90	0.70	3.72	
230	元豐通寶	2.35	1.85	0.70	3.65		291	紹聖元貨	2.45	1.80	0.70	3.52	
231	元豐通寶	2.30	1.80	0.75	3.46		292	紹聖元貨	2.35	1.90	0.75	3.15	
232	元豐通寶	2.50	2.15	0.75	3.46		293	紹聖元貨	2.40	2.05	0.75	4.40	
233	元豐通寶	2.45	1.90	0.70	3.82		294	紹聖元貨	2.35	1.75	0.60	3.29	
234	元豐通寶	2.35	1.80	0.70	3.02		295	紹聖元貨	2.35	2.00	0.70	3.44	
235	元豐通寶	2.35	2.00	0.80	3.10		296	紹聖元貨	2.35	1.85	0.65	2.62	

第7節 白井南中遺跡跡4区遺構群

番号	銭貨名	直径	輪	郭	高さ	背文	番号	銭貨名	直径	輪	郭	高さ	背文
297	船型元寶	2.45	1.85	0.80	3.45		358	洪武通寶	2.30	1.95	0.65	3.42	
298	元符通寶	2.45	1.90	0.65	2.93		359	洪武通寶	2.25	2.10	0.65	3.85	
299	元符通寶	2.35	1.90	0.70	3.63		360	洪武通寶	2.30	2.00	0.60	3.35	
300	元符通寶	2.35	1.90	0.70	3.61		361	洪武通寶	2.20	1.90	0.60	3.28	
301	元符通寶	2.35	1.85	0.70	3.56		362	水滸通寶	2.45	2.10	0.60	3.84	
302	聖宋元寶	2.35	1.85	0.70	3.45		363	水滸通寶	2.45	2.10	0.60	4.44	
303	聖宋元寶	2.40	1.90	0.75	4.35		364	水滸通寶	2.50	2.10	0.60	4.18	
304	聖宋元寶	2.45	1.90	0.70	3.38		365	水滸通寶	2.50	2.05	0.60	3.84	
305	聖宋元寶	2.40	2.10	0.80	3.72		366	水滸通寶	2.45	2.10	0.60	3.26	
306	聖宋元寶	2.35	2.00	0.70	3.70		367	水滸通寶	2.45	2.10	0.65	3.89	
307	聖宋元寶	2.40	2.00	0.75	3.20		368	水滸通寶	2.50	2.05	0.60	3.59	
308	聖宋元寶	2.35	1.85	0.65	3.98		369	水滸通寶	2.45	2.10	0.60	3.86	
309	聖宋元寶	2.45	1.90	0.65	3.13		370	水滸通寶	2.40	2.05	0.55	4.08	
310	聖宋元寶	2.35	2.05	0.70	3.22		371	水滸通寶	2.50	2.10	0.65	3.69	
311	聖宋元寶	2.30	1.90	0.70	3.95		372	水滸通寶	2.50	2.10	0.65	3.58	
312	聖宋元寶	2.35	1.85	0.70	2.67		373	水滸通寶	2.55	2.15	0.60	3.79	
313	聖宋元寶	2.25	1.80	0.70	1.70		374	水滸通寶	2.50	2.05	0.60	3.77	
314	大観通寶	2.45	2.15	0.70	3.75		375	水滸通寶	2.35	2.15	0.65	3.95	
315	大観通寶	2.45	2.15	0.70	3.53		376	水滸通寶	2.50	2.05	0.60	3.42	
316	政和通寶	2.40	2.15	0.65	3.91		377	水滸通寶	2.50	2.10	0.60	3.27	
317	政和通寶	2.40	2.05	0.75	3.71		378	水滸通寶	2.50	2.15	0.65	4.15	
318	政和通寶	2.40	2.10	0.70	2.91		379	水滸通寶	2.50	2.15	0.65	4.02	
319	政和通寶	2.45	2.10	0.70	3.18		380	水滸通寶	2.50	2.10	0.65	4.33	
320	政和通寶	2.40	2.10	0.70	3.28		381	水滸通寶	2.55	2.15	0.65	3.53	
321	政和通寶	2.40	2.10	0.70	2.96		382	水滸通寶	2.35	2.20	0.65	3.93	
322	政和通寶	2.25	2.05	0.70	3.32		383	水滸通寶	2.50	2.10	0.65	3.10	
323	政和通寶	2.20	2.05	0.70	1.70		384	水滸通寶	2.50	2.15	0.65	3.66	
324	政和通寶	2.45	2.10	0.70	3.12		385	水滸通寶	2.50	2.15	0.65	4.04	
325	政和通寶	2.40	2.10	0.70	3.04		386	水滸通寶	2.50	2.15	0.65	4.08	
326	政和通寶	2.25	2.15	0.65	2.70		387	水滸通寶	2.45	2.10	0.60	3.68	
327	政和通寶	2.20	1.95	0.65	2.95		388	水滸通寶	2.45	2.15	0.65	4.00	
328	政和通寶	2.35	2.05	0.65	3.18		389	水滸通寶	2.40	2.10	0.60	3.76	
329	政和通寶	2.40	2.15	0.65	3.46		390	水滸通寶	2.50	2.15	0.65	4.16	
330	政和通寶	2.45	2.15	0.70	3.88		391	水滸通寶	2.45	2.15	0.60	3.35	
331	政和通寶	2.50	2.00	0.70	3.58		392	水滸通寶	2.50	2.05	0.55	3.67	
332	宣和通寶	2.40	2.15	0.75	2.03		393	水滸通寶	2.50	2.05	0.55	4.04	
333	淳熙元寶	2.35	1.85	0.65	2.79	十二	394	水滸通寶	2.50	2.15	0.65	3.90	
334	淳熙元寶	2.35	1.85	0.70	2.75		395	水滸通寶	2.50	2.15	0.65	2.79	
335	紹熙元寶	2.30	1.75	0.75	2.92	元	396	水滸通寶	2.50	2.15	0.65	3.63	
336	紹熙元寶	2.35	2.15	0.65	3.25		397	水滸通寶	2.50	2.15	0.65	3.77	
337	嘉定通寶	2.35	2.15	0.75	3.38		398	水滸通寶	2.35	2.10	0.65	3.36	
338	嘉定通寶	2.40	2.10	0.65	3.87	十〇	399	水滸通寶	2.50	2.20	0.65	3.80	
339	淳祐元寶	2.35	2.05	0.75	3.18	十一	400	水滸通寶	2.45	2.15	0.65	2.67	
340	淳祐元寶	2.25	1.90	0.75	3.42		401	水滸通寶	2.45	2.15	0.65	3.71	
341	皇宋元寶	2.35	2.05	0.70	2.71	五	402	水滸通寶	2.40	2.10	0.65	3.66	
342	皇宋元寶	2.45	2.05	0.70	3.14	王〇	403	水滸通寶	2.35	2.10	0.60	3.88	
343	洪武通寶	2.25	1.95	0.65	4.07		404	水滸通寶	2.50	2.20	0.60	3.48	
344	洪武通寶	2.40	1.95	0.65	3.55	浙	405	水滸通寶	2.40	2.10	0.65	4.10	
345	洪武通寶	2.30	1.80	0.60	4.21	一銭	406	水滸通寶	2.45	2.15	0.65	4.13	
346	洪武通寶	2.25	1.70	0.55	3.72	一銭	407	水滸通寶	2.45	2.15	0.55	4.42	
347	洪武通寶	2.30	1.80	0.65	4.18		408	水滸通寶	2.45	2.10	0.60	3.42	
348	洪武通寶	2.30	2.00	0.65	4.09		409	水滸通寶	2.45	2.10	0.60	3.74	
349	洪武通寶	2.35	2.10	0.65	3.39		410	水滸通寶	2.40	2.10	0.60	3.40	
350	洪武通寶	2.15	1.75	0.60	3.50	一銭	411	水滸通寶	2.45	2.10	0.55	4.20	
351	洪武通寶	2.30	2.05	0.60	3.72		412	水滸通寶	2.45	2.10	0.55	3.28	
352	洪武通寶	2.25	1.80	0.60	3.74	一銭	413	水滸通寶	2.40	2.10	0.60	3.37	
353	洪武通寶	2.35	2.10	0.60	3.77	福	414	水滸通寶	2.45	2.10	0.55	3.41	
354	洪武通寶	2.30	2.00	0.65	3.43		415	水滸通寶	2.45	2.15	0.65	3.78	
355	洪武通寶	2.10	1.70	0.50	3.48	一銭	416	水滸通寶	2.45	2.10	0.60	3.14	
356	洪武通寶	2.25	1.80	0.55	4.10	一銭	417	水滸通寶	2.40	2.15	0.60	3.42	
357	洪武通寶	2.30	2.05	0.60	3.55		418	水滸通寶	2.45	2.05	0.60	2.69	

第3章 検出された遺構と遺物

番号	銭貨名	直径	輪	郭	高さ	背文
419	水滸通寶	2.45	2.10	0.60	3.77	
420	水滸通寶	2.45	2.10	0.60	3.34	
421	水滸通寶	2.40	2.05	0.55	3.43	
422	水滸通寶	2.45	2.10	0.60	3.85	
423	水滸通寶	2.45	2.05	0.65	2.93	
424	水滸通寶	2.45	2.10	0.60	4.01	
425	水滸通寶	2.50	2.10	0.60	4.00	
426	水滸通寶	2.35	2.05	0.50	3.26	
427	水滸通寶	2.50	2.15	0.60	3.25	
428	水滸通寶	2.35	2.00	0.60	3.12	
429	水滸通寶	2.40	2.20	0.65	2.77	
430	水滸通寶	2.45	2.15	0.60	4.20	
431	水滸通寶	2.45	2.10	0.55	3.78	
432	水滸通寶	2.45	2.15	0.55	4.04	
433	水滸通寶	2.45	2.15	0.65	3.58	

ているのが厚さ20cm程のロームに限定されている。すなわち、躍層に達した時点で、砂礫の混入を避けるために作業を一時中断していると考えられる。また、上層のF P (Hr-I) と F A (Hr-S) については、そのまま崩落させていることから、明かり掘削によって最初の堅坑が掘り込まれた後に、横掘りにより必要なローム部分のみを連続して掘削していったものと考えられる。埋土の観察からも、ロームはほとんど認められない。更に、掘削によって出土した砂を掘り終わった部分において、ロームを選び出す坂道として利用したと考えられ、これらのことから掘削工程が復元できる。埋土からは、ほとんど遺物は出土

番号	銭貨名	直径	輪	郭	高さ	背文
434	水滸通寶	2.40	2.05	0.60	3.25	
435	水滸通寶	2.45	2.15	0.60	4.27	
436	水滸通寶	2.45	2.15	0.60	4.14	
437	水滸通寶	2.40	2.05	0.60	3.49	
438	水滸通寶	2.45	2.05	0.60	4.78	
439	水滸通寶	2.45	2.10	0.65	5.17	
440	朝解通寶	2.35	2.10	0.65	4.63	
441	宣徳通寶	2.50	2.05	0.55	3.11	
442	宣徳通寶	2.50	2.10	0.55	4.66	
443	宣徳通寶	2.40	2.15	0.60	3.38	
444	宣徳通寶	2.50	2.10	0.50	4.75	
445	不明	2.10	—	0.85	1.72	
446	不明	2.15	—	0.70	2.16	
447	不明	2.20	—	0.65	2.77	

していないが、灰軸の皿と、銭が447枚まとまって出土している。皿は底部から体部の一部のみ残存し、直径6.5cm、残存高は1.3cmである。底部には回転ヘラケズリによる削り出し高台で、底部内面には刷り絵による菊水文が見られる。高台部分を除き、内外面に灰軸を施している。胎土は白色粒を含み、色調は素地が灰色、軸が灰白色を呈する。この遺物は18世紀以降のもと考えられ、埋土中の混入と考えられる。遺構の時期については銭に寛永通寶が見られないことから中世の遺構であると考えられ、白井城との関係が注目される。

第8節 白井南中道遺跡5区遺構群

白井南中道遺跡の北端に位置し、白井丸岩遺跡との接点となる。遺構は耕作痕であると考えられる土坑、溝状土坑の他に、近世のものと考えられる墓塚等が検出されている。また、区の北端からは大形の方形の掘り込みが群をなして検出されているが、時期、性格共に不明である。5区からは、一括遺物として、輪の羽口が検出されている。

251号土坑

1I-38グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は130cm、短軸は90cm、深さは92cmである。遺物の出土は見られない。

252号土坑

1H-37グリッドに存在する楕円形の土坑で、253号土坑を切る。長軸は156cm、短軸は88cm、深さは57

cmである。遺物の出土は見られない。

253号土坑

1G-37グリッドに存在する溝状の土坑で、252号土坑に切られる。長軸は835cm、短軸は76cm、深さは44cmである。遺物の出土は見られない。

254号土坑

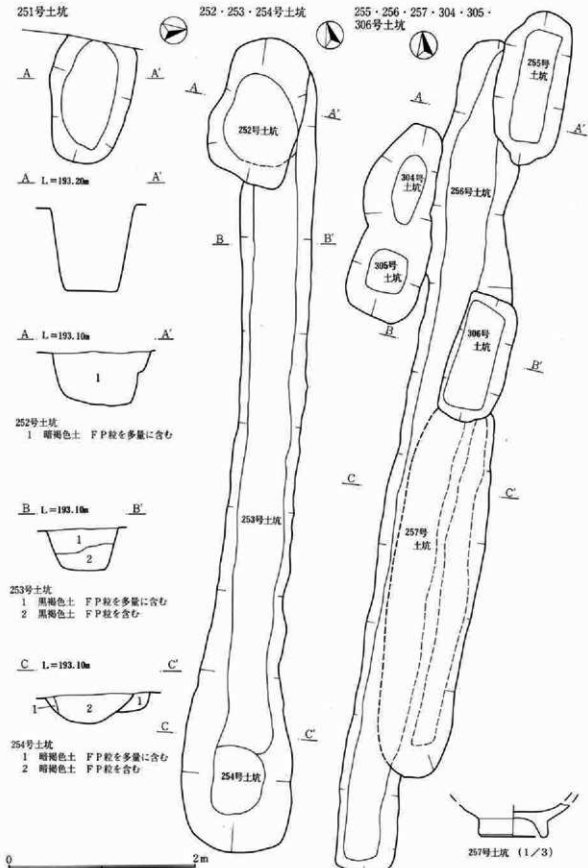
1F-37グリッドに存在する円形の土坑で、253号土坑を切る。径は115cm、深さは30cmである。遺物の出土は見られない。

255号土坑

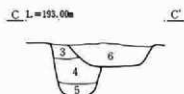
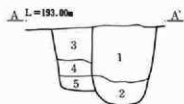
1H-37グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は165cm、短軸は75cm、深さは84cmである。遺物の出土は見られない。

256号土坑

第8節 白井南中道遺跡5区遺構群



第147図 白井南中道遺跡 251~257・304~306号土坑、257号土坑出土遺物



- 255・256・257号土坑
- 1 暗褐色土 F P粒を含む
 - 2 黒褐色土 F P粒を多量に含む
 - 3 暗褐色土 F P粒を多量に含む
 - 4 軽石 汚れたF P粒
 - 5 暗褐色土 F P粒を少量含む
 - 6 暗褐色土 F P粒を多量に含む

0 2m

第148図 白井南中道遺跡 255～257・306号土坑

IF～IH-38グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は889cm、短軸は74cm、深さは67cmである。遺物の出土は見られない。

257号土坑

IG-38グリッドに存在する土坑である。長軸は390cm、短軸は50cm、深さは24cmである。陶器の椀が出土している。椀は底部のみの出土で、底径5.2cm、残存高は2.5cmである。全面に灰軸が施されている。胎土は細砂粒を含み、色調は灰白色を呈する。

304号土坑

IH-38グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は125cm、短軸は70cm、深さは73cmである。遺物の出土は見られない。

305号土坑

IH-38グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は130cm、短軸は75cm、深さは52cmである。遺物の出土は見られない。

306号土坑

IH-37・38グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は137cm、短軸は64cm、深さは92cmである。遺物の出土は見られない。

258号土坑

IE・IF-38グリッドに存在する土坑である。長軸は272cm、短軸は50cm、深さは15cmである。遺物の出土は見られない。

259号土坑

ID・IE-38・39グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は550cm、短軸は100cm、深さは67cmである。陶器の播り鉢が出土している。口縁部のみの小片で、復元口径35.0cm、残存高は5.5cmである。全面に灰軸を施している。胎土は細砂粒を多く含み、色調は素地が鈍い黄褐色、軸が灰赤色を呈する。

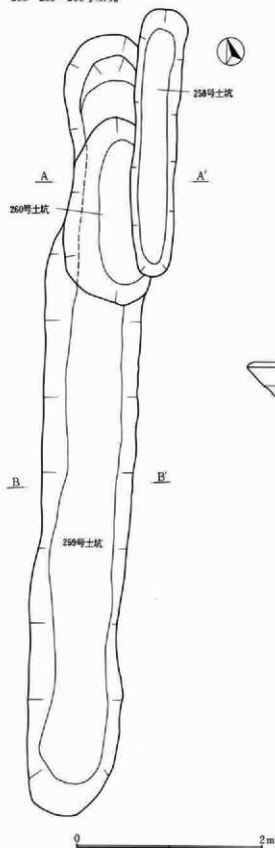
260号土坑

IE-38・39グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は197cm、短軸は97cm、深さは60cmである。遺物の出土は見られない。

261号土坑

IC・ID-38グリッドに存在する溝状の土坑である。

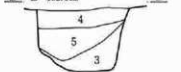
258・259・260号土坑



A L=192.90m A'

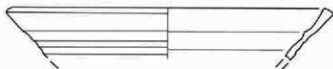


B L=192.90m B'



258・259・260号土坑

- 1 暗褐色土 F P 粒を含む
- 2 黒褐色土 F P 粒を含む
- 3 軽石 汚れた F P 粒
- 4 暗褐色土 F P 粒を多量に含む
- 5 暗褐色土



259号土坑 (1/3)

長軸は642cm、短軸は92cm、深さは50cmである。遺物の出土は見られない。

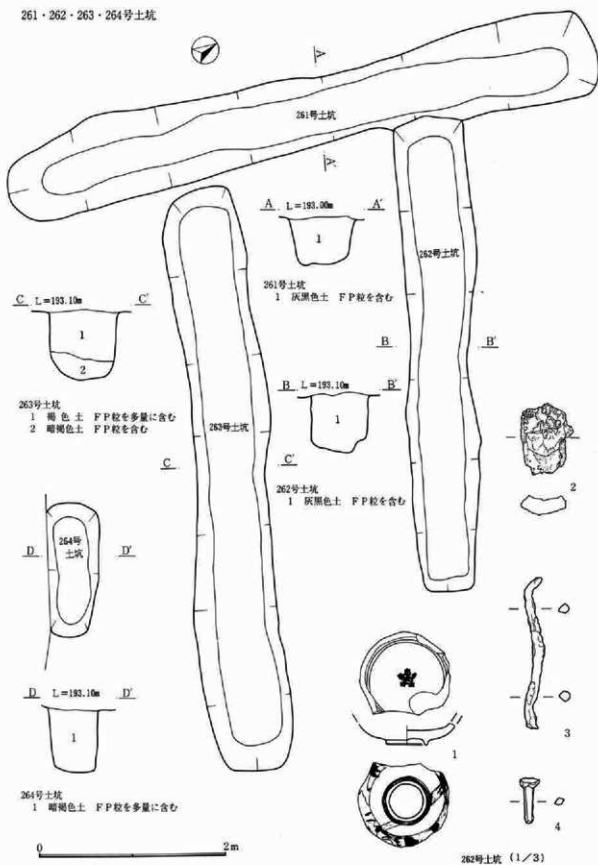
262号土坑

ID-37グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は500cm、短軸は75cm、深さは63cmである。磁器の碗、鉄製品の惣、鉄滓が出土している。1は磁器の碗である。底部のみ残存し、底径は3.2cm、残存高は1.5cmである。外面に草文が、見込部分には手書きのやや崩れた五弁花が描かれている。2は鉄滓である。図の上部に気泡が集中してみられ、下部が緻密で重い。磁石に引き付けられる力も、下部が強いようである。3・4は釘と思われる鉄製品である。4は断面方形で、頭巻が見られる。

263号土坑

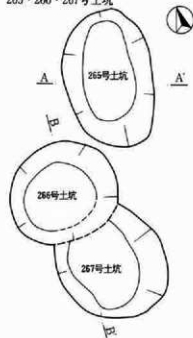
IC-37グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は617cm、短軸は80cm、深さは73cmである。遺物の

第149図 白井南中道遺跡 258～260号土坑・259号土坑出土遺物



第150図 白井南中道遺跡 261~264号土坑、262号土坑出土遺物

265・266・267号土坑



265号土坑

1 黒褐色土 F P粒を多量に含む



266・267号土坑

1 黒褐色土 F P粒を多量に含む
2 黒褐色土 F P粒を多量に含む

出土は見られない。

264号土坑

IC-37グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は142cm、短軸は55cm、深さは55cmである。遺物の出土は見られない。

265号土坑

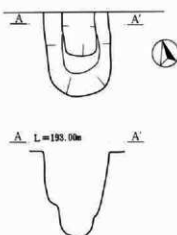
II-40グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は145cm、短軸は93cm、深さは33cmである。遺物の出土は見られない。

266号土坑

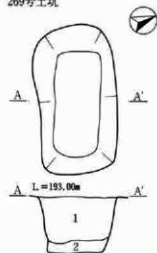
II-40グリッドに存在する円形の土坑である。径は117cm、深さは26cmである。遺物の出土は見られない。

267号土坑

268号土坑



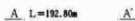
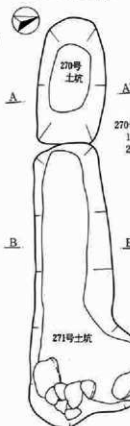
269号土坑



269号土坑

1 褐色土 F P粒を多量に含む
2 暗褐色土 F P粒を多量に含む

270・271号土坑



270号土坑

1 黒褐色土 汚れたF P粒を多量に含む
2 暗褐色土



271号土坑

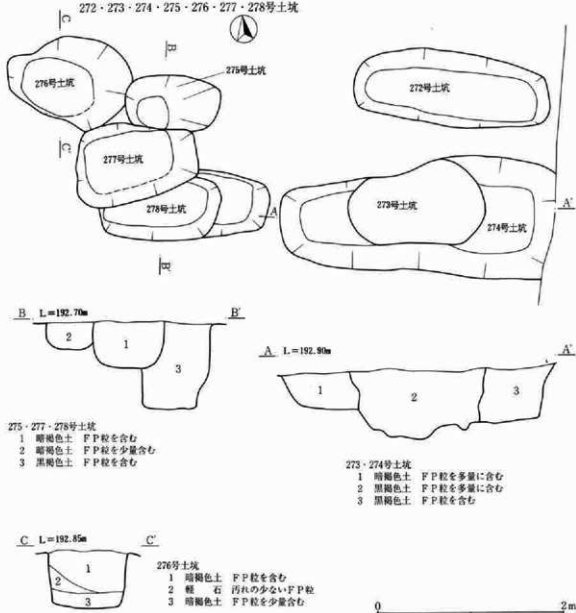
1 灰黒色土 F P粒を含む(表土)
2 暗褐色土 F P粒を多量に含む
3 暗褐色土 F P粒を多量に含む



第151図 白井南中道遺跡 265～271号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

272・273・274・275・276・277・278号土坑



第152図 白井雨中道遺跡 272～278号土坑

II・II-40グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は120cm、短軸は113cm、深さは37cmである。遺物の出土は見られない。

268号土坑

II-40グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は検出部分で90cm、短軸は70cm、深さは90cmである。遺物の出土は見られない。

269号土坑

II-42グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は157cm、短軸は82cm、深さは60cmである。遺

物の出土は見られない。

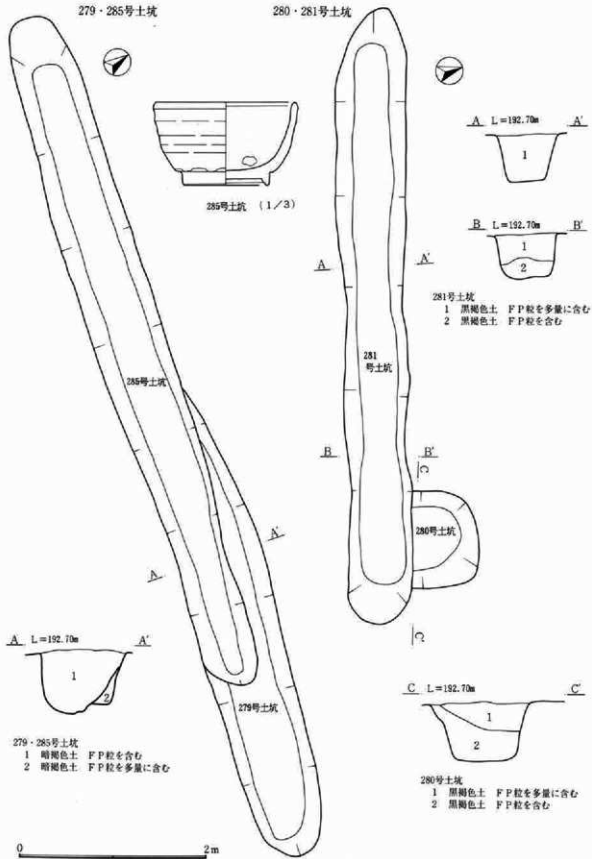
270号土坑

IC-39グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は132cm、短軸は73cm、深さは57cmである。遺物の出土は見られない。

271号土坑

IC-39グリッドに存在する土坑である。長軸は298cm、短軸は133cm、深さは60cmである。遺物の出土は見られない。

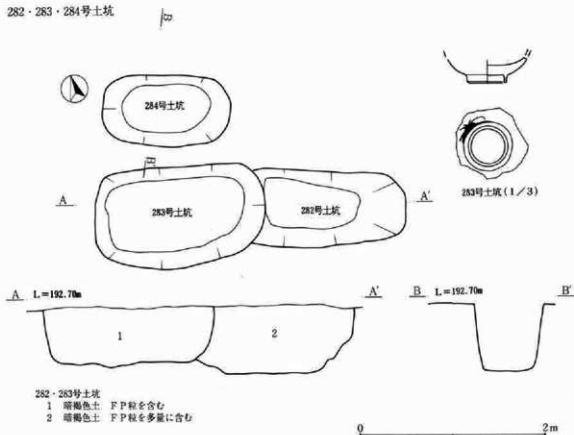
272号土坑



第153図 白井南中道遺跡 279～281・285号土坑、285号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

282・283・284号土坑



第154図 白井南中道遺跡 282～284号土坑、283号土坑出土遺物

IB-39グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は290cm、短軸は78cm、深さは52cmである。遺物の出土は見られない。

273号土坑

IB-39グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は145cm、短軸は72cm、深さは70cmである。遺物の出土は見られない。

274号土坑

IB-39グリッドに存在する崩れた隅丸方形の土坑である。長軸は292cm、短軸は130cm、深さは55cmである。遺物の出土は見られない。

275号土坑

IB-39グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は103cm、短軸は60cm、深さは28cmである。遺物の出土は見られない。

276号土坑

IB-40グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は134cm、短軸は85cm、深さは59cmであ

る。遺物の出土は見られない。

277号土坑

IB-39・40グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は130cm、短軸は83cm、深さは48cmである。遺物の出土は見られない。

278号土坑

IB-39・40グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は182cm、短軸は73cm、深さは90cmである。遺物の出土は見られない。

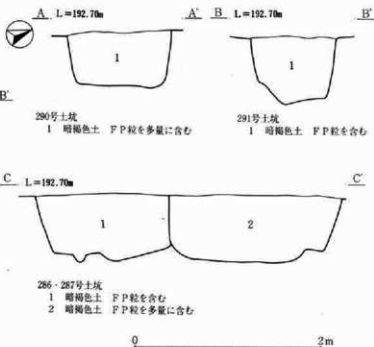
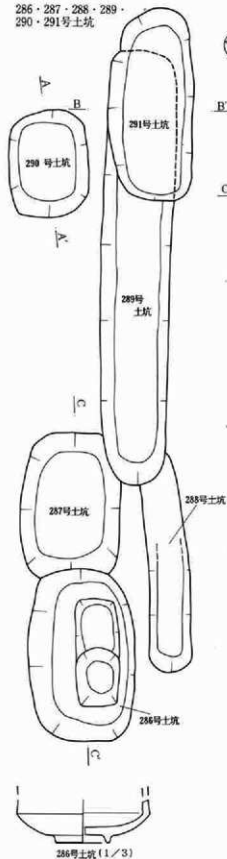
279号土坑

IC-41グリッドに存在する溝状の土坑で、285号土坑に切られる。長軸は残存部分で514cm、短軸は85cm、深さは65cmである。遺物の出土はみられない。

285号土坑

IC・ID-41・42グリッドに存在する溝状の土坑で、279号土坑を切る。長軸は740cm、短軸は78cm、深さは65cmである。陶器の碗が出土している。底部から口縁部まで約1/3が残存し、復元口径10.0cm、底徑

286・287・288・289・
290・291号土坑



290号土坑
1 暗褐色土 F P粒を多量に含む

291号土坑
1 暗褐色土 F P粒を含む

286・287号土坑
1 暗褐色土 F P粒を含む
2 暗褐色土 F P粒を多量に含む

7.8cm、器高は6.6cmである。ロクロ成形で、底部は回転糸切りによる削り出し高台である。口唇部は玉縁状を呈し、高台を除く全面に鉄軸が施されている。内面見込部分にはトチンの痕跡が見られる。胎土は細砂粒を含み、色調は素地が明紫灰色、施軸部分が明赤褐色を呈する。

280号土坑

IC-39・40グリッドに存在する土坑で、281号土坑に切られる。長軸は104cm、短軸は78cm、深さは62cmである。遺物の出土は見られない。

281号土坑

IC-39・40グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は648cm、短軸は65cm、深さは48cmである。遺物の出土は見られない。

282号土坑

IB-40グリッドに存在する隅丸方形の土坑で、283号土坑に切られる。長軸は残存部分で175cm、短軸は80cm、深さは70cmである。遺物の出土は見られない。

283号土坑

IB-40グリッドに存在する隅丸方形の土坑で、282

第155図 白井南中道遺跡 286～291号土坑、286号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

号土坑を切る。長軸は182cm、短軸は107cm、深さは63cmである。磁器の小椀が出土している。底部と体部の一部のみ残存し、底径は3cm、残存高は1.8cmである。軸は比較的厚く掛けられており、明緑灰色を呈する。体部には一重の圈線の上に草文が描かれているが、呉須の発色はやや鈍い。高台には二重の圈線が描かれている。

284号土坑

IC-41グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は133cm、短軸は74cm、深さは70cmである。遺物の出土は見られない。

286号土坑

IB-41・42グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は182cm、短軸は112cm、深さは70cmである。磁器の椀が出土している。底部から体部の一部のみ約1/4が残存し、復元底径4.4cm、残存高は3.4cmである。少し緑がかった青白色の釉が施されている。

287号土坑

IC-42グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は155cm、短軸は106cm、深さは70cmである。遺物の出土は見られない。

288号土坑

IC-41・42グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は230cm、短軸は44cm、深さは15cmである。遺物の出土は見られない。

289号土坑

IC-42・43グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は457cm、短軸は74cm、深さは59cmである。遺物の出土は見られない。

292号土坑

IC-43グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は残存部分で268cm、短軸は57cm、深さは43cmである。遺物の出土は見られない。

294号土坑

ID-43グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は85cm、短軸は47cm、深さは54cmである。遺物の出土は見られない。

295号土坑

IA~IC-44グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は11.4m、短軸は50cm、深さは41cmである。遺物の出土は見られない。

296号土坑

IC-43グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は156cm、短軸は70cm、深さは59cmである。遺物の出土は見られない。

308号土坑

IC-43グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で383cm、短軸は85cm、深さは73cmである。遺物の出土は見られない。

298号土坑

HW-38・39グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は400cm、短軸は85cm、深さは68cmである。遺物の出土は見られない。

300号土坑

HV~HX-39グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で17.5m、短軸は70cm、深さは20cmである。遺物の出土は見られない。

301号土坑

HU~HV-39グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は検出部分で194cm、短軸は70cmである。遺物の出土は見られない。

310号土坑

IK-37グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は134cm、短軸は64cm、深さは55cmである。遺物の出土は見られない。

311号土坑

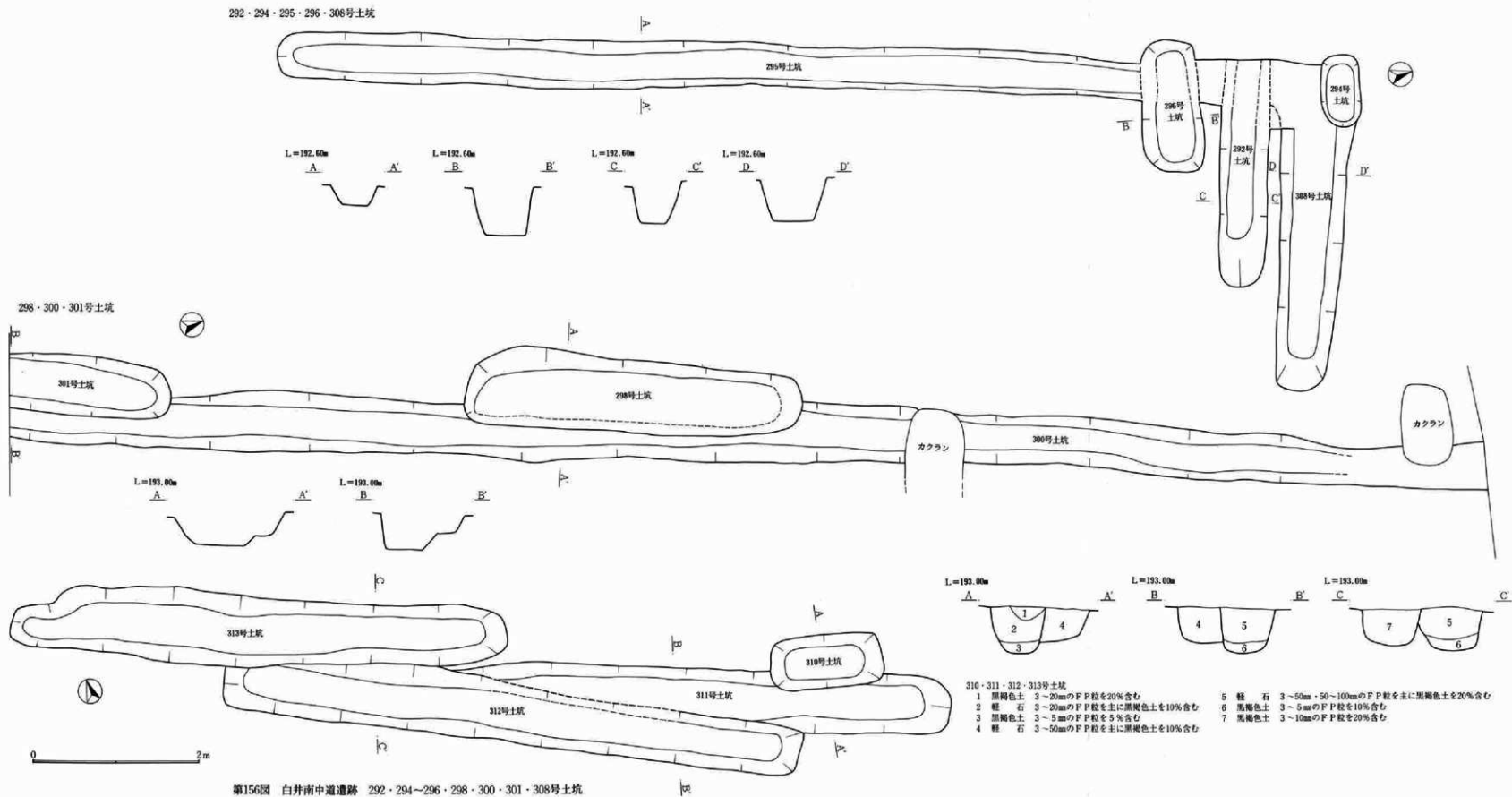
IK-37・38グリッドに存在する溝状の土坑で、312号土坑に切られる。長軸は残存部分で595cm、短軸は70cm、深さは42cmである。遺物の出土は見られない。

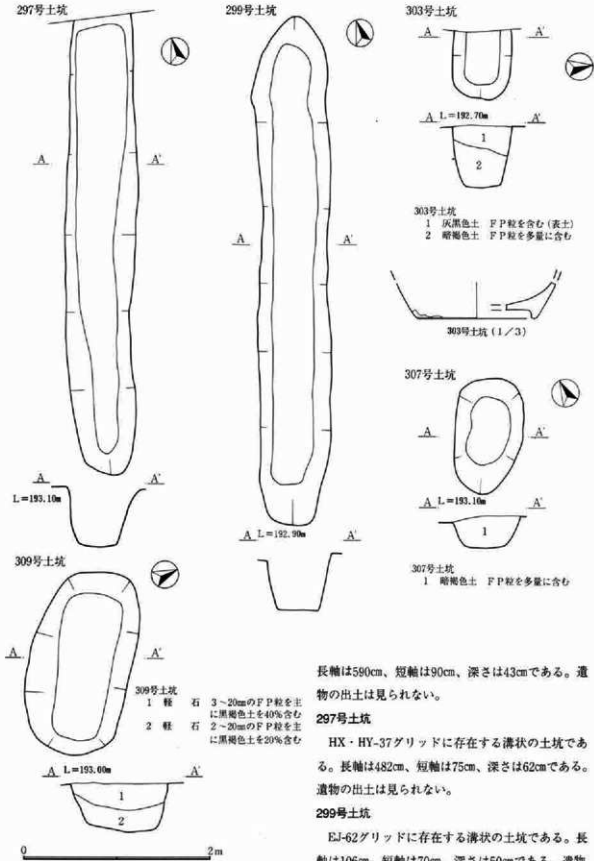
312号土坑

IK-37・38グリッドに存在する溝状の土坑で、311号土坑を切る。長軸は690cm、短軸は75cm、深さは52cmである。遺物の出土は見られない。

313号土坑

IL-38・39グリッドに存在する溝状の土坑である。





第157図 白井南中道遺跡 297・299・303・307・309号土坑、303号土坑出土遺物

長軸は590cm、短軸は90cm、深さは43cmである。遺物の出土は見られない。

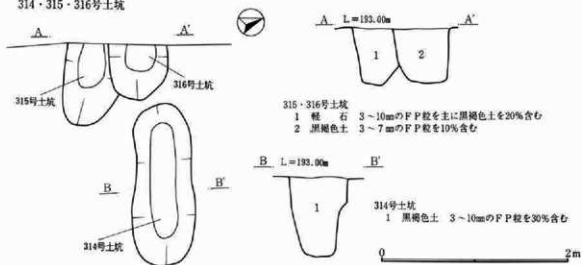
297号土坑

HX・HY-37グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は482cm、短軸は75cm、深さは62cmである。遺物の出土は見られない。

299号土坑

EJ-62グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は106cm、短軸は70cm、深さは50cmである。遺物

314・315・316号土坑



第158図 白井南中道遺跡 314～316号土坑

の出土は見られない。

303号土坑

ID-43グリッドに存在する土坑である。長軸は検出部分で70cm、短軸は62cm、深さは65cmである。遺物の出土は見られない。

307号土坑

IF-37グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は124cm、短軸は74cm、深さは34cmである。遺物の出土は見られない。

309号土坑

II・IK-36グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は197cm、短軸は107cm、深さは52cmである。遺物の出土は見られない。

314号土坑

II-40グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は170cm、短軸は60cm、深さは83cmである。遺物の出土は見られない。

315号土坑

II-40グリッドに存在する楕円形の土坑で、316号土坑に切られる。長軸は検出部分で90cm、短軸は58cm、深さは59cmである。遺物の出土は見られない。

316号土坑

II-40グリッドに存在する楕円形の土坑で、315号土坑を切る。長軸は検出部分で60cm、短軸は56cm、深さは57cmである。遺物の出土は見られない。

317号土坑

II-35グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は190cm、短軸は検出部分で43cm、深さは70cmである。遺物の出土は見られない。

318号土坑

II-35グリッドに存在する土坑である。短軸は106cm、深さは48cmである。遺物の出土は見られない。

319号土坑

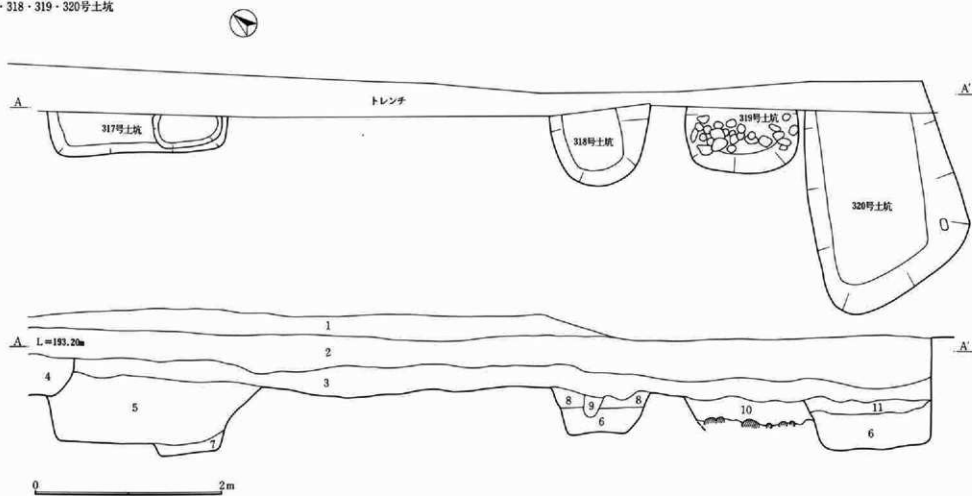
II-34グリッドに存在する土坑である。隅丸方形と考えられる土坑である。一辺は120cm、深さは60cmで、そこに掘り傘大の跡が見られる。玉縁口縁の鉢の他、釘、縄文土器が混入している。1は陶器の鉢である。口縁部と底部の小片が見られるのみで、胴部は検出されていない。復元口径は18.2cm、底部から体部の残存高は7.2cmである。ロクロによる整形を行い、全面に鉄軸を施している。底部と見込部分に砂が見られる。2は釘である。断面は方形で、頭巻が見られる。3・4は縄文土器である。浮線文を持つ諸磯b式土器で、地文は単節のRである。

320号土坑

II-33・34グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は検出部分で214cm、短軸は158cm、深さは55cmである。遺物の出土は見られない。

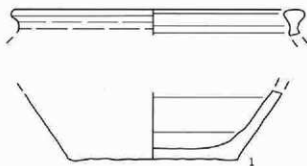
321号土坑

HV・HW-42グリッドに存在する楕円形の土坑で、人

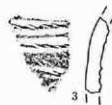


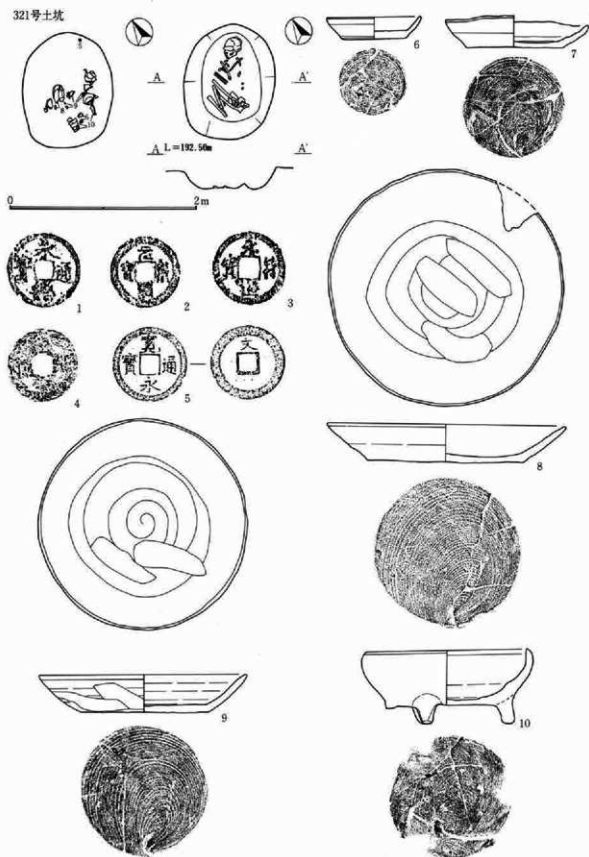
317・318・319・320号土坑

- 1 表土
- 2 黒褐色土 黒ガク土を主体としF P粒を多量に含む
- 3 黒褐色土 2に似るがFAブロック・ロームブロックを少量含む
- 4 黒褐色土 2にF P粒の含有量がやや少ない
- 5 黒褐色土 3に似るがFAブロックが多く、FA下層の黒色土ブロックも見られる
- 6 黒褐色土 3に似るがFAブロックが少なく、ロームブロックは見られない
- 7 褐色土 FAブロックが主体
- 8 褐色土 FAとの混泥土
- 9 黒褐色土 FAとの混泥土
- 10 黒褐色土 F P粒を多量に含み、下に準一人頭大の円礫・磁砕礫がぎっしり詰まる
- 11 暗褐色土 黒色ブロックを多量に含む



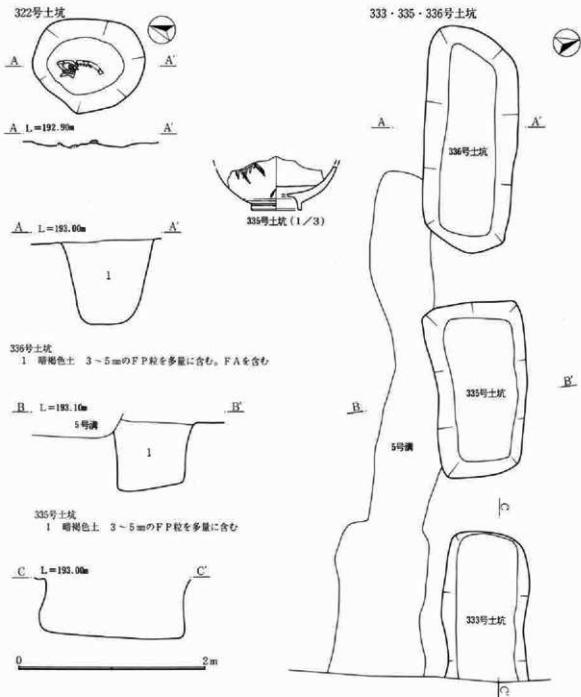
319号土坑 (1/3)





第160图 白井南中道遺跡 321号土坑、321号土坑出土遺物、1~5 (4/5) 6~10 (1/3)

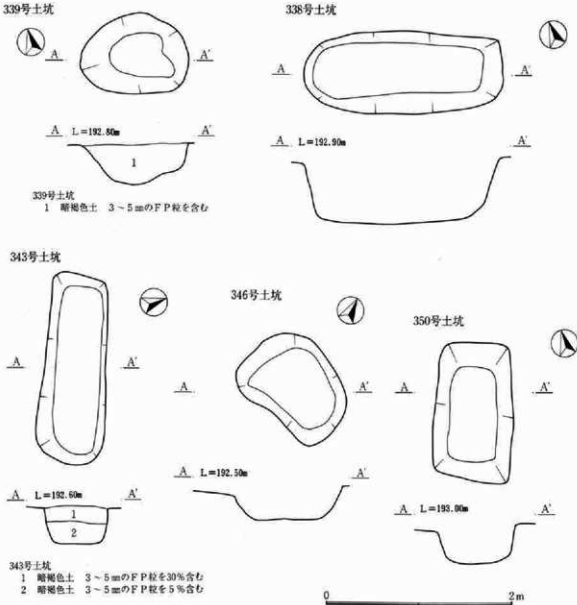
第3章 検出された遺構と遺物



第161図 白井南中道遺跡 322・333・335・336号土坑、335号土坑出土遺物

骨の他、カワラケ、香炉等が出土した墓塚である。長軸は120cm、短軸は97cm、深さは22cmで、埋土の上層に大形のカワラケ2個体、やや小さいカワラケ1個体、小形のカワラケ1個体、香炉1個体が出土し、下層からは、手足を折り曲げた形で人骨が検出されている。人骨の周囲からは銭が出土し、その中に新寛永が含まれていることから、寛文8(1668)年以

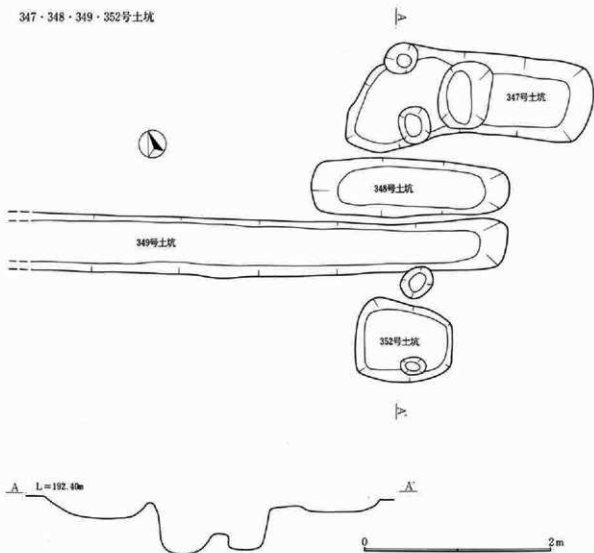
降の遺構であると考えられる。銭は5枚出土しており、1は永樂通寶で、直径2.45cm、郭は一辺0.60cm、重さは4.25gで、初鑄造年は1411年である。2・3は元符通寶で、2は直径2.45cm、郭は一辺0.70cm、重さは2.92g、3は直径2.40cm、郭は一辺0.65cm、重さは3.04gで、初鑄造年は1088年である。4は銭種不明で、直径2.40cm、郭は一辺0.60cm、重さは3.17g



第162図 白井南中道遺跡 338・339・343・346・350号土坑

である。5は寛永通寶で、直径2.50cm、郭は一辺0.60cm、重さは3.25g、「文」の背文が見られるいわゆる新寛永で、初鋳造年は寛文8（1668）年である。6は小形のカワラケで、口径7.6cm、底径5.3cm、器高は1.7cmである。器形は広がり気味に立ち上がり、口唇部はやや内湾する。ロクロによる整形を行っており、底部を除く全面にヨコナデを施している。底部は回転糸切り無調整である。胎土は細砂粒を含み、色調は橙色を呈する。7はカワラケで、口径11.5cm、底径7.7cm、器高は2.5cmである。器形は広がり気味に立ち上がり、口唇部が僅かに内湾する。ロクロに

よる整形を行っており、底部を除く全面にヨコナデを施している。底部は回転糸切り無調整である。胎土は細砂粒、黒色粒子を多く含み、色調は鈍い橙色を呈する。大きさは異なるが、6と7は形態的にも技法的にも共通点が多い。8・9は大形のカワラケで、8は口径16.5cm、底径10.0cm、器高は3.0cmである。器形は広がり気味に立ち上がり、ロクロによる整形を行っており、体部内外面にはヨコナデ、底部内面には回転を利用して、指で中心から外側へ向けて撫でていったと思われる渦巻き状の痕跡が見られる。底部は回転糸切り無調整である。胎土は細砂粒を僅



第163図 白井南中道遺跡 347～349・352号土坑

かに含み、色調は鈍い橙色を呈する。9は口径19.2cm、底径12.6cm、器高は2.9cmである。器形は広がり気味に立ち上がり、ロクロによる整形を行っており、底部を除く全面にヨコナデを施した後、底部内面にナデを数回加えている。底部は回転糸切り無調整である。胎土は細砂粒を含み、色調は鈍い橙色を呈する。10は香炉で、口径12.9cm、底径10.0cm、器高は6.0cmである。器形は広がりながら立ち上がり、口縁部が内湾する。ロクロによる整形を行っており、底部を除く全面にヨコナデを施している。底部回転糸切り離し後、3本の脚をはりつけている。胎土は細砂粒を含み、色調は橙色を呈する。これらの土器は全て、同一工人によって同時に製作されたと考え

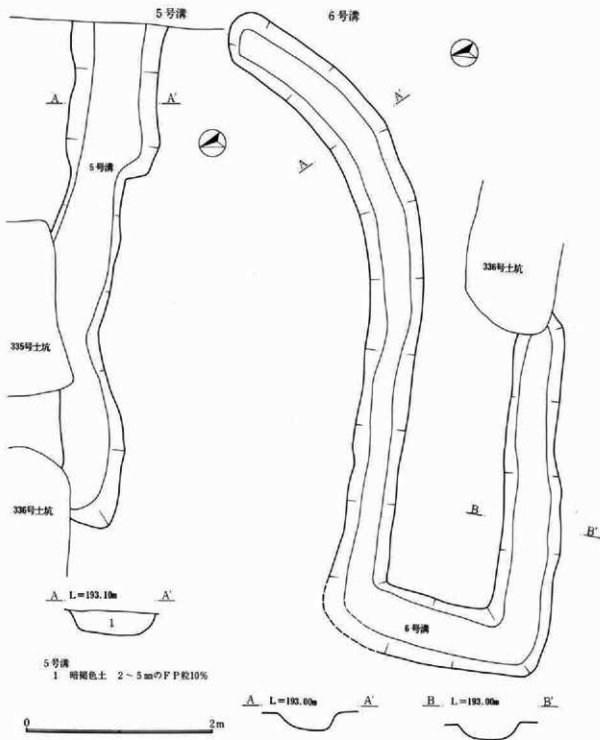
られ、技法においても焼成の様子も殆ど同じである。また、出土状況は、全てが細かく破壊されており、埋葬時に碎いて埋めた可能性が高い。

322号土坑

ID-38グリッドに存在する楕円形の土坑である。長軸は119cm、短軸は100cm、深さは16cmである。豚と思われる獣の骨が出土している。

333号土坑

HT-37グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は検出部分で164cm、短軸は90cm、深さは64cmである。磁器の碗が出土している。底部から体部の一部のみの小片で、復元底径4.0cm、残存高は3.5cmである。高台に1本、体部下端に2本の圈線が見られ、



第164図 白井南中道遺跡 5・6号溝

体部外面には草文が見られる。兵須の発色は明るく、青に近い紺である。

335号土坑

HT-37・38グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は180cm、短軸は80cm、深さは78cmである。

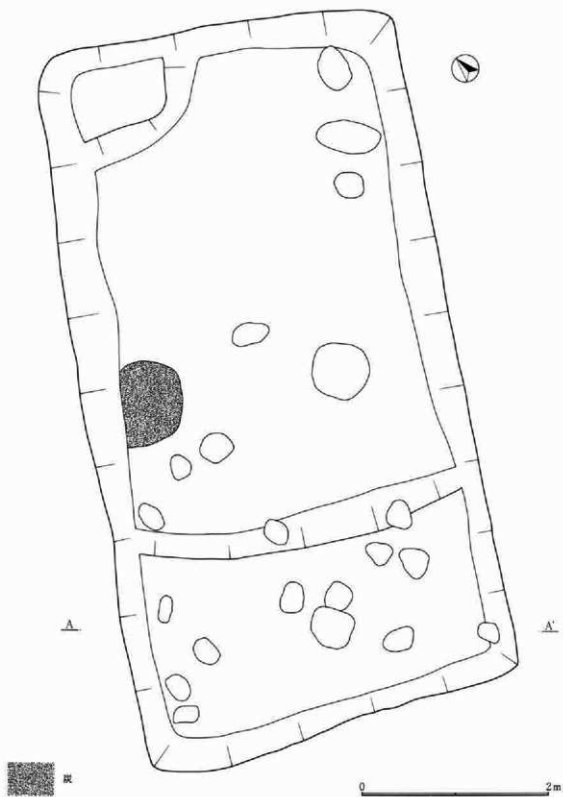
る。遺物の出土は見られない。

336号土坑

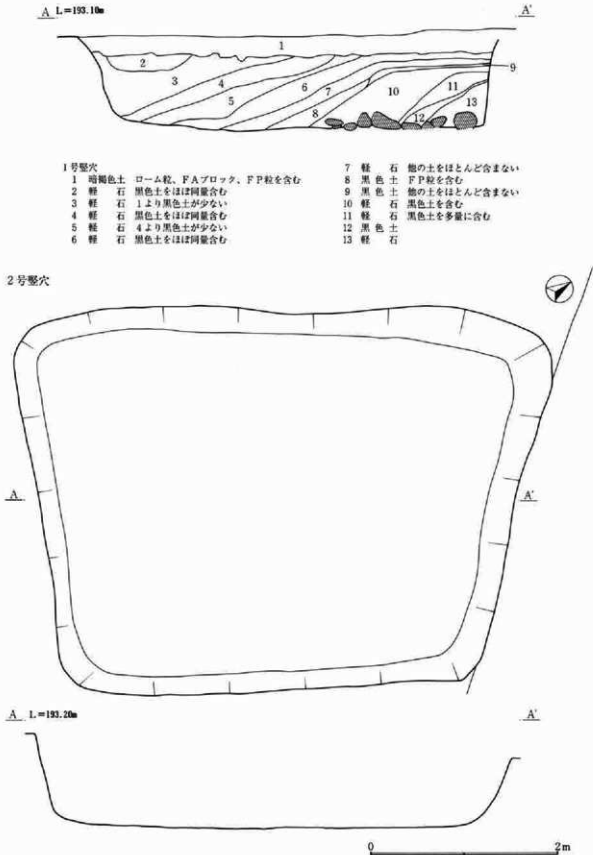
HT-37グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は230cm、短軸は80cm、深さは93cmである。遺物の出土は見られない。

第3章 検出された遺構と遺物

1号竪穴



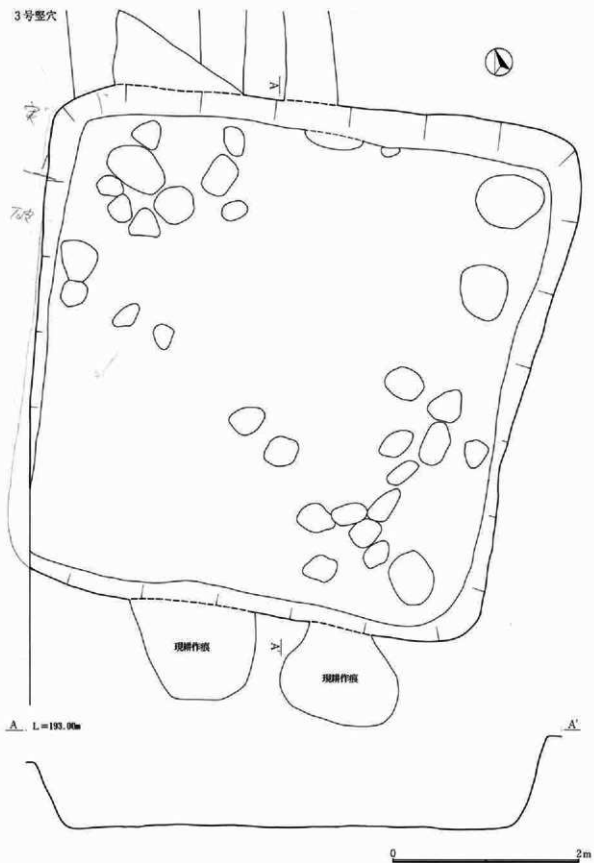
第165図 白井南中道遺跡 1号竪穴



第166図 白井南中道遺跡 1号竪穴・2号竪穴

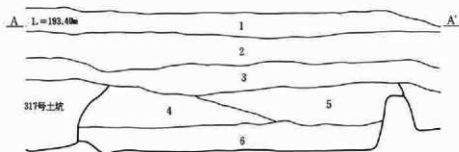
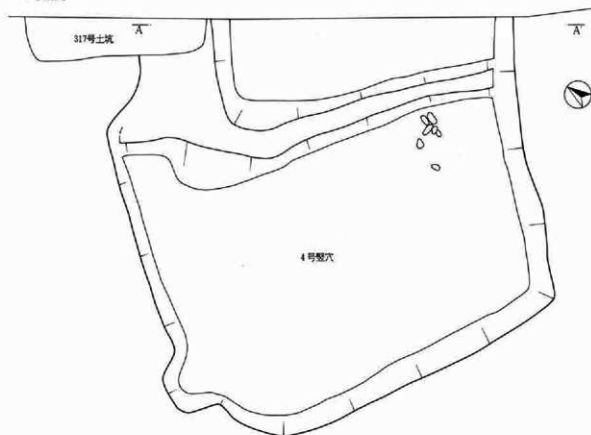
第3章 検出された遺構と遺物

3号竪穴



第167図 白井南中道遺跡 3号竪穴

4号竪穴



338号土坑

HT・HU-40グリッドに存在する崩れた隅丸方形の土坑である。長軸は210cm、短軸は88cm、深さは80cmである。遺物の出土は見られない。

339号土坑

HU-40グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は116cm、短軸は82cm、深さは50cmである。遺物の出土は見られない。

343号土坑

4号竪穴

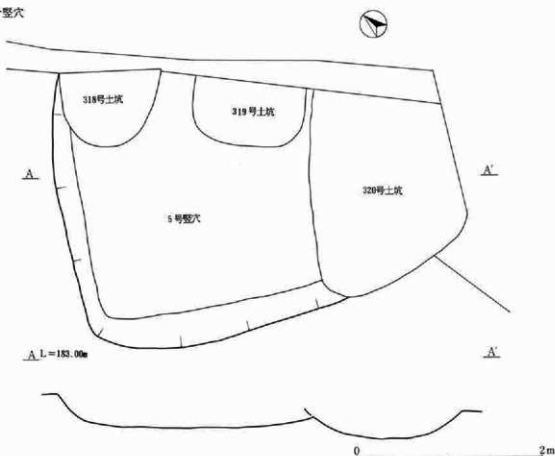
- | | | |
|---|------|-----------------------|
| 1 | 暗褐色土 | ローム粒、FAブロック、FP粒を含む |
| 2 | 黒褐色土 | FP粒を多量に含む |
| 3 | 黒褐色土 | 2よりFP粒が少ない |
| 4 | 褐色土 | FA、ローム、黒色土の混合土 |
| 5 | 黒褐色土 | ロームブロック、FAブロック、FP粒を含む |
| 6 | 黒褐色土 | FP粒を凝状に含む |



第168図 白井南中道遺跡 4号竪穴

第3章 検出された遺構と遺物

5号竪穴



第169図 白井南中道遺跡 5号竪穴

HU-41・42グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は200cm、短軸は70cm、深さは35cmである。遺物の出土は見られない。

346号土坑

HV-42グリッドに存在する崩れた楕円形の土坑である。長軸は120cm、短軸は90cm、深さは39cmである。遺物の出土は見られない。

350号土坑

HT-37グリッドに存在する隅丸方形の土坑である。長軸は144cm、短軸は84cm、深さは42cmである。遺物の出土は見られない。

347号土坑

HV-43グリッドに存在する崩れた隅丸方形の土坑である。長軸は260cm、短軸は100cm、深さは14cmである。遺物の出土は見られない。

348号土坑

HV-43グリッドに存在する楕円形の土坑である。

長軸は220cm、短軸は76cm、深さは45cmである。遺物の出土は見られない。

349号土坑

HV-43・44グリッドに存在する溝状の土坑である。長軸は検出部分で560cm、短軸は60cm、深さは58cmである。遺物の出土は見られない。

352号土坑

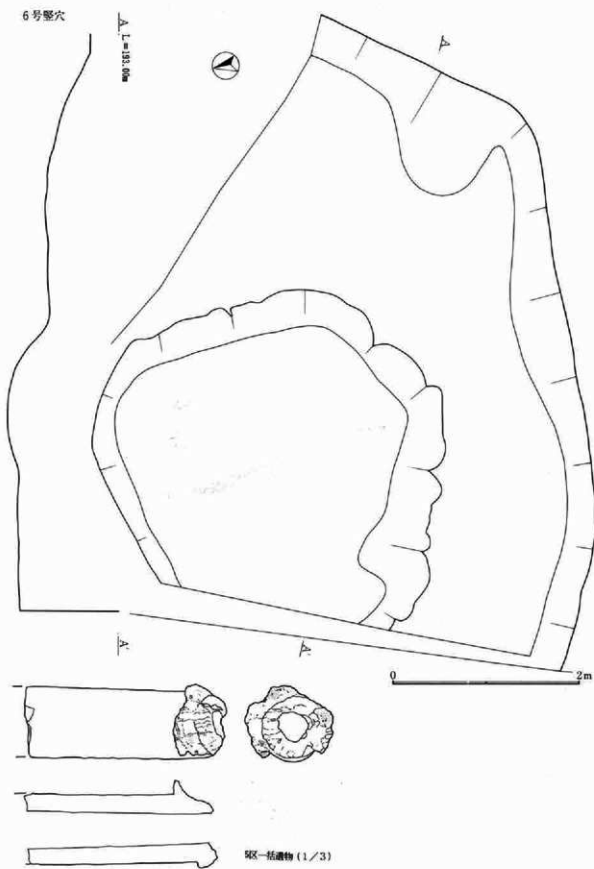
HU-43グリッドに存在する崩れた隅丸方形の土坑である。長軸は96cm、短軸は88cm、深さは11cmである。遺物の出土は見られない。

5号溝

HT-37・38グリッドに存在する溝である。長さは検出部分で534cm、幅は98cm、深さは28cmである。遺物の出土はみられない。

6号溝

HU-38・39グリッドに存在する溝で、5号溝に連続する可能性がある。全長は13.27m、幅は72cm、深さ



第170图 白井南中道遺跡 6号竖穴、5区一括遺物

第3章 検出された遺構と遺物

は24cmである。「7」字型に折れ曲がっている。遺物の出土は見られない。

1号竪穴

IM・IN-37・38グリッドに存在する方形の掘り込みである。長軸は740cm、短軸は410cm、深さは100cmである。遺物の出土は見られない。

2号竪穴

IL・IM-36・37グリッドに存在する方形の掘り込みである。長軸は570cm、短軸は412cm、深さは112cmである。遺物の出土は見られない。

3号竪穴

IM・IN-39・40グリッドに存在する方形の掘り込みである。長軸は570cm、短軸は550cm、深さは64cmである。遺物の出土は見られない。底は礫層まで達

しており、多くの礫が見られる。

4号竪穴

IK・IJ-34・35グリッドに存在する方形の掘り込みである。長軸は460cm、短軸は455cm、深さは150cmである。遺物の出土は見られない。

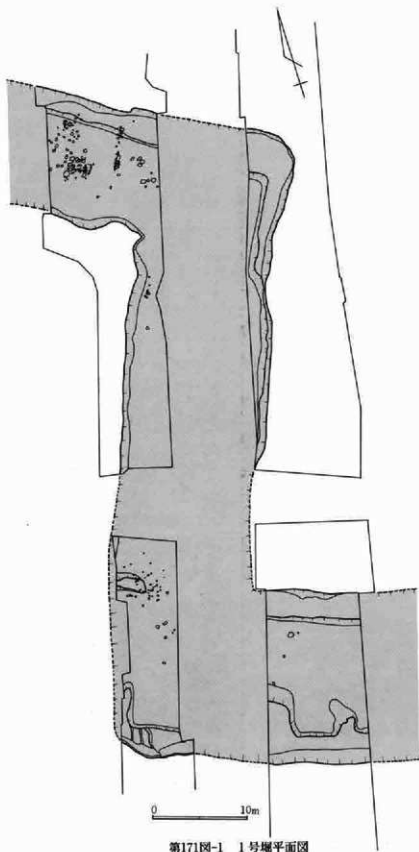
5号竪穴

IK・IJ-34・35グリッドに存在する方形の掘り込みである。長軸は420cm、短軸は300cm、深さは61cmである。遺物の出土は見られない。

6号竪穴

IO・IP-38・39グリッドに存在する掘り込みである。長軸は690cm、短軸は660cm、深さは96cmである。遺物の出土は見られない。





第171図-1 1号堀平面図



第171図-2 白井城と二位屋城

『群馬県古城集址の研究』より
 印内が1号堀の検出位置である。

第171図 二位屋城跡



第171図-3 耕地図

スクリン・トーンの範囲が
 想定される堀の範囲である。
 印内が1号堀の検出位置で
 ある。

第4章 考 察

第1節 二位屋城堀について

黒田 晃

二位屋城は、山崎一氏の『群馬県古城遺址の研究』で仁居谷城として取り上げられており、「白井城東南200メートルを隔てて仁居谷の城址がある。東西250メートルの堀とその南に沿う土居址があるが、堀は白井城の南郭堀より大きく、土居は台状になって白井城側から外側にあり、かつ堀は東側で南に折れ120メートル以上続く点など、白井城とは別城である条件が幾つも見られる。後には白井城の遺堀として改造されたかもしれないが、初期には別城であろう。「にいや」の地名は限下三箇所あるが、いずれも別城一郭の城のうち別城のあるところで、殊に白井城ではこの関係が明瞭である。」とされている。今回、実際にこの堀の一部が発掘され、幾つか新しい見解も見いだされたので、ここで述べてみたい。中世城館址の堀は、その防壁上の必要性から深い薬研堀であるのが通常である。二位屋城の場合は底面が幅広く、箱堀状を呈し、堀の立ち上がりも傾斜が緩やかで、深度も浅いなど特異な例であると考えられる。しかし茨城県筑波市の小泉館址や埼玉県加須市の花崎城など、底面に明らかな降子堀が存在するものの、幅広い堀の例が無い訳ではない。また、堀の片面の隅に存在する半島状の張り出しは、堀を掘削する際にロームを掘り残して作られており、堀内部の障壁の一種ではないかと考えられる。池田光雄氏は「堀内部障壁の一形態について」において、堀内部障壁の分類を行っている。池田氏の分類に基づき、その類型を整理すると、まず障壁の高さが堀の壁と同じものと堀の壁よりも低いものと同じに分けられる。障壁の高さが堀の壁の高さと同じで、かつ障壁が堀に対して直交するものを「土橋」とし、障壁が堀に対して平行するものを「連続堀」としている。また障壁が堀の壁よりも低く、かつ障壁が堀に対して直交するものを「縦堀」、障壁が堀に対して平行するものを「連続堀に準ずるもの」とし、この2つ

が組み合わされて、十字型の障壁を作るものを「降子堀」としている。二位屋城の場合、障壁は堀の壁よりも低く、かつ堀に対して直交することから、縦堀の一種という考え方もできるが、他に類例が見られず、特殊な例として注目される。防壁施設として見ると、障壁の傾斜が緩やかで、しかも堀の幅が広く、深さが浅いため、かえって城内に入り易くなるのではないかと思われるが、堀の内側に土塁が巡っていた痕跡が見られることから、一概に防壁上不利であったとは言い切れない。しかし、区画あるいは地割りのための施設である可能性も考慮しなければならぬであろう。また、山崎氏は、東に延びていた堀が、現在墓地として残存している土塁を避けるように南に折れ曲がり、吾妻川の断崖で堀切りとなることを想定していた。図171-2は『群馬県古城遺址の研究』の図を基に再トレースしたものであり、円で囲った部分が今回発掘した部分である。山崎氏が想定した堀の復元は、圃場整備前の耕地図(図171-3)でも南に伸びる帯状の地割りとして確認できる。しかし実際堀は土塁を取り巻いてまず北へ折れ、直ぐに西に折れる(図171-1)。堀がこのまま西に続いていたとすれば、白井城の新曲輪から東に延びる堀と合流する可能性が高くなってくる。このことは、耕地図(図171-3)上にもはっきりと現れている。スクリーントーンを貼った部分が、白井城及び二位屋城の堀と考えられる地割りである。特に図171-2と図171-3を比較してみると、山崎氏の堀の想定と地割りがほとんど一致していることが分かる。白井城及び二位屋城の堀の痕跡は、地割りに姿を変えて残存しているのである。

長享2(1488)年にこの地を訪れた僧万里は、『梅花無尽蔵』の中で、「阿二十八日。突角淵之農炊赴白井。途中隔一村。馬上望拜上野之総社。(中略)拜路渡吾妻河。有危橋而船爲地。」と書き残している。

第4章 考 察

この「危橋」は、現在の落合橋の位置に掛けられていたと考えられる。また、明治6年の耕地図には同じ位置に高崎道からの渡し舟が描かれている。いずれにしても、二位屋城が白井城の一部であるとすれば、城内を街道が通り抜けることとなる。同様の例は長井坂城にも見られ、二の丸と本丸の間を沼田街道が通り抜けている。これらのことを総合して考えると、二位屋城は白井城と堀を共有することからそ

の一部であることは確かであろうが、防壁をその主たる目的とした施設ではなく、その他の機能、例えば街道を押え、管理するための施設である可能性が高いであろう。

小橋の執筆にあたり、当事業団の木津博明氏には資料の提供を、石守晃氏には中世城館址についてのご助言をいただいた。記して謝意を表したい。

参考文献

- 1972 『群馬県古城址の研究』 山崎 一
1978 『長尾氏の研究』 関東武士研究叢書 第6巻 藤守 すみ
1979 『群馬県』 『日本城郭大系』 4 新人物往來社
1984 『上杉氏の研究』 戦国大名論集 9 相田 二郎 他
1986 『上野国分徳寺・尼寺中間地域(1)』 -関越自動車道(新路線)地域埋蔵文化財調査報告書第12集-
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
1987 『子神村史』 上巻
1988 『群馬県の中世城館跡』 群馬県教育委員会
1988 『堀内部障壁の一形態について -後北条氏領国下のいわゆる障子堀、畷堀を中心に-』 『中世城郭研究』 第2号 池田 光雄
1989 『堀内部障壁の一形態について -全国の類例を考へる-』 『中世城郭研究』 第3号 池田 光雄
1991 『群馬県の中世城郭』 『中世城郭研究』 第5号
1992 『白井城』 『戦国の城』 一日で見る築城と戦略の金銭- 西ヶ谷 忠弘

第2節 白井二位屋遺跡の削平跡について

神谷 佳明

白井二位屋遺跡では、発掘調査にあたって第1面の遺構確認面を基本層序のⅡ層にあたる株名山二ツ岳軽石(FP)層上面として表土層の掘削を行ったが、1区から2区の現道路西側部分では表土下がⅡ層、Ⅲ層、Ⅳ層存在せずⅠ層の下層にはⅤ層またはⅥ層、Ⅶ層が見られた。

発掘調査当初、遺跡の所在する白井地区一帯は、昭和20年代の初めに園場整備が行われ、二位屋城跡の土塁の削平や堀の埋め立てが行われた旨の話を地元関係者から聞いていたことから1区から2区にかけても園場整備時に削平が行われたと推定された。しかし、発掘調査を進めていくなかでⅠ層からⅦ層まで順序だてて堆積している地点の遺構の在り方を観察していくなかで1区から2区のⅡ層～Ⅳ層が

存在しない地点での遺構の在り方に矛盾が感じられた。その矛盾点は、検出された墓塚・土坑がⅡ層上面で検出されたものは深いものでもⅡ(FP)層を掘り下けても底部がⅢ層またはⅣ層までしか達しておらず、1区・2区の墓塚・土坑の底部はⅤ層からⅦ層に達している。この地点の墓塚・土坑は、園場整備によって削平がおこなわれたならば、当然遺構の痕跡が残るか残らない程度の状態であるが、一般的な土層堆積をしている地点の墓塚・土坑に比べて0.6～1m前後深い深度をもっていたことになる。

しかし、1区、2区の墓塚・土坑の残存状態みると深度が20～30cmほど浅いものがあるが、深度にそれほどの大差はない。また、墓塚での人骨の残存状態も上部が削られた痕跡はみられない。

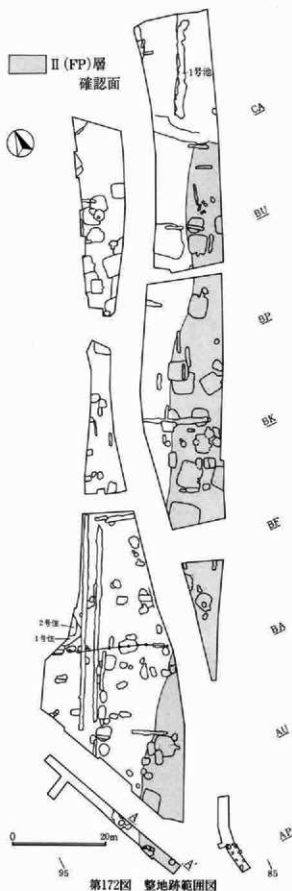
第2節 白井二位屋遺跡跡の削平跡について

遺跡地周辺の地形をみると1区から2区にかけては、二位層城跡の土塁から調査区西端部を頂点とする幅約30～100mほどの僅かではあるが微高地を形成し、その両側に埋没谷が存在していることが窺える。このことは、発掘調査においても1区の南端部を東西に通る道路南側の土層断面や1区、2区の現道路東側の調査区ではF P層が東へ傾斜しておりその上層にA s-Bの混入した黒色土が堆積していることから圃場整備ではF P層に達する工事は行われていないことが窺え、圃場整備では発掘調査当初推定されたような大規模な土砂の移動は土塁や堀の部分以外では行われなかったことが分かった。

発掘調査の成果から当初の地形を復元すると道路南側の土層断面ではF P下面是西から東へかけて約5%の傾斜であることから調査区西端でのF P下面での標高は185.0mほどになりこれにII層の約60～70cmとI層の40～60cmの堆積をたすと186.00～186.30mほどの標高があったことが想定される。

このことは、1区調査区西端部に位置する2号住居跡や3号住居跡の床面までの深度が確認面から40～60cm不足ししかなく白井二位屋遺跡のF P面で検出された住居跡がF P上面から床面までの深度が表のように1～1.5mであることから2号住居跡や3号住居跡も第175図の2号住居跡土層断面模式図のように上部にF P層の堆積の厚さを考えれば他の住居跡と同じ深度になることから前述のことは裏付けられる。

前述のような状況から1区・2区にみられるVI層～VII層面までの削平は、圃場整備以前に行われたものであることが分かった。2号住居跡、3号住居跡は、白井二位屋遺跡の住居跡の様相から前述の旧地形上に構築されている。



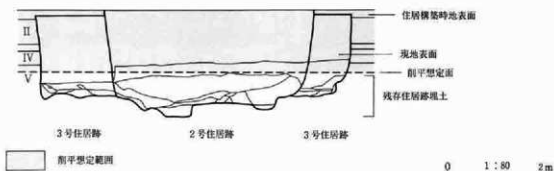
第172図 整地跡範囲図



第173図 1区南端セクション図



第174図 整地跡位置図



第175図 2号住居跡・3号住居跡近辺削平想定図

第3節 採掘坑出土の銭貨（渡来銭）

このように1区・2区でのV層からⅧ層までの削平が行われた時期は、大枠では1区・2区で検出された墓壙・土坑より以前、2号住居跡、3号住居跡の以後である。

墓壙・土坑の年代は、明確なものはないが、第3章1節に掲載されている墓壙・土坑出土遺物から古い時期のものは16世紀代の瀬戸・美濃産の陶器を出土している4号土坑、53号土坑、同じく16世紀代のカワラケを出土している6号土坑、8号土坑、9号土坑などがみられ、概ね16世紀代である。

2号住居跡および3号住居跡は、重複関係から2号住居跡が後出であることが分かっており、その出土遺物は、土師器杯、甕、須恵器杯等が見られ、その年代は、8世紀後半に比定される。

上記のように削平が行われた時期は、8世紀後半以後、16世紀以前の約700年間に比定されるが、こ

の削平が行われた位置が第175図にみられるように二位屋城の内部であることから二位屋城構築以後に行われたと推定される。

白井二位屋遺跡住居跡深度表

住居跡No.	位置	深度	備考
1号住居跡	1区	1.10m	
4号住居跡		1.50m	
6号住居跡		1.50m	
11号住居跡		1.10m	
28号住居跡		1.15m	
31号住居跡		1.50m	
36号住居跡		1.15m	
37号住居跡		0.95m	
74号住居跡	1区	1.65m	西側V層

F 面 で 確 認 さ れ た 住 居 跡

第3節 採掘坑出土の銭貨（渡来銭）

神谷 佳明

白井二位屋遺跡・白井南中道遺跡では、21遺構から502枚の銭貨の出土がみられた。銭貨を出土した遺構は、堅穴住居跡、土坑、土壇、採掘坑、堀、溝など各遺構におよび、種類は皇朝十二銭1種類1枚（和同開珎）、渡来銭36種類469枚、江戸期銅銭（寛永通寶）と私鑄銭3枚である。渡来銭は、唐銭1種26枚、北宋銭27種359枚、南宋銭3種6枚、明銭3種101枚、朝鮮銭1種1枚である。これら渡来銭のうち447枚は、白井南中道遺跡3・4区ルーム採掘坑からの出土である。出土状態については不明であるが、渡来銭は数枚が緋繩に通された状態のものが3群55枚と複数枚が張付いた状態のものが37群373枚と単独のものが9枚である。緋繩に通されたものは一単位が12枚から31枚で枚数の多い北宋銭、明銭はすべての群に含まれている。また、唐銭も16群に含まれており、各群に銭種の偏り等の傾向は特別みられず、当初はひとつにまとまっていたものが後世の耕作や圃場整備によって攪拌されたと想定される。白

井南中道遺跡のルーム採掘坑出土銭貨について近年の発掘調査による出土状態から検討すると次のようなことが想定される。遺跡から銭貨の出土例の多くは、墓壙等からの六道銭が中心で備蓄銭が緋繩の状態出土した例は数少ない。そうした中で緋繩の状態出土したものは、第3表のように4例が知られている。これらの出土例のうち下東西遺跡出土の銭貨は、溝から73枚が緋繩に通された状態のもので「一瀬聖絵」の市場の中に市場での品物を購入しようとする男が緋繩に通した銭貨を携帯しており、当時銭貨を緋繩での状態で携帯していたことが窺え、出土遺構も溝であることから携帯していたものを遺失したと推定される。他の遺跡から出土したものは、その出土状態や出土量から備蓄銭である。備蓄銭の埋納状態は、陶器甕、壺、桶、木箱に収納したものと土坑を掘り、そこに直または藁等を敷いたり、かぶせて収納したものとみられる。

第4章 考 察

これらを鑑みて白井南中道遺跡ローマ探掘坑より出土した銭貨は、出土枚数や多くの出土単位群で紛種が伴うことを考えてローマ探掘坑の窪みを利用して備蓄のために収納したものと推定される。

各時代ごとの渡來銭について概観すると次のようである。

唐

開元通寶の1種26枚が出土しており永樂通寶、皇宋通寶、元豐通寶、元祐通寶に次いで多い銭銘種である。背文は、3に「開」が1枚みられる。書体は、判読可能なものはすべて真書である。穿の形態は、10に「□」がみられる他はすべて方形である。

北宋

宋元通寶から宣和通寶の27種306枚が出土している。それぞれ宋元通寶(1枚)、太平通寶(3枚)、淳化元寶(4枚)、至道元寶(9枚)、咸平元寶(8枚)、景德元寶(9枚)、祥符元寶(13枚)、祥符通寶(5枚)、天禧通寶(7枚)、天聖元寶(14枚)、明道元寶(2枚)、景祐元寶(8枚)、皇宋通寶(48枚)、至和元寶(4枚)、嘉祐元寶(17枚)、治平元寶(6枚)、治平通寶(1枚)、熙寧元寶(25枚)、元豐通寶(42枚)、元祐通寶(34枚)、紹聖元寶(11枚)、元符通寶(4枚)、聖宋元寶(12枚)、大觀通寶(2枚)、政和通寶(16枚)、宣和通寶(1枚)である。背文は全くみられない。書体は真書238枚、篆書61枚、隸書7枚である。篆書は、天聖元寶・明道元寶・景祐元寶・治平元寶に各1枚、至和元寶・紹聖元寶に各2枚、聖宋元寶に3枚、嘉祐元寶・治平元寶に各4枚、政和通寶に8枚、元祐通寶に12枚、皇宋通寶に14枚、元豐通寶に17枚みられる。隸書は、政和通寶に1枚、至道元寶・聖宋通寶に各3枚みられる。穿の形態は、大部分は方形であるが、皇宋通寶に4枚、嘉祐元寶に1枚、熙寧元寶に3枚、元豐通寶に1枚「□」の形態をしたものがみられる。

南宋

淳熙元寶、紹熙元寶、嘉定通寶、淳祐元寶、皇宋元寶の5種10枚が出土しており、それぞれ各2枚ずつである。背文は、333の淳熙元寶に「十二」、336の紹熙元寶に「元」、338の嘉定通寶に「十」、339の

淳祐元寶に「十一」、341の皇宋元寶に「五」、342の皇宋元寶に「王」がある。書体は、判読可能なものはすべて真書である。穿の形態は、335の紹熙元寶が「□」である他は方形である。

明銭

洪武通寶、永樂通寶、宣徳通寶の3種101枚が出土しており、洪武通寶19枚、永樂通寶78枚、宣徳通寶4枚が出土している。背文は、洪武通寶に「浙」、「福」、「一銭」の3種類8枚がみられる。「浙」は334、「福」は353の各1枚、「一銭」は345、346、350、352、355、356の6枚である。書体は、すべて真書である。穿の形態は、すべて方形である。

その他

440の朝鮮通寶1枚と445～447の銭銘種不明の3枚がみられる。朝鮮通寶は、書体は真書で穿の形態は方形である。

各時代の概要は、以上のとおりであるが、銭銘種33種を数量的にみると永樂通寶(78枚、17.5%)、皇宋通寶(48枚、10.7%)、元豐通寶(42枚、9.4%)、元祐通寶(34枚、7.6%)、開元通寶(26枚、5.8%)、熙寧元寶(25枚、5.6%)、洪武通寶(19枚、4.3%)、政和通寶(16枚、3.6%)、天聖元寶(14枚、3.1%)、祥符元寶(13枚、2.9%)、嘉祐元寶(13枚、2.9%)の11種類で7割以上を占めている。このような傾向は、第1表のように県内の白井南中道遺跡と同様に明代永樂通寶までを出土する遺跡では、銭銘種の数量的変動はあるものの同様な傾向がみられる。また、山口県下右田遺跡、東京都多摩ニュータウンNo.484遺跡、葛西城址で検出された備蓄銭の銭銘種別数量と同様な傾向がみられ、県内も広く貨幣流通が行われていたことが窺える。

白井南中道遺跡ローマ探掘坑の銭貨の埋納時期については、上限が最も新しい永樂通寶の初鋳年である1408年があてられ、また下限についてはローマ探掘坑から寛永通寶が1枚も出土していないことから初鋳年の1636年と考えられる。しかし、200年以上の幅での年代間ではあまりにも幅があり過ぎる。

永樂通寶の流通は導入後、相当の期間にわたって

第3節 採掘坑出土の銭貨(渡来銭)

掘銭の対象になっていたようであり、永樂通寶が掘銭の扱いを受けるようになったのは16世紀代になってからのようであり、永樂通寶が広く流通するのもあまり相互がないと思われることから、白井南中道

遺跡ローム採掘坑出土の銭貨のうち永樂通寶が最も多い銭銘種であることから運納の時期も16世紀以後と想定される。

第1表 渡来銭出土量(県内)

遺跡名	年代表	南中道	下野	秩	水	堤	須	生	品	村	本	崎	南	香	西	野	井	本	郷	下	東	西	
銭名	年代	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%
貨	景	14																					
開元通寶	621	26	5.8	400	6.7	133	8.4	66	7.5	182	6.4	2	4.0	102	7.9	354	8.9	9	12.2				
宋元通寶	968	1	0.22																				
太平通寶	976	3	0.67	24	0.4	9	0.57	5	0.57	26	0.92			4	0.31	33	0.83						
淳化通寶	990	4	0.89	41	0.69	8	0.5	8	0.91	20	0.71			9	0.7	25	0.63						
至道通寶	995	9	2.0	83	1.4	13	0.83	12	1.36	30	1.1			17	1.3	68	1.71	1	1.4				
咸平通寶	998	8	1.8	82	1.4	23	1.5	16	1.8	45	1.6	2	4.0	16	1.2	61	1.54						
景德通寶	1004	9	2.0	114	1.9	20	1.3	12	1.36	52	1.8	1	2.0	26	2.0	90	2.3	1	1.4				
祥符通寶	1008	13	2.9	234	3.9	41	2.6	27	3.1	49	1.7	3	6.0	20	1.6	95	2.4	2	2.7				
祥符通寶	1008	5	1.1			27	1.7	13	1.5	36	1.3			16	1.2	64	1.6	1	1.4				
天禧通寶	1017	7	1.6	114	1.9	39	2.5	23	2.6	40	1.4	2	4.0	18	1.4	94	2.4	4	5.4				
天聖元寶	1023	14	3.1	260	4.3	39	2.5	45	5.1	113	4.0	2	4.0	42	3.3	212	5.3	1	1.4				
明道元寶	1032	2	0.45	18	0.3	3	0.19	6	0.68	13	0.46			2	0.16	25	0.62						
景祐元寶	1034	8	1.8	85	1.4	25	1.6	17	1.93	40	1.4			12	0.93	80	2.0	2	2.7				
皇宋通寶	1039	48	10.7	630	10.5	153	9.7	107	12.1	288	10.2	8	16.0	110	8.5	538	13.6	10	13.5				
至和元寶	1049	4	0.89	47	0.79	12	0.76	7	0.79	19	0.67	1	2.0	7	0.54	46	1.2						
至和通寶	1049			13	0.22			4	0.45	8	0.28	2	4.0	5	0.39	21	0.53						
嘉祐元寶	1056	17	3.8	52	0.87	10	0.63	12	1.36	22	0.78			18	1.4	35	0.88	1	1.4				
嘉祐通寶	1056			135	2.3	29	1.8	18	2.0	57	2.0			17	1.3	98	2.5	2	2.7				
治平元寶	1064	6	1.3	109	1.8	20	1.3	10	1.1	43	1.5			19	1.5	62	1.6	1	1.4				
治平通寶	1064			1	0.22			1	0.06	2	0.23	8	0.28	3	0.23	9	0.23						
熙寧元寶	1068	25	5.6	461	7.7	114	7.2	98	11.1	225	8.0	6	12.0	104	8.1	338	8.5	6	8.1				
熙寧通寶	1078	42	9.4	621	10.4	149	9.5	101	11.4	273	9.7	7	14.0	111	8.6	462	11.6	7	9.5				
元祐通寶	1094	34	7.6	488	8.2	89	5.7	90	10.2	191	6.8	4	8.0	70	5.4	387	9.7	7	9.5				
紹聖元寶	1098	11	2.5	191	3.2	43	2.7	40	4.6	94	3.3	3	6.0	37	2.9	177	4.5	5	6.8				
聖宗元寶	1101	12	2.7	209	3.5	20	1.3	38	4.3	60	2.1	3	6.0	35	2.7	145	3.7	1	1.4				
大觀通寶	1107	2	0.45	46	0.77	6	0.38	10	1.1	29	1.0	1	2.0	15	1.2	58	1.5	1	1.4				
政和通寶	1111	16	3.6	189	3.2	34	2.2	33	3.7	98	3.5	1	2.0	37	2.9	155	3.9	2	2.7				
宣和通寶	1119	1	0.22	25	0.42	1	0.06	5	0.57	8	0.28			2	0.16	14	0.35						
建炎通寶	1127									1	0.04												
紹興元寶	1131																						
紹興通寶	1131					1	0.06																
乾道元寶	1165																						
慶元通寶	1195			10	0.17	1	0.06	3	0.34	3	0.11			4	0.31	8	0.2						
嘉泰通寶	1201			4	0.07	2	0.13			3	0.11	1	2.0	1	0.08	4	0.1	1	1.4				
開禧通寶	1205			3	0.05	2	0.13	3	0.34														
嘉定通寶	1208	2	0.45	16	0.27	4	0.25	5	0.57	4	0.14			6	0.47	21	0.53						
大宋元寶	1225													2	0.16								
紹定通寶	1228			5	0.08	1	0.06	1	0.11	3	0.11			2	0.16	3	0.08						
禧平元寶	1234													1	0.04								
嘉熙通寶	1237													1	0.08	1	0.03						
淳祐元寶	1241	2	0.45	4	0.07			1	0.11	3	0.11			1	0.08	3	0.08						
皇宋元寶	1253	2	0.45	7	0.12	17	1.08	1	0.11	1	0.04												
開禧通寶	1259																						
景定元寶	1260			7	0.12	1	0.06	3	0.34	4	0.14			3	0.23	3	0.08						
咸淳元寶	1265			5	0.08	4	0.25	2	0.23	4	0.14			4	0.31	10	0.25	1	1.4				
大中通寶	1361			2	0.03					2	0.07			4	0.31								
洪武通寶	1368	19	4.3	275	4.6	112	7.1	1	0.11	221	7.8			153	11.9								
永樂通寶	1408	78	17.4	714	11.9	111	7.0			297	10.5			197	15.3								
宣德通寶	1433	4	0.89	23	0.38	2	0.13			14	0.5			8	0.62								
朝鮮通寶	1423	1	0.22	14	0.23	3	0.19			7	0.25												
仁符通寶	1068	4	0.89	85	1.4	22	1.4	18	2.0	39	1.4			5	0.39	61	1.5	1	1.4				
紅元寶	666			19	0.32	1	0.06	5	0.57	99	3.5			3	0.23	10	0.25						
唐國通寶	959			5	0.08	1	0.06	1	0.11	3	0.11			1	0.08	7	0.18						
宋通元寶	960			10	0.17	2	0.13	2	0.23	9	0.32			2	0.16	19	0.48						
淳熙元寶	1174	4	0.89	30	0.5	5	0.32	8	0.91	13	0.46			2	0.16	19	0.48						

第4章 考 察

遺 跡 名	南 中 道	下 佐 野	株 本	境 頭	生 品 村	木 崎・南ヶ丘	花 香 塚・西	市 野 井・本 郷	下 東 西
銭 名 年代	枚数 %	枚数 %	枚数 %	枚数 %	枚数 %	枚数 %	枚数 %	枚数 %	枚数 %
大定通寶 1178		1 0.01	2 0.13		2 0.07		4 0.31		
紹熙元寶 1190		8 0.13	1 0.06	1 0.11	5 0.18		2 0.16	13 0.33	
乾道元寶 919			1 0.06					2 0.05	
聖宋通寶 1101			1 0.06						
正隆元寶 1157				1 0.11	4 0.14		2 0.16	8 0.2	
至大通寶 1310				1 0.11	1 0.04				
四銖半兩 #175								1 0.03	
五 銖 #118								5 0.13	
隋 五 銖 581								1 0.03	
咸康元寶 925								1 0.03	
周通元寶 955					1 0.04			2 0.05	
天福通寶 984							1 0.08		
無 文 銭				1 0.11					
不 明	3 0.67	61 1.0	217 13.8		16 0.57	1 2.0	8 0.62	15 0.38	2 2.7
総 計	447	5,979	1,575	883	2,829	50	1,290	3,970	74

第2表 渡来銭出土量(別外)

遺 跡 名	下 石 田	多摩ニュータウン	葛 西 城	伊豆山崎三谷城	笠間館跡	草戸千軒町	屋 代 B
銭 名 年代	枚数 %	枚数 %	枚数 %	枚数 %	枚数 %	枚数 %	枚数 %
寶 泉 14						4 0.03	
開元通寶 621	893 6.6	2,073 7.7	336 6.8	2,669 8.5	45 8.7	1,330 8.5	1 2.2
太平通寶 976	86 0.64	215 0.8	41 0.82	297 0.9	5 0.97	118 0.75	
淳貨元寶 990	109 0.81	224 0.83	35 0.7	319 1.0	4 0.77	160 1.0	
至道元寶 995	181 1.3	433 1.6	63 1.3	485 1.5	6 1.2	247 1.6	
咸平元寶 998	182 1.3	450 1.7	68 1.4	546 1.7	10 1.9	258 1.6	3 6.5
景德元寶 1004	222 1.6	580 2.1	83 1.7	712 2.3	6 1.2	299 1.9	
祥符元寶 1008	303 2.2	631 2.3	114 2.3	774 2.5	6 1.2	402 2.6	1 2.2
祥符通寶 1008	158 1.2	359 1.3	62 1.2	451 1.4		244 1.6	
天禧通寶 1017	260 1.9	560 2.1	82 1.6	644 2.0	11 2.1	302 1.9	2 4.3
天聖元寶 1023	514 3.8	1,152 4.3	315 6.3	1,558 5.0	16 3.1	727 4.6	2 4.3
明道元寶 1032	43 0.31	149 0.55	20 0.4	170 0.5	1 0.19	89 0.56	
景祐元寶 1034	167 1.2	375 1.4	21 0.42	483 1.5	6 1.2	202 1.3	
皇宋通寶 1039	1,297 9.6	3,276 12.1	495 9.9	4,199 13.4	42 8.2	1,964 12.5	6 13.0
慶曆重寶 1045	1 0.007						
至和元寶 1049	114 0.84	308 1.1	44 0.88	388 1.2	1 0.19	174 1.1	
至和通寶 1049	38 0.28	111 0.41	12 0.24	105 0.3	7 1.4	63 0.4	
嘉祐元寶 1056	142 1.1	298 1.1	106 2.1	976 3.1	17 3.3	167 1.1	1 2.2
嘉祐通寶 1056	243 1.8	601 2.2	60 1.2	764 2.4		351 2.2	1 2.2
治平元寶 1064	225 1.7	527 1.9	94 1.9	590 1.9	6 1.2	279 1.8	1 2.2
治平通寶 1064	30 0.22	81 0.3	9 0.18	128 0.4		49 0.3	
熙寧元寶 1068	1,028 7.6	2,498 9.2	437 8.8	3,001 9.6	40 7.8	1,354 8.6	4 8.7
熙寧重寶 1071						2 0.01	
元豐通寶 1078	1,382 10.2	3,117 11.5	560 11.3	3,734 11.9	51 9.9	1,764 11.2	
元祐通寶 1094	992 7.4	2,277 8.4	370 7.4	2,941 9.4	42 8.2	1,332 8.5	
紹聖元寶 1098	461 3.4	1,067 4.0	143 2.9	1,365 4.3	12 2.3	586 3.7	2 4.3
聖宋元寶 1101	417 3.1	966 3.7	176 3.5	1,341 4.3	12 2.3	583 3.7	2 4.3
崇寧通寶 1102			1 0.02			1 0.006	
崇寧重寶 1104						1 0.006	
大觀通寶 1107	130 0.95	271 1.0	43 0.86	415 1.3	3 0.5	161 1.02	1 2.2
政和通寶 1111	433 3.2	1,006 3.7	148 3.0	1,248 4.0	26 5.0	594 3.8	
重和通寶 1118			16 0.32				
宣和元寶 1119	57 0.42	1 0.003			1 0.19		
宣和通寶 1119		78 0.29		101 0.3		43 0.27	
建炎通寶 1127	2 0.01	6 0.02	1 0.02	6 0.01		5 0.03	
紹興元寶 1131		3 0.01		11 0.03		8 0.05	
紹興通寶 1131			1 0.02			1 0.006	
乾道元寶 1165						1 0.006	
慶元通寶 1195	24 0.18	58 0.21	9 0.18	76 0.2	2 0.38	42 0.26	
嘉泰通寶 1201	17 0.13	32 0.12	5 0.1	41 0.1	1 0.19	22 0.13	
開禧通寶 1205	5 0.04	21 0.07	3 0.06	36 0.11		25 0.15	
嘉定通寶 1208	39 0.29	109 0.4	22 0.44	148 0.5	1 0.19	104 0.66	
大宋元寶 1225	3 0.02	9 0.03	3 0.06	6 0.01			
大宋通寶 1225						6 0.04	

第3節 採掘出土の銭貨(渡来銭)

遺 跡 名	下 石 田	多摩ニュータウン	葛 西 城	千代田区八幡三丁目	笹 岡 館 跡	草 戸 千 軒 町	屋 代 B							
銭 名	年代	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	
船定元寶	1228	15	0.11											
船定通寶	1228			33	0.12	3	0.06	65	0.2	1	0.19	21	0.13	
端平元寶	1234	3	0.22	4	0.01	1	0.02	4	0.01					
嘉應通寶	1237	6	0.04	8	0.03			9	0.02					
淳祐元寶	1241	17	0.13	40	0.15	4	0.08	22	0.07			4	0.03	
息宋元寶	1253	8	0.06	23	0.09	2	0.04	9	0.02			5	0.03	
開慶通寶	1259			3	0.01									
崇定元寶	1260	13	0.09	47	0.17	6	0.12	16	0.05			1	0.006	
熈淳元寶	1265	16	0.12	41	0.15	7	0.14	15	0.04			7	0.04	
大中通寶	1361	8	0.06	10	0.04	5	0.1			1	0.19	1	0.006	
洪武通寶	1368	650	4.8	823	3.05	230	4.6			45	8.7	18	0.11	
永樂通寶	1408	1,709	12.7	848	3.14	508	10.2			58	1.7	18	0.11	
宣德通寶	1433	178	1.3			8	0.16					4	8.7	
朝鮮通寶	1423	102	0.8			5	0.1							
五 銖	581							3	0.009			21	0.13	
乳封直寶	666							1	0.003					
乳元寶	759	48	0.36	101	0.37	17	0.34	128	0.4	1	0.19	60	0.38	
天慶元寶	917	1	0.007					4	0.01			1	0.006	
乳亨重寶	917							1	0.003					
先天元寶	918	1	0.007	2	0.007			2	0.006					
乳池元寶	919	2	0.01	3	0.01	1	0.02	8	0.02			2	0.01	
咸康元寶	925	2	0.01					4	0.01			1	0.006	
漢元通寶	948							1	0.003			3	0.02	
周元通寶	955	4	0.02	4	0.01	1	0.02	18	0.05					
唐国通寶	959	17	0.13	22	0.08	3	0.06	37	0.12			8	0.05	
大唐元寶	1075	1	0.007											
宋通元寶	960	39	0.29	109	0.4	21	0.42	132	0.4			50	0.31	
天福通寶	984							3	0.009					
元符通寶	1098	170	1.3	372	1.4	60	1.2	462	1.5	10	1.9	217	1.4	
乳純元寶	1101							1	0.003					
淳熙元寶	1174	41	0.3	155	0.57	26	0.52	210	0.7	3	0.6	121	0.76	
紹熙元寶	1190	10	0.07	53	0.2	12	0.24	66	0.2	3	0.5	34	0.21	
正隆元寶	1157					12	0.24	40	0.1	1	0.19	9	0.05	
至大通寶	1306	5	0.03	16	0.06	1	0.02	8	0.02					
東国通寶	1097			1	0.003			1	0.003					
東国重寶	1097							1	0.003					
平 兩	8221											2	0.01	
正隆元寶	1157	17	0.13	34	0.13									
大定通寶	1170	7	0.05	13	0.05									
天定通寶	1359	1	0.007											
紹聖通寶	1094			1	0.003							1	0.006	
大安元寶	1085			1	0.003									
至正通寶	1351			1	0.003									
海東通寶	1097			3	0.01			2	0.006					
豊 貨	318											1	0.006	
天聖通寶	1023											5	0.03	
天盛元寶	1158											2	0.01	
道光通寶	1820											1	0.006	
大定通寶	1178					7	0.14							
淳元通寶	不明					1	0.02							
息 錢 銭								1	0.003					
無 文 銭										2	0.38			
大勝通寶	960							1	0.003					
不 明	204	1.5	289	1.07	36	0.72	12	0.03	10	1.9	1,055	6.7	11	23.9
総 計	13,493		27,012		4,975		31,415		515		15,733		46	

第4章 考察

第3表 県内多量銭貨出土地・遺跡

No	出土地・遺跡	出土枚数	銭種(内訳)	出土状態・他	文献
1	邑楽郡邑楽町中野植生	17,991	開元、淳化、咸平、景德、祥符、天聖等	壺の中 70kg	文献3
2	邑楽郡邑楽町中野前原3680	約1,500	北宋、唐、明銭約50種	天目、青磁片出	文献3
3	安中市原市久昌寺西	約10,000	宋銭	宅遺	文献3
4	藤岡市上戸塚柿木142-6	約1,600	開元、至元、永樂、洪武(宋、唐、明銭)	遺跡工事	文献3
5	碓氷郡松井田町小日向	235	景元、政和、至元、皇宋、慶元、祥符他		文献3
6	利根郡新治村羽場	約23,400	永樂、皇宋、洪武、熙寧、元祐、祥符他	櫛の中	文献3
7	新田郡尾島町大龜	約2,300	永樂他 9kg		文献3
8	新田郡新田町花香塚	1,255	永樂、洪武、開元、皇宋、元豊、熙寧他		文献5
9	太田市牛沢	約23,000	富寿神寶一永樂通寶	カマス中	文献3
10	邑楽郡大泉町満願寺	約10,000	散逸	常滑壺中	文献3
11	甘楽郡下仁田町上小坂	約10,000	宋銭	工事中	文献3
12	富岡市塚386-1	16,650		郡立歴史博物館	文献3
13	碓氷郡會津村水沼	49,215	95%北宋銭		文献3
14	高崎市(澁川)坂井	1,300	38種宋、明銭主(貨泉、開元、洪武多銭)	上毛及び上毛人96	文献3・13
15	伊勢崎市茂呂町飯王神社	20,000	開元	壺中、上毛及び上毛人50	文献3
16	高崎市下佐野遺跡	5,979	第1表参照	土坑埋納	文献4
17	藤岡市株木遺跡	1,575	第1表参照	表埋納	文献5
18	勢多郡柏川村地頭遺跡	883	第1表参照	構構状態で出土	文献6
19	勢多郡大崎町茂木	10,000	北宋銭中心	埋納	上毛新聞
20	新田郡新田町旧生品村	2,829	第1表参照		文献7
21	新田郡新田町水崎南ケ丘183-2	50	第1表参照	小壺(合子)埋納	文献7
22	新田郡新田町花香塚西	1,290	第1表参照	箱に埋納か、埋納	文献7
23	新田郡新田町市野井・本郷	3,970	第1表参照		文献7
24	前橋市青梨子町下東西遺跡	74	第1表参照	溝	文献8
25	北群馬郡寺持村白井遺跡群(並遺跡)	447	第1表参照	ローム探掘坑	

参考文献

1. 坂詰秀一編集「出土貨幣銭」ニュー・サイエンス社 1986
2. 三上隆三「漢宋銭の社会史—おもしろ堂日記—」中公新書862中央公論社 1987
3. 群馬県教育委員会文化財保護課「教材群馬の文化財2—中巻—」群馬県教育委員会 1981
4. 「下佐野遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
5. 「株木遺跡」藤岡市教育委員会 1984
6. 「勢多郡柏川村「地頭遺跡」出土の埋納銭について」『群馬文化』219 群馬県地域文化研究協議会 1989
7. 新田町誌編纂室「新田町誌 一資料編(上)原始・古代・中世・近世—」第2巻 新田町誌刊行委員会、新田町 1987
8. 「下東部遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987
9. 益澤敬三 神奈川大学日本常民文化研究所編「日本常民生活総引」第2巻 株式会社平凡社 1984
10. 「多摩ニュータウン遺跡 昭和58年度」群馬県埋蔵文化財センター 1984
11. 「下右田遺跡第4次調査概報」山口県教育委員会 1980
12. 「葛西城」葛西地誌調査会 1983
13. 関 龜助「発掘せる支那の古銭に就て」『上毛及上毛人』第96号 上毛郷土史研究会 1925
14. 栗原文蔵「埋められた銭」『季刊 考古学』39 雄山閣出版 1992

第4節 ローム探掘坑について

麻生 敏隆

本遺跡で検出されたローム探掘坑群は、第1層(暗褐色土層)を剥ぎ取った当初、第1層と第2層のFP(Hr-I)とが混在した状態で広い範囲に確認され

たことから、新しい時期の覆乱と考えた。だが、掘削段階でFP(Hr-I)やFA(Hr-S)、その下層の淡色黒ボク土や黒ボク土、それにローム漸移層の各層がそれ

ぞれ帯状やブロック状で確認され、下位のローム層がほとんど認められない埋没土層の様子から、ロームを採掘することを目的とした探掘坑と判断した。

本遺跡の所在する白井地区は、現利根川の川床から3～4段目の段丘面に相当し、土地改良事業が終了した現状ではほぼ平坦な地形だが、この台地をほぼ南北にわたり発掘調査する豊沢バイパス関連の各遺跡では、FP(Hr-I)を剥ぎ取りと現利根川に平行するような形での微高地と低地が幾筋にもわたって検出された。この低地部分は、離水する以前の利根川、もしくは流れ込む小河川の跡と考えられ、その部分にはロームの堆積がみられない。本遺跡でローム探掘坑が検出されたのは、白井南中道遺跡の3区から4区にかけてであり、現在の町道部分をも含めた旧地形のうえで微高地部分である。このことから、利根川右岸に広がる段丘面内の微高地部分を選んで、堆積するロームを採掘したものと考えられる。この段丘面が利根川の川床でなくなる時期は、台地の基盤である礫層の上位に浅間山給源のAs-YPが堆積していることから、今から約13,000年前である。

このように、ローム土の堆積も薄く、全体の量も僅かであるにもかかわらず、遺構が存在することは、ローム土そのものを多量に必要とする原因が遺構の周辺に離かにあったことを物語っている。従来の発掘調査で探掘坑が検出された事例では、縄文時代以後の土器類の生産に関して、原料としての粘土が採掘されるのが最も多い。また、登り窯などの構造物にローム土が利用される事例も一部に確認されている。一方、構造物を建造するための材料としてローム土などが利用される事例も認められる。一般には建物の壁として、あるいは城郭の土塁などの造幣物として利用されることが最も多く、本遺跡でも、隣

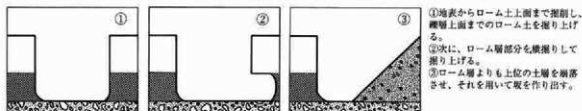
接する白井城や白井宿と通称される町並みの存在から考えて、このような利用も十分に考えられる。

掘削工程は、ローム土を効率的に採掘するために、ローム層の堆積が最も厚いと想定される部分にまず堅穴を掘削し、ローム漸移層の下部まで掘り上げたのちに、ローム土の採掘を行う作業を連続的に繰り返すことを基本としているが、作業の効率を高めるために、ローム層部位での横掘りも実施している。また、ローム土よりも上位の土層を崩落させ、その土を用いて坂を作り出すことにより、ローム土の引き上げも行っていることが想定されている。

ローム探掘坑群は、長さ約80m、幅約10mの広さ約800㎡にわたって、厚さ約20cmのロームが採掘されており、その量は160㎡程である。個々の形態では、大小さまざまな形がみられるが、規模は長軸1～2m前後、短軸1m程度の楕円形のもの为主体であり、確認できる深さは2～3m前後である。これらの探掘坑の分布範囲は、現在の村道の下に東側が潜り込んでいるために、正確な規模はつかめないものの、西側の低地部分側に達するに従って掘削の規模が小さくなり、停止してしまう様子から考えて、微高地の東西のロームが薄くなっていく部分で採掘を停止したものと考えられる。

周辺の遺跡では、僅かに北に位置する白井大宮遺跡からは、ローム土が堆積していなかったために掘削作業を停止したと考えられる状態の土坑をも含めて3基検出されている。ここでも、微高地部分を選択して、掘削を実施していることが判明している。

遺構の年代については、探掘坑の底面から出土した土器や、探掘坑よりも年代的に新しいと考えられる備蓄銭が、永楽銭中心であることから、15～16世紀頃の遺構であると考えられる。



第176図 ローム探掘坑の区分と掘削工程

第5節 白井遺跡群出土の人骨

宮崎 重雄

白井遺跡群は、群馬県北群馬郡子持村大字白井にあり、一般国道17号無沢バイパス建設に伴い、平成2年度から発掘調査が開始され、多数の自然遺物が出土した。ここに報告するのはそのうちの中～近世の人骨である。

本報告で用いた基準を以下に示す。

- 1) 略号は、Iが切歯、Cが大歯、Pが小白歯、Mが大臼歯である。
- 2) 扁平顎骨の定義は、森本(1981)によった。
- 3) 身長推定法は、藤井(1960)を用いた。
- 4) 縫合線の癒合度の表示はKrogman & Iscan(1986)によった。
- 5) 歯槽の吸収度、歯石の形成度、大臼歯の咬耗度はBrothwell(1972)を用いた。
- 6) 年齢段階の区分は、片山(1990)を参考にした。
- 7) 歯の計測法は、藤田(1949)に、人骨の計測法は馬場(1991)に従った。
- 8) 歯・歯槽の状況を示す記号は、アラビア数字が残存永久歯、○が歯槽開放、●が歯槽閉鎖、△が未萌出、○で囲った数字は齶歯、×は欠損のため状況不明を意味する。

15号土坑(南中道)

長軸140cm、短軸93cm、深さ28cmの不整の広卵形の土坑で、土坑の長軸は東西方向を向いている。きわめて保存不良な頭蓋骨片と、下肢骨片が数片出土した。出土状況を示すスケッチからは、南に顔を向けた横臥屈葬姿勢で埋葬していた印象を受ける。

頭蓋骨片の中には左右の岩部、鼻根部が確認され、鼻骨最小幅は4.5mmが計測される。

歯については、発掘時の記録によれば、遊離歯として左下顎P₁、同P₂、同M₁、同M₂、右下顎M₁が出土し、このうち左下顎M₁歯頸部には齶蝕があり、M₂歯頸部にはこれより進行した齶蝕があって、右下顎M₁はエナメル質が咬耗面の周囲のみに存在

し、象牙質がほぼ全面に露出している、と記されている。現存しているのは左上顎の4本の歯である。左上顎犬歯は近心・遠心切縁のほぼ全面を咬耗されているが、象牙質が尖頭部にわずかに露出するのみである。歯冠近遠心径が7.7mmと小さく、女性を思わせる。小白歯も咬耗面のほぼ全面を咬耗されていて、舌側咬頭に象牙質が露出する。歯の咬耗度は熟年期程度の年齢を示している。

$$\frac{\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times}{\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times} \quad \frac{\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times}{\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times}$$

42号土坑(二位屋)

長軸107cm、短軸60cm、深さ35cmであるが、41号土坑に切られていて、本来は円形ないし楕円形の土坑であったと思われる。この中から、頭蓋骨ときわめて保存不良な体肢骨と体幹骨の一部が出土した。出土状況を示すスケッチからは、西に顔を向けた横臥屈葬姿勢の印象を受ける。

歯は、現状では8本残存している。右上顎犬歯は近遠心径が8.0mmあり、男性的である。犬歯の咬耗は、尖頭部から近心辺縁隆線にかけてみられ、尖頭部に象牙質が部分的に露出している。下顎のP₁、P₂では全面に咬耗が及んでいるが、エナメル質のみである。M₂の径が、その割に大きいのもこの個体の特徴である。

また脳頭蓋骨内板における縫合線の癒合程度はラムダ縫合で1～2で、歯の咬耗度と合わせると、壮年期程度の年齢を推定させる。齶歯はない。

頭蓋の計測値では後頭骨弧長(1-0)が113mm、後頭骨弦長が約95mmで、外後頭隆起部の厚さが16.7mm、乳様突起基部の前後径が22.0mmである。

$$\frac{\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times}{876\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times} \quad \frac{\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times}{\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times\times}$$

130号土坑(南中道)

長軸123cm、短軸113cm、深さ37cmの広卵形の土坑で、東に顔を向け、西に背を向けた横臥屈身姿勢である。出土時の記録では、「右上腕骨の生理的全長は312.0mm、右脛骨全長334.4mm」と記録されている。左脛骨の栄養孔における前後径・幅は37.1mm、24.4mmであり、骨幹中央部における前後径・幅は32.6mm、23.0mmである。後者の径寸数を求めると70.6となり、正距である。右脛骨全長をもとに求めた推定身長は、156.6cmである。

頭蓋骨の計測値は、頭蓋骨全長が180mm、外後頭隆起の厚さが14.1mm、乳様突起基部の前後径が19.5mmである。Nakahashiほか(1986)のZBⅢが23.5mmであることは男性傾向を示している。

歯は、歯槽のみ残存し歯が脱落しているのは上顎右M¹、下顎左犬歯、同I²である。本個体は齲歯が多い。上顎右P²、M¹、左M¹、下顎左右のI¹の歯槽が閉鎖している。また下顎では、左M₁からM₂までと右P₁からM₂までのすべての歯の歯頸部にC1からC2の齲蝕がある。また下顎の、左M₁では頰側の歯冠部～歯頸部でC3、近心側・遠心側歯頸部でもC2の齲蝕がある。M₂では頰側および舌側にわずかの齲蝕があり、M₁もほぼ同様である。上顎では、右P¹で唇側面歯頸部にC2の齲蝕があり、同P²では近心・遠心歯頸部にC1、右M¹では遠心から頰側歯頸部にC2、M²、M³では頰側・舌側歯頸部にC1の齲蝕がある。右P¹では歯冠部が齲蝕され、歯根部のみが残ったC4の齲蝕となっている。歯の咬耗について見ると、左上顎I¹と右上顎I²に切縁と近心辺縁線に象牙質の露出が見られ、左I²では切縁でエナメル質が露出している。この咬耗状況は錯子咬合を示唆している。犬歯では、左上顎犬歯尖頭部に小さく象牙質が露出し、右上顎犬歯は右よりほかに大きく尖頭部に象牙質が露出している。右上顎P¹、P²では咬合面にエナメル質がごくわずかしか残存しておらず、ほとんど摩擦し尽くされている。歯槽の吸収度はMediumであり、歯石の形成度はSlightである。

8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧

頭蓋内板における縫合線の癒合度は冠状縫合で2～3?、ラムダ縫合でやはり2～3?である。

縫合線や歯の咬耗度などからは、熟年期後半から老年期前半が推定される。

133号土坑(南中道)

長軸123cm、短軸81cm、深さ28cmの楕円形の土坑で、顔を西に背を東に向け南北方向に横たわる横臥屈身姿勢である。鳥の大腿骨が共伴していたが、あるいは鳥の翼骨袋に関連したものかもしれない。すなわち、靈魂が鳥に乗り、または鳥形をして他界を飛翔するという信仰平林(1992)にもとづいていた可能性がある。

右上腕骨の全長は325.8mm、腕骨全長232.0mm、左大腿骨の骨頭から骨端まで447.0mm、左脛骨全長354.0mmである。胫骨切痕の角度は約50°である。

また脛骨の栄養孔における幅は24.1mm、前後径は37.8mm、骨幹中央部における幅は21.1mm、前後径は30.0mmであり、後者の径寸数を求めると70.3となり、正距である。左脛骨全長をもとに、推定身長を求めると、161.4cmとなる。

頭蓋骨の計測値は頭蓋骨全長(g-op)が186.0mm、グラベラ・ラムダ長(g-l)が172.0mm、プラグマ・ラムダ長100.5mm、頭頂骨弧長(b-l)123.0mm、後頭骨弧長(I-o)123.0mm、頭蓋骨最大幅(eu-eu)137.0mm、最小前頭幅(ft-ft)が98.4mm、最大前頭幅(co-co)115.0mm、大後頭孔左右幅・前後径(ba-o)が32.8×38.4mm、両耳幅(au-au)が133.5mm、最大後頭幅(ast-ast)が118.0mm、乳様突起間幅(ms-ms)が115.0mm、バジオン・プレグマ高(ba-ba)が144.0mm、脳頭蓋全高が142.0mm、耳・プレグマ高(po-ba)が116.0mmである。乳様突起基部の前後径が23.0mm、Nakahashi(1986)のZBⅡが9.2mmである。頭蓋骨の長幅指数は73.7で長頭型に属し、長高指数は77.4、幅高指数は105.1である。すべての歯が残存しているが、左上顎M¹は萌出していない。本個体は齲歯

が少なく、右上顎M¹が近心隣接面をC3程度におかされているのみである。歯の咬耗について見ると、上顎切歯では、左I¹が切縁のみ咬耗を受け、象牙質が露出し、右I¹では切縁と近心・遠心辺縁隆線が咬耗され、切縁に象牙質の露出が見られ、I²は左右とも切縁と近心・遠心辺縁隆線のエナメル質のみが咬耗を受けている。

上顎犬歯には尖頭と舌側面に咬耗が見られ、尖頭部には象牙質が露出している。下顎犬歯は尖頭と切縁が咬耗を受け、尖頭部に象牙質が露出する。この咬耗状況は弱い缺状咬合を示唆している。上顎小臼歯ではP¹が頰側咬頭のエナメル質のみ咬耗され、P²では頰側咬頭に象牙質が露出している。下顎小臼歯では左の2本に頰側咬頭の象牙質が露出し、右ではP₁のみに頰側咬頭の象牙質が露出し、P₂はエナメル質のみ咬耗されている。歯槽の吸収度はNo alveolar destructionであり、歯石の形成度はMediumである。

顎蓋内板における縫合線の癒合度は冠状縫合で2~3、矢状縫合で0~1、ラムダ縫合でやはり1~2である。

以上の事実は壮年期後半の男性を推定させる。

8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	△
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8

152号土坑 (南中道)

長軸160cm、短軸71cm、深さ30cmの楕円形の土坑で、顔を北に背を南に、頭を東にして東西方向に横たわる横臥屈葬姿勢である。

出土時の計測によると、左大腿骨全長389mm、右脛骨全長313 (±5)mmである。右脛骨における栄養孔での骨幹幅は18.0mm、前後径は26.0mm、骨幹中央部における幅は17.5mm、前後径は23.3mmであり、後者の径示数を求めると75.1となり、正脛である。右脛骨・左大腿骨全長をもとに、推定身長を算出してみると142.3cmとなる。

顎蓋骨の計測値は顎蓋骨全長(g-op)が184.0mm、前頭骨弧長(n-b)123.0mm、頭骨弧長(b-1)が110.0mm、ナジオン-プレグマ長が108.0mm、プレグマ-ラム

ダ長が103.5mm、最小鼻骨幅が11.3?mm、乳様突起幅が19.1mmである。

歯は、上顎では右P¹、P²、左M²、M³、下顎では左M₁~M₃が破損のため欠損している。本個体も齧歯が少なく、左下顎P₁の頰側歯頸部にC2の齧痕があるのみである。歯の咬耗は、左右の上顎I¹では切縁・辺縁隆線に象牙質が露出し、I²では切縁・辺縁隆線にエナメル質だけの咬耗がある。また、下顎切歯では切縁に象牙質の露出が見られる。上顎犬歯では尖頭に象牙質が露出し、舌側面全面に咬耗がある。この咬耗状況は弱い缺状咬合を示している。下顎小臼歯ではP₁で頰側咬頭および舌側咬頭に象牙質が露出し、全面に咬耗が見られる。P₂では舌頰側咬頭に象牙質が露出し、咬耗が全面に及んでいる。歯槽の吸収度はSlightであり、歯石の形成度はMediumである。

×	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	④	5	6	×	×
8	7	6	5	4	3	2	1	○	2	3	4	5	×	×	×

顎蓋内板における縫合線の癒合度は冠状縫合で0~1、矢状縫合で0~1、ラムダ縫合でやはり0~1である。切歯縫合も0~1である。

以上の事実は壮年期の女性を思わせる。

153号土坑 (南中道)

長軸181cm、短軸117cm、深さ48cmの楕円形の土坑で、顔を西に背を東にして南北方向に横たわる横臥屈葬姿勢である。

左大腿骨全長420mm、右脛骨全長317mmである。左大腿骨全長をもとに身長を求めてみると、158.6cmとなる。右脛骨における栄養孔での骨幹幅は25.7mm、前後径は34.2mm、骨幹中央部における幅は23.7mm、前後径は32.0mmであり、径示数を求めると74.1となり、正脛である。

顎蓋骨の計測値は、発掘時の記録では全長が177mmである。室内計測では、前頭骨弧長(n-b)が134mm、頭頂骨弧長(b-1)が116.0mm、後頭骨弧長(l-o)が112.0mm、Asterion-Asterion弧長が109.0mm、前頭骨弧長(n-b)が114.3mm、頭頂骨弧長(b-1)が104.4mm、後

頭骨弧長(1-0)が94.8mm、最小鼻骨幅が8.5mm、頬骨弓幅が54.5×2mm、眼窩上下径・左右幅が36.5×38.0mmである。乳様突起基部の前後径が22.7mmである。この頭蓋骨の頭頂部は長さ55mmに渡って稜状に隆起し、矢状稜を形成している。

歯については、右上顎M¹、M²の部分の歯槽が楕円状に凹湾し底部は海綿質状になっていて、齧蝕による脱落と思われる。また上顎左右のP²、下顎左I¹では歯根のみとなり、齧蝕により歯冠部が失われたものと思われる。左上顎M¹、M²は歯の周囲を除きエナメル質が摩耗し尽くされている。さらに齧蝕として認められる歯は、左上顎I²が遠心側歯頸部にC2、犬歯が近心側歯頸部にC2、左下顎P¹の遠心側歯冠部にC2、M²の遠心側歯接面にC3の齧蝕がある。上顎I²の舌側面中央には上下方向の細くて深い溝がある。歯の咬耗は、切歯・犬歯では切縁尖頭に大きく象牙質が露出していて、その状態は鉗子咬合を思わせる。小白歯は頰側咬頭に象牙質の露出があり、なかには舌側咬頭にも象牙質の露出があるものもある。歯槽の吸収度はMediumであり、歯石の形成度もMediumである。

×⑦⑥⑤④③②①	①②③④⑤⑥⑦×
△7654321	①23456⑦8

頭蓋内板における縫合線の癒合度は冠状縫合で3～4、矢状縫合で4、ラムダ縫合でやはり4である。切歯縫合は2～3である。

上肢の第一中節骨の近位関節面には骨棘が形成されている。また右腕骨の骨幹遠位端近くの内側面に涙溝状の孔(7.5×20.0mm)が開いており、この孔の内面の骨表面は滑らかである。この孔は骨髓腔には達しておらず、成因については不明である。

歯は小さく女性的であるが、発掘時の座骨切痕の観察では男性的である。縫合線の癒合状況は熟年期前半の年齢段階を思わせる。

155号土坑(南中道)

長軸123cm、短軸82cm、深さ19cmの卵形の土坑で、保存不良のため埋存姿勢は不明であるが、土坑の長

軸は北北東—南南西方向である。

現状では13本の遊離歯がある。齧蝕はない。歯の咬耗は、上顎左I²が切縁および遠心隅角部のエナメル質がわずかに咬耗されている。下顎I¹では左が切縁遠心側半のエナメル質が咬耗し、わずかに象牙質も露出している。右では切縁全面が咬耗を受け、近心部を除き象牙質が露出している。犬歯についてみると、上顎右では尖頭部や近心辺縁隆線にごくわずかの咬耗あり、下顎の犬歯では尖頭部に象牙質があり、咬耗面は遠心へ傾斜している。左は右と同様であるが、咬耗も傾斜もさらに強い。下顎の小白歯は程度の差はあるが、いずれも頰側咬頭に象牙質が露出している。左M¹にはカラベリー結節があり、小咬頭化し咬耗もしている。下顎I¹の唇側は歯石が大量に沈着している。このほかに、出土時のスケッチによれば、体肢骨が一部残存していた。

犬歯の大きさは男性的であり、熟年段階を示唆している。

×××××3××	×2×××67×
×××54321	×2345×7×

156号土坑(南中道)

長軸142cm、短軸94cm、深さ52cmの隅丸四角形で、土坑の長軸は北北東—南南西方向であり、人骨は東北東に頭部があり、顔を北北西に向けている。

左上腕骨全長は280mmで、右腕骨における栄養孔での骨幹幅は21.4mm、前後径は28.8mm、骨幹中央部における幅は21.0mm、前後径は26.4mmであり、後者の径示数を求めると79.5となり、正距である。左上腕骨全長を基に、推定身長を求めると、152.1cmとなる。

頭蓋骨の計測値は、外後頭隆起の厚さが15.1mmで、乳様突起基部の前後径が19.0?mmである。

歯の咬耗について見ると、上顎I²では切縁にわずかに象牙質が露出し、咬耗は舌側面全面に及んでいる。また下顎の切歯は切縁の全面に象牙質が露出し、上顎・下顎犬歯では尖頭部に象牙質が露出し、このうち上顎犬歯は咬耗面が舌側に傾斜している。小白歯は上顎P¹では頰側・舌側咬頭にわずかの

象牙質の露出があるが、下顎P₁では舌側咬頭のみ
に象牙質の露出がある。上顎P²、M¹は歯冠部が
齧蝕によりなくなり、両歯の隣接部頰側には歯槽骨
の吸収が目立つ。上顎M¹の歯根は上顎洞にまで達
し、上顎洞に炎症を生じていたと思われる。下顎で
は右P₁も齧蝕により歯根のみの残存する状態で、
C 4の段階である。右M₁では遠心隣接面にC 2、
近心歯頸部にC 1の齧蝕を受けている。左I₁は歯
頸部から歯根部にかけて、C 1の齧蝕になっている。
右下顎のM₂は萌出していない。左の大歯からP₂ま
ではこの部位の下顎骨が欠損している。

大歯の大きさは男性的である。歯の咬耗度は幼年
期後半から熟年期前半を思わせる。

8 7 ⑥ ⑤ 4 3 2 〇	× × × × × × × × × ×
△ 7 ⑥ ⑤ 4 3 2 1	1 ② × × × 6 7 ×

157号土坑 (南中道)

長軸123cm、短軸105cm、深さ44cmの広卵形の土坑
で、北に頭部があり、顔を西に向けている。

右脛骨における栄養孔での骨幹幅は20.6mm、前後
径は31.5mm、骨幹中央部における幅は20.3mm、前後
径は29.0mmであり、後者の径示数を求めると70.0と
なり、正脛である。左右の上腕骨片には木灰が付着
している。

頭蓋骨全長は171.0mmで、外後頭隆起の厚さは
13.6mmである。

咬耗について見ると、上顎切歯では切縁に象牙質
の露出があり、近心または遠心辺縁隆線にエナメル
質の咬耗がある。下顎の切歯では切縁に象牙質の露
出があり、唇側面にも咬耗面がある。上顎大歯では
尖頭と遠心辺縁隆線に象牙質がある。下顎小臼歯で
は左の2本で咬頭にごく小さいエナメルの咬耗があ
る。咬耗状態は鋏状咬合であった可能性を窺わせる。
下顎左M₁、M₂が歯槽閉鎖が閉鎖の直前にあり、齧
蝕による脱落を疑わせる。上顎左P²は歯冠部が齧
蝕により失くなり、歯根部のみ残存する。上顎のM²
は左右とも遠心歯頸部にC 2～3の齧蝕があり、
右には近心部歯頸部にもC 1の齧蝕がある。下顎M

には左では近心歯頸部にC 1、右では遠心溝、遠
心歯頸溝に小孔があり、齧蝕を疑わせる。この個体
の上顎M²は左右とも菱形につぶれた形をしている。
右下顎M₂には第6咬頭がある。

〇 ⑦ 〇 〇 〇 3 〇 1	1 2 〇 4 ⑤ 〇 ⑦ 〇
⑧ 7 6 5 4 3 〇 1	1 〇 3 4 5 ● ● ● ⑧

頭蓋内板における縫合線の癒合度は冠状縫合で1
～3、矢状縫合で1～3、切歯縫合は消失している。
性別不明で、年齢は熟年期前半と思われる。

158号土坑 (南中道)

長軸170cm、短軸89cm、深さ49cmの長卵形の土坑
で、頭を北に下肢を南にして俯せ、顔を東に向けて
横たわっている。右肢は膝をほぼ直角にまげて左肢
の膝の後側で交叉させている。

発掘時の記録によれば右大腿骨全長366mm、右脛
骨全長286mmである。右脛骨における栄養孔での骨
幹幅は18.7mm、前後径は27.1mm、骨幹中央部におけ
る幅は17.2mm、前後径は24.7mmであり、後者の径示
数を求めると69.6となり、中脛である。右脛骨・右
大腿骨全長をもとに、推定身長を求めてみると、
145.3cm、144.6cmとなる。

頭蓋骨の計測値は、頭蓋骨全長が186mmであり、
頭蓋骨最大幅が126.5mmである。前頭骨弧長 (n-b)
が113mm、頭頂骨弧長 (b-1) が128.0mm、後頭骨弧
長 (l-o) が121mm、Asterion-Asterion弧長が130mm、
前頭骨弦長 (n-b) が96.5mm、頭頂骨弦長 (b-1) が
115.0mm、後頭骨弦長 (l-o) が92.0mm、最小鼻骨
幅が7.5mm、眼窩左右幅が36.0mmである。孔様突起
基部の前後径は21.0mmである。またNakashishiほか
(1986)のZB II が7.5mm、ZB I が11.4mmで、外後頭隆
起の厚さは132mmである。また、頭蓋骨長幅指数は
68.0で過長頭型である。この頭蓋骨には前頭縫合が
存在し、十字頭蓋となっている。この縫合は通常1
ないし2才で閉じてしまうが、残っている場合には、
両側の前頭骨の強い成長によって額の部分が良く発
達しているものである (Patzor, 1979)。さらにこの個
体にはインカ骨が存在するし、さらにインカ骨の中央

を上下に縫合線が従走している。このようなインカ骨の共存する十字頭蓋はきわめてまれな例である。歯については、脱落し歯槽も閉鎖しているのが、下顎では左M₁、右P₂、M₁、M₂、歯槽が閉鎖中の歯は、左M₂、P₂である。齶歯は5本あり、左下顎M₁は近心側に径6.2×7.3mmの孔があり、歯冠部の1/3を欠く。この歯の頰側の歯槽縁は陥凹し、頰側歯根が露出している。この歯を抜去してみると歯槽は鍋底状に凹湾し、根間中隔は存在しない。上顎右M¹は近心歯頸部にC2、M²は遠心歯頸部にC2~3、M³は近心歯頸部にC2の齶歯になっている。下顎の切歯は唇側、舌側とも歯石が沈着していて、計測不能である。歯の咬耗について見ると、右上顎大臼歯は左の大臼歯より咬耗が進んでいない。下顎の対向歯が存在しないためであろう。逆に、右上顎の小臼歯、前歯部は左のそれより咬耗が進んでいる。前歯部の咬耗の状況は缺状咬合を思わせる。歯槽の吸収度はSlightであり、歯石の形成度もMediumである。

③⑦⑧54321	12345678
8●●⑤○○○	1234●⑥●⑧

頭蓋内板における縫合線の癒合度は冠状縫合で0~1、矢状縫合で0~1、ラムダ縫合で2~3である。犬歯などの歯の大きさや骨の形態は女性を、歯の咬耗は壮年期後半から熟年期前半の年齢段階を示す。

288号土坑（二位屋）

長軸125cm、短軸68cm、深さ120cmの楕円形の土坑で、頭を北に顔を西に向けた、横臥屈身姿勢である。

右脛骨全長327mmである。左脛骨における栄養孔での骨幹幅は17.5mm、前後径は30.3mm、骨幹中央部における幅は17.0mm、前後径は27.3mmであり、後者の径示数を求めると62.3となり、扁平である。右脛骨全長をもとに、推定身長を求めると、154.8cmとなる。

頭蓋骨の計測値は、頭蓋骨全長が177mm、ナジオン-イニオン長が147mm、前頭骨弧長(n-b)が109.5mm、最小前頭幅が93.6mm、最大前頭幅が112.5mm、外後頭隆起の厚さは123mmで、乳様突起基部の幅は

158mmである。

下顎骨で残存する歯は左のI₁、C、P₁、P₂で、歯が脱落し、歯槽のみが残存するのは右I₁、I₂、Cと左のI₁、Cである。残存歯の咬耗状況は鉗子咬合を思わせる。齶歯については、I₁が遠心歯頸部にC3、P₁が唇側歯頸部にC1、P₂が近心側にC2の齶歯を受けている。犬歯は歯冠部から歯根部にかけて舌側半を大きくなくし、異常咬耗している。歯槽の吸収はConsiderで、歯石の形成程度はMediumである。咬耗については、切歯では切縁に象牙質が露出し、下顎P₁では舌側咬頭に広く象牙質の露出があり、近心舌側半に咬耗によって生じた切痕をみる。P₂ではわずかにエナメルみの咬耗がある。

××××××××	××××××××
●●●●●○○○	①○3④⑤●●●

頭蓋骨内板の縫合線の癒合度は冠状縫合で0~1、矢状縫合で0~1、ラムダ縫合で2~3である。

2個の腰椎が現存するが、2つとも骨棘が発達し、Roger (1966)のCタイプである。

乳様突起幅が小さく、女性的である。腰椎に骨棘が発達し、脱落歯が多いなど老齢化現象も見られるが、年齢は不詳である。

308号土坑（二位屋）

長軸169cm、短軸110cm、深さ31cmの隅丸長方形の土坑で、保存部位が少なく埋存姿勢の詳細は不明であるが、下肢骨片が南側にいることから、南北方向に横たわっていたことを窺わせる。

歯は7本残存し、すべて齶歯されている。うち上顎左P¹は近心隣接面にC3、同P²は近心歯頸部にC1、下顎P₁は頰側歯頸部にC1、上顎右M¹は近心隣接面にC3、遠心隣接面にC2、同M²は近心隣接面にC2、遠心歯頸部にC2の齶歯になっている。咬耗は小臼歯ではエナメル質に限られる。歯石の形成度はMediumである。

×××⑤④×××	×××④⑤×××
×⑦⑧×④×××	××××××××

性別不詳で、年齢は熟年期と推定される。

335号土坑（二位層）

長軸110cm、短軸73cm、深さ53cmの楕円形の土坑で、出土時の写真では体を丸めた横臥屈身姿勢である。

現状では歯のみが遊離歯として17本存在する。

上顎の切歯はすべて切縁から近心・遠心辺縁隆線が咬耗を受けていて、弱い鉢状咬合をしていたことを示唆している。犬歯は尖頭部に大きく象牙質が露出し、うち下顎の左右の犬歯は咬合面がそれぞれ遠心側へ傾いている。上顎右P²は歯冠部から歯根部の舌側半が抉りとられたように大きく咬耗されてい

る。左は咬合面全面に象牙質が露出している。下顎小白歯は左P₁、P₂、右P₁が頰側咬頭で大きく象牙質が露出し、右P₂は頰側・舌側両咬頭で象牙質が観察される。齶歯は上顎左犬歯の唇側歯頸部にC2、下顎右P₁の遠心歯頸部にC1、上顎左M¹近心歯頸部にC1、下顎右M₂の遠心舌側歯頸部にC3の齶蝕がある。

×	×	×	5	×	3	2	1		1	2	③	×	5	⑥	×	×
×	⑦	6	5	④	3	2	1		1	2	3	4	5	6	×	×

犬歯の大きさは男性を思わせ、年齢は老年期に達していると思われる。

引用文献

馬場 整男 1981 「人骨計測法」『江藤盛治編・人類学講座一別巻1』、雄山閣、東京。
 Brothwell, D. R., 1972 *Digging up bones*. British Museum of Natural History, London.
 藤井 明 1960 「四肢長骨の長さとの関係に就いて」『順天堂大学体育学部紀要 3』、49-60
 藤田恒太郎 1959 「歯の計測基準について」『人類学雑誌 61』、27-32
 平林 章人 1992 「鹿と鳥の文化史」、白水社、東京。
 片山 一道 1990 「古人骨は語る」、阿朝社、京都。
 Krogman, W. M. and Iskan, M. Y., 1986 *The human skeleton in forensic medicine*, 2nd edition. Charles C. Thomas, Springfield.
 森本岩太郎 1981 「日本古人骨の形態学的変異—肩胛骨と踵骨—」『小丘 保編・人類学講座—日本人1』、雄山閣 157-118
 Nakahashi, T. and Nagai, ., 1986 Sex assessment of fragmentary skeletal remains. *Journal of the anthropological society of Nippon*, 94 (3) 289-305.
 Platzer, K. L., 1979 *Taschenatlas der anatomie*. Band 1. George Thieme Verlag, Stuttgart.
 Rogers, S. L., 1966 The need for a better means of recording pathological bone proliferation in joint area. *American journal of physical anthropology* 25, 171-176.



南中道遺跡133号土坑

顔面蓋計測値

	46	48-1	48-2	48-3	48-4	48a	48-3a	48-d	61	61-1
130号土坑		20.1		42.0	24.0	19.2	26.0	22.6	62.6	45.4
133号土坑	96.0	17.8	47.0	44.5		17.0		23.5	62.0	49.0
152号土坑		19.0	40.5			18.0			58.3	
153号土坑		18.0		40.2	26.5	16.2	31.5	26.7	60.0	
156号土坑		22.0				21.0				
157号土坑		16.3				15.0			51.0?	30.0?
158号土坑		21.5				18.8				

	61-2	63	63-1	63-2	63-a	80	80-1	80-2	80-3
130号土坑	42.4	40.6	38.5	33.5	40.6	55.7	63.8	41.5	28.0
133号土坑	42.1	39.0	41.4	29.4	41.4		62.2	49.1	27.2
152号土坑	39.0	39.2		30.5					
153号土坑				45.1					
156号土坑								41.1	26.5
157号土坑	38.0	29.7?	27.0	26.4	32.7	47.0	51.0	33.4	23.8
158号土坑	44.4	45.3		32.0				39.4	27.4

単位mm

46	中顔幅	48-d	頬骨最小高	63a	口蓋最大幅
48-1	歯槽部高	61	上顎歯槽突起幅	80	上顎歯列弓長
48-2	下顔高	61-1	後上顎歯槽突起幅	80-1	歯列弓長
48-3	上顎骨最小高	61-2	前上顎歯槽突起幅	80-2	臼歯列長
48-4	頬骨高	63	口蓋幅	80-3	大白歯列長
48-a	オトガイノスタノ高さ	63-1	口蓋後端幅		
48-3a	頬骨区域高	63-2	前口蓋幅		

下顎骨計測値

	65	65(1)	66	67	68(b)	69	69(1)	69(2)	69(3)	69(b)
130号土坑				49.5		33.8	35.1	26.7	12.9	16.6
133号土坑	130.0	104.5	103.6	48.5	71.2	30.3	33.0	27.3	12.0	14.7
152号土坑				43.7		25.0	27.0	20.0	11.7	13.0
156号土坑						33.3	29.7	25.0	13.0	13.4
157号土坑				44.2		30.7	27.9	23.2	13.8	15.2
158号土坑		103.0	103.0	47.8	68.6	29.6	32.0	24.2	11.1	16.6
288号土坑				43.3		27.2	29.6	22.0	10.6	14.4

	70(2)	71b	79	79(4)	79(5)	80(1)	80(2)	80(3)	80(a)
130号土坑		19.2	119.0			74.2	46.7	33.2	45.0
133号土坑	47.0		119.0	76.0	87.0	65.6	41.4	28.8	46.0
152号土坑									
156号土坑									
157号土坑						65.6	44.6	31.2	46.5
158号土坑	40.7		123.0	77.0		66.4			42.6
288号土坑									

単位mm

65	下顎関節突起幅	69(1)	下顎体高	79	下顎角
65(1)	下顎筋突起幅	69(2)	下顎体高(M2)	79(4)	下顎底角
66	下顎角幅	69(3)	下顎体厚	79(5)	下顎頭軸水平傾斜角
67	前下顎幅	69(b)	下顎体厚(M2)	80(1)	歯列弓幅
68(b)	下顎長	71b	下顎頭長	80(2)	臼歯列長
69	オトガイ高	70(2)	最小枝高	80(3)	大白歯列長

第5節 白井遺跡群出土の骨

155号土坑

切歯	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	咬耗度
	L I ¹	7.9	6.1+	?	
	R I ₁	7.0	6.4	10.2+	
	L I ₂	7.1	6.7	10.5	
	上RC	8.1	8.7	10.6	
	下RC	7.2	8.4	10.4+	
	下LC	7.1	11.1+		
	R P ₂	6.9	7.9	5.2+	
	R P ₁	7.1	7.9	6.2+	
	L P ₁	7.2	8.1	5.5+	
	LM ₁	10.4	11.2	7.3+	4
	LM ²	9.9	10.1	4.4+	?
	LM ₂	10.1	9.6	5.2+	?

156号土坑

切歯	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠長
	R I ¹	7.5	7.3	10.6
	L I ²			
	R I ₂	6.1	6.7	8.5
	R I ₁	5.5	5.7+	8.7
	L I ₁	5.7	6.1	8.9
	L I ₂	6.3	6.8	9.1
	上RC	8.2	9.0	10.1
	下LC	6.7	8.2	9.3
	R P ¹	6.7	9.4+	9.1
	R P ₁	6.9	8.3	6.6
	R M ²	9.1	10.6	4.8
	R M ³	9.4	11.6+	6.8
	R M ₂	10.0+	10.2	6.0
	R M ₁	10.8	11.0	5.4
	LM ₁	10.6+	10.9	6.2
	LM ₂	10.7+	10.7	5.9

157号土坑

切歯	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	咬耗度
	R I ²	5.1+	7.0+	8.1	
	R I ¹	8.1+	7.9	11.4	
	L I ¹	8.5	7.8	12.8	
	L I ²	7.3	6.4	10.0	
	上RC	7.7	8.6	9.4	
	上LC	7.0	8.1	9.8	
	R P ₂	6.7	8.0	7.3	
	R P ₁	7.1	9.0	5.0	
	L P ₁	6.2	6.8	7.6	
	L P ₂	6.7	7.3	6.7	
	R M ²	8.0	11.6	6.8	2
	LM ²	8.0	11.5	7.2	2
	R M ₂	9.8	9.7	6.0	2
	R M ₂	9.7	10.5	6.2	2
	R M ₁	11.4	10.2	5.5	4
	LM ₂	9.8	9.5	6.1	2+

158号土坑

切歯	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	咬耗度
	R I ²	6.6	5.6	9.1	
	R I ¹	8.6	6.8	10.6	
	L I ¹	8.3	6.7	10.7	
	L I ²	6.7	5.8	9.2	
	L I ₁	4.8			
	L I ₂	5.5			
	上RC	7.4	7.5	9.4	
	上LC	7.5	7.4	10.3	
	下LC	6.7	6.8	10.2	
	R P ²	6.6	9.0	6.6	
	R P ¹	6.6	8.8	7.6	
	L P ¹	7.4	8.9	8.1	
	L P ²	6.7	9.2	7.1	
	L P ₁	6.7	7.6	9.8	
	R M ²	8.5	8.0	4.3	2
	R M ³	9.6	10.9	8.4	2
	R M ¹	9.9	10.7	7.0	2
	LM ¹	9.8	10.9	4.2	3+
	LM ²	9.2	10.8	7.3	2
	LM ³	8.5	10.4	6.2	2
	R M ₂	9.6	8.8	6.2	2
	LM ₁	9.4+	10.4	6.2	3+

285号土坑

下顎小白歯				
歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	
L P ₁	7.1	7.8	6.5	
L P ₂	7.1	8.3	7.5	

308号土坑

上顎小白歯計測値				
歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	咬耗度
L P ¹	10.2	7.2	7.8	
L P ²	10.3	7.0	7.1	
L P ₂	7.5	8.2	8.6	
R M ²	9.7	11.3	6.2	2
R M ¹	9.9	11.3	6.5	3+

335号土坑

切歯	歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	咬耗度
	R I ²	7.5	5.8+	9.7	
	R I ¹	9.1	7.7	12.5	
	L I ¹	9.2	7.7	12.2	
	L I ²	7.5	6.8	10.2	
	上RC	8.1	9.3	8.8+	
	上LC	8.2	9.3	10.2+	
	下RC	7.4	8.6	9.0+	
	下LC	7.4	8.4	10.0+	
	R P ²	7.8	8.4+	7.7	
	L P ₂	6.8	9.7	6.2	
	R P ₂	7.3	7.9	5.6	
	R P ₁	7.4	8.4	7.5+	
	L P ₁	7.3	8.2	7.1+	
	L P ₂	7.6	8.1	5.0+	
	LM ²	10.5	12.4	6.0+	5
	R M ₂	10.7	10.7+		5
	R M ₁	11.1	11.6	4.2	5+

報 告 書 抄 録

フリガナ	シロイイセキダン チュウセイヘン (シロイニヤイセキ・シロイミナミナカミチイセキ)
書 名	白井遺跡群-中世編- (白井二位屋遺跡・白井南中道遺跡)
副 書 名	一般国道17号(鯉沢バイパス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	第1集
シリーズ名	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第148集
編 著 者 名	黒田 晃
編 集 機 関	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	〒377 群馬県勢多郡北橋村下箱田784-2
発 行 年	1993年3月26日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所 在 地	コ ー ド		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
シロイニヤイセキ 白井二位屋	キチノマダノコケヤノ 北群馬郡子持村 アホロイ 字白井	10341		36°30'3"	139°1'2"	19900401～ 19910331 19911101～ 19920131	7,600 600	道路建設
シロイニヤイセキ 白井南中道	キチノマダノコケヤノ 北群馬郡子持村 アホロイ 字白井	10341		36°30'7"	139°1'8"	19900401～ 19921030	13,000	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項	
白井二位屋	墓 城館	中世～近世	土壌・獣埋葬土坑 堀・池・土坑 石積	カワラケ・陶磁器 銭 石臼・五輪塔 土師器・須恵器	「二位屋城」の堀を検出 堀内部障壁の形は他に類 例を見ない。	
	土坑					そ の 他
白井南中道	墓	中世～近世	土壌・獣埋葬土坑 堀 ローム採掘坑	カワラケ・陶磁器 銭 土師器・須恵器	ローム採掘坑から中世の 銅銭が447枚一括出土し ている。	
	城館 生産					そ の 他
	土坑					そ の 他

写 真 图 版



白井遺跡群遠景(東から)



白井二位屋遺跡全景



白井二位屋遺跡 1区・2区



白井二位屋遺跡 3区



白井の集落と白井城



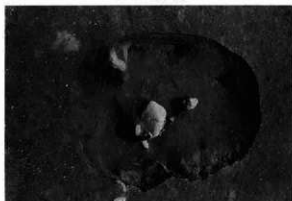
白井城



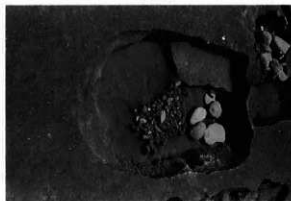
1・2号土坑



3号土坑



4号土坑



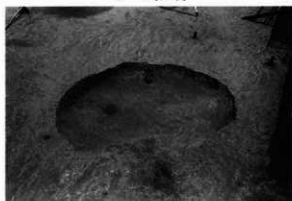
5号土坑



6・7号土坑



8・13号土坑



9号土坑



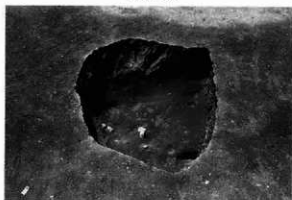
8号土坑(下部)



10号土坑



12号土坑



15号土坑



16号土坑



17号土坑



18号土坑



19号土坑



20号土坑



21号土坑



22号土坑



23号土坑



24号土坑



25号土坑



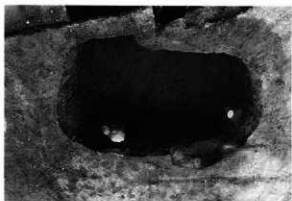
26号土坑



27号土坑



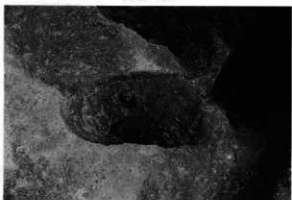
28号土坑



29号土坑



30号土坑



31号土坑



32号土坑



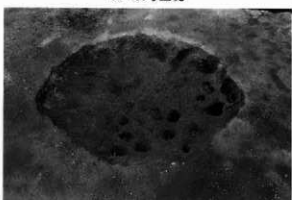
33号土坑



34-36号土坑



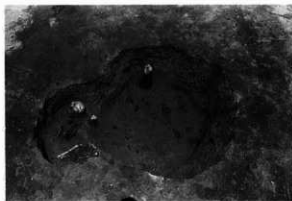
37号土坑



38号土坑



40号土坑



41号土坑



42号土坑 (人骨出土状況)



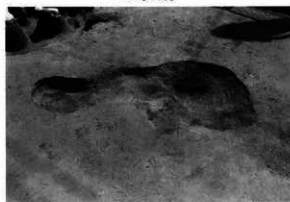
42号土坑(人骨下顎骨・銭)



43号土坑



44号土坑



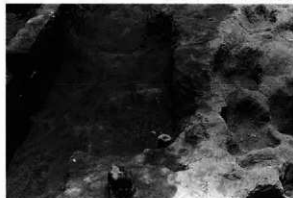
45・46号土坑



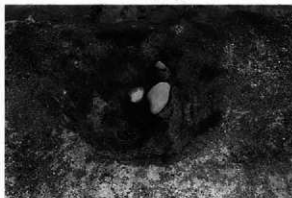
47号土坑



48~52号土坑



53号土坑



54号土坑



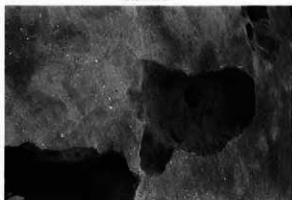
55号土坑



56号土坑



57・58号土坑



59号土坑



60号土坑



62・63号土坑



64号土坑



67号土坑



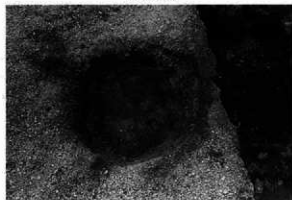
68号土坑



69号土坑



70・71号土坑



72号土坑



73・74号土坑

白井二位屋遺跡

PL.11 75~89・105・115・118・119号土坑



75~77号土坑



78~80・105・115・118・119号土坑



81号土坑



82~84号土坑



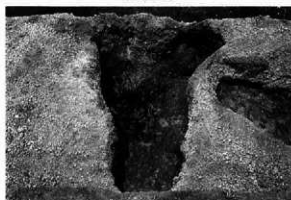
85号土坑



86号土坑



87・88号土坑



89号土坑



90号土坑



91号土坑



92号土坑



94号土坑



97号土坑



136号土坑



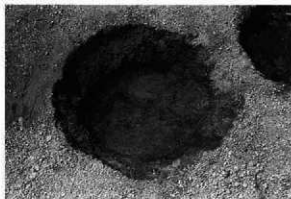
138号土坑



139号土坑

白井二位屋遺跡

PL.13 140・141・155・157~160・174・175号土坑



140号土坑



141号土坑



155号土坑



157・158号土坑



159号土坑



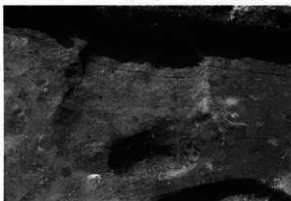
160号土坑



174号土坑



175号土坑



176号土坑



177号土坑



180号土坑



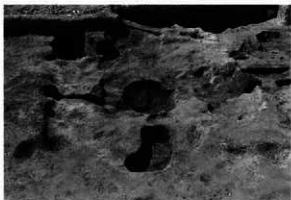
181号土坑



182号土坑



183号土坑



185号土坑



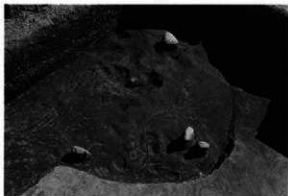
186号土坑



187号土坑



191号土坑



193号土坑



194号土坑



203号土坑



206号土坑



207号土坑



211号土坑



221号土坑



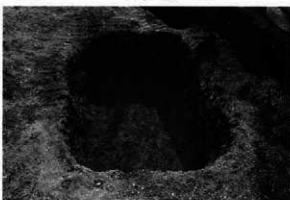
222号土坑



223号土坑



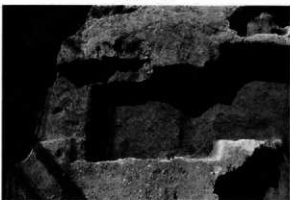
225・226号土坑



231号土坑



233号土坑



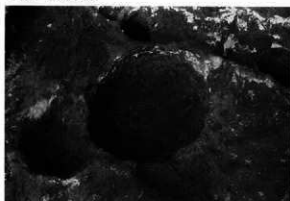
234号土坑



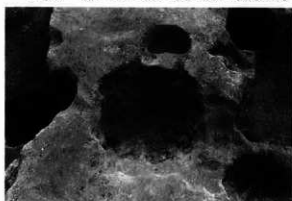
237号土坑

白井二位厩遺跡

PL.17 239~244・246~252・281~283号土坑



239号土坑



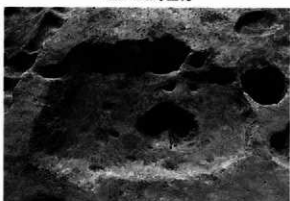
240号土坑



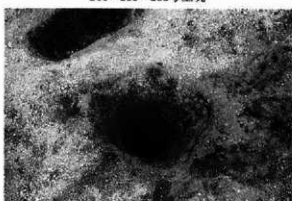
241~243号土坑



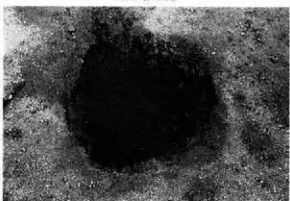
244・281~283号土坑



246号土坑



247号土坑



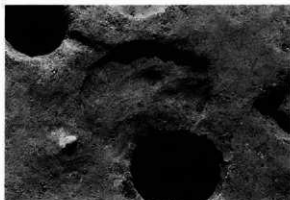
248号土坑



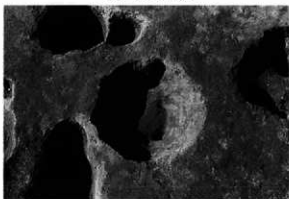
249~252号土坑



253・254号土坑



255号土坑



256号土坑



257号土坑



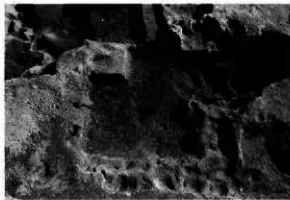
258号土坑



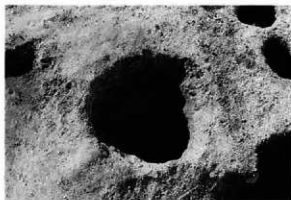
259号土坑



260・261号土坑



262号土坑



263号土坑



264号土坑



265号土坑



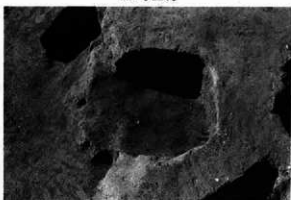
266号土坑



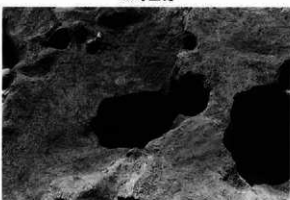
267号土坑



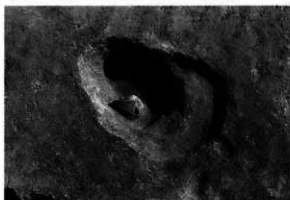
269号土坑



270号土坑



271号土坑



272号土坑



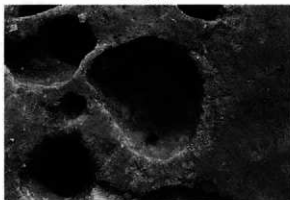
273号土坑



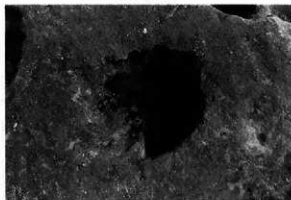
274号土坑



275号土坑



276号土坑



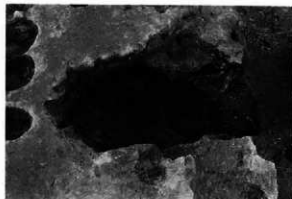
278号土坑



279・280号土坑



284号土坑



285号土坑



287号土坑



288号土坑



290号土坑



292号土坑



293号土坑



294号土坑



295号土坑



296号土坑



297号土坑



298号土坑



299号土坑



301号土坑



302・303号土坑



304号土坑



305号土坑



306号土坑



307号土坑



308号土坑



327号土坑(1)



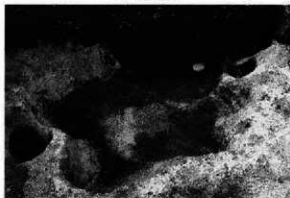
327号土坑(2)



327号土坑(3)



328号土坑



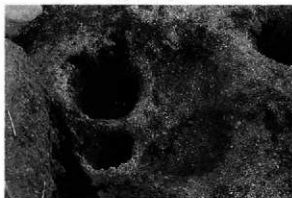
329-334号土坑



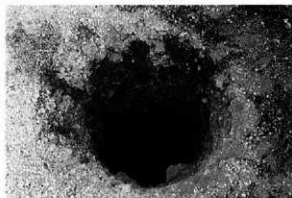
335号土坑(1)



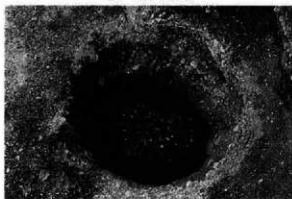
335号土坑(2)



337~339号土坑



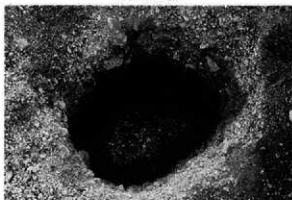
340号土坑



341号土坑



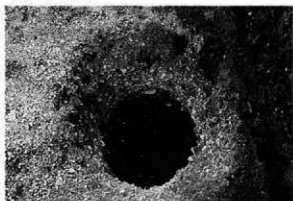
342号土坑



343号土坑



344号土坑



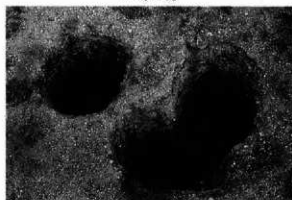
345号土坑



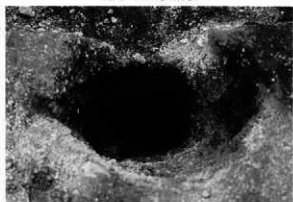
346号土坑



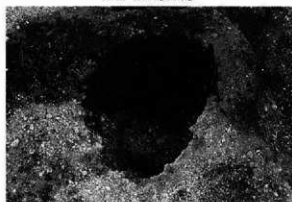
347・348号土坑



349・350号土坑



351号土坑



352号土坑



353号土坑



354号土坑



355・356号土坑



357~359号土坑



1号堀(1)



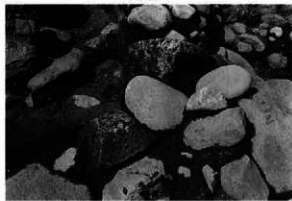
1号堀(2)



1号堀(3)



1号池(1)



1号池(2)



1号池(3)

白井二位屋遺跡



1号池(4)



1号石積(1)



1号集石



調査風景(1)

PL.27 1号池、1号石積、1・2号集石、調査風景



1号池(5)



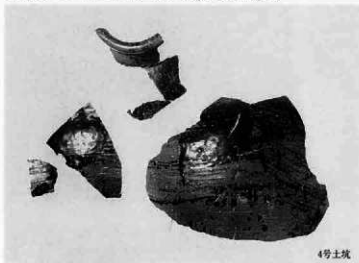
1号石積(2)



2号集石



調査風景(2)



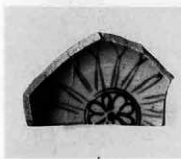
4号土坑



7号土坑



8号土坑1



33号土坑2



9号土坑



10号土坑



27号土坑1



27号土坑2



8号土坑2



8号土坑3



8号土坑4



8号土坑5



8号土坑6



33号土坑1



53号土坑



220号土坑



1



1



1号溝1



1号溝2



1号溝3



1号溝4



2号溝1



2号溝2



2号溝3



4号溝1



4号溝2



325号土坑



181号土坑1



181号土坑2



188号土坑



197号土坑



203号土坑



210号土坑

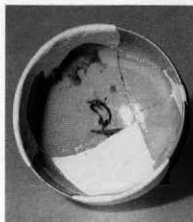


23号溝



白井二位屋遺跡

PL.31 1号石横、1号池出土遺物







1号池18



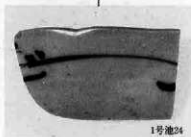
1号池21



1号池23



1号池22



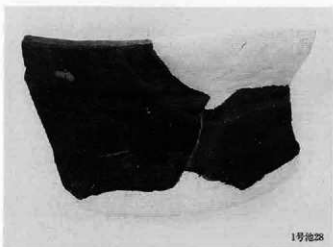
1号池24



1号池25



1号池26



1号池28



1号池27



1号池29



1号池30



1号池31



1号池32



1号池33



1号池35



1号池34



1号池35



1号池37



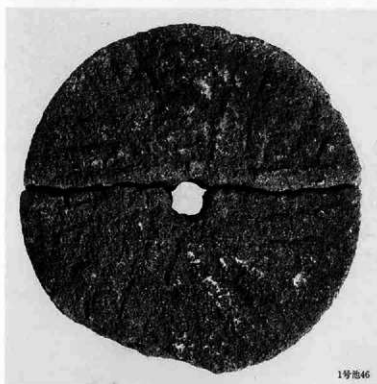
1号池38



1号池39



1号池40







1号池56



1号池59



1号池57



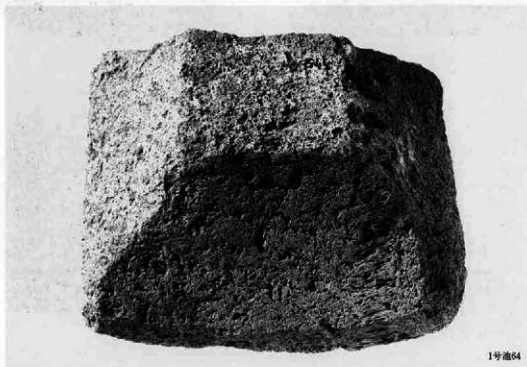
1号池58



1号池56



1号池60





1号池65



1号池68



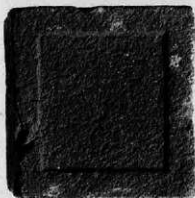
1号池67



1号池89



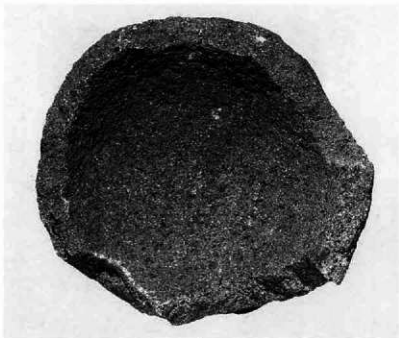
1号池70



1号池71







1号池81

1号池84



1号池85



1号池86



228号土坑1



186号土坑



248号土坑2



228号土坑2



247号土坑



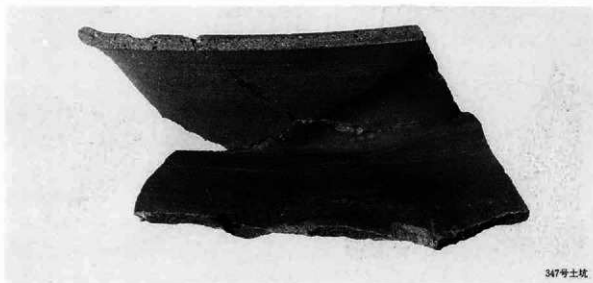
248号土坑1



256号土坑



278号土坑



347号土坑



347号土坑



1号堀3



6号溝



1号堀1



1号堀2



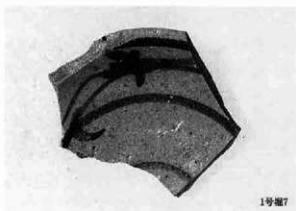
1号堀4



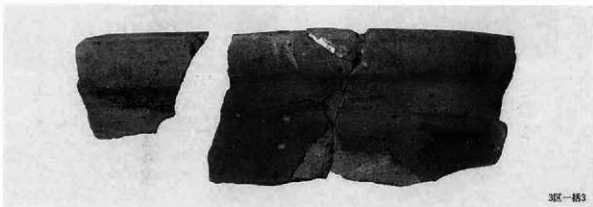
1号堀5

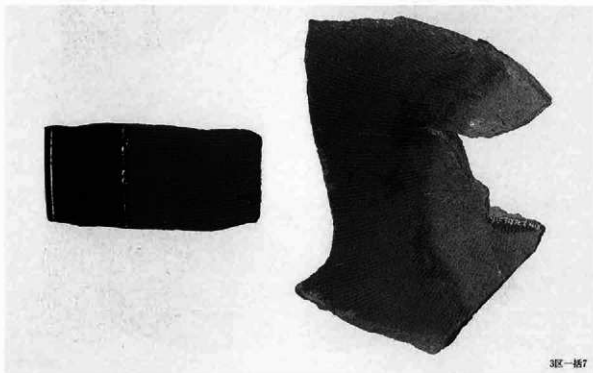
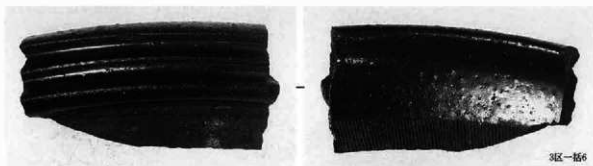
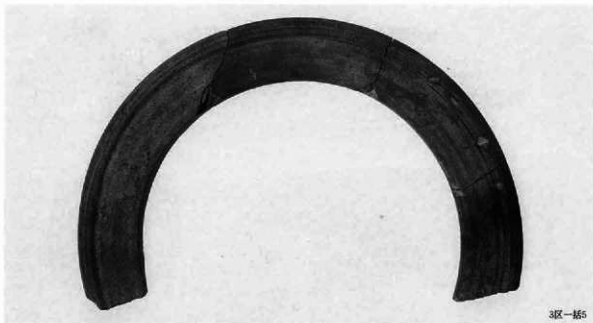


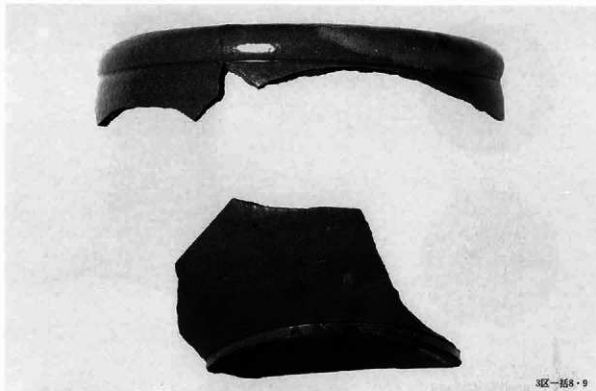
1号堀6



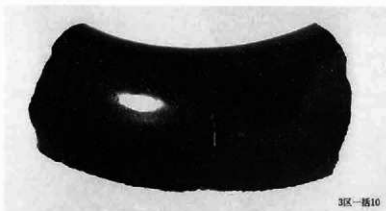
1号堀7







3区-168・9



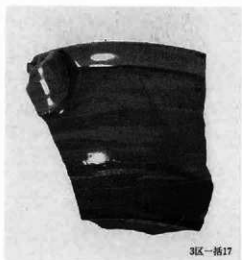
3区-1610



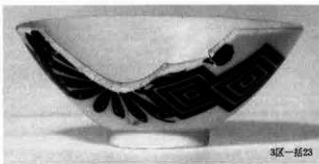
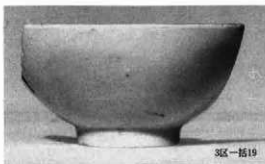
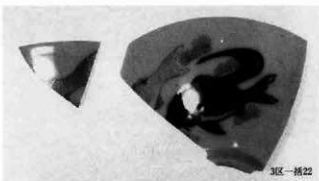
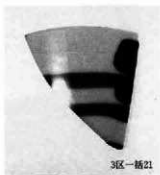
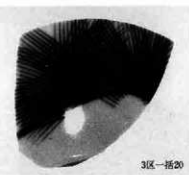
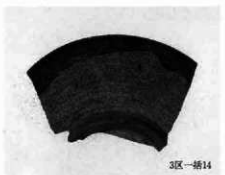
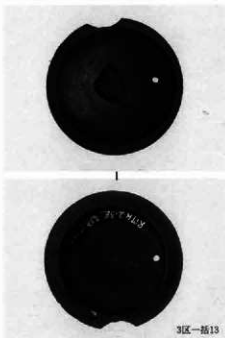
3区-1612

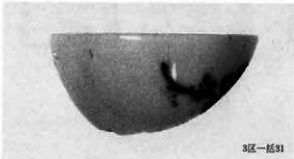
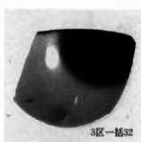
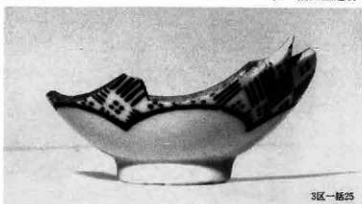
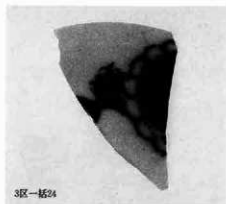


3区-1616



3区-1617









白井二位屋遺跡・白井南中道遺跡



白井南中道遺跡 3・4・5区(南から)



ローム探掘坑(全景)



ローム探掘坑(部分)



1・2号土坑



3号土坑



4号土坑



5号土坑



6号土坑



7号土坑



8号土坑



9号土坑



10号土坑



11・60号土坑



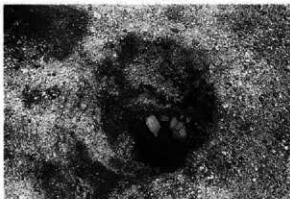
13号土坑



20・21号土坑



23号土坑



24号土坑



25号土坑



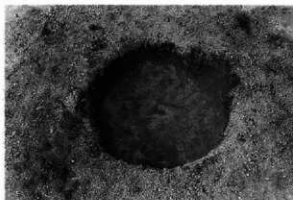
26・31~33号土坑

白井南中道遺跡

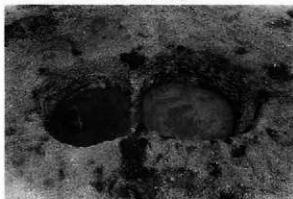


28・29号土坑

PL.57 28~30・34~40号土坑



30号土坑



34号土坑



35・36号土坑



37号土坑



38号土坑



39号土坑



40号土坑



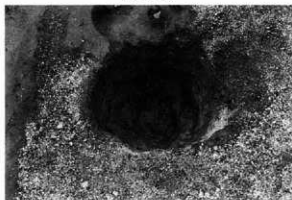
41号土坑



42号土坑



44~46号土坑



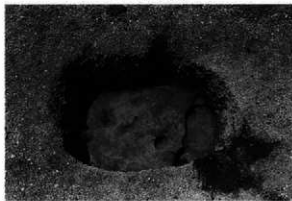
52号土坑



64·65号土坑



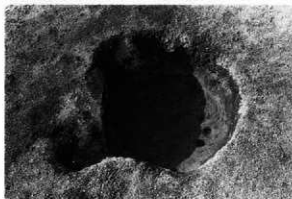
66号土坑



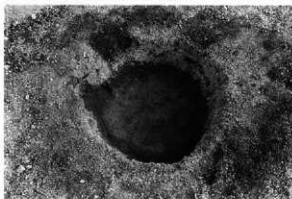
67号土坑



68号土坑



69号土坑



70号土坑



71号土坑



72号土坑



73号土坑



76号土坑



77号土坑



78号土坑



79号土坑



80号土坑



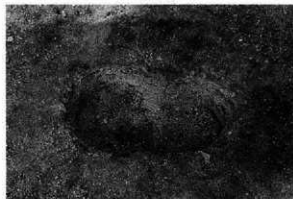
82号土坑



83号土坑



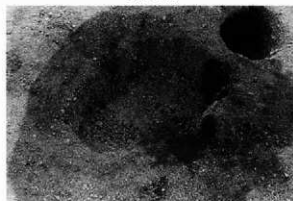
84号土坑



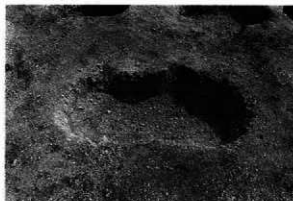
85号土坑



86号土坑



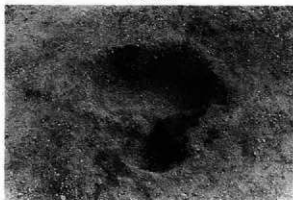
87号土坑



88号土坑



89号土坑



90号土坑



91・92号土坑



93号土坑



94・96号土坑



95号土坑



97号土坑



98号土坑



100号土坑



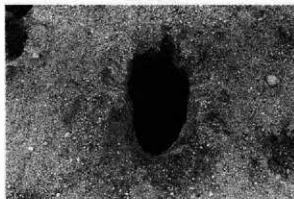
101号土坑



102号土坑



103号土坑



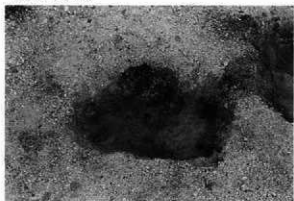
104号土坑



105号土坑



107号土坑



108号土坑



109・110号土坑



111号土坑



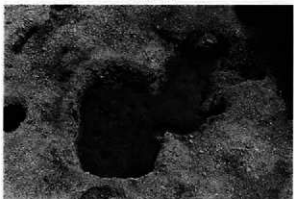
112号土坑



113号土坑



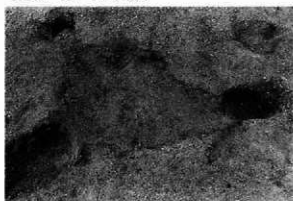
114号土坑



115・116号土坑



117号土坑



118号土坑



119号土坑



120号土坑



121号土坑



122号土坑



123号土坑



124号土坑



125・126号土坑



127号土坑



128・129・134号土坑



130号土坑(1)



130号土坑(2)



131号土坑(1)



131号土坑(2)



132号土坑(1)



132号土坑(2)



133号土坑(1)



133号土坑(2)



133号土坑(3)



135号土坑



136号土坑



137号土坑



138~140号土坑



146号土坑

白井南中道遺跡

PL.67 148・150～156号土坑



148号土坑



150号土坑



151号土坑



152号土坑



153号土坑



154号土坑



155号土坑



156号土坑



157号土坑



158号土坑(1)



158号土坑(2)



159号土坑



160号土坑(1)



160号土坑(2)



161号土坑(1)



161号土坑(2)

白井南中道遺跡

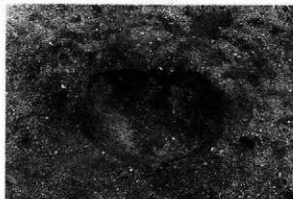
PL.69 162~171号土坑



162号土坑



163号土坑



164号土坑



165号土坑



166~168号土坑



169号土坑



170号土坑



171号土坑

PL.70 172~183号土坑

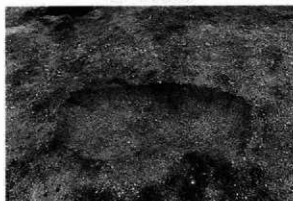


172・173号土坑

白井南中道遺跡



174~176号土坑



177号土坑



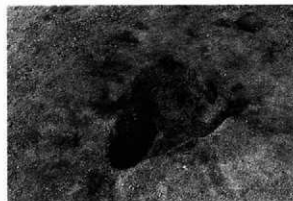
178号土坑



179・180号土坑



181号土坑



182号土坑



183号土坑



184号土坑



185号土坑



186号土坑



187号土坑



188号土坑



203号土坑



204号土坑



205号土坑



206号土坑



207~209号土坑



210・211・214号土坑



213号土坑



222号土坑



224・225号土坑



226号土坑



227~231号土坑

白井南中道遺跡



241～243号土坑



252号土坑



254号土坑



261～263号土坑

PL.73 241～243・251～264号土坑



251号土坑



253号土坑



255～260号土坑



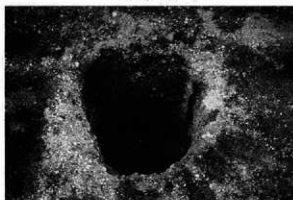
264号土坑



265号土坑



266・267号土坑



268号土坑



269号土坑



271号土坑



272-274号土坑



275-278号土坑



279・285号土坑



280・281号土坑



282・283号土坑



284号土坑



286・287号土坑



289・291号土坑



290号土坑



292・293・308号土坑



296号土坑



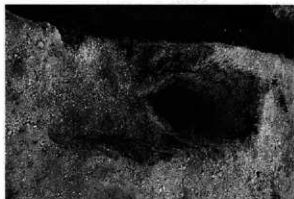
297号土坑



298・300・301号土坑



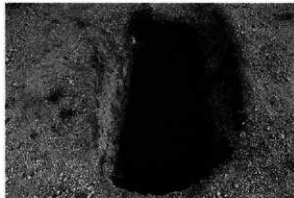
299号土坑



304・305号土坑



306号土坑



309号土坑



310~313号土坑



314~316号土坑

白井南中道遺跡

PL.77 321号土坑、1～6号竪穴



321号土坑(1)



321号土坑(2)



1号竪穴



2号竪穴



3号竪穴



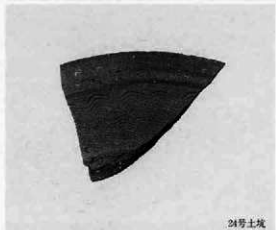
4号竪穴



5号竪穴



6号竪穴



24号土坑



130号土坑 1



130号土坑 2



131号土坑 1



131号土坑 2



131号土坑 3



62号土坑 1



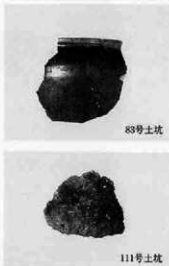
62号土坑 3



62号土坑 2



68号土坑

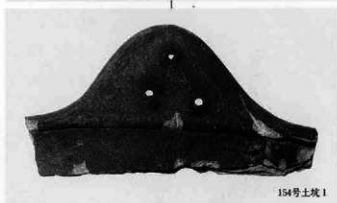




136号土坑 1



136号土坑 2



154号土坑 1



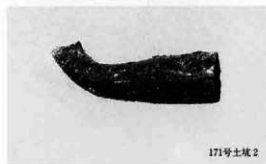
160号土坑



154号土坑 2



171号土坑 1

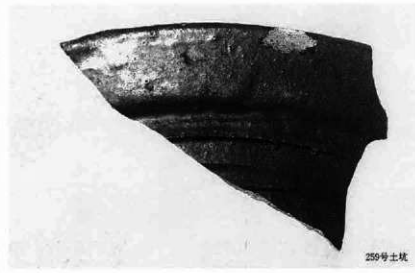


171号土坑 2





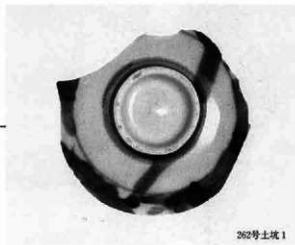
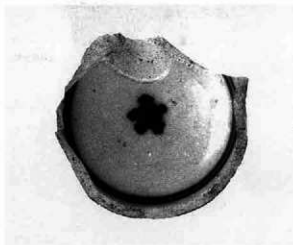
237号土坑



259号土坑



262号土坑 3



262号土坑 1



257号土坑

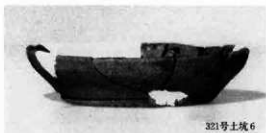


262号土坑 2



262号土坑 4





321号土坑6



321号土坑7



321号土坑8



321号土坑9



ローム探掘坑



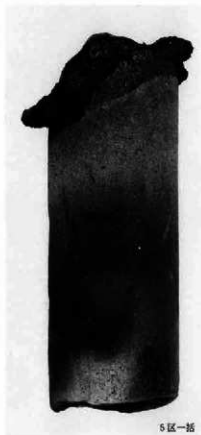
319号土坑4



335号土坑



321号土坑10



5区一括

白井遺跡群 - 中世編 - 一般国道17号(圏外バイパス)改築工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集
白井二位塚遺跡・白井南中道遺跡

平成5年3月16日 印刷

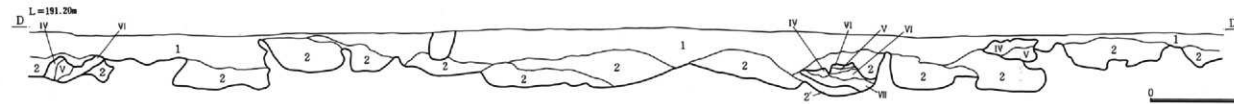
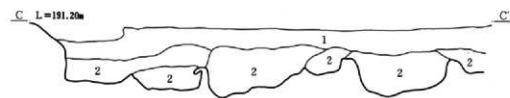
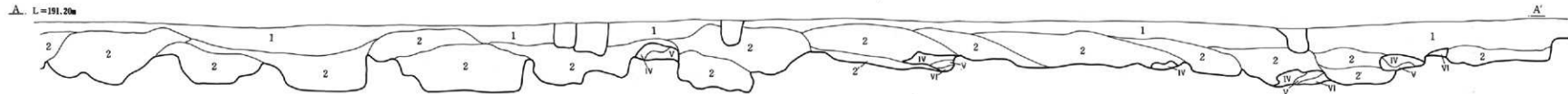
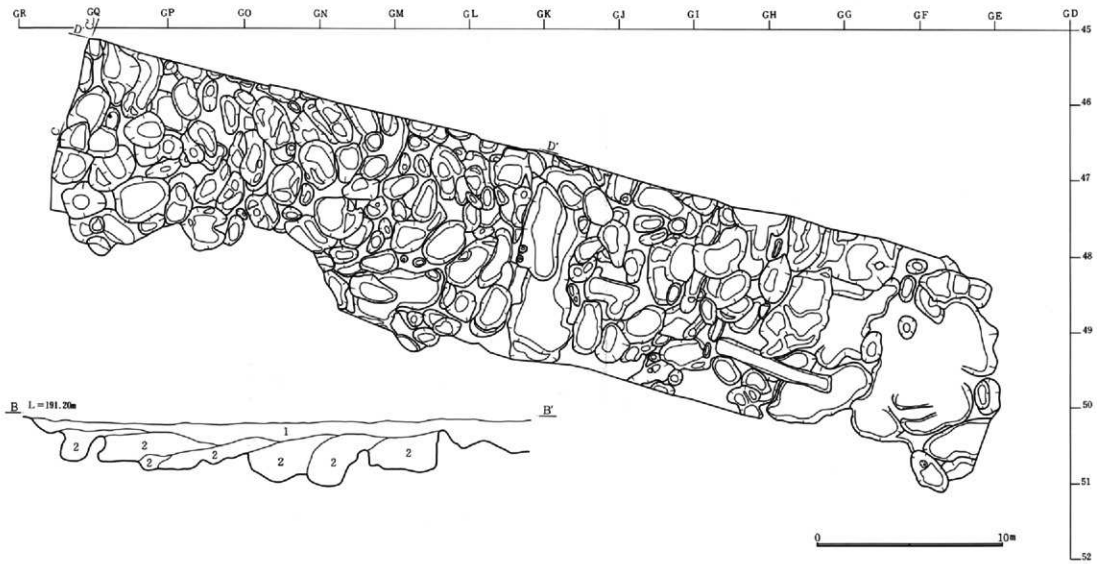
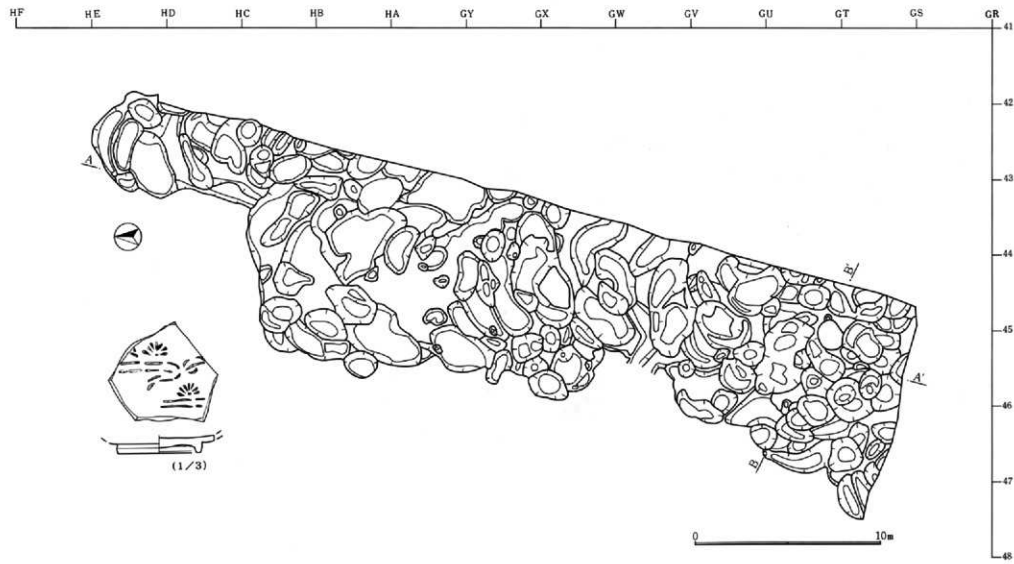
平成5年3月26日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377 勢多郡北碓村大字下箱田784番地の2

電話(0279)52-2511(代表)

印刷／上毛新聞社出版局



ローマ探掘坑
 1 埋 土 ローマ探掘坑閉鎖後に埋みを光積するように埋められた土である現在の表土
 2 探 掘 土 探掘坑を拡張する際に、新たに彫り上げた土を言い、探掘坑に溜めたものであり、ローマよりも上層の土をすべて含む
 2' 探 掘 土 内容は2層と変わらない。オーバーハングした天井部（地山）が崩落した際に、その下になった層であるややもろい

付図1 白井南中道遺跡 ローマ探掘坑、ローマ探掘坑出土遺物